宇城市
男女共同参画に関する
市民意識調査
結果報告書

令和８年３月

宇城市

目次

第１章 調査の概要 1

１．調査の目的 3
２．調査の実施要領・回答数 3
３．調査結果利用上の注意 3

第２章 調査結果の概要 5

１．ご自身のことについて　（P29～） 7
２．男女平等について　（P32～） 7
３．結婚に関する意識について　（P38～） 8
４．固定的性別役割分担意識について　（P41～） 9
５．家庭生活について　（P46～） 10
６．子育て・教育について　（P57～） 12
７．女性の社会参画について　（P62～） 13
８．仕事、家庭、地域活動等の両立について　（P68～） 14
９．配偶者などからの暴力について　（P84～） 18
１０．男女間のセクハラについて　（P95～） 19
１１．人権の尊重について　（P101～） 20
１２．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について （P105～） 21
１３．男女共同参画に関するご意見やご要望　（P107～） 22
１４．災害・復興における男女共同参画について　（P119～） 23
まとめ 24

第３章 調査結果 27

１．ご自身のことについて 29
２．男女平等について 32
３．結婚に関する意識について 38
４．固定的性別役割分担意識について 41
５．家庭生活について 46
６．子育て・教育について 57
７．女性の社会参画について 62
８．仕事、家庭、地域活動等の両立について 68
９．配偶者などからの暴力について 84
１０．男女間のセクハラについて 95
１１．人権の尊重について 101
１２．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について 105
１３．男女共同参画に関するご意見やご要望 107
１４．災害・復興における男女共同参画について 119

調査票 135

第１章　調査の概要

１．調査の目的

本調査は、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みとして、５年毎に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しており、市民の皆様の日常生活の実態や考えをお伺いすることで、男女共同参画に関する意識や現状を把握し、今後の男女共同参画の計画や施策に反映させるため、ご意見を集計、分析し、計画策定並びに今後の取り組みに向けた計画の基礎資料とすることを目的としています。

２．調査の実施要領・回答数

調査時期	令和７年 10 月 14 日～11 月 14 日
調査対象者	宇城市内にお住まいの満 18 歳以上の方の中から、無作為に抽出した 3,000 名
調査方法	郵送による配布・回収及びインターネット回収
配布数	3,000 件
有効回収数	1,218 件 （郵送：870 件） （WEB:348 件）
有効回収率	40.6%

３．調査結果利用上の注意

・各設問のｎは、回答者数を表しています。
・回答率は百分比の小数点第２位を四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合があります。
・２つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると 100%を超える場合があります。
・回答があっても、小数点第２位を四捨五入して 0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

第２章　調査結果の概要

１．ご自身のことについて　（P29～）

回答者の性別は、「女性」が 57.7%、「男性」が 40.4%、となっており、女性の割合が高くなっています。

年齢構成をみると、５割以上が「60 歳代以上」、就労や子育ての中心世代とされる「30～50 歳代」が約４割を占めています。

婚姻状況については、約７割が「結婚している（事実婚を含む）」と回答しており、「結婚していない」「結婚したが死別又は離別した」はともに１割台となっています。

回答者本人の就労形態については、３割が「正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者」、２割前後が「非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等」「無職」となっています。

配偶者の就労形態については、回答者本人と同様に「正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者」が最も高く３割台となっています。また、２割が「無職」、１割強が「非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等」と回答しています。

世帯構成については、４割が「二世代世帯（親と子）」、３割が「一世代世帯（夫婦だけ）」となっており、「単身世帯（ひとり暮らし）」「三世代世帯（親と子と孫）」は１割程度にとどまっています。

２．男女平等について　（P32～）

様々な場面における男女の平等感について、「家庭生活」「職場」「学校教育の場」「地域活動・社会活動の場」「法律や制度の上」では「平等である」が最も高く、特に「学校教育の場」では約６割が「平等である」と回答しています。また、どの分野も『男性優遇感：男性の方が非常に優遇されている＋どちらかといえば男性が優遇されている』が『女性優遇感：女性の方が非常に優遇されている＋どちらかといえば女性が優遇されている』を上回っており、特に「政治・政策決定の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」では『男性優遇感』が６割を超えています。一方で、『女性優遇感』の割合はどの分野も１割に満たずかなり低くなっていることから、学校や職場など身近な場面では「平等」と感じる人が多い一方で、政治や社会慣習では「男性の方が優遇されている」と感じる人が多い傾向がうかがえます。

過去調査との比較をみると、「職場」では前々回調査は「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっていましたが、前回調査からは「平等である」が最も高くなっています。

性別でみると、「平等である」では、どの分野も男性の割合が高く、特に「家庭生活」「法律や制度の上」は女性より 15 ポイント以上高くなっています。また、『男性優遇感』では、どの分野も女性の割合が高く、特に「家庭生活」「地域活動・社会活動の場」「政治・政策決定の場」「法律や制度の上」「社会全体」は男性より 10 ポイント以上高くなっていることから、様々な場面において男性は「平等」と感じる場面が多く、女性は「男性優遇感」を感じる場面が多いなど、性別によって平等感の感じ方に違いが生じていることがわかります。

３．結婚に関する意識について　（P38～）

結婚に対する意識について尋ねたところ、『そう思う：そう思う＋どちらかといえばそう思う』が最も高いのは、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」82.2%、次いで「夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」45.7%、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」43.4%となっています。また、『そう思わない：そう思わない＋どちらかといえばそう思わない』が最も高いのは、「結婚したら、離婚すべきでない」67.4%となっています。

過去調査との比較をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では、調査を重ねるごとに『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10 ポイント前後差が生じています。「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」では、調査を重ねるごとに『そう思う』が 10 ポイント前後低くなっています。「夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」では、前回までは「そう思わない」が最も高くなっていましたが、今回調査では「そう思う」が最も高くなっています。「結婚したら、離婚すべきでない」では調査を重ねるごとに『そう思わない』が高く、『そう思う』が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。

性別でみると、男性は女性と比べて「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では『そう思わない』が、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」「結婚したら、離婚すべきでない」では『そう思う』が 10 ポイント以上高くなっています。また、女性は 7 割以上が「結婚したら、離婚すべきでない」について『そう思わない』と回答しており、男性より 15 ポイント以上高くなっています。

結婚は個人の自由であり、結婚の選択を個人の判断に委ねる価値観が広く浸透しています。また、「結婚＝離婚すべきではない」という固定的な考え方は弱まり、結婚の継続を義務としない意識が広がっています。男性は伝統的な結婚観を支持しやすく、女性は結婚・離婚を個人の選択として柔軟に捉える傾向が強くなっており、こうした価値観の方向性の違いが結婚に関する意識の男女差として表れていることがわかります。

４．固定的性別役割分担意識について　（P41～）

性別による社会的役割の固定化については、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」では約７割が『そう思う：そう思う＋どちらかといえばそう思う』と回答しており、伝統的な性別役割分担意識が依然として残っているものの、それ以外の項目については『そう思わない：そう思わない＋どちらかといえばそう思わない』が『そう思う』を上回っており、固定的な性別役割分担に対する否定的な意識が広がっている傾向も見受けられます。特に、「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」「家を継ぐのは男性であるべきだ」「学級委員長や生徒会長は男の子が、副委員長や副会長は女の子の方が向いている」は８割以上が『そう思わない』と回答しており、家庭内や教育現場における性別役割分担に対する価値観が大きく変化しつつあるようです。

性別でみると、「大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい」以外は、どの項目も男性は女性と比べて『そう思う』が高くなっています。特に、「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」については、『そう思う』が 30 ポイント以上高く、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」も 10 ポイント前後高くなっています。一方、女性は男性と比べて「家を継ぐのは男性であるべきだ」では『そう思わない』が 10 ポイント以上高くなっています。

男性は生活・家計・仕事に関する伝統的な男性役割を肯定する傾向があり、女性よりも「男性が担うべき」という意識が全体的に高く、特に生活に密着した場面で表れています。

また、家督継承のような慣習的な領域で男性のほうが伝統的意識を持つ割合が高くなっており、性別によって性別役割分担の捉え方に違いが生じています。

５．家庭生活について　（P46～）

日常的な暮らしの役割分担については、「育児、子どものしつけ」、「子どもの教育方針の決定」「家庭の問題における最終的な決定」は「自分と配偶者が同じくらい」、それ以外は「主に自分」が最も高くなっており、特に「家計の管理」「掃除」「洗濯」「食事の準備」「食事のあとかたづけ」は４割を超えています。

過去調査との比較をみると、「家庭の問題における最終的な決定」については、前々回調査では「主に自分」、前回調査では「主に自分」「自分と配偶者が同じくらい」が同率で最も高くなっていましたが、今回調査では「自分と配偶者が同じくらい」が最も高くなっており、重要な意思決定は共同で行う意識が高まっていることがわかります。

性別でみると、「家計を支えるための収入を得る」について、男性は「主に自分」、女性は「主に配偶者」が最も高く、「家計の管理」「掃除」「洗濯」「食事の準備」「食事のあとかたづけ」では、女性は「主に自分」、男性は「主に配偶者」が最も高くなっており、収入を得る役割は主に男性、家事等は女性という伝統的な性別役割分担の構図が依然根強く残っていることがうかがえます。

また、「子どもの教育方針の決定」では、男女ともに「自分と配偶者が同じくらい」が最も高くなっており、教育面は夫婦で関わる意識が高い様子がうかがえます。

加えて、「育児、子どものしつけ」、「親の世話（介護）」について、女性は「主に自分」、男性は「自分と配偶者が同じくらい」が最も高く、一方「家庭の問題における最終的な決定」では、女性は「自分と配偶者が同じくらい」、男性は「主に自分」が最も高くなっています。また、「地区の行事などの地域活動」については、男女ともに「主に自分」が最も高くなっていることから、育児・子どものしつけ、親の世話（介護）、家庭の最終決定等、同じ家庭内のことでも「どちらがどれだけ担っているか」の認識が男女で一致していない様子がうかがえます。

固定的な性別役割分担意識については、６割は『反対である：反対である＋どちらかといえば反対である』と回答しており、固定的性別役割分担への意識は変化していますが、「どちらかといえば賛成」も２割弱となっており、社会全体として完全に否定されてはおらず、価値観が多様化していることがわかります。

性別でみると、女性は「反対である」、男性は「どちらかといえば反対である」が最も高くなっており、男性は女性と比べて『賛成である：賛成である＋どちらかといえば賛成である』が 15 ポイント以上高くなっています。

性年代別でみると、女性はどの年代も『反対である』が『賛成である』を上回っていますが、年代が高くなるにつれ『反対である』が低く、『賛成である』が高くなる傾向がみられます。また、男性は 60 歳代までは『反対である』が『賛成である』を上回っていますが、70 歳代以上では約５割が『賛成である』と回答しています。

固定的性別役割分担の捉え方については男女間での意識差が大きく、特に男性は賛成傾向が女性より高くなっており、高齢層は伝統的価値観を支持する傾向が強く、若年層ほど反対が多いことから、世代間で価値観が大きく異なっていることがわかります。

家事に費やす時間について、平日及び休日ともに「３時間以上」が最も高く、次いで「１時間以上２時間未満」、「30 分以上１時間未満」となっています。

性別でみると、女性は平日及び休日ともに７割が「１時間以上」家事をしていると回答し

ているのに対し、男性は２～３割台と男女で差が生じており、家事時間の負担は依然として女性に大きく偏っていることがわかります。

性年代別でみると、女性は平日及び休日ともに、20 歳代では「1 時間未満」、30 歳代以上では「1 時間以上」が過半数を超えており、特に 30 歳代～50 歳代の女性は７割以上が「１時間以上」家事をしていると回答していることから、子育てや仕事、家事が重なる年代での負担が大きくなっています。また、男性はどの年代も平日に比べて休日に「1 時間以上」家事をする割合が高くなっており、特に 30 歳代～40 歳代の男性は５割を超えています。平日の男性の家事参加は少なくなっていますが、休日は特に子育て期の男性は家事参加が増える傾向がみられており、家事時間の偏りは性別だけでなく、ライフステージによっても大きく変動していることがうかがえます。

6．子育て・教育について　（P57～）

出生数の減少の理由については、「子育てにお金がかかるから」が 54.4%と最も高く、前回調査より 10 ポイント近く高くなっていることから、物価上昇等、経済的不安が以前より強まっていることが影響していると考えられます。次いで「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」51.7%、「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」37.8%となっており、結婚・出産が必ずしも当たり前ではないという価値観が広がっていること、仕事と育児の両立が依然として難しいと感じている現状がうかがえます。

性別でみると、女性は「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」、男性は「子育てにお金がかかるから」が最も高くなっており、女性は生き方の選択肢の広がりを、男性は経済的負担を重要視していることがわかります。

性年代別でみると、男女ともにどの年代も「子育てにお金がかかるから」「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」が高くなっていますが、30 歳代の男性では「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」、70 歳代以上の女性では「結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」が他の年代に比べて高くなっています。

仕事と育児の両立に直面する世代は「両立の難しさ」を、若い世代は「結婚そのもののハードルの高さ」を問題として受け止めるなど、それぞれの年代の生活経験や価値観により、感じ方に違いが生じています。また、出生数の減少については、働き方や収入、家族観や社会制度、価値観の変化など、さまざまな要因が重なり合って起こっている複合的な問題です。

子どもの育て方や教育に対する考え方について尋ねたところ、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」以外は『そう思う：そう思う＋どちらかといえばそう思う』が『そう思わない：そう思わない＋どちらかといえばそう思わない』を上回っており、特に「女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ」「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ」「男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」は９割前後が『そう思う』と回答していますが、前回調査との比較をみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」では『そう思わない』が 10 ポイント以上高くなっています。また、性別でみると、男性は女性と比べて「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」では『そう思う』が 20 ポイント近く高くなっています。

現代の子育て観は多様化しており、多くの人は、子どもは性別に関係なく「自立」や「個性」を伸ばす育て方が大切だと考えていますが、伝統的な性別役割観も依然根強く残っており、特に男性はその傾向が強くなっています。

7．女性の社会参画について　（P62～）

女性が職業を持つことにおける考え方については、「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が７割を超えて最も高く、性別、性年代別、職業別のどの層でも最も高くなっています。また、前回調査より 10 ポイント近く高くなっていることから、物価上昇や社会不安、共働き世帯の増加など、社会状況の変化が背景にあると考えられます。一方で、80 歳以上の女性及び 50 歳代以上の男性では「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が２割を超えており、正規雇用者及び学生では「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が８割を超えていることから、高齢層ほど伝統的な価値観が残っていること、正規雇用者や学生ほど働くことの必要性や価値を強く感じていることなど、世代や就業状況によって価値観の違いがあることがうかがえます。

女性の就業継続を妨げる要因として、全体及び性別、性年代別及び本人の職業別でみても「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が上位を占めていることから、職場や周囲の目、人員体制などの兼ね合いから、制度があっても使いにくいと感じているという傾向がみられ、制度そのものだけではなく、職場文化、働き方、待遇格差等が重なった構造的な課題がみえてきます。

また、女性は男性と比べて「労働時間が長い」が 12.4 ポイント高く、特に 30 歳代～40 歳代では約４割がそのように回答していることから、子育て期と仕事のピークが重なる年代の女性にとって、長時間労働は就業継続の大きな壁になっており、重点的な支援が必要と思われます。

さらに、学生は「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が６割を超えており、他の職業と比べて高くなっていることから、ジェンダー平等を重視していることがわかります。

企画や方針決定の場への女性の参画が少ない理由については、全体及び性別でみても「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が最も高く、依然慣習的に男性が選ばれる仕組みが残っていることがうかがえます。

また、30 歳代～40 歳代の女性は「家事が忙しく時間がないから」が最も高く、女性は男性と比べてその割合が 10.3 ポイント高くなっていることから、家事・育児負担の重さが女性の時間的余裕を奪い、参加を難しくしていることがわかります。さらに、20 歳代の男性は「地域において女性が代表となった前例が少ないため」が４割を超えており、若い世代ほど前例がないことを意識している様子がうかがえます。

８．仕事、家庭、地域活動等の両立について　（P68～）

育児休業や介護休業の取得状況については、全体では約７割は「ない」と回答しており、取得率は１割程度となっています。

性別でみると、特に男性は８割が「ない」と回答しており、女性は男性と比べて取得率が15.8ポイント高くなっています。

性年代別でみると、30 歳代の女性は「ある」が「ない」を上回っており、取得率は約５割となっています。

取得した制度について、全体及び女性では約９割が「育児休業」と回答しており、実際の取得者は出産・育児期にあたる年代の女性に集中しており、「育休＝女性が取るもの」という状況が依然として続いています。

育児休業や介護休業を取得する男性が少ない理由については、全体及び男女ともに「職場の理解が得られないと思う」が最も高くなっており、制度があっても使いづらい状況が続いていることがわかります。

また、「休業補償が少なく、家計に影響する」「昇進や昇給に影響する恐れがある」「仕事の量や責任が大きい」も３割を超えており、家計への影響や昇進への不安、仕事量の多さも取得をためらわせている要因となっているようです。さらに、女性は男性と比べて「昇進や昇給に影響する恐れがある」「職場の理解が得られないと思う」が 10 ポイント前後高く、性年代別では、80 歳以上の男性は「女性の方が育児・介護に向いている」「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」が４割を超えています。なお、前回調査との比較では、「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」が10.3ポイント低くなっています。

女性は男性よりも昇進・昇給への不安や職場の理解不足を強く感じており、高齢男性ほど「育児や介護は女性」「男性は仕事優先」という伝統的な価値観を持つ割合が高くなっていますが、その考えは前回から少し弱まっており、意識の変化がみられます。

地域活動の現在の参加状況については、全体及び性別でみても「参加していない・参加したくない」が最も高く、次いで「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」となっており、男性の参加率は３割を超え、女性と比べて14.2ポイント高くなっています。また、ほとんどの年代では男女ともに「参加していない・参加したくない」が最も高くなっているのに対し、60歳代～70歳代の男性では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」が最も高くなっています。加えて、男女ともに 30 歳代～40 歳代では「ＰＴＡや子ども会などの活動」が他の年代に比べて高くなっています。

これらのことから自治会等は今も男性が中心であり、地域活動の主な担い手は高齢男性に偏っており、30 歳代～40 歳代は PTA や子ども会など「子ども関連」の活動に限定されがちで、年代や生活ステージにより参加する活動の種類が大きく変わることがわかります。

今後の参加意向については、全体及び性別、どの年代でみても「参加していない・参加したくない」が最も高く、地域活動そのものへの関心が全体的に低くなっています。次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」が高い割合を占めており、参加するとしても個人の楽しみや成長につながる活動が選ばれやすく、地域運営や役職などの負担の大きい活動には消極的な傾向が強くなっています。

地域活動に参加していない理由については、全体及び性別でみても「仕事が忙しい」が最も高くなっており、女性は男性と比べて「家事や育児、介護で忙しい」が 11.0 ポイント高くなっています。

また、性年代別では、20 歳代の男性及び 30 歳代～60 歳代の男女は「仕事が忙しい」、20 歳代の女性は「参加するきっかけがない」、70 歳代以上の男女は「健康・体力に不安がある」が最も高くなっています。加えて、女性は、20 歳代～30 歳代では「活動団体や活動内容を知らない」、30 歳代～40 歳代では「家事や育児、介護で忙しい」、30 歳代～50 歳代では「人間関係がわずらわしい」が他の年代に比べて高くなっています。

地域活動への不参加は、働き盛りの世代では「仕事」、女性は家事・育児・介護の「負担の偏り」で男性よりも時間的余裕がないこと、若い女性は「情報不足」、30 歳代～50 歳代の女性は「人間関係の負担」、高齢層は「健康不安」という、複数の要因が年代ごとに異なる形で影響していることがわかります。

生活の中での優先度については、希望及び現状ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高く、次いで『「家庭生活」を優先』となっています。また、３番目に高いのは、希望では『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』となっているのに対し、現状では『「仕事」を優先』となっていることから、多くの人は仕事と家庭の両立を望んでいるものの、現実は仕事優先に偏りやすい状況がみえてきます。

性別でみると、男女ともに希望では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっていますが、現状では女性は『「家庭生活」を優先』、男性は『「仕事」を優先』が最も高くなっており、固定的性別役割分担の意識が生活の優先度にそのまま反映されている現状がうかがえます。

【生活の中での**希望**する優先度:年代別　最上位】

◆女性

20 歳代・70 歳代：「家庭生活」を優先

30 歳代～60 歳代：「仕事」と「家庭生活」をともに優先

80 歳以上：わからない

◆男性

30 歳代・80 歳以上：「家庭生活」を優先

上記以外：「仕事」と「家庭生活」をともに優先

【生活の中での**現状**の優先度:年代別　最上位】

◆女性

20 歳代：「仕事」を優先

30 歳代～50 歳代：「仕事」と「家庭生活」をともに優先

60 歳代～70 歳代：「家庭生活」を優先

80 歳以上：わからない

◆男性

30 歳代：「仕事」と「家庭生活」をともに優先

70 歳代以上：「家庭生活」を優先

上記以外：「仕事」を優先

生活の優先度は、性別よりもライフステージの影響を大きく受けており、年代によって「何を大切にするか」が大きく変化していることがわかります。希望としては、多くの年代で仕事と家庭の両立を望む声が強いものの、実際の優先度はキャリア形成期・子育て期・退職期といった人生の各段階によって変化しています。特に、働き盛りの 30 歳代～50 歳代では、両立を望みながらも、現実には仕事に偏りやすい状況が見られます。一方、高齢層では家庭を優先する価値観が強まり、年齢が高くなるにつれ、家庭生活を重視する傾向が強くなるようです。

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加するために必要なことについては、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高くなっており、女性は男性に比べて「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」が 10 ポイント前後高くなっています。

また、性年代別でみると、女性は「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」がどの年代も５割を超えており、30 歳代は男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が他の年代に比べて高くなっています。

これらのことから、男女が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加するためには、まず家庭内でコミュニケーションをしっかり取ることが最も重要だと考える人が多く、特に 30 歳代は子育てや仕事・家事が重なる最も忙しい時期で、話し合いがうまくいかないと負担が偏りやすい現状があるのか、コミュニケーションの重要性を強く感じていることがわかります。また、女性は全世代で家事参加に対する男性側の意識変化を強く求めていることがうかがえます。

９．配偶者などからの暴力について　（P84～）

「ＤＶ防止法」の認知度については、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が６割を占めており、「法律の内容まで知っている」の割合は２割にとどまっています。また、男性は女性に比べてどの年代も「法律の内容まで知っている」の割合が高く、特に 30 歳代及び 80 歳以上では認知度が３割を超えていますが、80 歳以上の女性は「知らない」が３割を超えています。「ＤＶ防止法」の認知度は広がっていますが、理解までには至っておらず、女性、特に高齢女性への情報が十分に届いていない現状がみえてきます。

配偶者やパートナーから心や体に苦痛を感じるような行為を受けた経験の有無については、いずれも「どちらもない」が最も高くなっていますが、「大声でどなって威嚇する」という行為については、「されたことがある」が 11.7%、「したことがある」8.5%、「どちらもある」5.7%となって、他の行為に比べて高くなっています。また、すべての行為において女性は「されたことがある」、男性は「したことがある」が高くなっており、特に「大声でどなって威嚇する」では、女性の被害経験者及び男性の加害経験者の割合が１割を超えています。

心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際の対応については、４割が「我慢した」、約３割が「家族・親族・友人に相談した」、約２割が「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答しています。

性別でみると、男女ともに「我慢した」が最も高くなっていますが、女性は男性と比べて「家族・親族・友人に相談した」が高く、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が低くなっており、10 ポイント以上差が生じていることから、特に男性は「弱さを見せられない」という社会的なプレッシャーから、声を上げずに抱え込みやすい傾向がうかがえます。

性年代別でみると、20 歳代女性は「家族・親族・友人に相談した」、30 歳代以上の女性は「我慢した」が最も高くなっており、年代によって相談に向かうまでの心理的なハードルに違いがみられます。

心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際、相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 43.6%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」32.2%、「自分にも悪いところがあると思ったから」31.5%となっており、被害の深刻さを自分で過小評価してしまう傾向がみられます。

性別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が最も高くなっており、男性は女性と比べて「自分にも悪いところがあると思ったから」が 26.8 ポイント高くなっています。

女性は「迷惑をかけたくない」「大したことではない」と受け止めてしまいやすく、男性は「弱みを見せてはいけない」という文化的圧力の中で、被害を認めること自体が難しいということも考えられ、特に男性は「相談しない」のではなく、「相談しづらい」環境に置かれやすいことも要因の一つとして考えられます。

１０．男女間のセクハラについて　（P95～）

セクハラ行為の経験の有無については、いずれの行為も「まったくない」が最も高くなっています。また「されたことがある」では『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」が１割を超えており、「したことがある」ではどの行為も１割以下となっています。また、「見たり聞いたりしたことがある」では、『「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う』『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」が２割を超えています。

性別でみると、どの行為も女性は男性と比べて「されたことがある」が高く、「したことがある」が低くなっており、『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する」では被害経験が１割を超えています。また、「見たり聞いたりしたことがある」では、『「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う』『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」が男女ともに２割を超えており、性的な冗談や結婚・出産への質問・性別役割を押し付ける言葉は、目撃率が高くなっています。加えて男性では「異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」という行為も２割を超えています。

セクハラ行為については「ない」と感じている人が多いものの、実際には日常の何気ない言動に潜むハラスメントが存在し、特に女性は日常的にハラスメントを受けやすい状況が続いており、男性は加害者及び目撃者の立場に立ちやすいという構造がうかがえます。

セクハラ行為を受けた際の相談先については、「だれ（どこ）にも相談しなかった」が51.6%と最も高く、次いで「家族・友人・知人に相談した」26.2%、「上司・同僚に相談した」11.9%となっています。性別でみると、男女ともに「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、男性は女性と比べて「だれ（どこ）にも相談しなかった」が高く、「上司・同僚に相談した」が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。

セクハラ行為を受けても相談しない人が多くなっていますが、女性は男性に比べてセクハラ被害者として認識されやすく、職場内で相談しやすい環境が相対的に整いつつあるようです。一方、男性は「弱さを見せにくい」という社会的雰囲気があったり、男性被害が想定されにくいことが考えられ、被害を受けても声を上げづらい状況に置かれやすいことも要因の一つとして考えられます。

１１．人権の尊重について　（P101～）

ＤＶやセクハラ等をなくすために必要なことについては、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が 53.9%と最も高く、次いで「ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」45.2%、「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」43.4%となっており、まず「言える空気」「止められる空気」を求める声が強くなっています。

性年代別でみると、30 歳代までの女性及び 20 歳代の男性は「ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」、40 歳代以上の女性及び 30 歳代～50 歳代、80 歳以上の男性は「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」、70 歳代男性は「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」が最も高くなっています。

また、60 歳代男性は「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が同率で最も高くなっています。これらのことから、若年層は罰則強化を、年齢が上がるほど日常の人間関係や職場環境の改善を求める傾向がみられます。

人権が尊重されていないと感じることについては、「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」が 43.2%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」42.8%、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」41.1%となっています。

性別でみると、女性は「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」、男性は「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が最も高くなっています。また、女性は「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」「ストーカー行為（つきまとい）」「職場や仲間による言葉の暴力」「その他」以外は男性より高くなっており、女性の方が日常のいろいろな場面で人権が守られていないと感じやすいことがわかります。

性年代別でみると、女性は、30 歳代では「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」、40 歳代では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」、60 歳代では「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、それ以外の年代では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」が最も高くなっています。一方、男性は、50 歳代では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、70 歳代以上では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」、それ以外の年代では「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が最も高くなっています。

１２．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について（P105～）

メディアにおける性・暴力表現については、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が 28.6%と最も高く、次いで「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」28.1%、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」27.3%となっています。また、前回調査では「子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も高くなっていましたが、今回調査では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が最も高くなっており、社会全体のモラルの低下、社会の仕組みや風潮そのものへの不安が強まっています。

性別でみると、女性は「子どもの目に触れないような配慮が足りない」、男性は「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」が最も高くなっており、性別で不安要因が異なっています。

以下の通り、不安材料のポイントは性別・年代別で大きく異なっており、女性は身近な影響に敏感で生活環境への配慮を求めていますが、若年層は「特に問題ない」、中高年層は社会リスクや倫理観の問題を重視しています。

【最上位】

◆女性

20 歳代～30 歳代：「特に問題とは思わない」
40 歳代：「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」
50 歳代・70 歳代：「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」
60 歳代：「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」
80 歳以上：「子どもの目に触れないような配慮が足りない」

◆男性

20 歳代：「特に問題とは思わない」「子どもの目に触れないような配慮が足りない」
「女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている」
30 歳代～40 歳代:「特に問題とは思わない」
50 歳代・70 歳代：「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」
60 歳代・80 歳以上：「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」

１３．男女共同参画に関するご意見やご要望　（P107～）

男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心度については、全体及び男女ともに５割前後が『関心がある：非常に関心がある＋まあまあ関心がある』と回答しています。

性年代別でみると、20 歳代～50 歳代の女性は過半数が『関心がない：全く関心がない＋ほとんど関心がない＋あまり関心がない』と回答しています。他の年代と比べて関心度が低くなっており、仕事・家事・育児など生活負担の大きい年代では、そのテーマに取り組む時間的な余裕を持ちにくかったり、自身の状況を諦観していることも関心が低い要因として考えられます。また、30 歳代及び 50 歳代以上の男性は『関心がある』の割合が高く、特に 60 歳代男性は６割を超えており、男性は年齢が上がるほど社会の問題とする意識が高まることがうかがえます。

農林漁業の分野で男女共同参画を進めるために必要なこととして、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」が 56.6%と最も高く、次いで「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」42.5%、「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」33.3%となっています。

性別及び性年代別でみても、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」が最も高く、20 歳代の男性は「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」、80 歳以上の男性は「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」が同率で最も高くなっています。

男女ともに最も必要なことは、「働きやすい環境づくり」であり、休日確保や重労働の軽減など、まずは就業環境の改善が最重要とされています。また、意識改革も必要とされており、特に若い男性では、男女共同参画への意識向上、高齢層では政策決定の場への女性登用や新たな分野での活躍支援も重視されています。

男女共同参画に関連する用語の認知度について、「ワーク・ライフ・バランス」「マタハラ・パタハラ」「育児・介護休業法」「ジェンダー」「ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ+)」「男女雇用機会均等法」は『知っている：よく知っている＋内容（意味）を多少は知っている』、「男女共同参画社会基本法」は「名称(言葉)は知っている」、それ以外の用語は「全く知らない」が最も高くなっています。また、前回調査より「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」「ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ＋)」「ダイバーシティ」は『知っている』が 10 ポイント以上高くなっています。

日常で触れる機会の多い用語ほど理解が進み、特に社会の課題に関する用語の浸透率が高くなっていますが、一方で、「男女共同参画社会基本法」などは名称の認知は高いものの、内容理解までは広がっておらず、専門的・政策的な用語は依然として認知そのものが低くなっています。

「男女共同参画社会」の実現のために宇城市に望む施策については、「子育て支援サービスの充実」が 35.2%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」26.4%、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」25.1%となっています。

以下の通り、男女ともに多くの年代で「子育て支援サービスの充実」が求められています。また、男女ともに年代ごとに課題意識が分かれており、若い世代は生活支援、働き盛りは職場の平等、高齢層は意識改革や制度理解を重視する傾向がみられます。

【最上位】

◆女性

50 歳代：「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底」
70 歳代：「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」
80 歳以上：「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」
上記以外：「子育て支援サービスの充実」

◆男性

20 歳代～40 歳代：「子育て支援サービスの充実」
50 歳代・80 歳以上：「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」
60 歳代：「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」
70 歳代：「性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報」

１４．災害・復興における男女共同参画について　（P119～）

大規模災害に備え、性別に配慮した取り組みが必要か尋ねたところ、どの取り組みも全体及び男女ともに『必要だと思う：とても必要だと思う＋どちらかといえば必要だと思う』が７割を超えており、性別や状況に応じた配慮が重要だという意識が高いことがわかります。

また、女性はどの取り組みも『必要ないと思う：まったく必要ないと思う＋どちらかといえば必要ないと思う』が男性より低くなっていることから、女性は災害時に女性特有の困りごと（避難所でのプライバシー、性被害リスク等）を経験しやすいため必要性を強く感じています。

前回調査との比較では、全体的に『必要である』が低くなっていますが、「発災後に増加が懸念される性暴力やＤＶへの対策を強化する」は必要性がやや高くなっており、災害時の性被害リスクが社会的に認識されてきたことがうかがえます。

まとめ

（１）男女平等に関する意識や固定的性別役割分担意識について

○様々な場面における男女の平等感

どの分野においても男性優遇感が高く、特に女性の回答では「家庭生活」「地域活動・社会活動の場」「政治・政策決定の場」「法律や制度の上」「社会全体」における男性優遇感が男性の回答より高くなっており、現状として女性の社会や意思決定の場への参画が大きく前進していないことなど、あらゆる分野において男女がともに参画できる環境づくりを目指し取り組みを進めていく必要があります。

また、「学校教育の場」においては男女の平等感が高く、若い世代に向けた意識の醸成は一定の効果が挙がっていると考えられます。

○家庭生活における役割分担

家庭生活における役割分担については、「家計を支えるための収入を得る」、「家庭の問題における最終的な決定」「地区の行事などの地域活動」では男性の役割との回答が多い一方、家事や子どもの世話、介護といった家庭全般のことに関しては女性の役割との回答が多くなっており、収入を得る役割は主に男性、家事・育児・介護は主に女性という固定的性別役割分担の構図を表す結果となっています。

○固定的性別役割分担意識について

固定的性別役割分担意識については、調査を重ねるごとに『反対である』という意見が増加傾向にあり、今回調査では６割を超えています。ただ、男性は女性と比べて『賛成である』が高く、『反対である』が低くなっており、15 ポイント以上差が生じてることから、男性の方が固定的性別役割分担の意識が根強く残っている様子がうかがえます。

○子育て・教育について

出生数の減少の理由について、女性は「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」、男性は「子育てにお金がかかるから」との回答がそれぞれ最も多く、女性は生き方の選択肢の広がりを、男性は経済的負担を重要視している様子がうかがえます。

また、子どもの育て方や教育に対する考え方については、男女ともに「女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ」「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ」「男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」に同意する回答が多くなっており、子どもの性別を問わず「自立」や「個性」を伸ばす育て方が大切だと考えています。一方、男性では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」に同意する回答も多く、男性像・女性像に関する無意識の思い込みが根強く残っている様子もうかがえます。

（２）女性の社会参画等について

○女性が職業を持つことについて

女性が職業を持つことについては、「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が性別、性年代別、職業別のどの層でも最も高くなっています。また、前回調査より 10 ポイント近く高くなっていることから、物価上昇や社会不安、共働き世帯の増加など、社会状況の変化が背景にあると考えられます。

○女性の就業継続を妨げる要因

女性の就業継続を妨げる要因として、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が全体及び性別、性年代別、職業別で上位を占めていることから、職場や周囲の目、人員体制などの兼ね合いから、制度があっても使いにくいと感じているという傾向がみられ、制度そのものだけではなく、職場文化、働き方、待遇格差等が重なった構造的な課題があることが考えられます。

また、学生では「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が６割を超えており、就業におけるジェンダー平等を重視していることがわかります。

○企画や方針決定の場への女性の参画が少ない理由

企画や方針決定の場への女性の参画が少ない理由については、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が全体及び性別でみて最も高く、依然慣習的に男性が選ばれる仕組みが社会に根強く残っていることがうかがえます。

○育児休業や介護休業を取得する男性が少ない理由について

育児休業や介護休業の取得状況については、男性では８割が「ない」と回答しており、女性は男性と比べて取得率が 15.8 ポイント高くなっている状況です。

また、「休業補償が少なく、家計に影響する」「昇進や昇給に影響する恐れがある」「仕事の量や責任が大きい」も全体では３割を超えており、家計への影響や昇進への不安、仕事量の多さも取得をためらわせている要因と考えられます。

○地域活動に参加していない理由について

地域活動に参加していない理由については、全体及び性別でみても「仕事が忙しい」が最も高くなっており、女性は男性と比べて「家事や育児、介護で忙しい」が 11.0 ポイント高くなっている状況です。

地域活動への不参加は、働き盛りの世代では「仕事」、女性は家事・育児・介護の「負担の偏り」で男性よりも時間的余裕がないこと、若い女性は「情報不足」、30 歳代～50 歳代の女性は「人間関係の負担」、高齢層は「健康不安」となっており、複数の要因がそれぞれの年代ごとに存在していることが考えられます

（３）男女の人権について

○「ＤＶ防止法」の認知度について

「ＤＶ防止法」の認知度については、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が６割を占めており、「法律の内容まで知っている」の割合は２割にとどまっています。「ＤＶ防止法」の認知度は広がっていますが、理解までには至っておらず、女性、特に高齢女性への情報が十分に届いていない現状です。

○心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際の対応

心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際の対応については、性別でみると、男女ともに「我慢した」が最も高くなっていますが、男性は女性と比べて「家族・親族・友人に相談した」が低く、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が高くなっており、「弱さを見せられない」という文化的圧力から、声を上げずに抱え込みやすい傾向があることが考えられます。

○心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際、相談しなかった理由

心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際、相談しなかった理由については、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が最も高くなっています。

女性は「迷惑をかけたくない」「大したことではない」と受け止めてしまいやすく、男性は「弱みを見せてはいけない」という文化的圧力の中で、被害を認めること自体が難しいということも考えられます。また、男性は「相談しない」のではなく、「相談しづらい」環境に置かれやすいことも要因の一つとして考えられます。

○セクハラ行為を受けた際の相談先について

セクハラ行為を受けた際の相談先については、男女ともに「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、男性は女性と比べて「だれ（どこ）にも相談しなかった」が高く、「上司・同僚に相談した」が低くなっています。

セクハラ行為を受けても相談しない人が多くなっていますが、女性は男性に比べてセクハラ被害者として認識されやすく、職場内で相談しやすい環境が相対的に整いつつあるようです。一方、男性は「弱さを見せにくい」という社会的雰囲気があったり、男性被害が想定されにくいことが考えられ、被害を受けても声を上げづらい状況に置かれやすいことも要因の一つとして考えられます。

○ＤＶやセクハラ等をなくすために必要なこと

ＤＶやセクハラ等をなくすために必要なことについては、性年代別でみると、30 歳代までの女性及び 20 歳代の男性は「ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」、40 歳代以上の女性及び 30 歳代～50 歳代、80 歳以上の男性は「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」、70 歳代男性は「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」が最も高くなっています。また、60 歳代男性は「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が同率で最も高くなっています。これらのことから、若年層は罰則強化を、年齢が上がるほど日常の人間関係や職場環境の改善を求める傾向がみられます。

○メディアにおける性・暴力表現について

メディアにおける性・暴力表現については、前回調査では「子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も高くなっていましたが、今回調査では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が最も高くなっており、社会全体のモラルの低下、社会の仕組みや風潮そのものへの不安が強まっている様子がうかがえます。

性別でみると、女性は「子どもの目に触れないような配慮が足りない」、男性は「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」が最も高くなっており、性別で不安要因が異なっています。

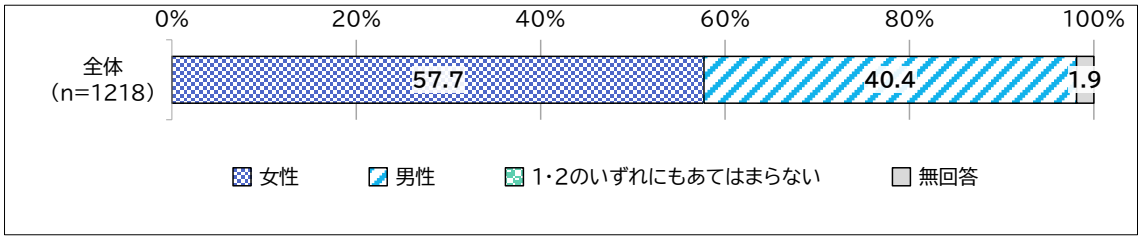
不安材料のポイントは性別・年代別で大きく異なっています。女性は身近な影響に敏感で生活環境への配慮を求めており、若年層は「特に問題ない」との意見が多数を占め、中高年層は社会リスクや倫理観の問題を重視している状況です。

第３章　調査結果

1．ご自身のことについて

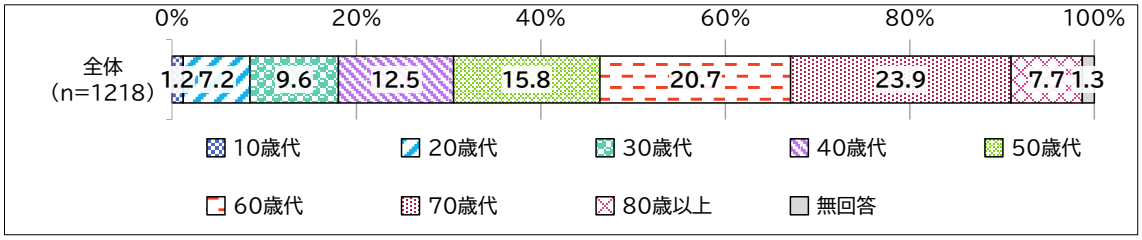
問1－1　性別（単数回答）

○性別については、「女性」が 57.7%、「男性」が 40.4%、「１・２のいずれにもあてはまらない」0.0%となっています。



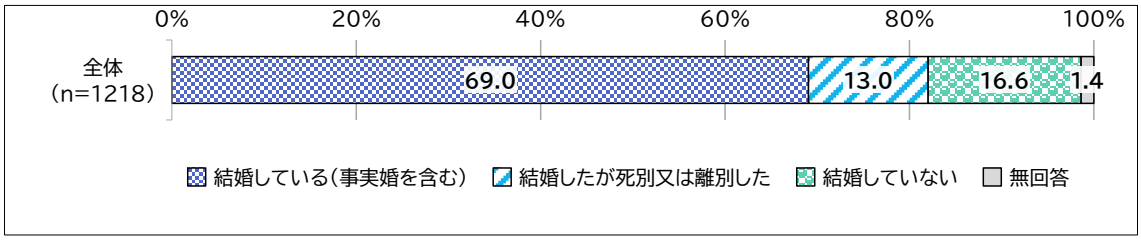
問1－2　年齢（単数回答）

○年齢については、「70歳代」が23.9%と最も高く、次いで「60歳代」20.7%、「50歳代」15.8%となっており、60 歳以上の割合が５割を超えています。



問1－3　婚姻の有無（単数回答）

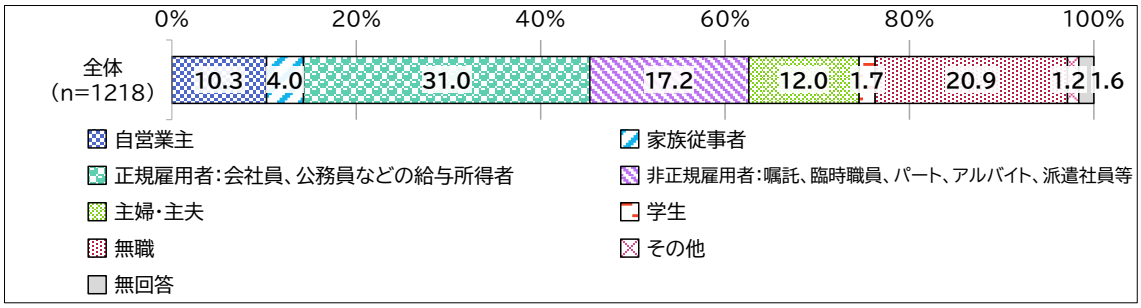
○婚姻状況については、「結婚している（事実婚を含む）」が 69.0%と最も高く、次いで「結婚していない」16.6%、「結婚したが死別又は離別した」13.0%となっています。



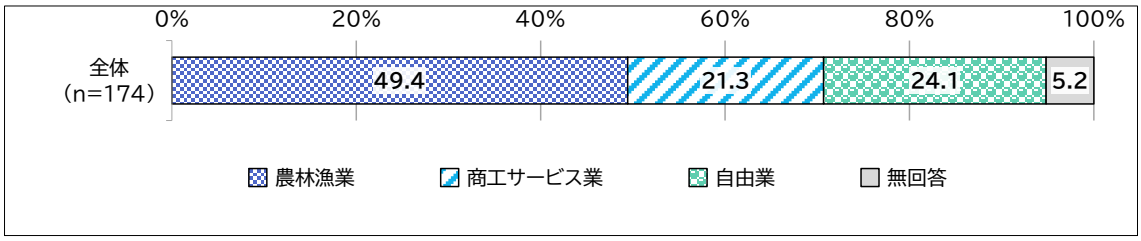
問１-４-１　あなたの職業（単数回答）

○回答者本人の就労形態については、「正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者」が31.0%と最も高く、次いで「無職」20.9%、「非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等」17.2%となっています。

○自営業主・家族従事者の職業分類については、「農林漁業」が 49.4%と最も高く、次いで「自由業」24.1%、「商工サービス業」21.3%となっています。



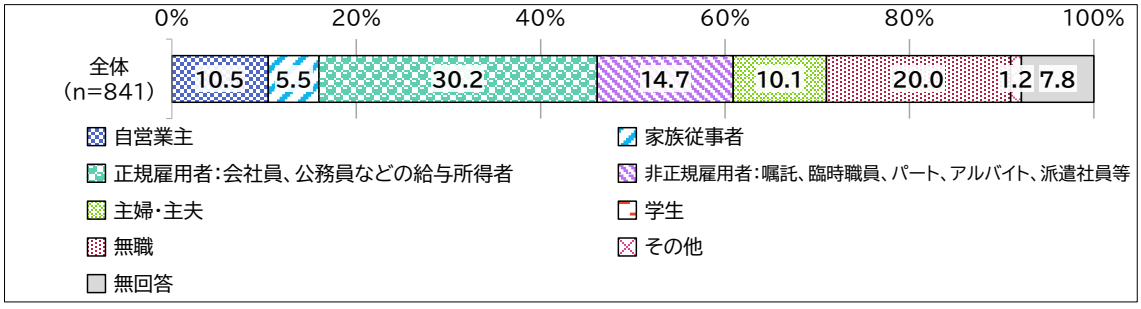
【自営業主・家族従事者の職業分類】



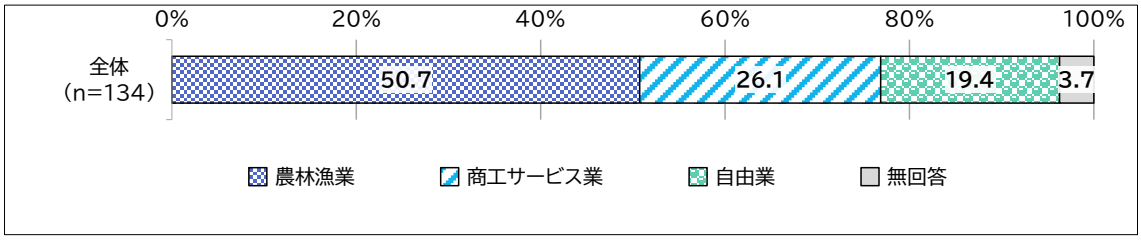
問１-４-２　配偶者の職業（単数回答）

○配偶者の就労形態については、「正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者」が30.2%と最も高く、次いで「無職」20.0%、「非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等」14.7%となっています。

○配偶者が自営業主・家族従事者の場合の職業分類については、「農林漁業」が 50.7%と最も高く、次いで「商工サービス業」26.1%、「自由業」19.4%となっています。

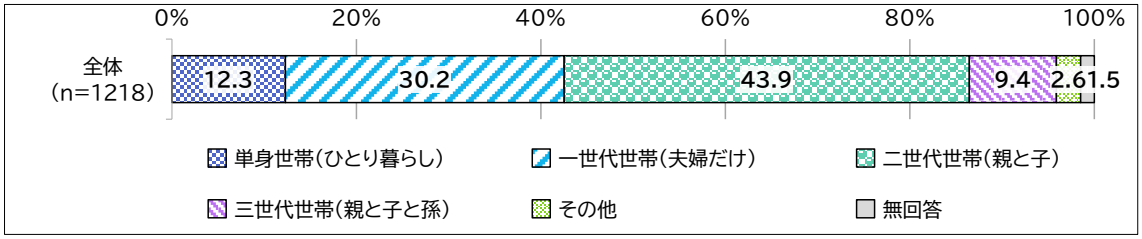


【配偶者が自営業主・家族従事者の場合の職業分類】



問１-５-１　世帯構成（単数回答）

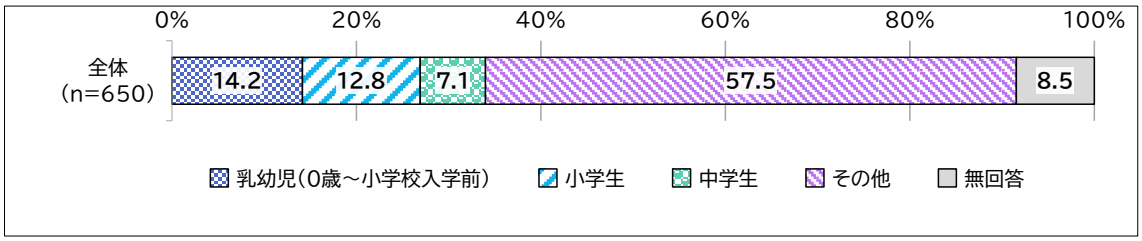
○世帯構成については、「二世代世帯（親と子）」が 43.9%と最も高く、次いで「一世代世帯（夫婦だけ）」30.2%、「単身世帯（ひとり暮らし）」12.3%となっています。



【問１-５-１で「３．二世代世帯（親と子）」「４．三世代世帯（親と子と孫）」と答えた方のみ】

問１-５-２　世帯で最年少の方（単数回答）

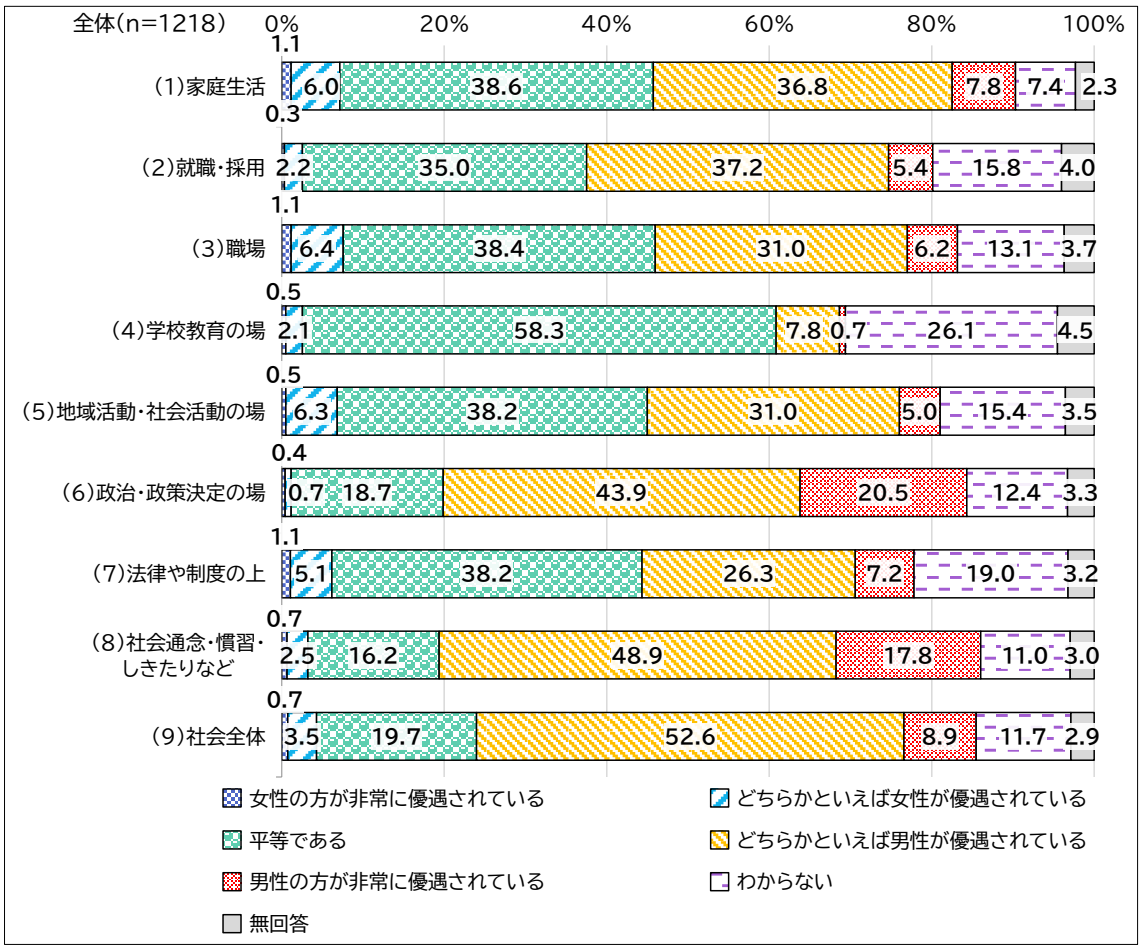
○世帯で最年少の方については、「その他」が 57.5%と最も高く、次いで「乳幼児（0 歳～小学校入学前）」14.2%、「小学生」12.8%となっています。



2．男女平等について

問２　　あなたは、男性と女性は平等であると思いますか。（単数回答）

○様々な場における男女の平等感について、「（１）家庭生活」「（３）職場」「（４）学校教育の場」「（５）地域活動・社会活動の場」「（７）法律や制度の上」では「平等である」が最も高く、特に「（４）学校教育の場」では５割を超えています。また、どの分野も『男性優遇感：男性の方が非常に優遇されている＋どちらかといえば男性が優遇されている』が『女性優遇感：女性の方が非常に優遇されている＋どちらかといえば女性が優遇されている』を上回っており、特に「（６）政治・政策決定の場」「（８）社会通念・慣習・しきたりなど」「（９）社会全体」では『男性優遇感』が６割を超えています。一方で、『女性優遇感』の割合はどの分野も１割に満たずかなり低くなっています。



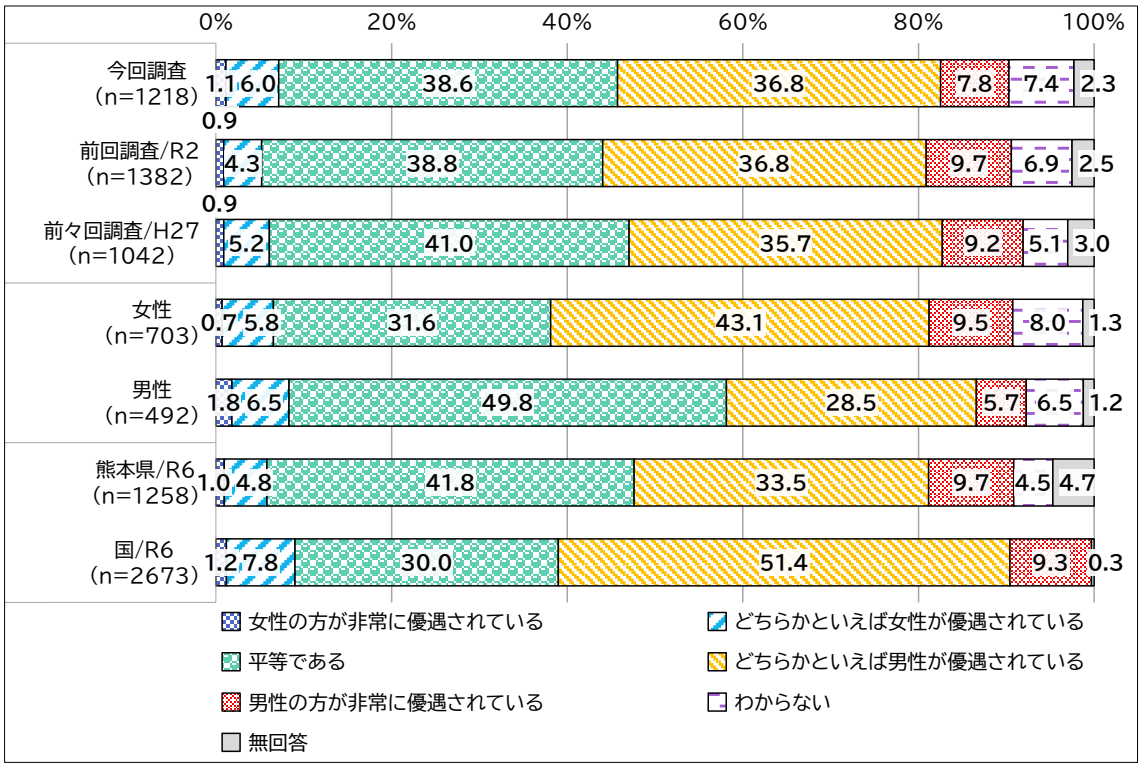
○過去調査との比較をみると、「（３）職場」では前々回調査は「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっていましたが、前回調査からは「平等である」が最も高くなっています。

○性別でみると、「平等である」では、どの分野も男性の割合が高く、特に「（１）家庭生活」「（７）法律や制度の上」は女性より 15 ポイント以上高くなっています。また、『男性優遇感』では、どの分野も女性の割合が高く、特に「（１）家庭生活」「（５）地域活動・社会活動の場」「（６）政治・政策決定の場」「（７）法律や制度の上」「（９）社会全体」では男性より 10 ポイント以上高くなっています。

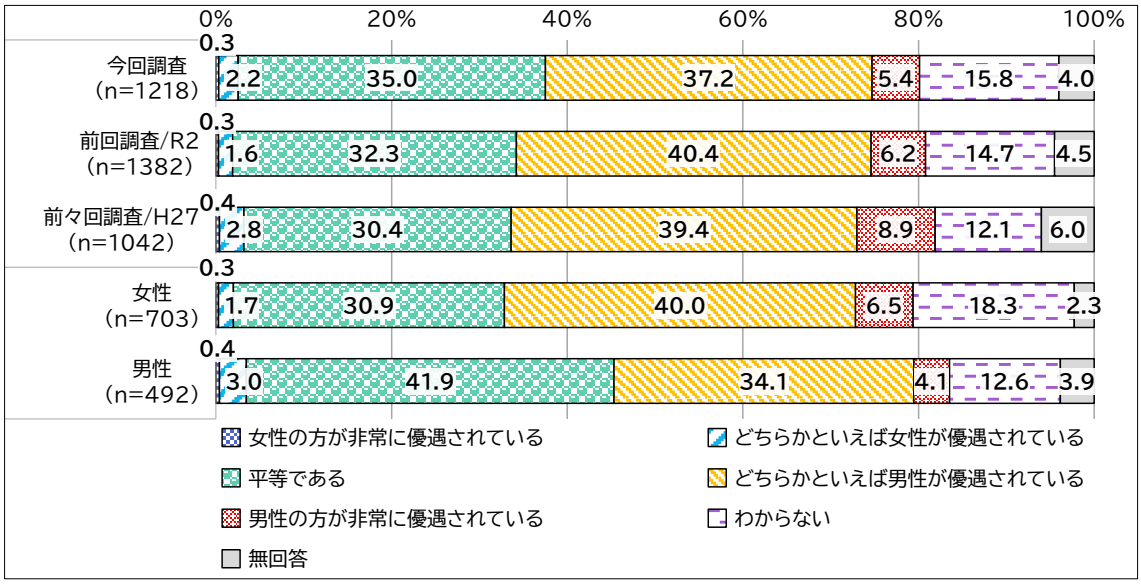
○県との比較をみると、「（４）学校教育の場」では「平等である」が高く、「（６）政治・政策決定の場」では「男性の方が非常に優遇されている」が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。

（国調査との比較については、選択肢構成が異なることから参考程度。以下、同様）

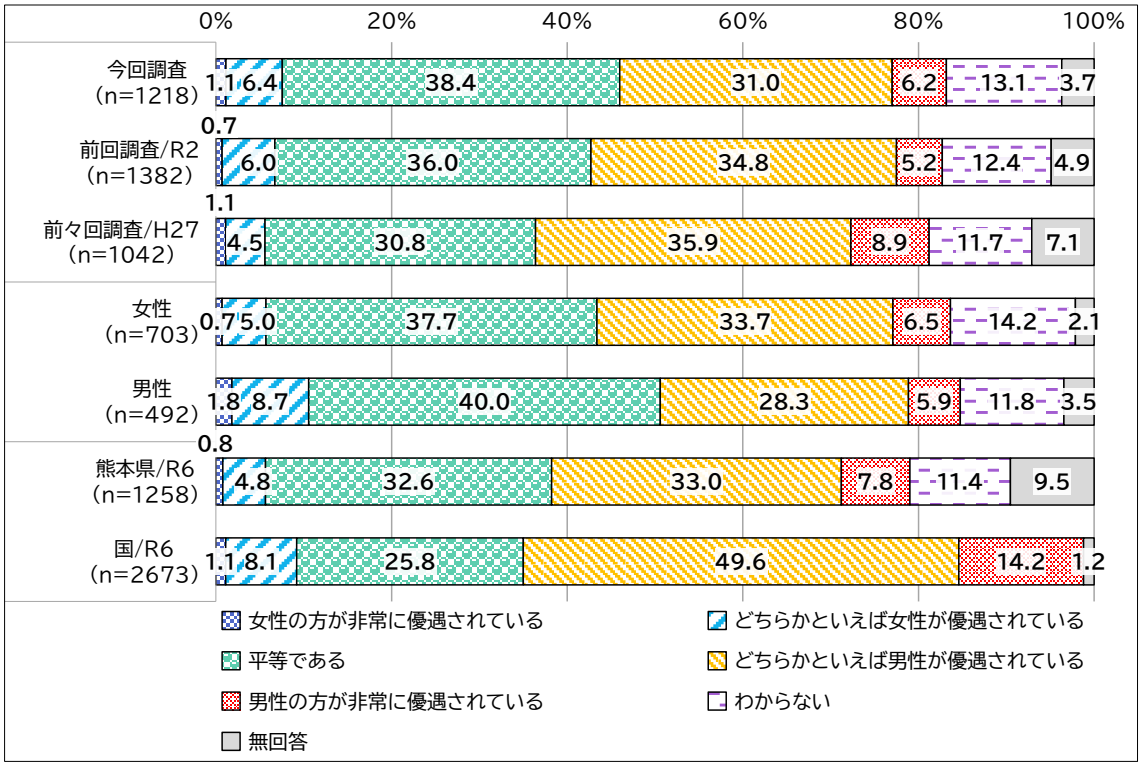
（１）家庭生活では



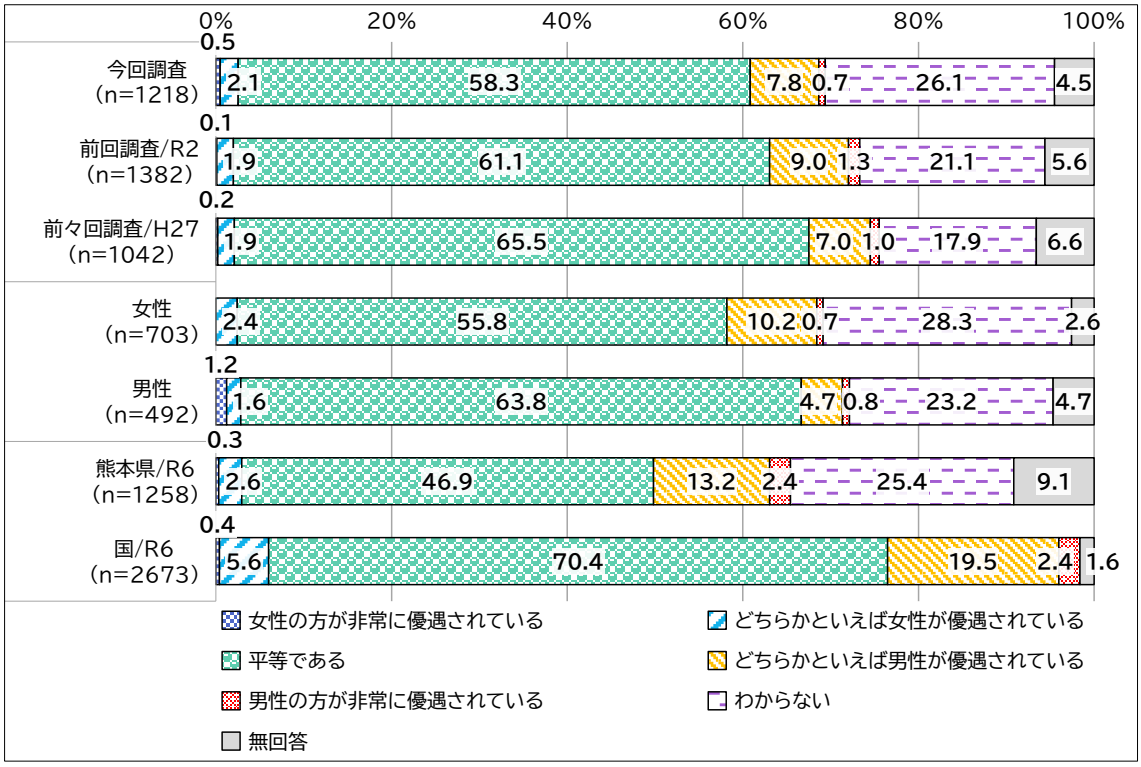
（２）就職・採用では



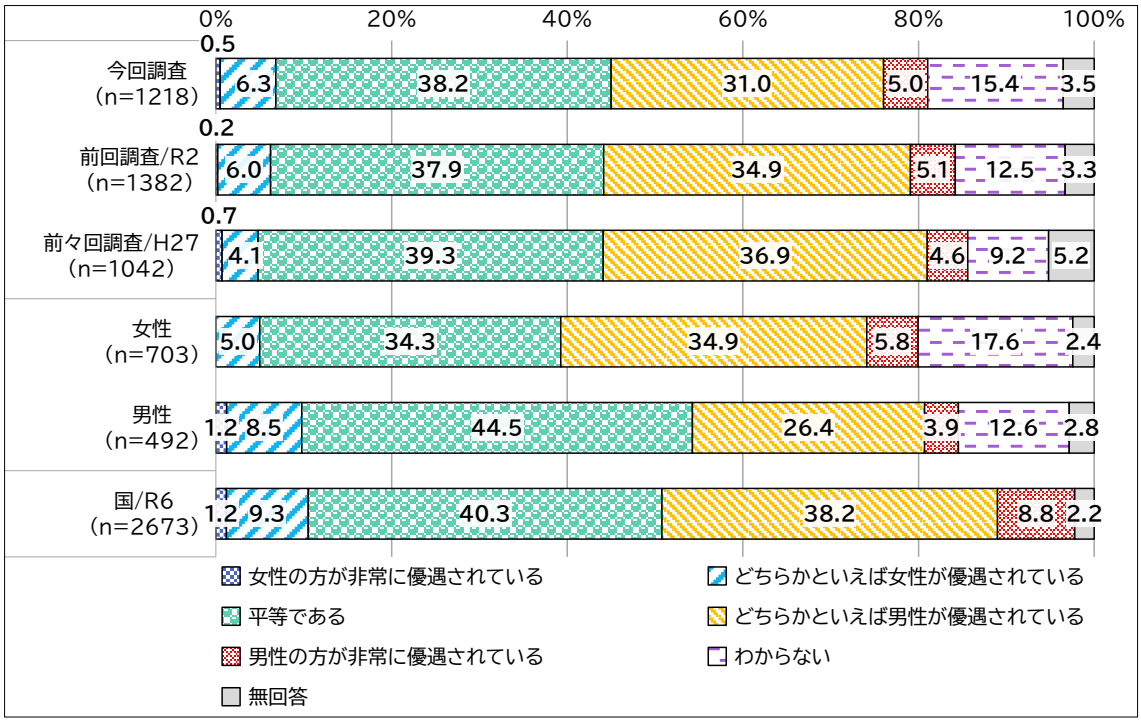
（３）職場では



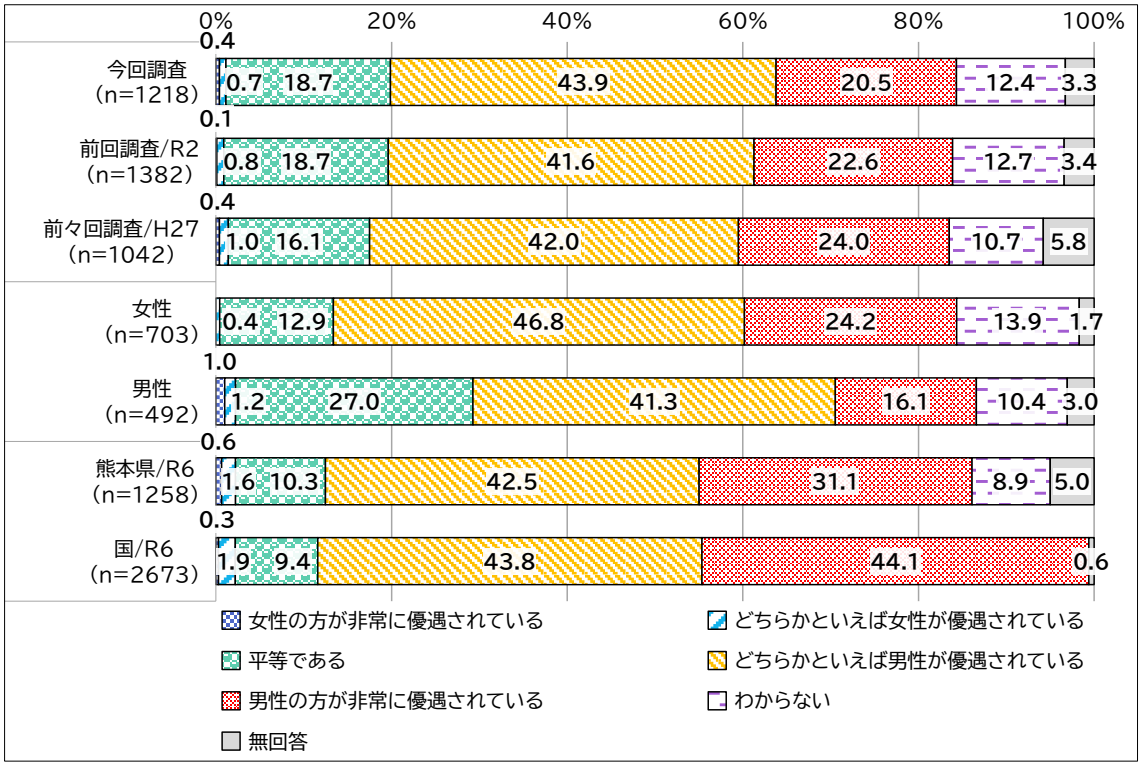
（４）学校教育の場では



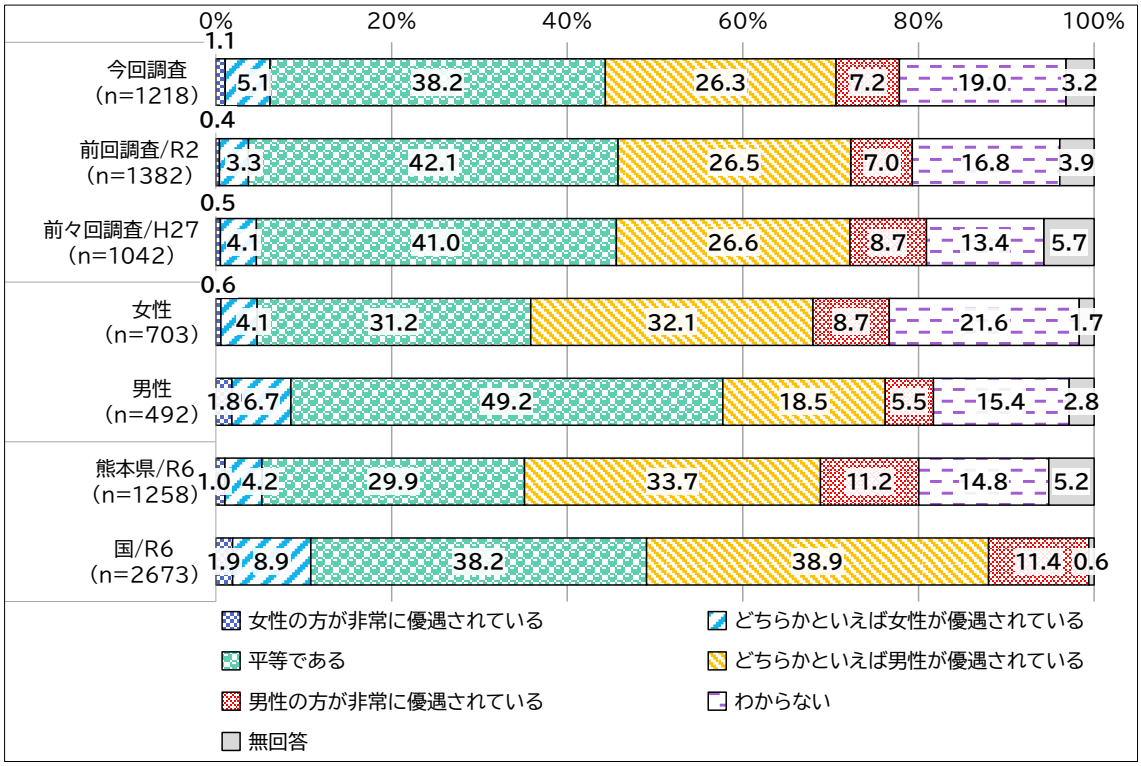
（５）地域活動・社会活動の場では



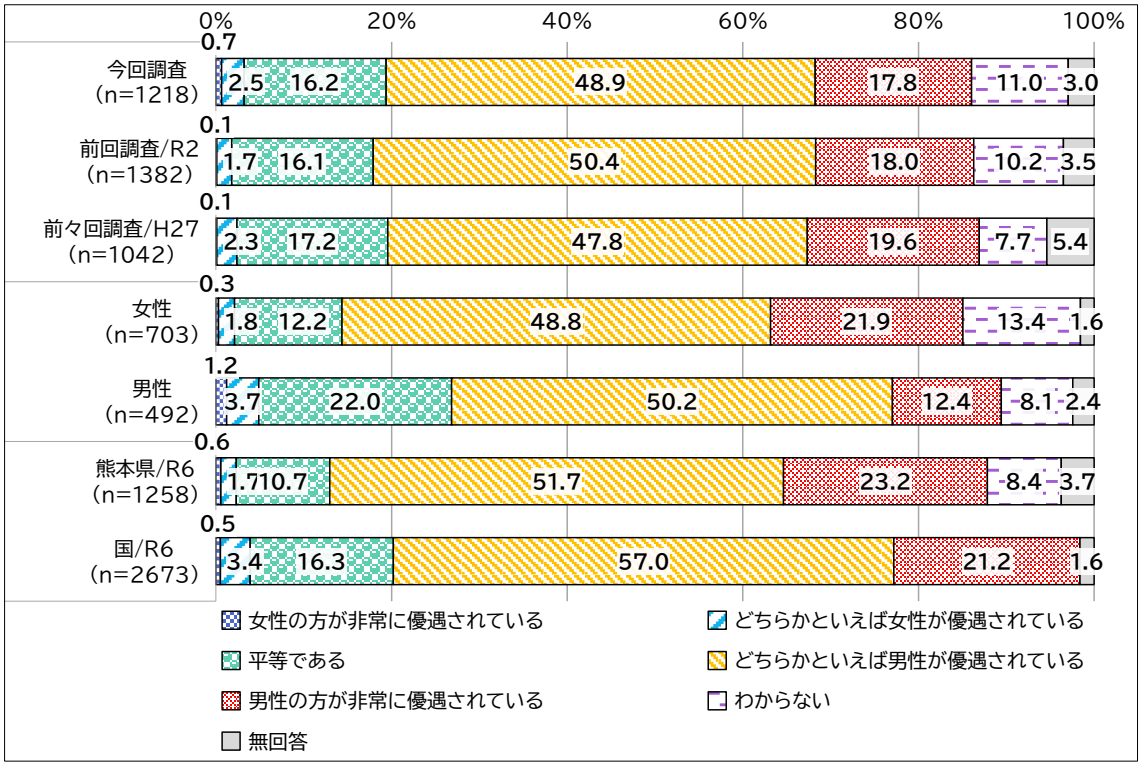
（６）政治・政策決定の場では



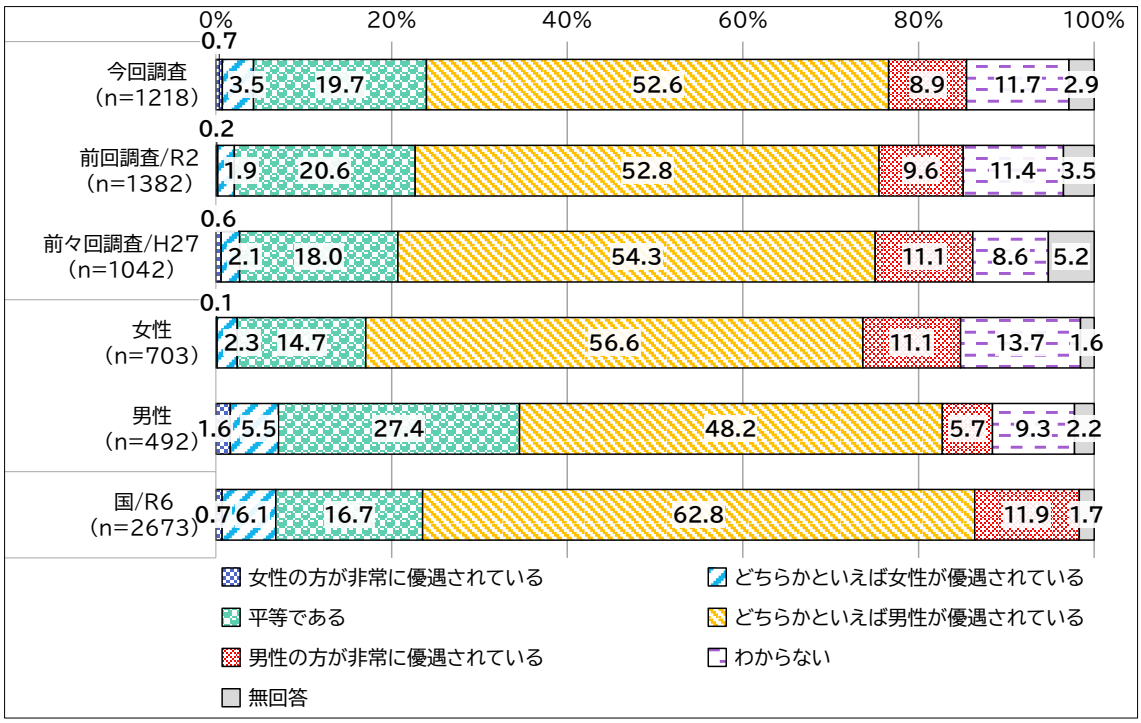
（７）法律や制度の上では



（８）社会通念・慣習・しきたりなどでは



（９）社会全体では

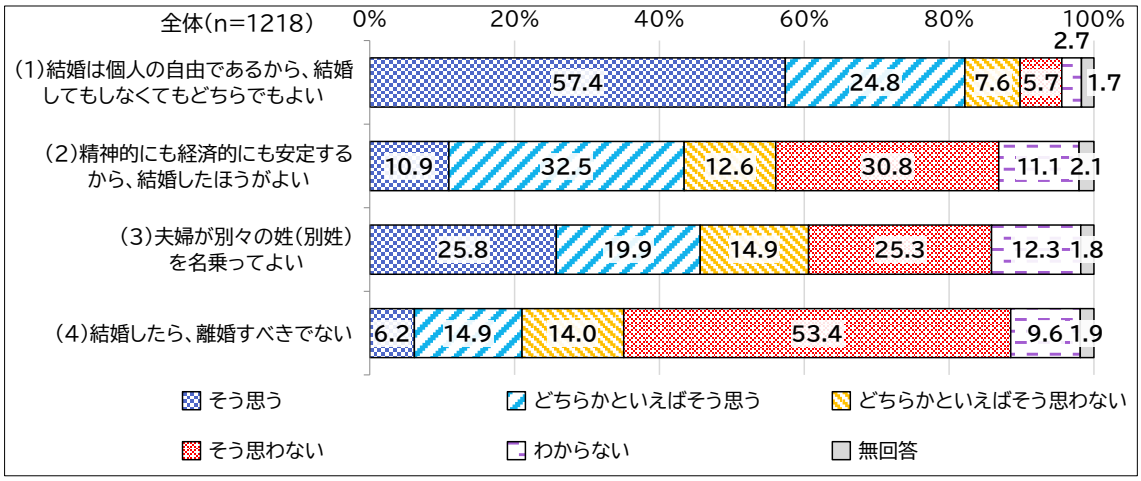


3．結婚に関する意識について

問３　次に掲げる（１）～（４）について、あなたの考えに近い番号を選んでください。（単数回答）

○結婚に対する意識について尋ねたところ、『そう思う：そう思う＋どちらかといえばそう思う』が最も高いのは、「（１）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」82.2%、次いで「（３）夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」45.7%、「（２）精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」43.4%となっています。

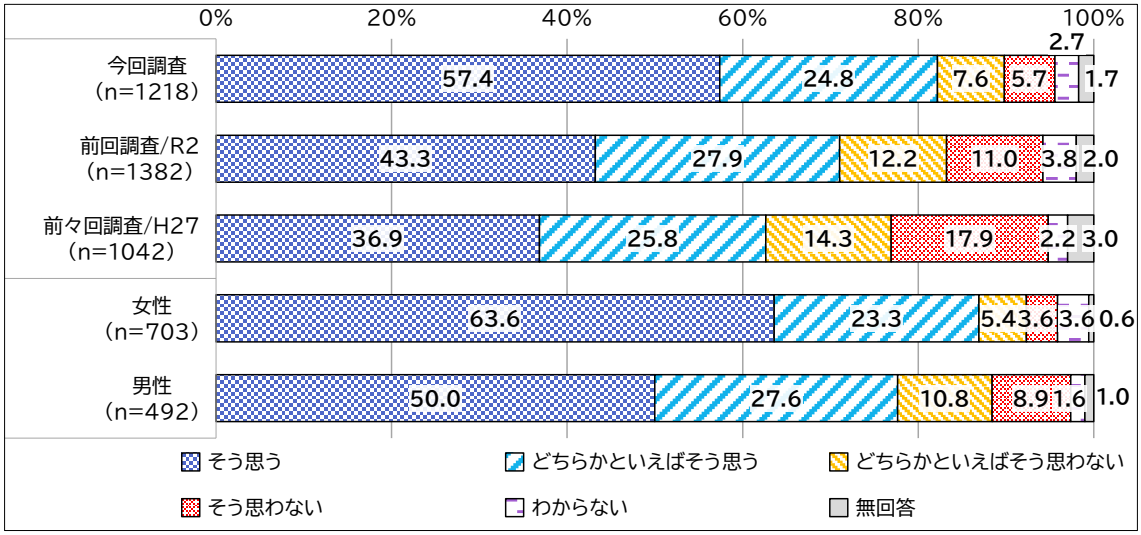
○『そう思わない：そう思わない＋どちらかといえばそう思わない』が最も高いのは、「（４）結婚したら、離婚すべきでない」67.4%となっています。



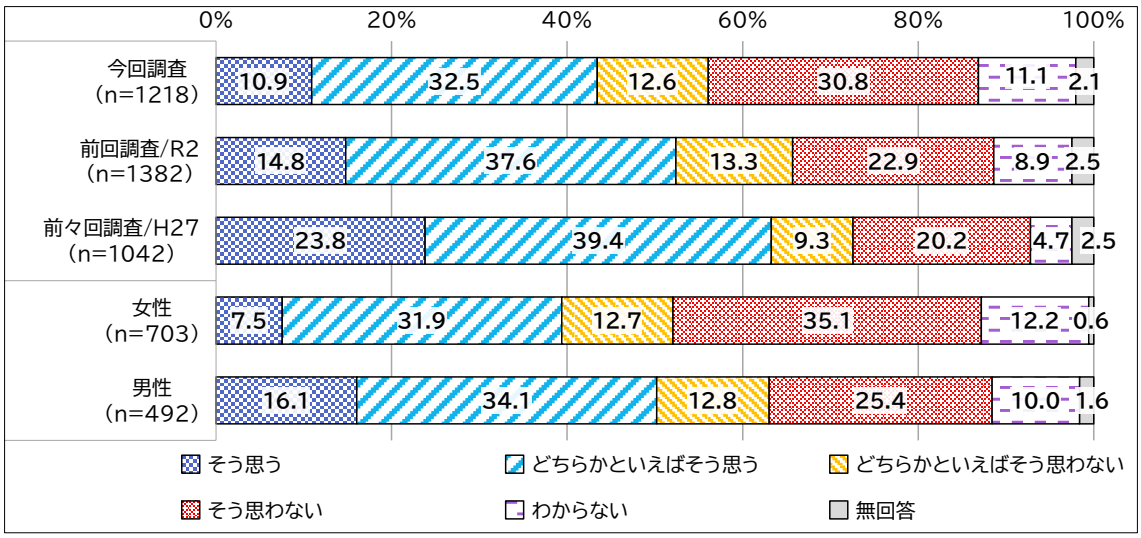
○過去調査との比較をみると、「（１）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では、調査を重ねるごとに『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10 ポイント前後差が生じています。「（２）精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」では、調査を重ねるごとに『そう思う』が 10 ポイント前後低くなっています。「（３）夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」では、前回調査までは「そう思わない」が最も高くなっていましたが、今回調査では「そう思う」が最も高くなっています。「（４）結婚したら、離婚すべきでない」では、調査を重ねるごとに『そう思わない』が高く、『そう思う』が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。

○性別でみると、男性は女性と比べて「（１）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では『そう思わない』が、「（２）精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」「（４）結婚したら、離婚すべきでない」では『そう思う』が 10 ポイント以上高くなっています。また、女性は「（４）結婚したら、離婚すべきでない」について、７割以上が『そう思わない』と回答しており、男性より 15 ポイント以上高くなっています。

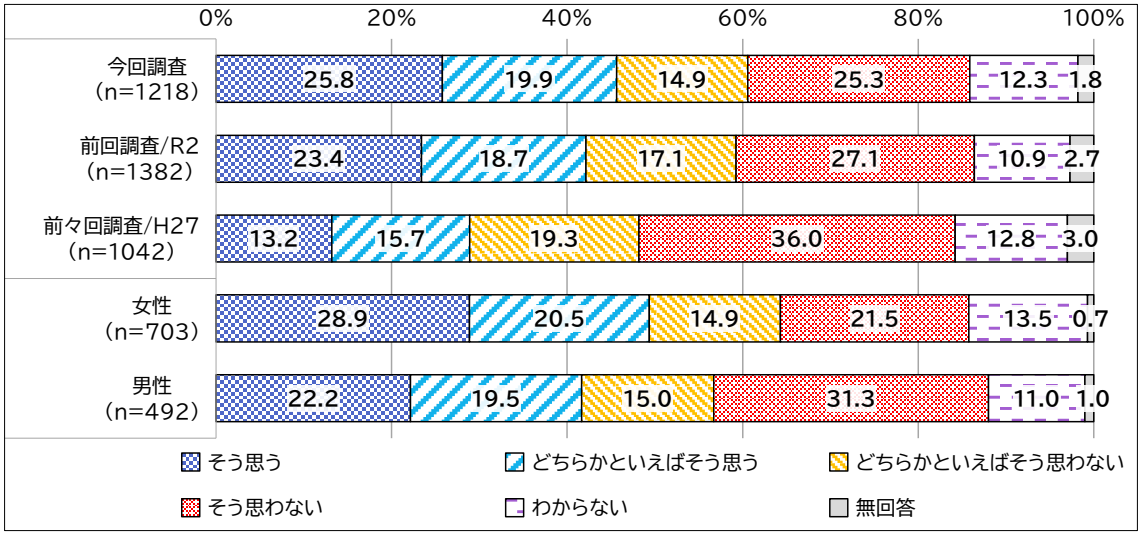
（１）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



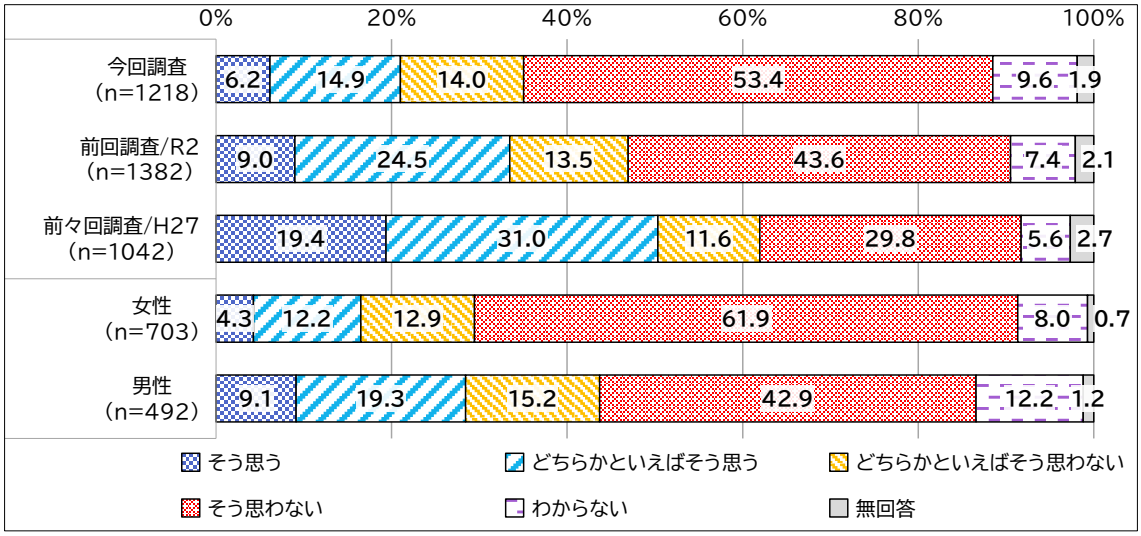
（２）精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい



（３）夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい



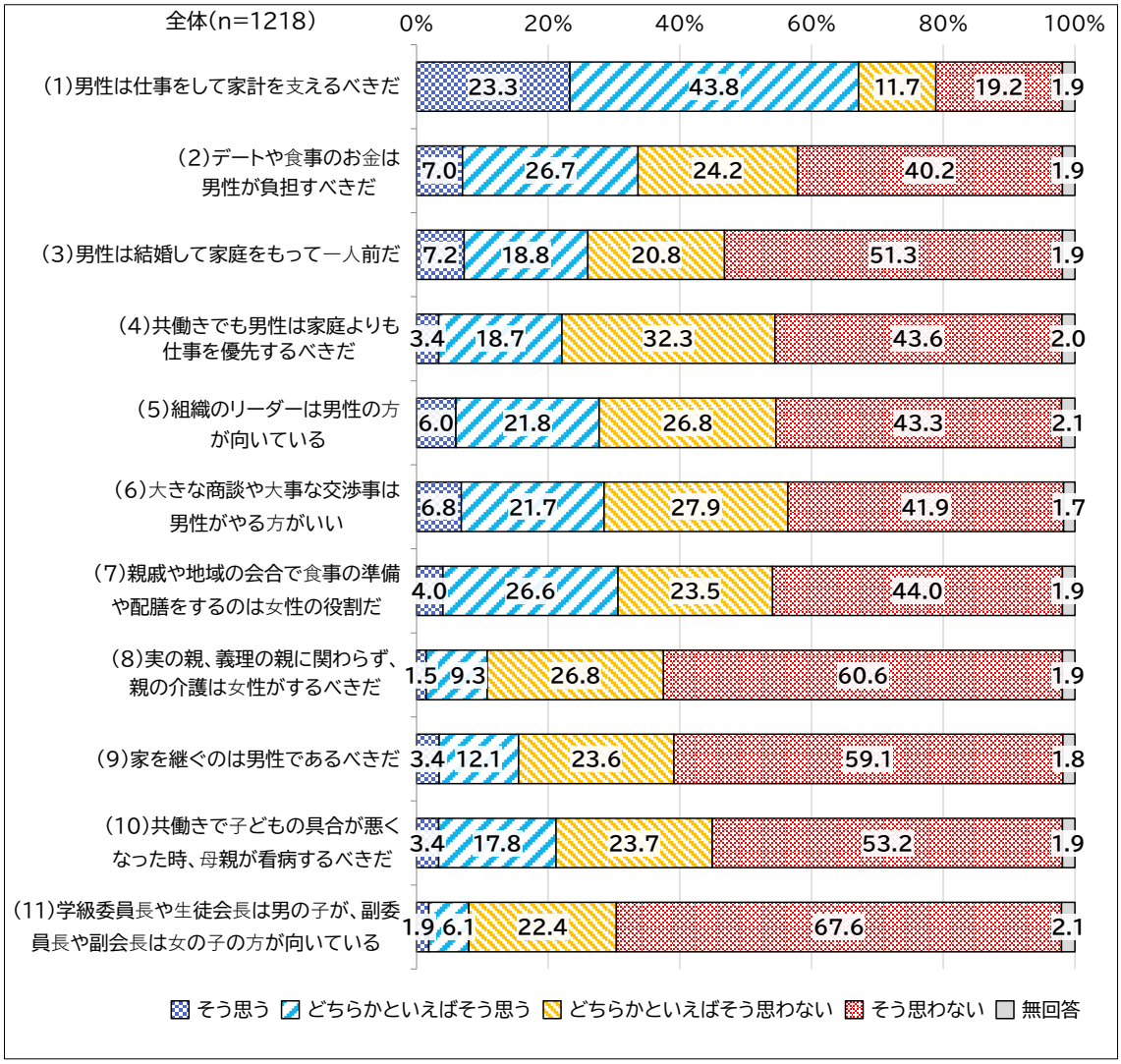
（４）結婚したら、離婚すべきでない



4．固定的性別役割分担意識について

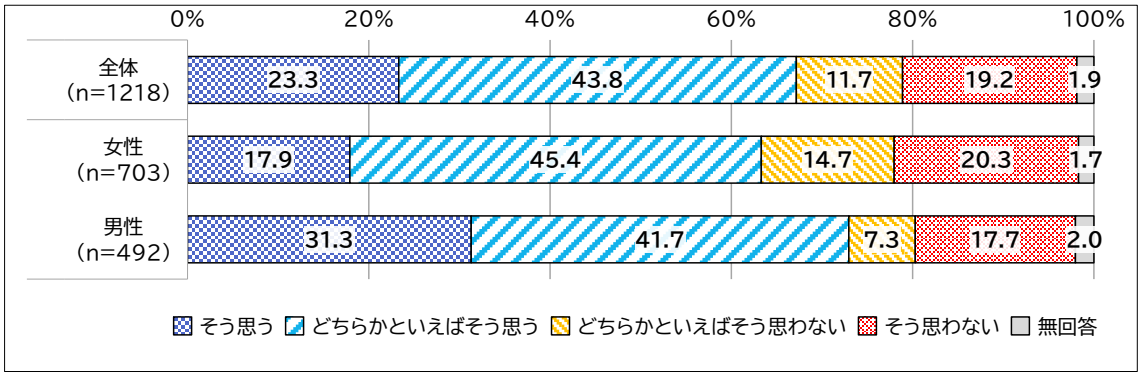
問４　　あなたは、（１）～（１１）の考え方について、どのように思いますか。（単数回答）

○性別による社会的役割の固定化について、『そう思う：そう思う＋どちらかといえばそう思う』が最も高いのは「（１）男性は仕事をして家計を支えるべきだ」67.1%、次いで「（２）デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」33.7%、「（７）親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」30.6%となっています。また、「（１）男性は仕事をして家計を支えるべきだ」以外はいずれも『そう思わない：そう思わない＋どちらかといえばそう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に「（８）実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」「（９）家を継ぐのは男性であるべきだ」「（11）学級委員長や生徒会長は男の子が、副委員長や副会長は女の子の方が向いている」は８割を超えています。

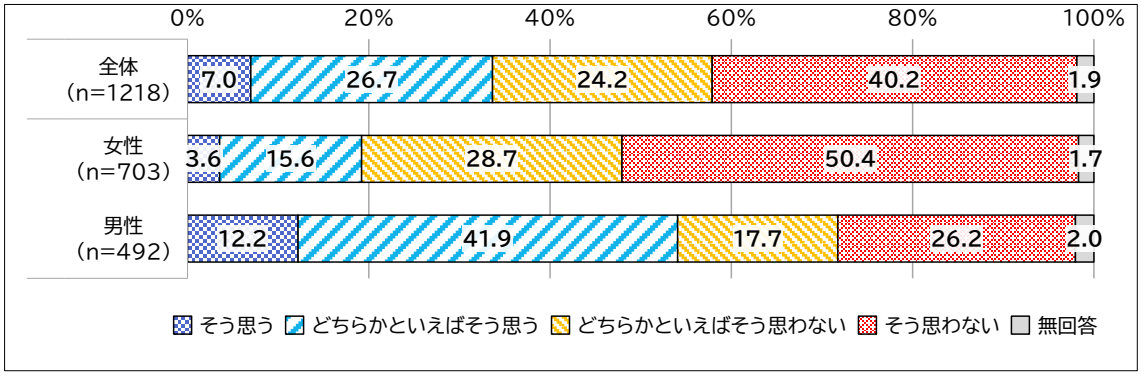


○性別でみると、「（６）大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい」以外は、どの項目も男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっています。特に、「（２）デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」については、『そう思う』が30ポイント以上高くなっており、「（１）男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「（３）男性は結婚して家庭をもって一人前だ」「（４）共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」も 10 ポイント前後高くなっています。一方、女性は男性と比べて「（９）家を継ぐのは男性であるべきだ」では『そう思わない』が 10 ポイント以上高くなっています。

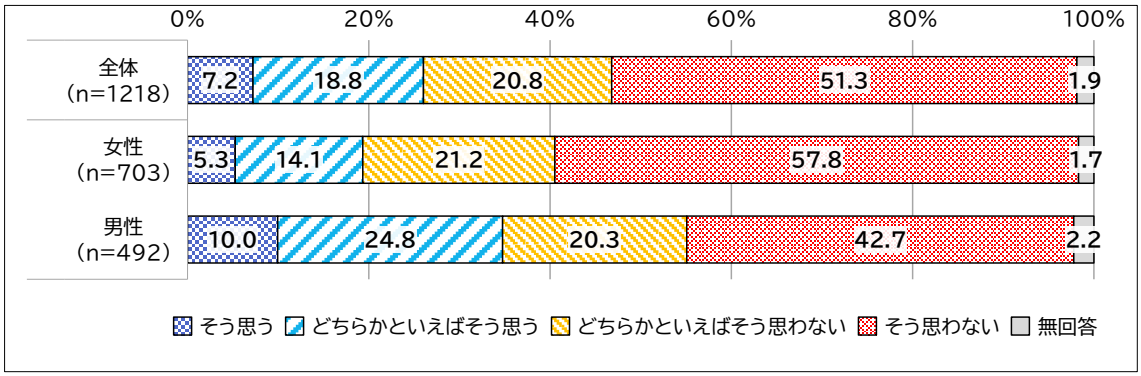
（１）男性は仕事をして家計を支えるべきだ



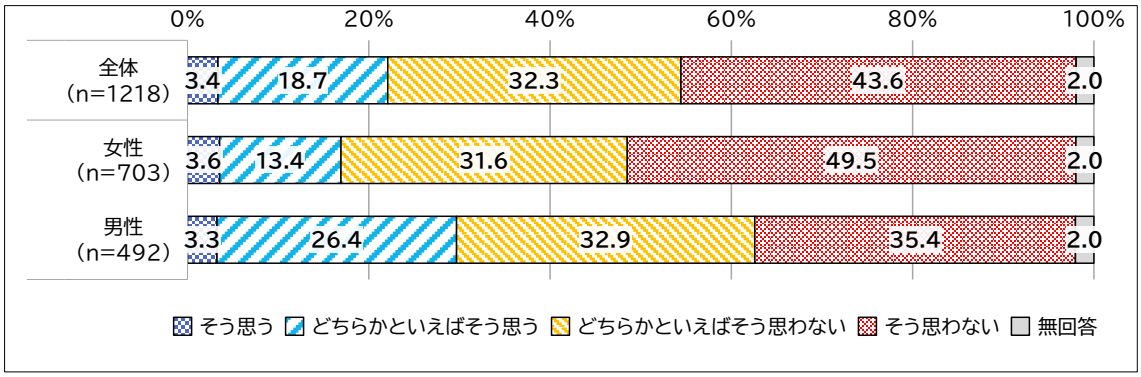
（２）デートや食事のお金は男性が負担すべきだ



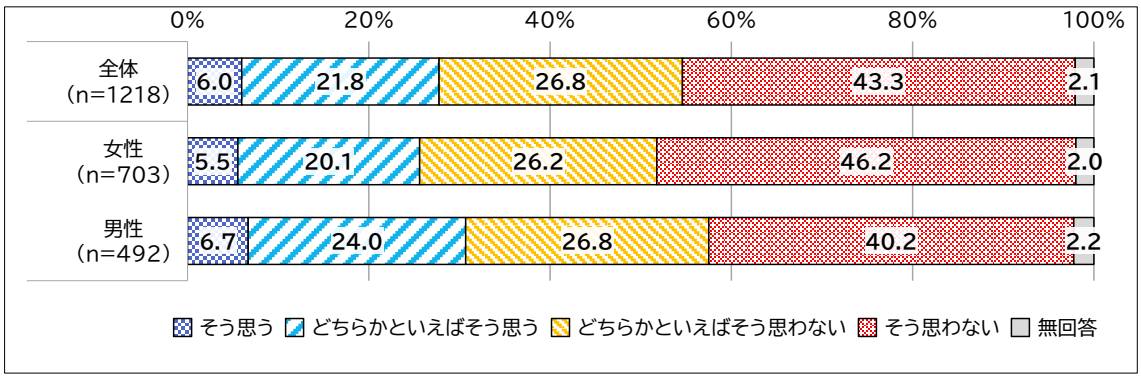
（３）男性は結婚して家庭をもって一人前だ



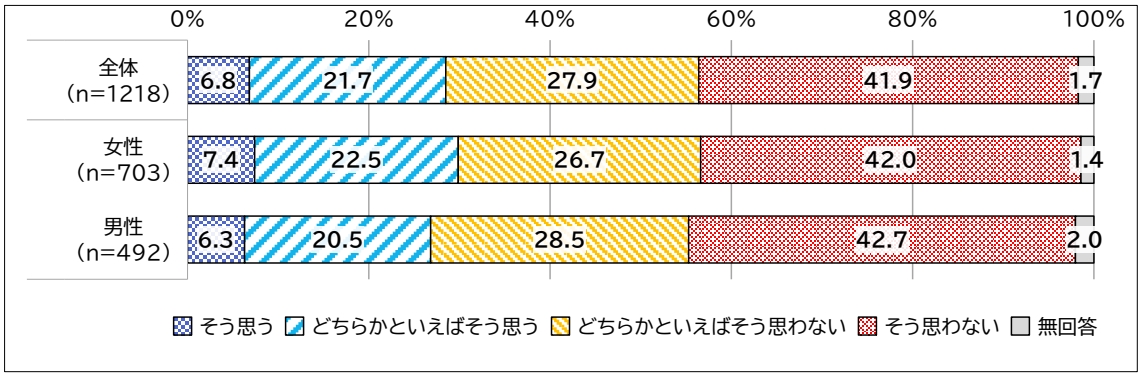
（４）共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ



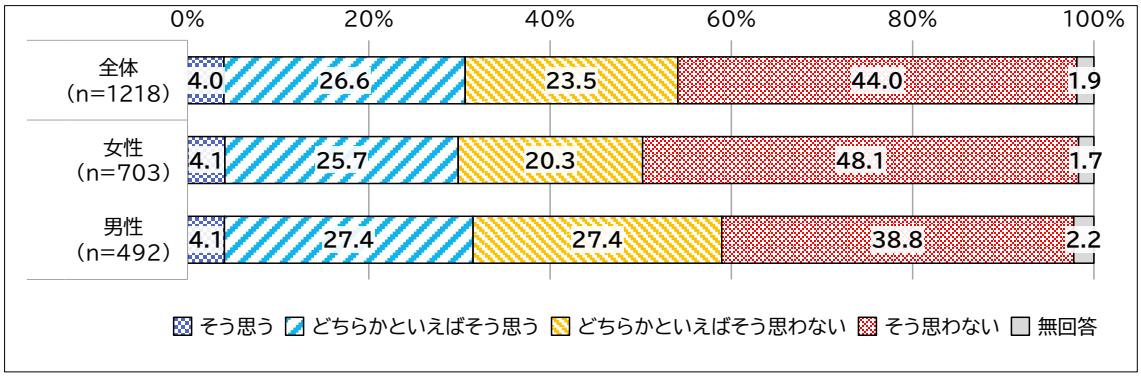
（５）組織のリーダーは男性の方が向いている



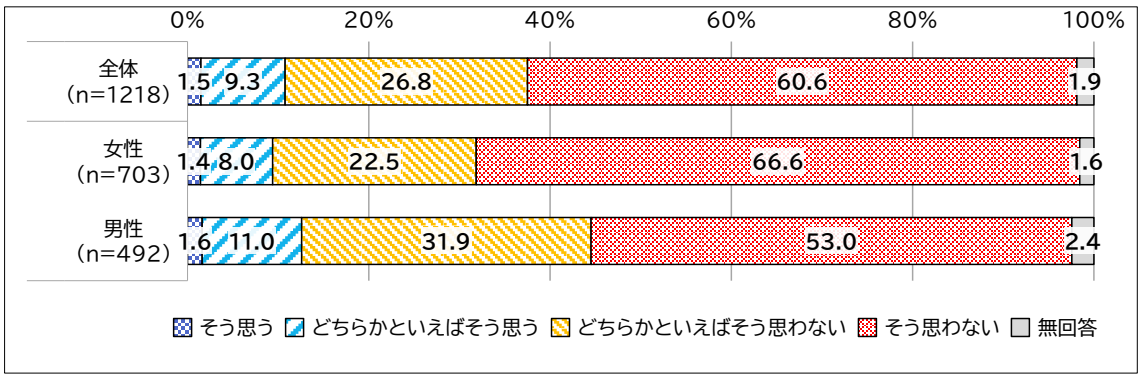
（６）大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい



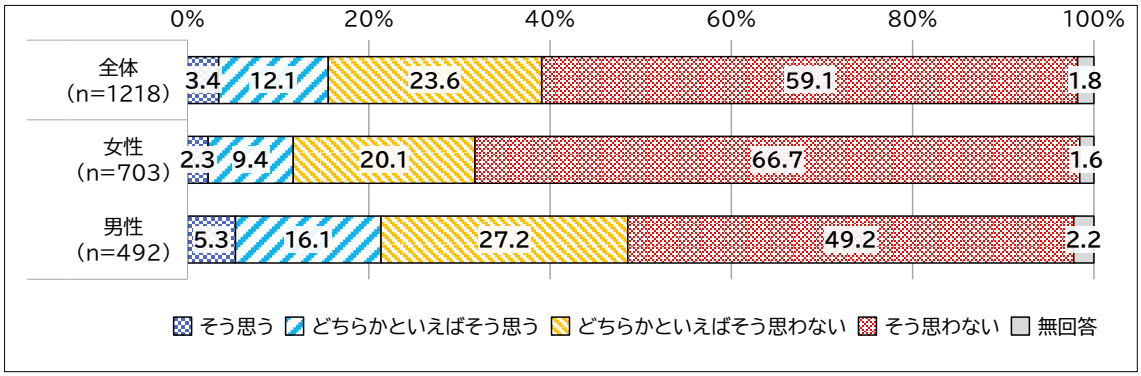
（７）親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ



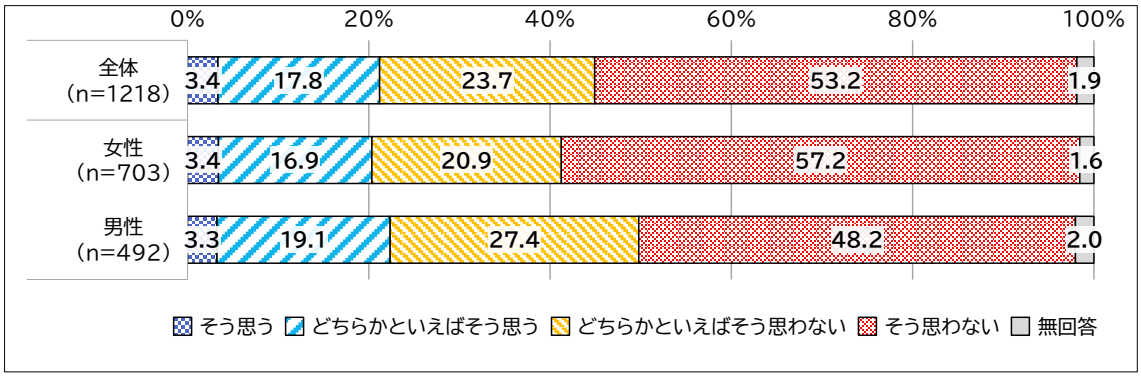
（８）実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ



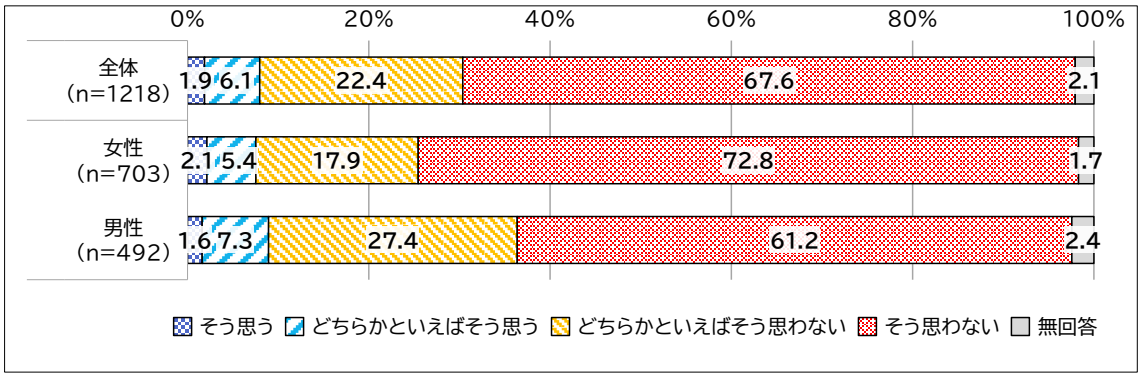
（９）家を継ぐのは男性であるべきだ



（１０）共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ



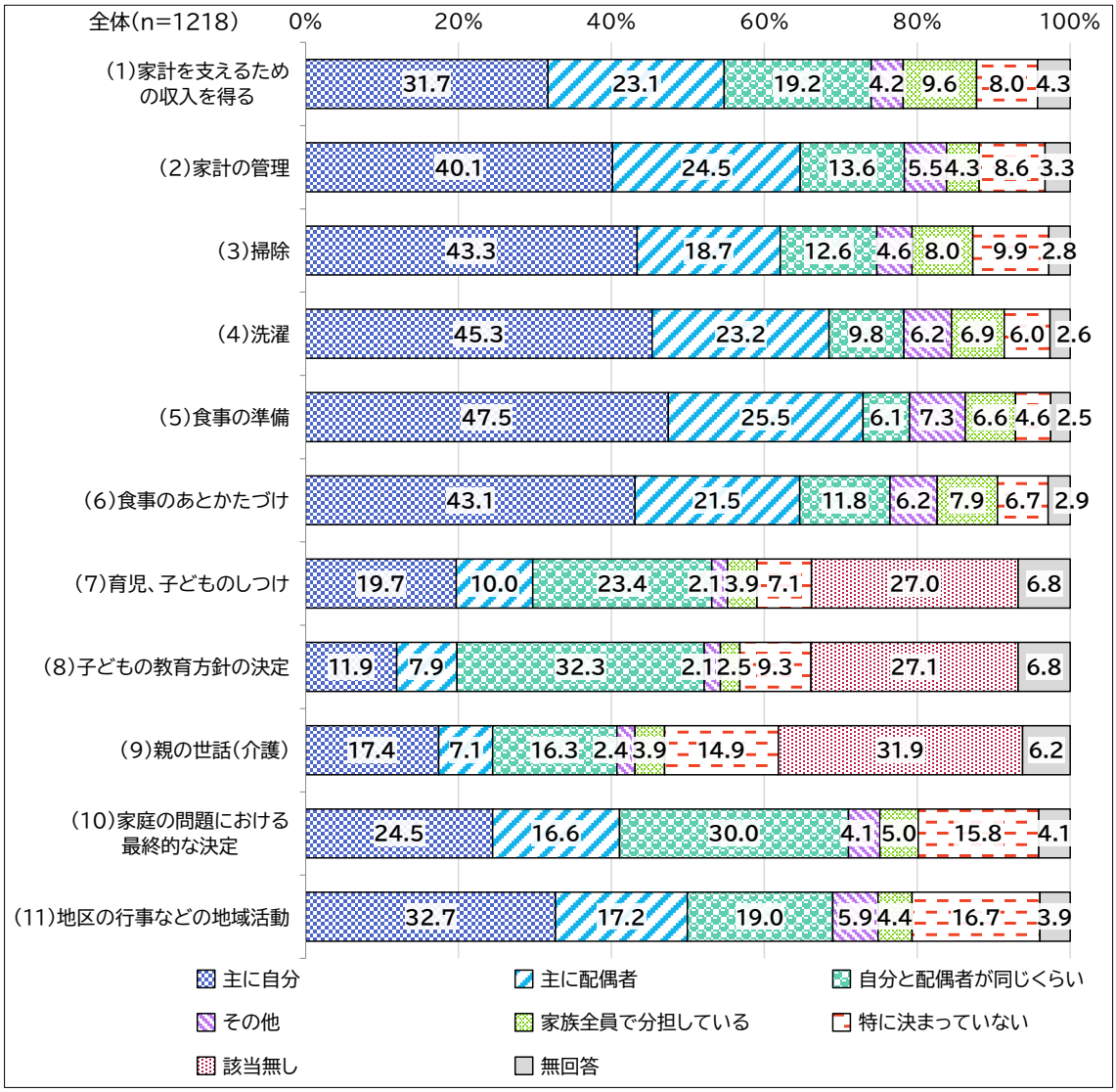
（１１）学級委員長や生徒会長は男の子が、副委員長や副会長は女の子の方が向いている



5．家庭生活について

問５　あなたのご家庭では、次に掲げることは、主にどなたの役割ですか。（単数回答）

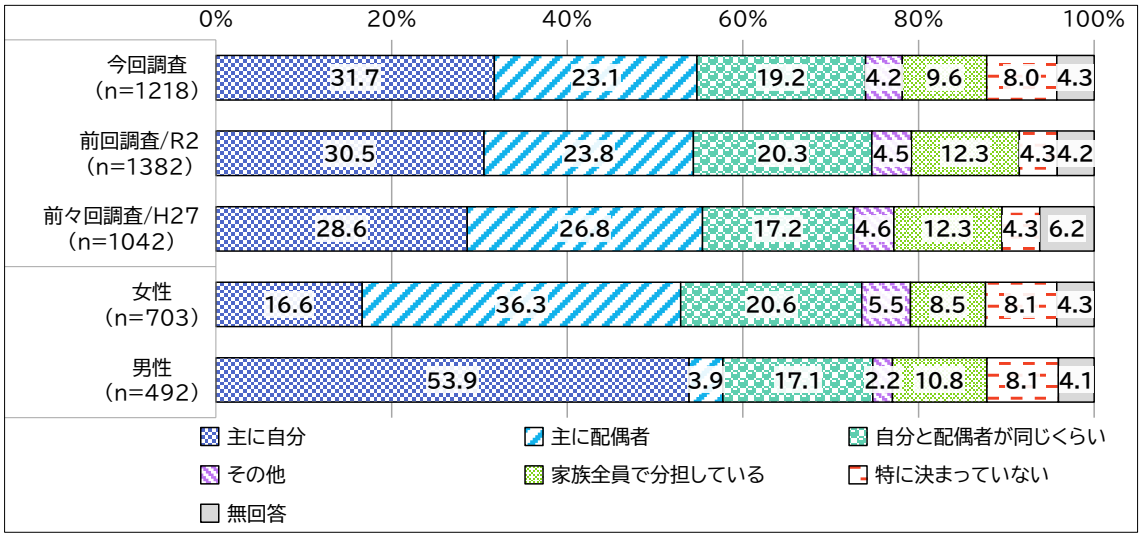
○日常的な暮らしの役割分担については、「（７）育児、子どものしつけ」「（８）子どもの教育方針の決定」「(10）家庭の問題における最終的な決定」は「自分と配偶者が同じくらい」、それ以外は「主に自分」が最も高くなっており、特に「（２）家計の管理」「（３）掃除」「（４）洗濯」「（５）食事の準備」「（６）食事のあとかたづけ」は４割を超えています。



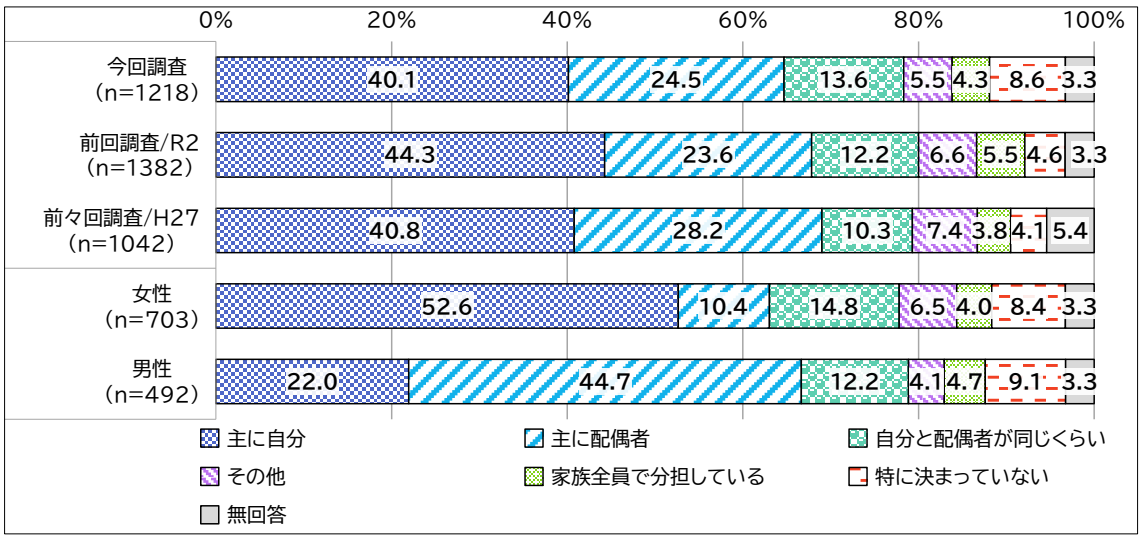
○過去調査との比較をみると、「(10) 家庭の問題における最終的な決定」については、前々回調査では「主に自分」、前回調査では「主に自分」「自分と配偶者が同じくらい」が同率で最も高くなっていましたが、今回調査では「自分と配偶者が同じくらい」が最も高くなっています。

○性別でみると、「(1) 家計を支えるための収入を得る」について、男性は「主に自分」、女性は「主に配偶者」が最も高く、「(2) 家計の管理」「(3) 掃除」「(4) 洗濯」「(5) 食事の準備」「(6) 食事のあとかたづけ」では、女性は「主に自分」、男性は「主に配偶者」が最も高くなっています。また、「(8) 子どもの教育方針の決定」では、男女ともに「自分と配偶者が同じくらい」が最も高くなっています。加えて、「(7) 育児、子どものしつけ」「(9) 親の世話 (介護)」について、女性は「主に自分」、男性は「自分と配偶者が同じくらい」が最も高く、一方「(10) 家庭の問題における最終的な決定」では、女性は「自分と配偶者が同じくらい」、男性は「主に自分」が最も高くなっています。また、「(11) 地区の行事などの地域活動」については、男女ともに「主に自分」が最も高くなっています。

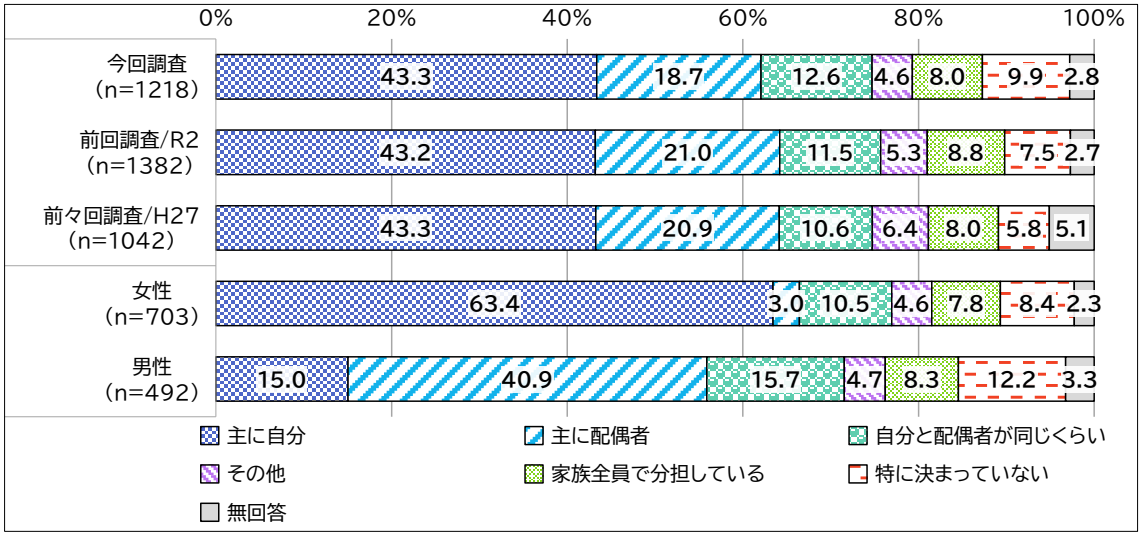
(1) 家計を支えるための収入を得る



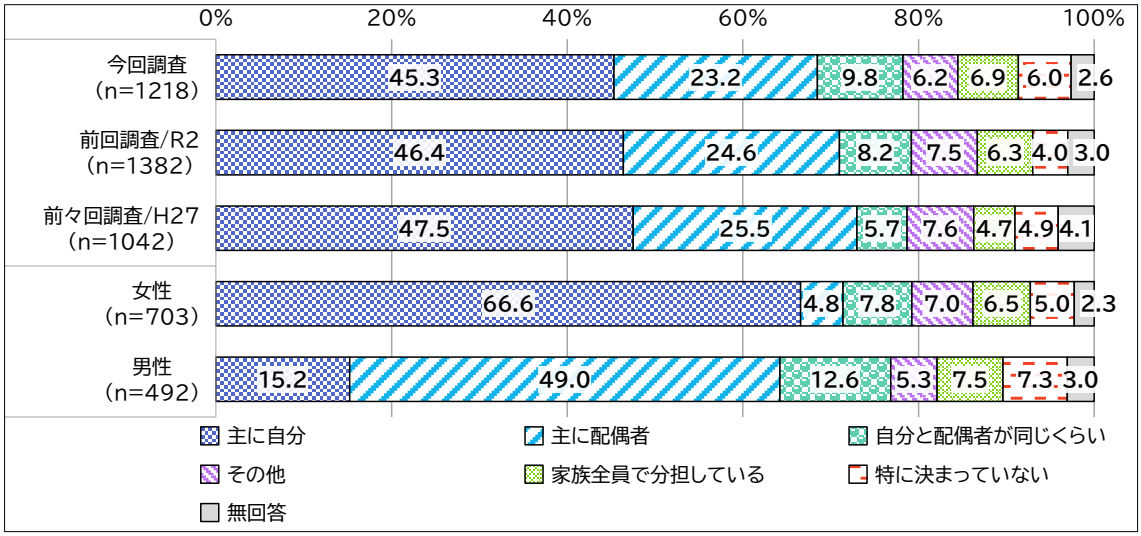
(2) 家計の管理



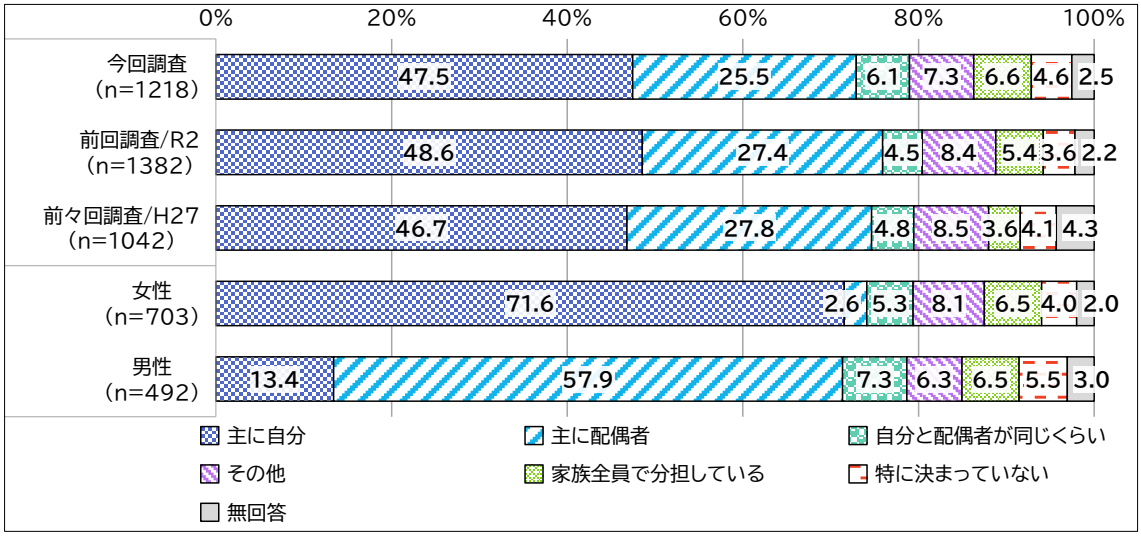
（３）掃除


0%
20%
40%
60%
80%
100%
今回調査（n=1218）
43.3
18.7
12.6
4.6
8.0
9.9
2.8
前回調査/R2（n=1382）
43.2
21.0
11.5
5.3
8.8
7.5
2.7
前々回調査/H27（n=1042）
43.3
20.9
10.6
6.4
8.0
5.8
5.1
女性（n=703）
63.4
3.0
10.5
4.6
7.8
8.4
2.3
男性（n=492）
15.0
40.9
15.7
4.7
8.3
12.2
3.3
主に自分
主に配偶者
自分と配偶者が同じくらい
その他
家族全員で分担している
特に決まっていない
無回答

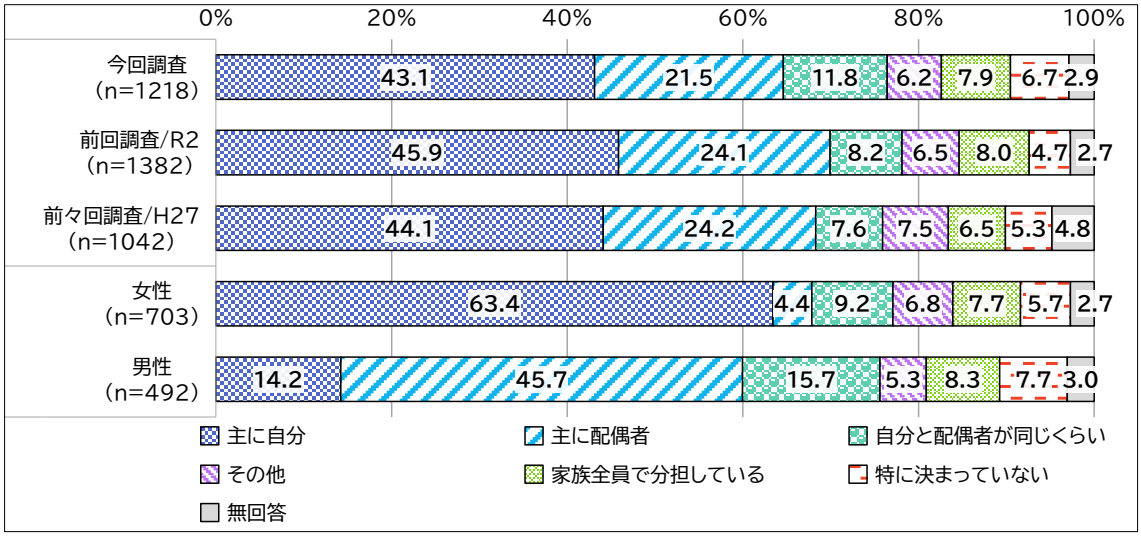
（４）洗濯


0%
20%
40%
60%
80%
100%
今回調査（n=1218）
45.3
23.2
9.8
6.2
6.9
6.0
2.6
前回調査/R2（n=1382）
46.4
24.6
8.2
7.5
6.3
4.0
3.0
前々回調査/H27（n=1042）
47.5
25.5
5.7
7.6
4.7
4.9
4.1
女性（n=703）
66.6
4.8
7.8
7.0
6.5
5.0
2.3
男性（n=492）
15.2
49.0
12.6
5.3
7.5
7.3
3.0
主に自分
主に配偶者
自分と配偶者が同じくらい
その他
家族全員で分担している
特に決まっていない
無回答

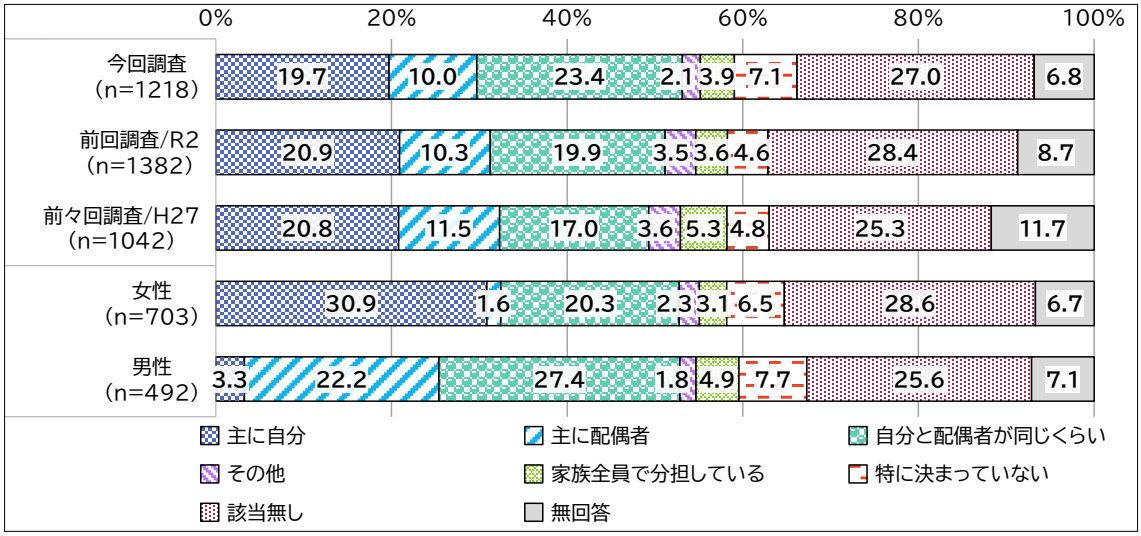
（５）食事の準備



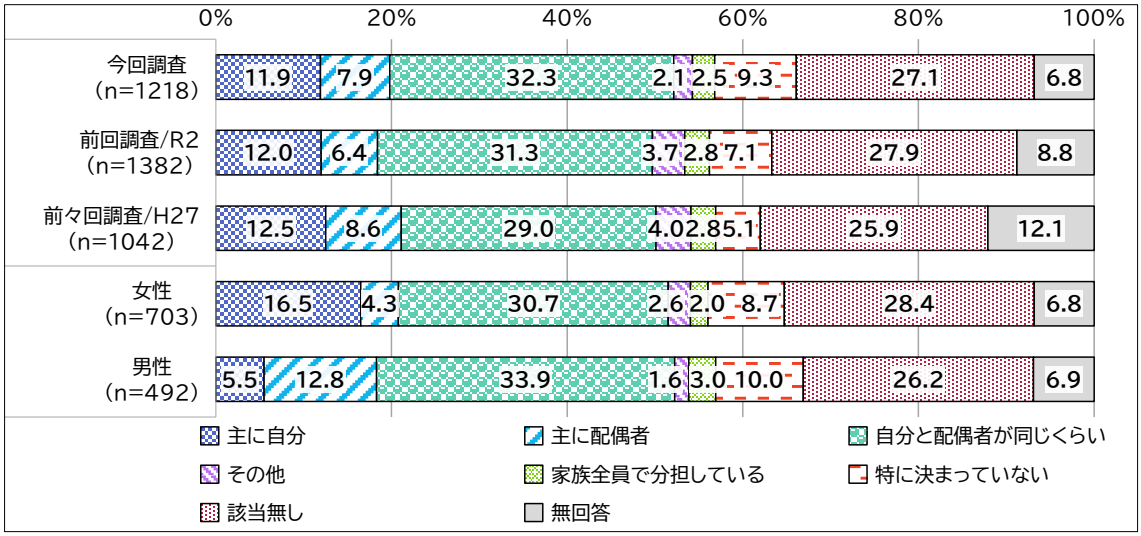
（６）食事のあとかたづけ



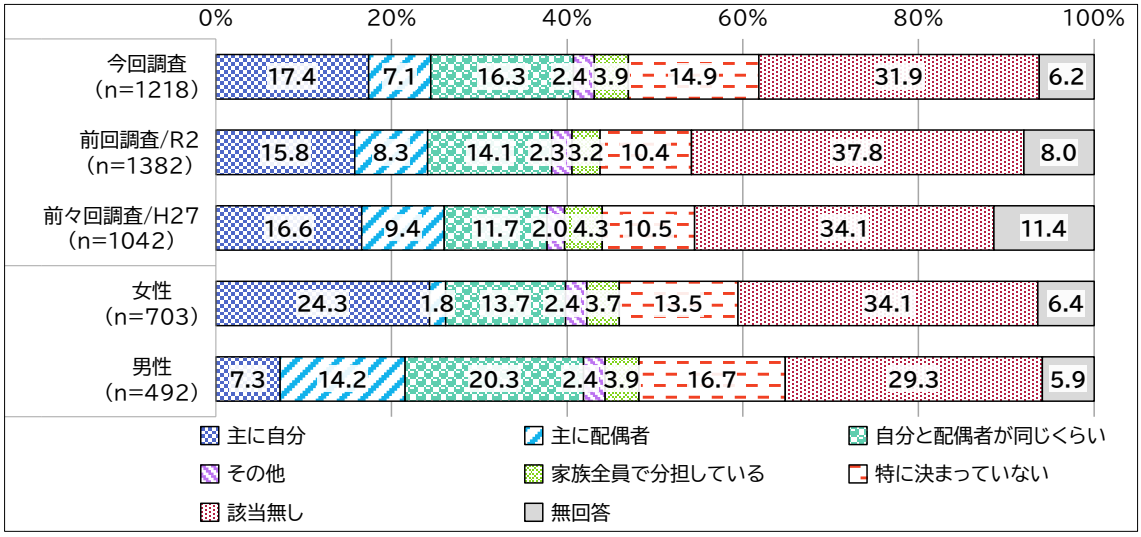
（7）育児、子どものしつけ



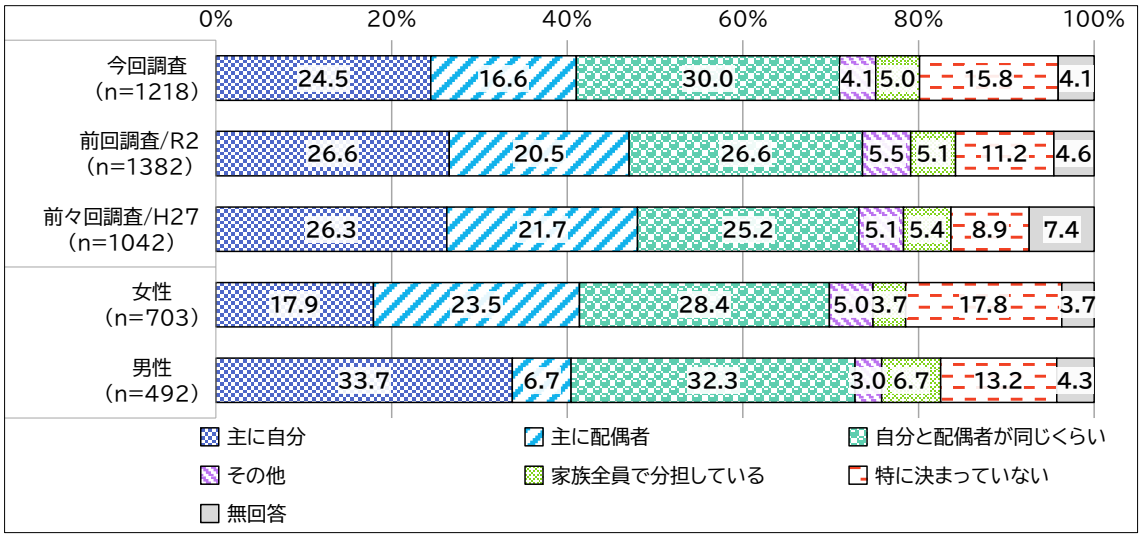
（8）子どもの教育方針の決定



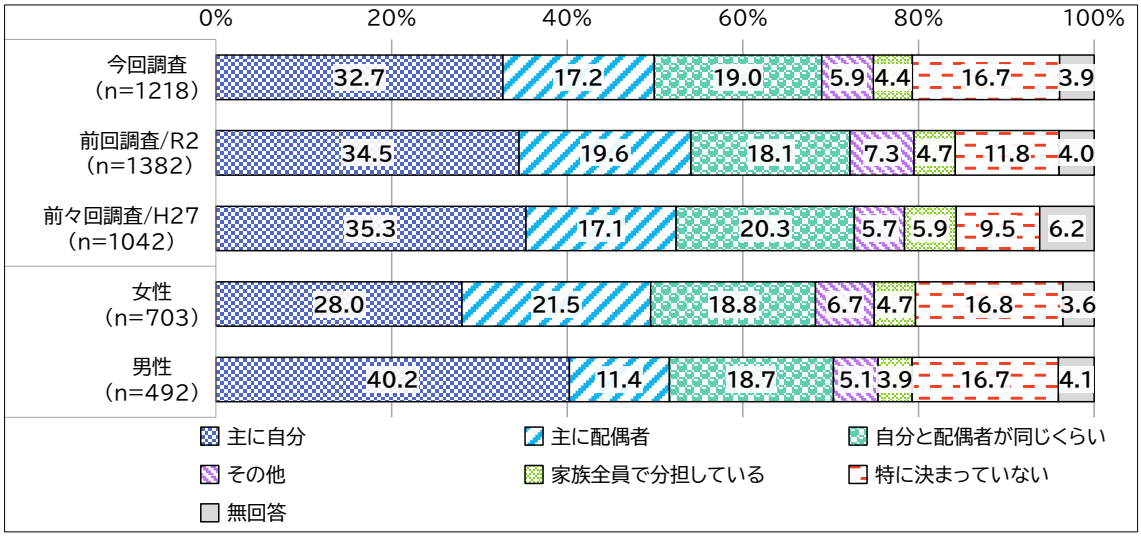
（９）親の世話（介護）



（１０）家庭の問題における最終的な決定



（１１）地区の行事などの地域活動

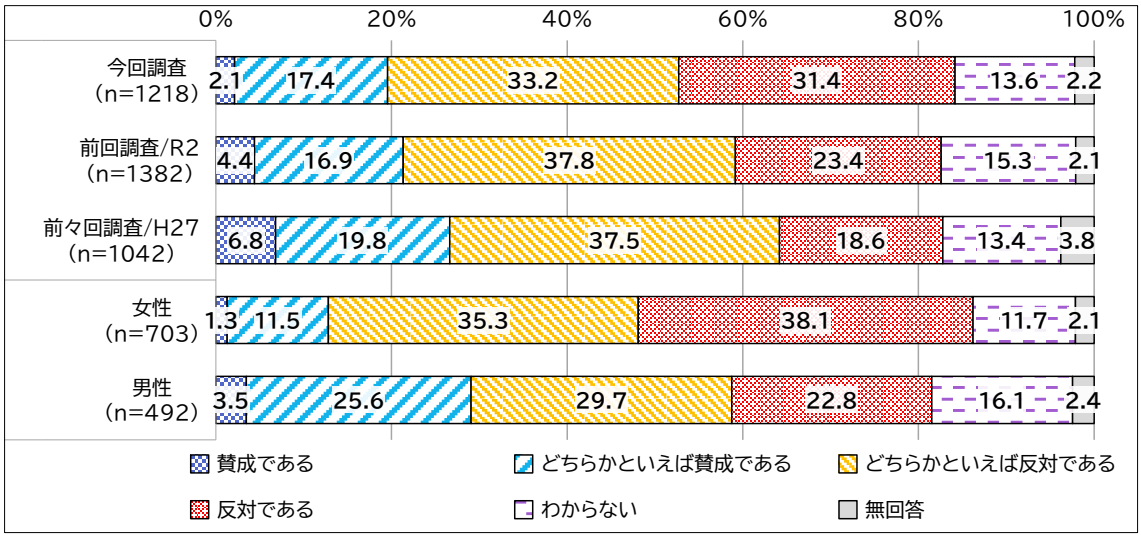


問６　あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。（単数回答）

○固定的な性別役割分担意識については、「どちらかといえば反対である」が 33.2%と最も高く、次いで「反対である」31.4%、「どちらかといえば賛成である」17.4%となっており、６割は『反対である：反対である＋どちらかといえば反対である』と回答しています。

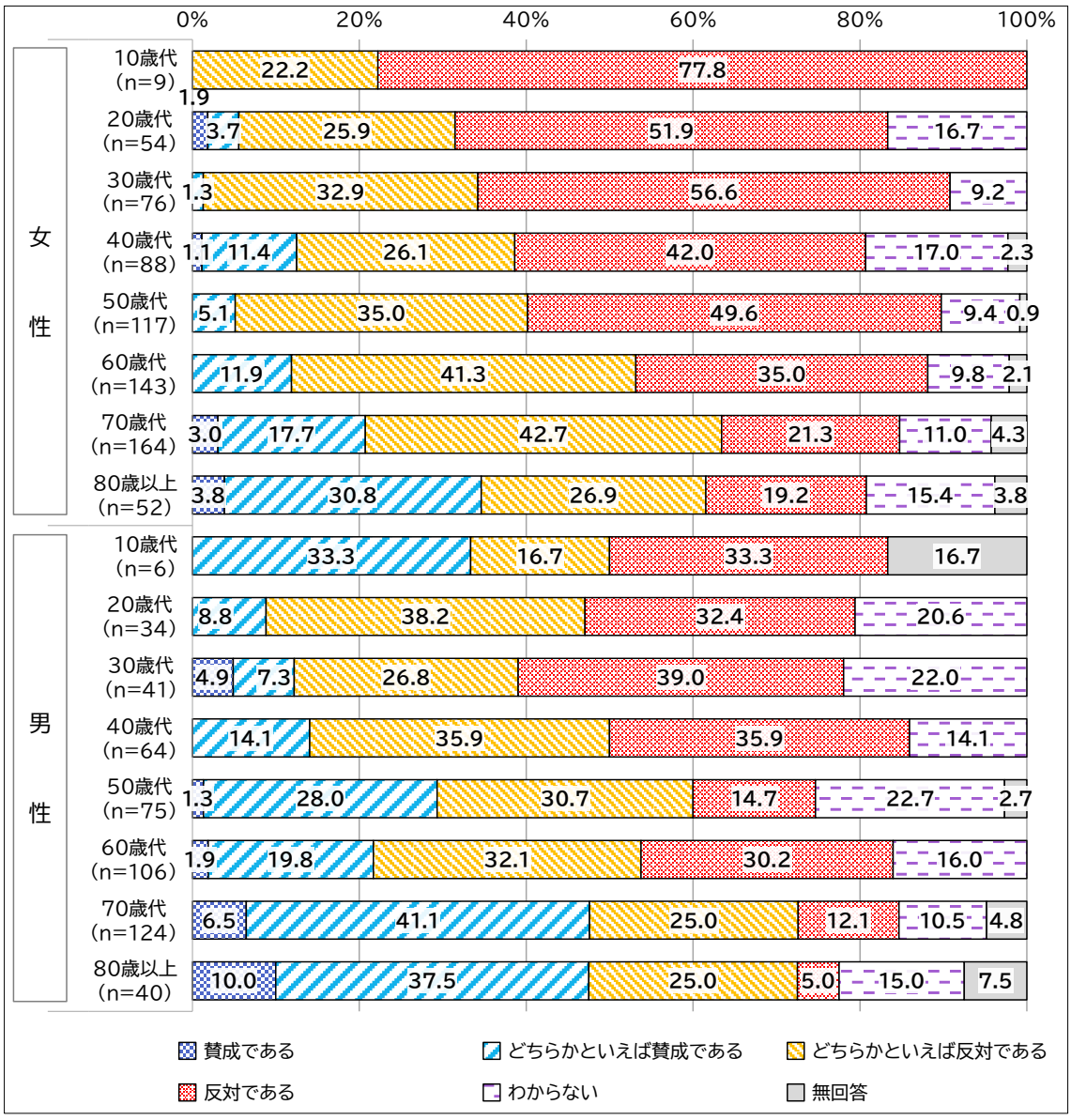
○性別でみると、女性は「反対である」、男性は「どちらかといえば反対である」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて『賛成である：賛成である＋どちらかといえば賛成である』が高く、『反対である』が低くなっており、15 ポイント以上差が生じています。

○過去調査との比較をみると、「賛成である」の割合は減少傾向にあり、「反対である」の割合は増加傾向にあります。



○性年代別でみると、女性はどの年代も『反対である』が『賛成である』を上回っていますが、年代が高くなるにつれ『反対である』が低く、『賛成である』が高くなる傾向がみられます。また、男性は 60 歳代までは『反対である』が『賛成である』を上回っていますが、70 歳代以上では約５割が『賛成である』と回答しています。（10 歳代については、サンプル数が少ないため参考程度。以下同様）

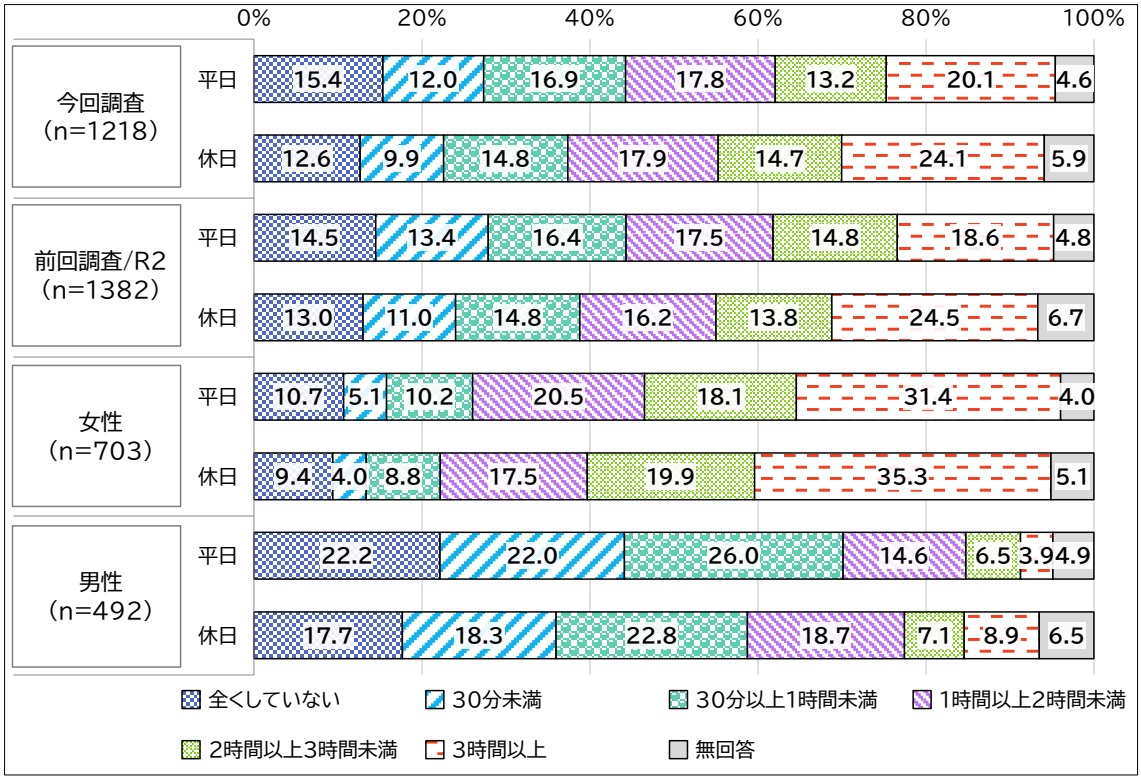
【性年代別】



問７　　あなたが家事（育児・介護を含む）に費やす時間は１日どれくらいですか。（単数回答）

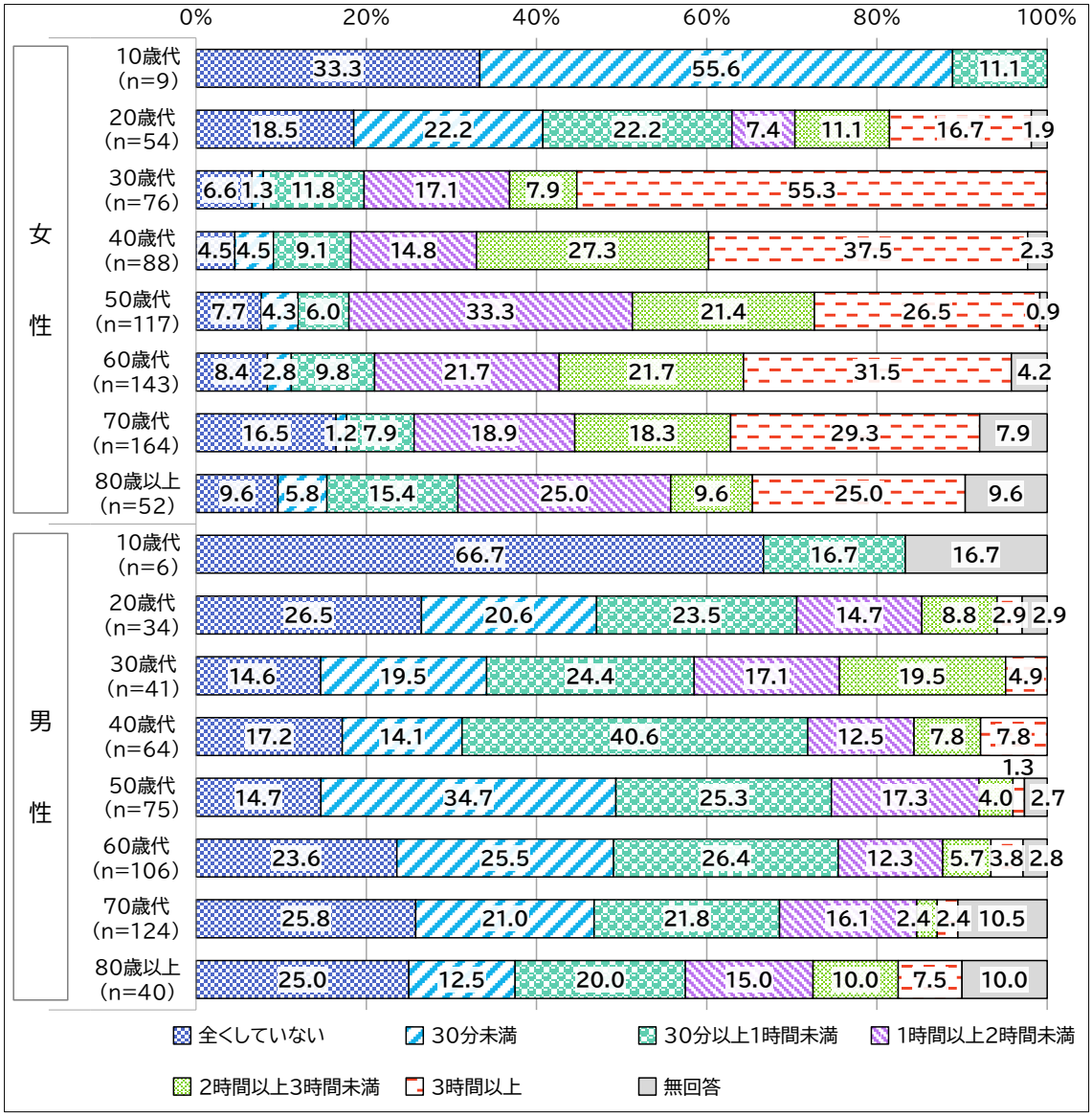
○家事に費やす時間について、平日及び休日ともに「３時間以上」（平日：20.1%、休日：24.1%）が最も高く、次いで「１時間以上２時間未満」（平日：17.8%、休日：17.9%）、「30 分以上１時間未満」（平日：16.9%、休日：14.8%）となっています。

○性別でみると、女性は平日及び休日ともに「３時間以上」（平日：31.4%、休日：35.3%）が最も高くなっていますが、男性はいずれも「30 分以上 １ 時間未満」（平日：26.0%、休日：22.8%）が最も高くなっています。また、女性は平日及び休日ともに７割が「１時間以上」家事をしていると回答しているのに対し、男性は２～３割台と男女で差が生じています。



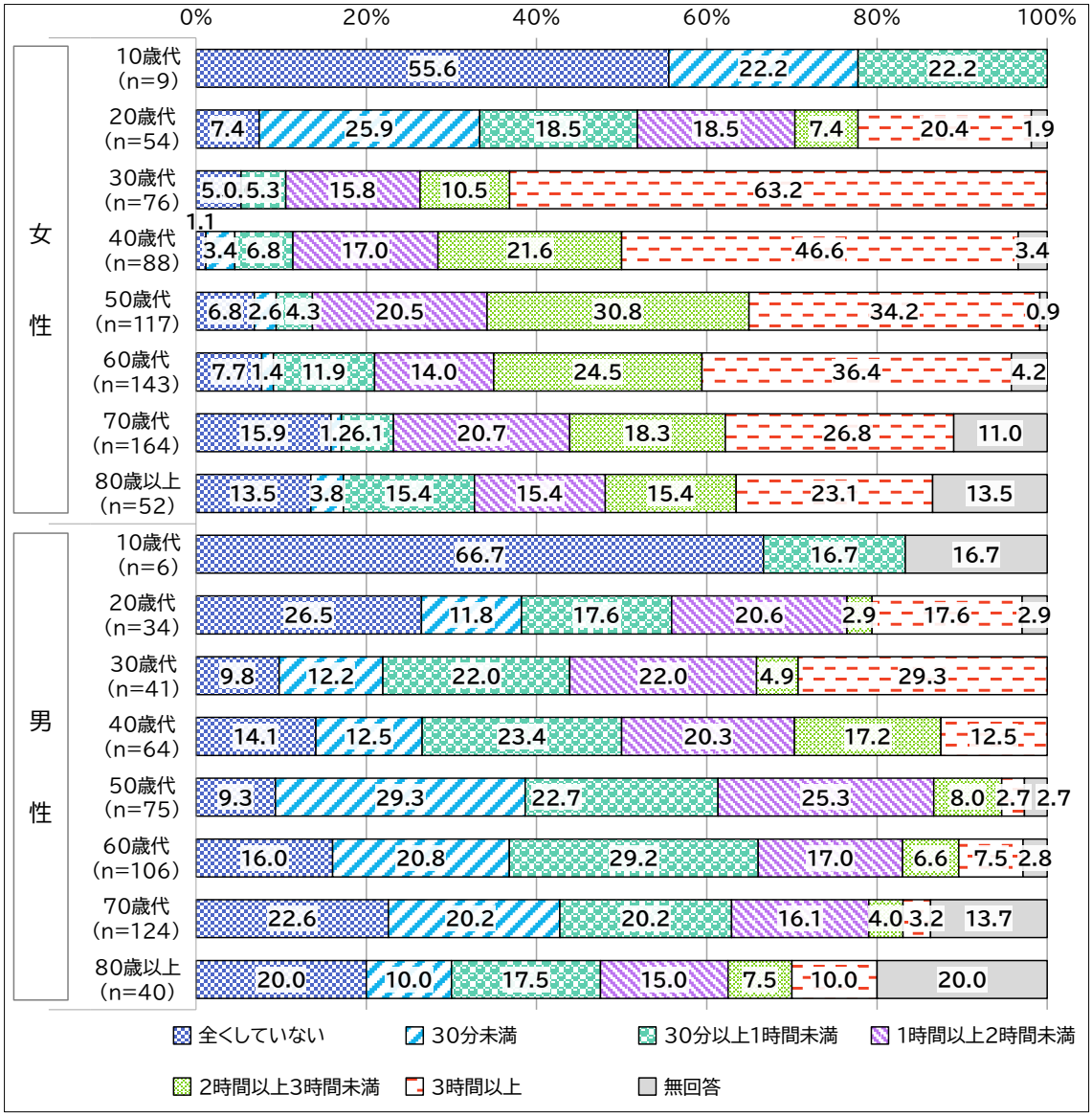
○平日の家事に費やす時間を性年代別でみると、女性は 20 歳代では「1 時間未満」、30 歳代以上では「1 時間以上」が過半数を超えており、特に 30 歳代～50 歳代の女性は８割前後が「1 時間以上」家事をしていると回答しています。また、男性はどの年代も「1 時間未満」が５割を超えており、20 歳代及び 40 歳代～60 歳代では７割以上が「1 時間未満」と回答しています。

【平日：性年代別】



○休日の家事に費やす時間を性年代別でみると、女性は 20 歳代では「1 時間未満」、30 歳代以上では「1 時間以上」が過半数を超えており、特に 30 歳代～50 歳代の女性は約９割が「１時間以上」家事をしていると回答しています。また、男性はどの年代も平日に比べて「1 時間以上」家事をする割合が高くなっており、特に 30 歳代～40 歳代の男性は５割を超えています。

【休日：性年代別】



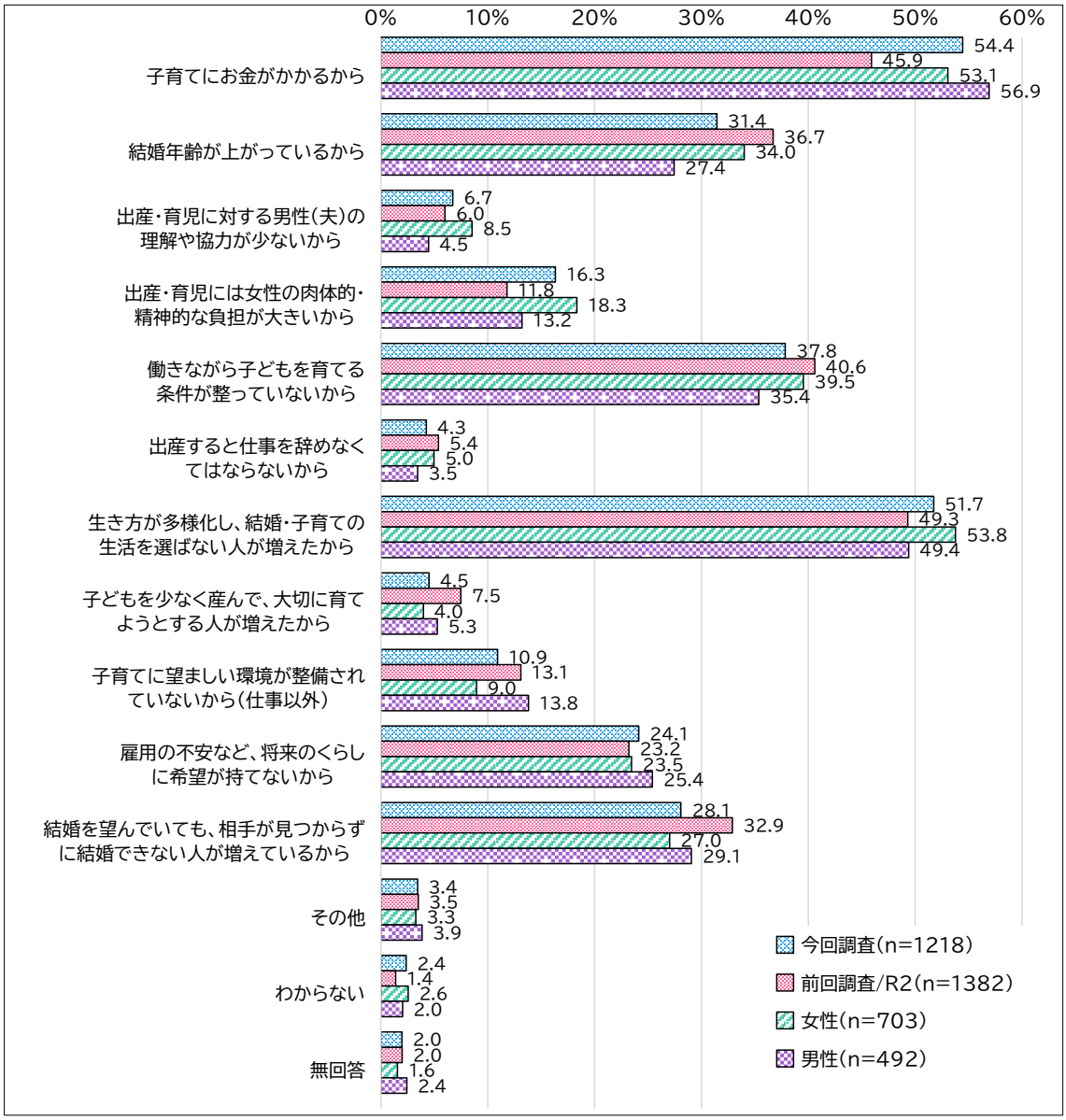
6．子育て・教育について

問８　近年、生まれてくる子どもの人数が減少傾向にありますが、その理由は何だと思いますか。（複数回答）

○出生数の減少の理由については、「子育てにお金がかかるから」が 54.4%と最も高く、次いで「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」51.7%、「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」37.8%となっています。

○前回調査との比較をみると、「子育てにお金がかかるから」が 10 ポイント近く高くなっています。

○性別でみると、女性は「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」、男性は「子育てにお金がかかるから」が最も高くなっています。



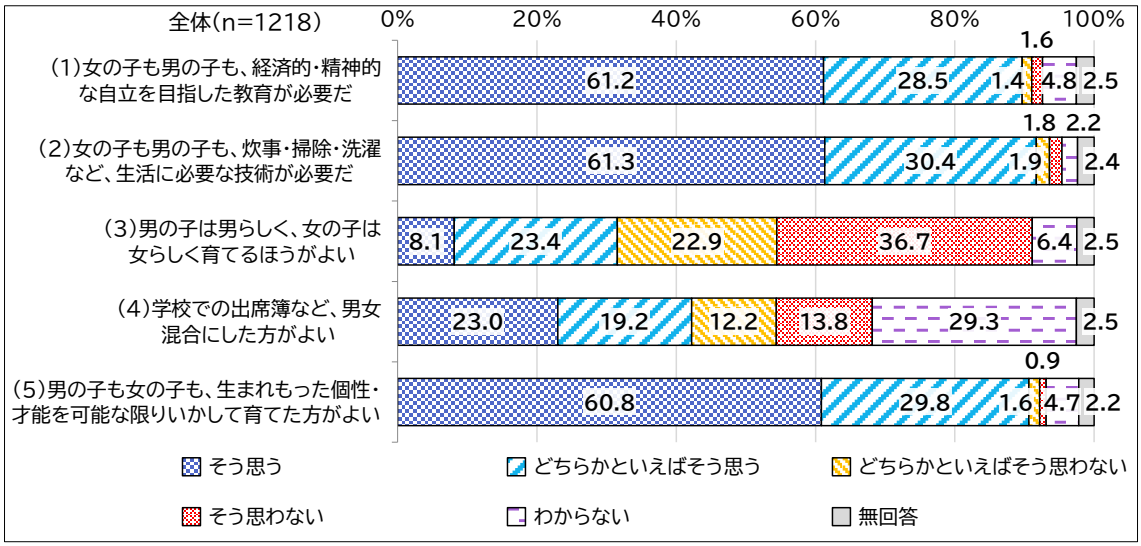
○性年代別でみると、男女ともにどの年代も「子育てにお金がかかるから」「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」が高くなっています。また、30歳代の男性では「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」、70 歳代以上の女性では「結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」が他の年代に比べて高くなっています。

【性年代別】

		標本数（人）	子育てにお金がかかるから	結婚年齢が上がっているから	出産・育児に対する男性（夫）の理解や協力が少ないから	出産・育児には女性の肉体的・精神的な負担が大きいから	働きながら子どもを育てる条件が整っていないから	出産すると仕事を辞めなくてはならないから	生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから	子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから	子育てに望ましい環境が整備されていないから（仕事以外）	雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから	結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから	その他	わからない	無回答
全体		1,218	54.4%	31.4%	6.7%	16.3%	37.8%	4.3%	51.7%	4.5%	10.9%	24.1%	28.1%	3.4%	2.4%	2.0%
■ 性年代別																
女性	10歳代	9	66.7%	22.2%	22.2%	44.4%	22.2%	11.1%	55.6%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	61.1%	27.8%	9.3%	20.4%	51.9%	5.6%	42.6%	1.9%	24.1%	18.5%	13.0%	0.0%	3.7%	1.9%
	30歳代	76	63.2%	30.3%	18.4%	22.4%	53.9%	2.6%	43.4%	1.3%	7.9%	21.1%	22.4%	6.6%	0.0%	0.0%
	40歳代	88	58.0%	40.9%	10.2%	22.7%	34.1%	4.5%	47.7%	2.3%	10.2%	21.6%	17.0%	6.8%	2.3%	0.0%
	50歳代	117	56.4%	35.0%	7.7%	16.2%	45.3%	5.1%	57.3%	1.7%	9.4%	23.9%	20.5%	1.7%	2.6%	0.0%
	60歳代	143	50.3%	33.6%	9.1%	18.9%	42.0%	5.6%	59.4%	3.5%	8.4%	30.1%	25.2%	3.5%	1.4%	0.7%
	70歳代	164	42.7%	36.0%	3.7%	13.4%	32.9%	4.9%	62.2%	6.1%	3.7%	22.0%	40.9%	2.4%	2.4%	3.7%
	80歳以上	52	51.9%	28.8%	3.8%	17.3%	19.2%	5.8%	40.4%	13.5%	5.8%	19.2%	46.2%	0.0%	9.6%	5.8%
男性	10歳代	6	83.3%	16.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	76.5%	17.6%	11.8%	11.8%	38.2%	0.0%	50.0%	2.9%	14.7%	23.5%	20.6%	5.9%	0.0%	2.9%
	30歳代	41	68.3%	26.8%	7.3%	9.8%	48.8%	7.3%	46.3%	0.0%	19.5%	24.4%	14.6%	9.8%	0.0%	0.0%
	40歳代	64	64.1%	23.4%	6.3%	7.8%	31.3%	4.7%	42.2%	1.6%	18.8%	23.4%	17.2%	9.4%	4.7%	0.0%
	50歳代	75	64.0%	30.7%	5.3%	18.7%	33.3%	4.0%	50.7%	5.3%	9.3%	25.3%	29.3%	1.3%	4.0%	1.3%
	60歳代	106	45.3%	28.3%	1.9%	12.3%	37.7%	4.7%	52.8%	5.7%	11.3%	26.4%	36.8%	2.8%	1.9%	2.8%
	70歳代	124	50.8%	26.6%	1.6%	11.3%	33.9%	1.6%	51.6%	6.5%	15.3%	29.8%	37.1%	1.6%	0.0%	3.2%
	80歳以上	40	47.5%	37.5%	2.5%	22.5%	30.0%	2.5%	47.5%	12.5%	12.5%	17.5%	27.5%	2.5%	5.0%	5.0%

問９　　あなたは、子どもの育て方や教育について、どのように思いますか。（単数回答）

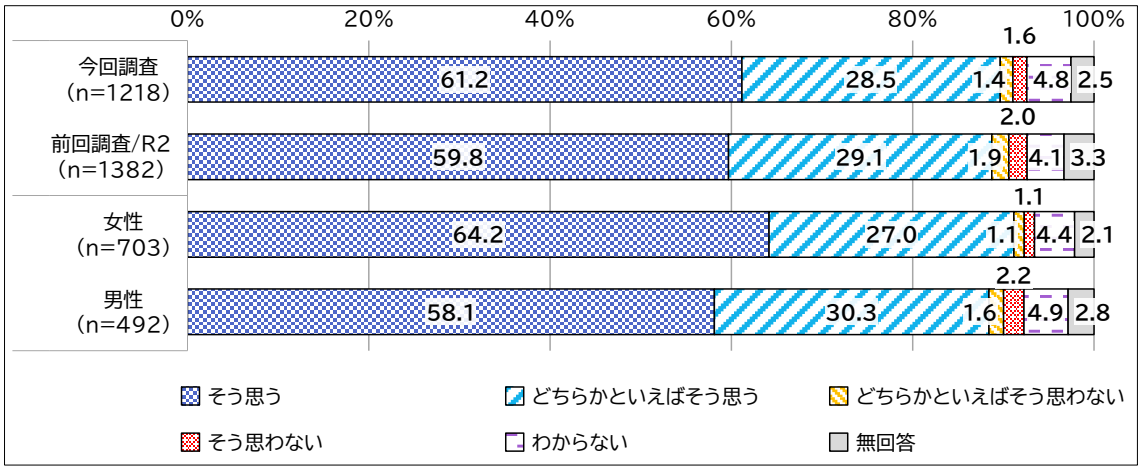
○子どもの育て方や教育に対する考え方について尋ねたところ、「（３）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」以外は『そう思う：そう思う＋どちらかといえばそう思う』が『そう思わない：そう思わない＋どちらかといえばそう思わない』を上回っており、特に「（１）女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ」「（２）女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ」「（５）男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」は９割前後が『そう思う』と回答しています。



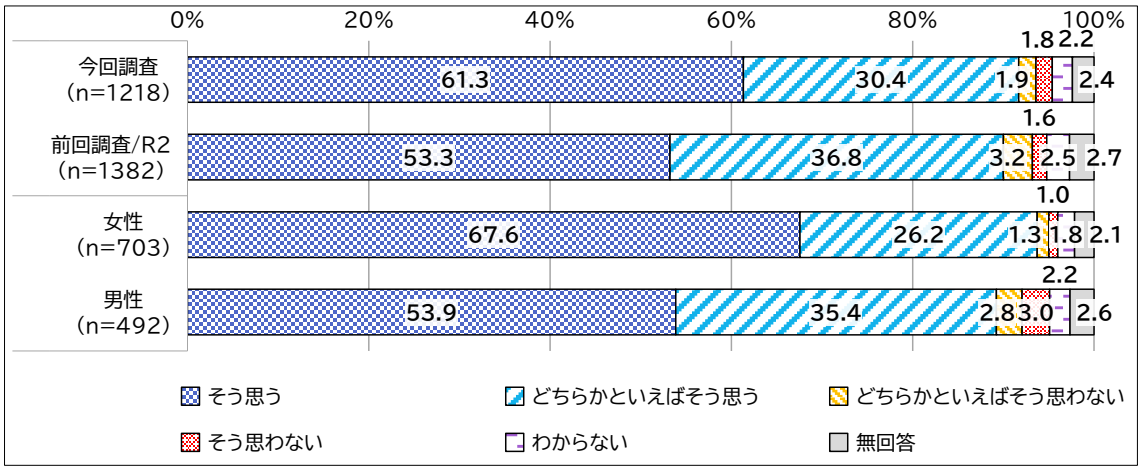
○前回調査との比較をみると、「（３）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」では『そう思わない』が高く、『そう思う』が低くなっており、10 ポイント前後差が生じています。

○性別でみると、男性は女性と比べて「（３）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」では『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、20 ポイント近く差が生じています。また、「（４）学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」では女性の「わからない」の割合が男性と比べて 10 ポイント近く高くなっています。

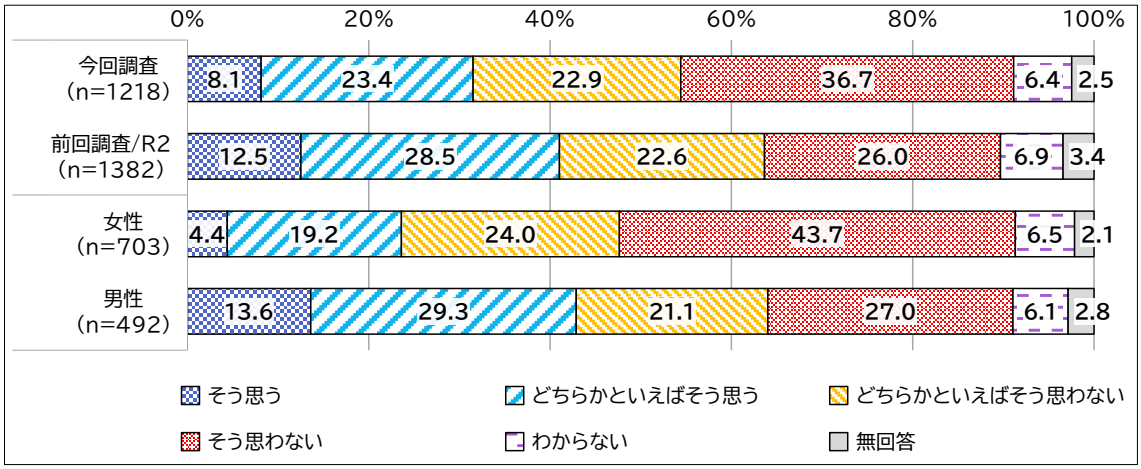
（１）女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ



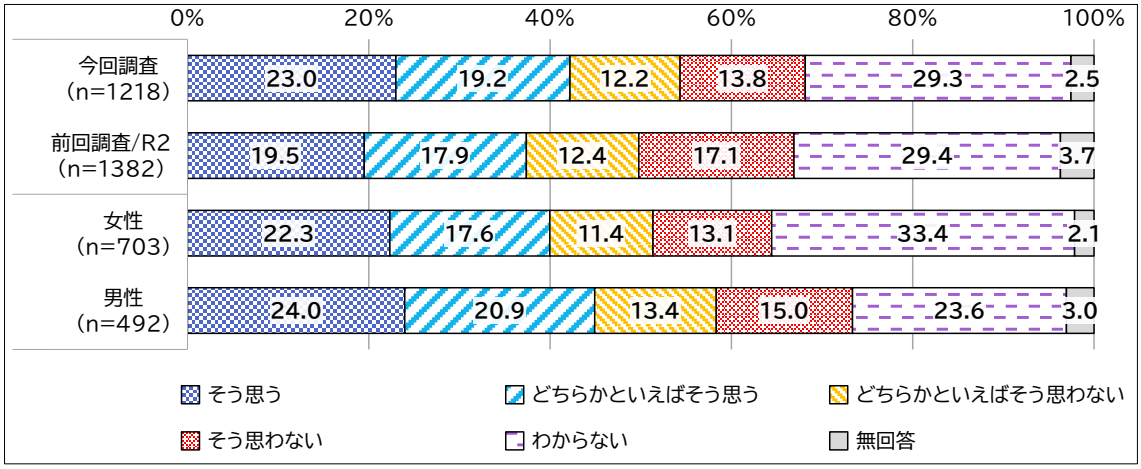
（２）女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ



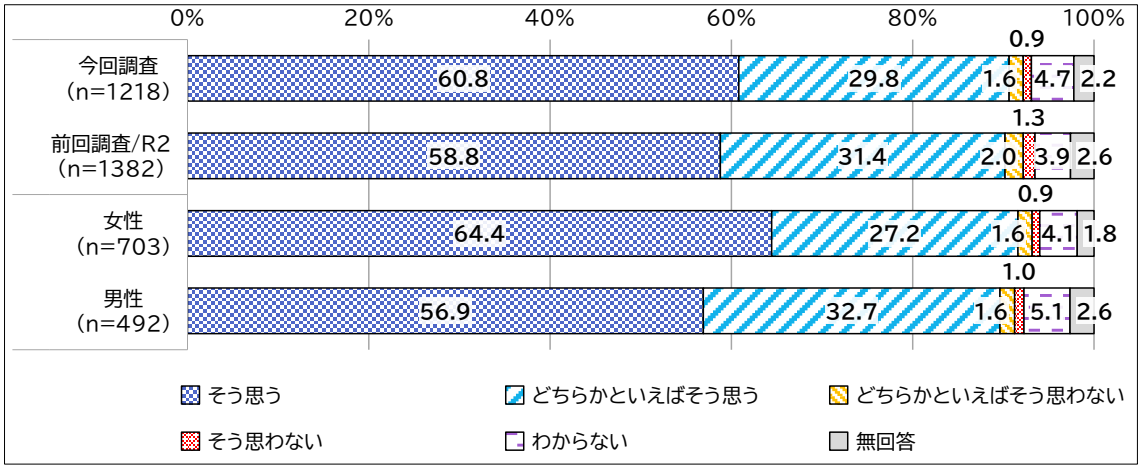
（３）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



（４）学校での出席簿など、男女混合にした方がよい



（５）男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい



7．女性の社会参画について

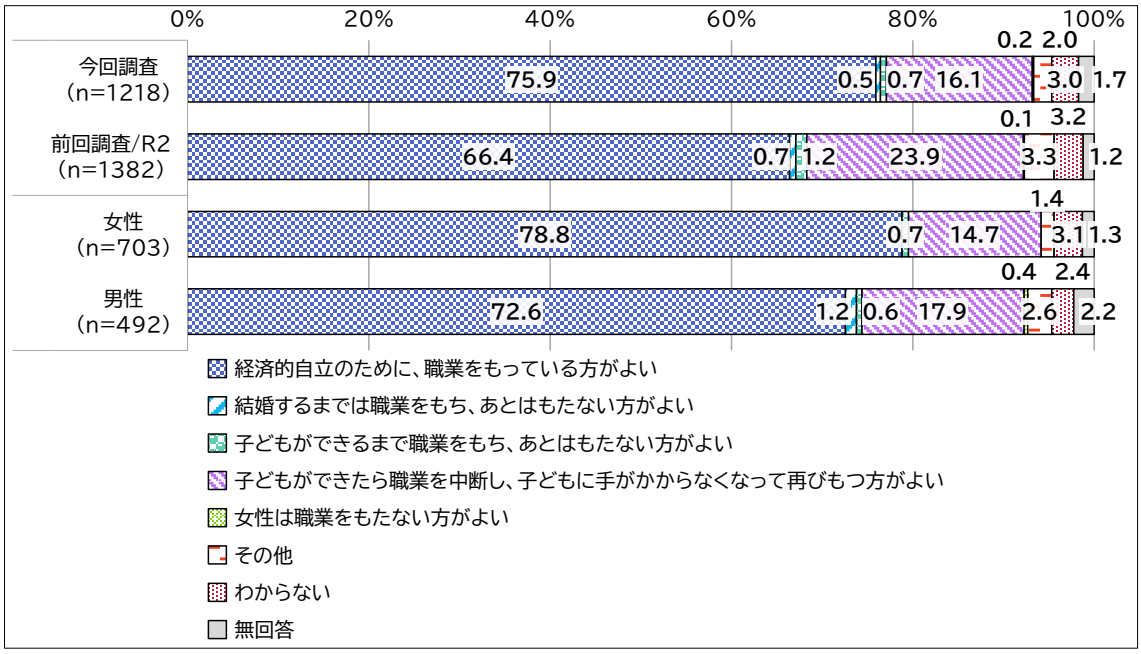
問１０　あなたは、女性が職業をもつことについて、どう思いますか。（単数回答）

○女性が職業を持つことにおける考え方については、「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が 75.9%と最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」16.1%、「わからない」3.0%となっています。

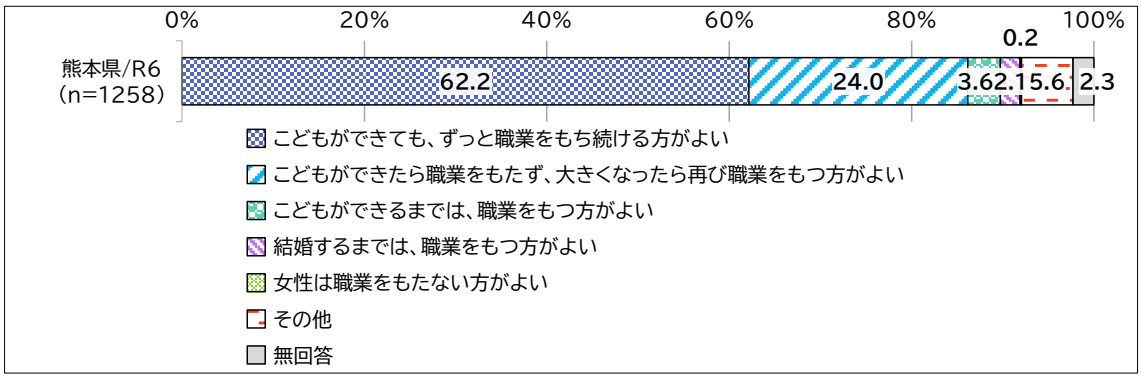
○前回調査との比較をみると、「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が 10 ポイント近く高くなっています。

○性別でみても、男女ともに「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が最も高く、７割を超えています。

○県との比較については、選択肢構成が異なることから参考程度。



【令和６年度　男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）】



○性年代別でみると、男女ともにどの年代も「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が最も高くなっています。また、80 歳以上の女性及び 50 歳代以上の男性では「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が２割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。
○本人の職業別でみても、いずれも「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が最も高く、特に「正規雇用者」「学生」では８割を超えています。

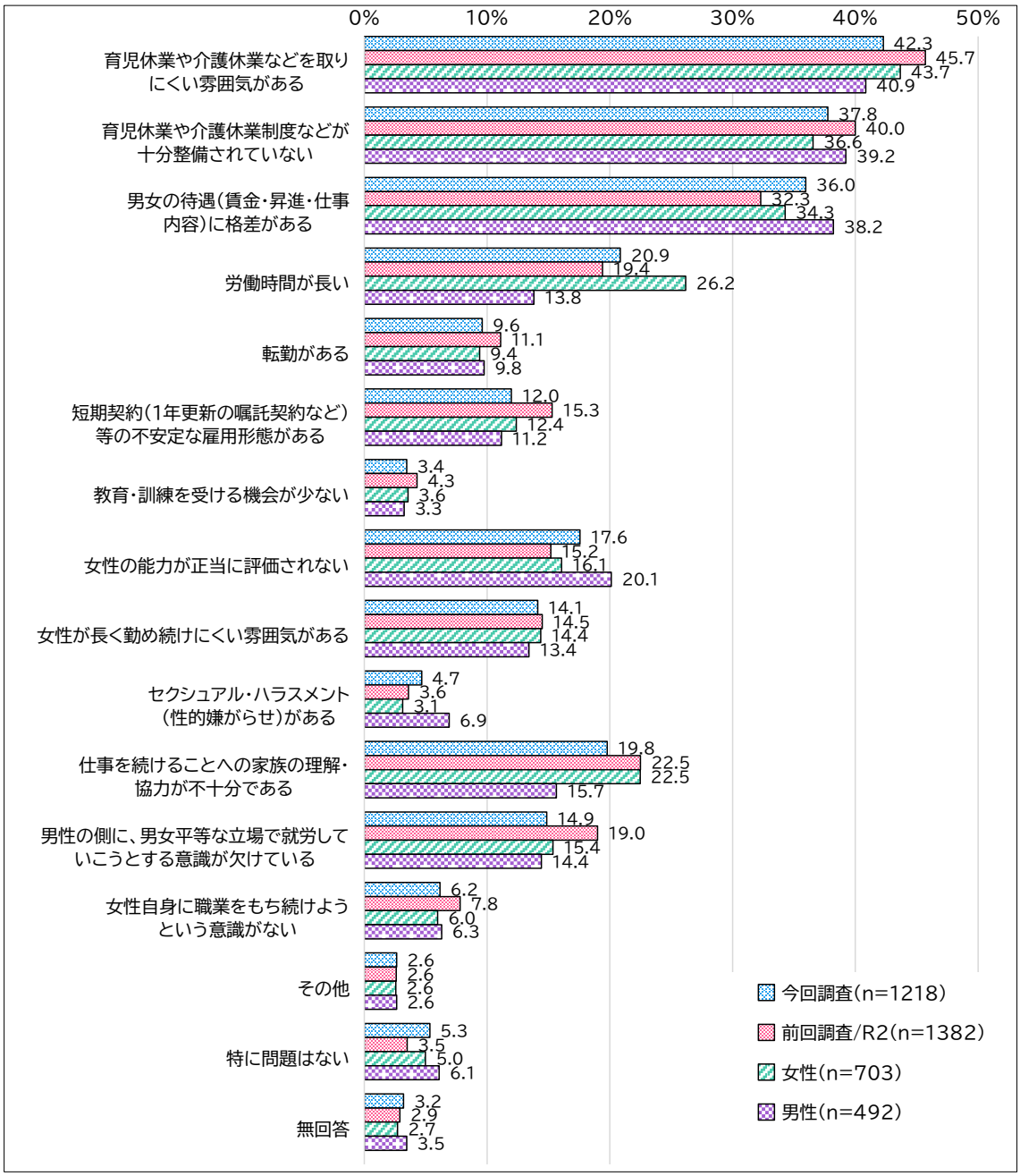
【性年代別・本人の職業別】

		標本数（人）	経済的自立のために、職業をもっている方がよい	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい	その他	わからない	無回答
全体		1,218	75.9%	0.5%	0.7%	16.1%	0.2%	2.0%	3.0%	1.7%
■ 性 年 代 別										
女性	10歳代	9	88.9%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	87.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	1.9%	3.7%	1.9%
	30歳代	76	86.8%	0.0%	0.0%	7.9%	0.0%	3.9%	1.3%	0.0%
	40歳代	88	89.8%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	50歳代	117	78.6%	0.0%	0.0%	13.7%	0.0%	2.6%	5.1%	0.0%
	60歳代	143	76.9%	0.0%	0.7%	17.5%	0.0%	0.7%	2.8%	1.4%
	70歳代	164	73.8%	0.0%	1.8%	17.7%	0.0%	0.6%	3.7%	2.4%
	80歳以上	52	59.6%	0.0%	1.9%	28.8%	0.0%	0.0%	5.8%	3.8%
男性	10歳代	6	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	76.5%	0.0%	2.9%	8.8%	2.9%	0.0%	8.8%	0.0%
	30歳代	41	73.2%	0.0%	0.0%	9.8%	0.0%	14.6%	2.4%	0.0%
	40歳代	64	81.3%	0.0%	0.0%	9.4%	0.0%	1.6%	7.8%	0.0%
	50歳代	75	70.7%	0.0%	1.3%	21.3%	0.0%	5.3%	0.0%	1.3%
	60歳代	106	72.6%	1.9%	0.0%	21.7%	0.0%	0.0%	0.9%	2.8%
	70歳代	124	68.5%	1.6%	0.8%	22.6%	0.0%	1.6%	1.6%	3.2%
	80歳以上	40	67.5%	5.0%	0.0%	20.0%	2.5%	0.0%	0.0%	5.0%
■ 本 人 の 職 業 別										
	自営業主	125	73.6%	0.0%	0.0%	18.4%	0.8%	1.6%	2.4%	3.2%
	家族従事者	49	75.5%	0.0%	2.0%	20.4%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%
	正規雇用者	378	82.5%	0.5%	0.3%	10.6%	0.3%	3.7%	1.6%	0.5%
	非正規雇用者	210	79.5%	0.0%	0.5%	15.2%	0.0%	1.0%	2.4%	1.4%
	主婦・主夫	146	72.6%	0.0%	2.7%	17.1%	0.0%	2.1%	3.4%	2.1%
	学生	21	90.5%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
	無職	254	66.1%	1.6%	0.4%	23.6%	0.0%	0.8%	5.1%	2.4%
	その他	15	73.3%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%

問１１　女性が職業をもち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。（複数回答）

○女性の就業継続を妨げる要因として、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」が 42.3%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」37.8%、「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」36.0%となっています。

○性別でみても、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が上位を占めています。また、女性は男性と比べて「労働時間が長い」が 12.4 ポイント高くなっています。



○性年代別及び本人の職業別でみても、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が上位を占めており、加えて、女性の 30 歳代～40 歳代では「労働時間が長い」も約４割を占めています。また、学生は「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が６割を超えており、他の職業と比べて高くなっています。

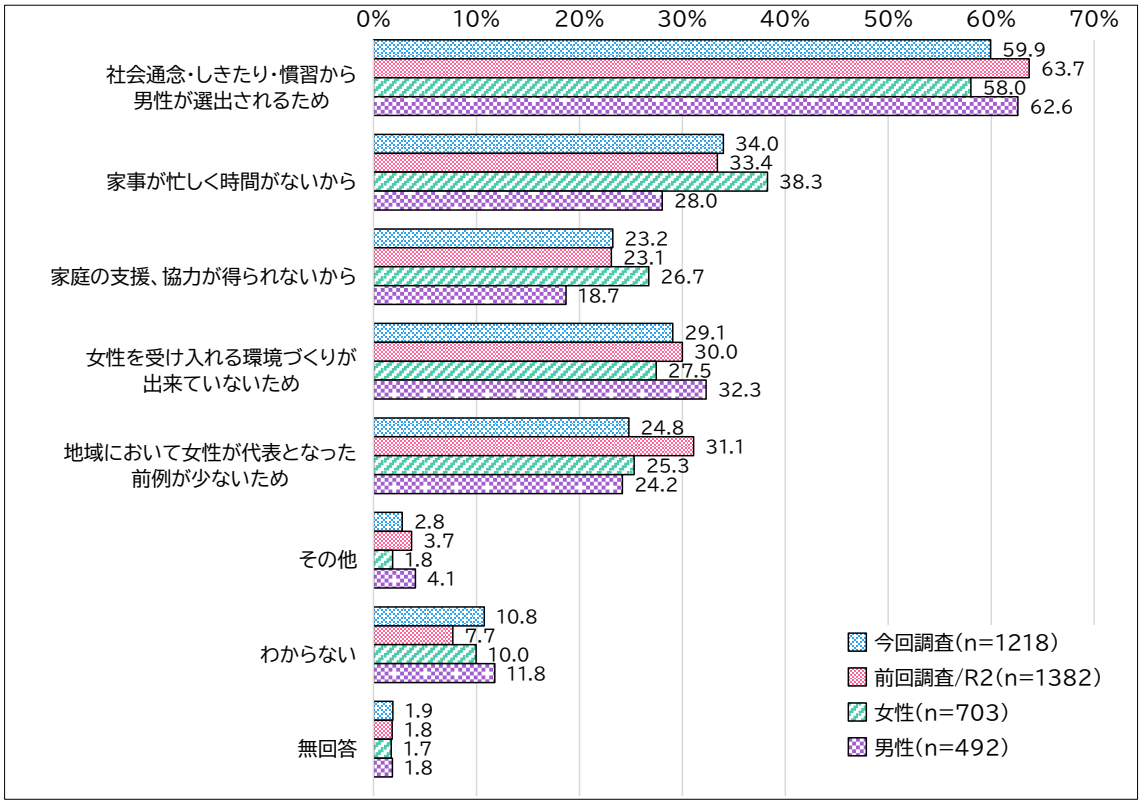
【性年代別・本人の職業別】

		標本数（人）	育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある	育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない	男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある	労働時間が長い	転勤がある	短期契約（1年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態がある	教育・訓練を受ける機会が少ない	女性の能力が正当に評価されない	女性が長く勤め続けにくい雰囲気がある	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）がある	仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である	男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている	女性自身に職業をもち続けようという意識がない	その他	特に問題はない	無回答
全体		1,218	42.3%	37.8%	36.0%	20.9%	9.6%	12.0%	3.4%	17.6%	14.1%	4.7%	19.8%	14.9%	6.2%	2.6%	5.3%	3.2%
■ 性年代別																		
女性	10歳代	9	44.4%	33.3%	55.6%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	33.3%	22.2%	0.0%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
女性	20歳代	54	48.1%	35.2%	35.2%	25.9%	5.6%	14.8%	0.0%	7.4%	13.0%	11.1%	16.7%	9.3%	5.6%	1.9%	9.3%	1.9%
女性	30歳代	76	44.7%	35.5%	30.3%	39.5%	5.3%	10.5%	3.9%	14.5%	10.5%	3.9%	25.0%	18.4%	2.6%	7.9%	3.9%	0.0%
女性	40歳代	88	52.3%	34.1%	31.8%	39.8%	5.7%	3.4%	1.1%	12.5%	18.2%	0.0%	27.3%	6.8%	5.7%	3.4%	4.5%	0.0%
女性	50歳代	117	47.9%	29.9%	41.9%	29.9%	6.8%	15.4%	3.4%	17.9%	8.5%	3.4%	22.2%	22.2%	11.1%	1.7%	2.6%	0.0%
女性	60歳代	143	47.6%	49.0%	31.5%	21.0%	11.9%	16.1%	1.4%	11.2%	14.7%	1.4%	25.2%	9.8%	1.4%	2.8%	4.2%	2.1%
女性	70歳代	164	36.6%	37.8%	34.8%	17.7%	11.6%	12.2%	6.1%	21.3%	14.6%	2.4%	21.3%	19.5%	7.9%	0.0%	4.9%	6.7%
女性	80歳以上	52	25.0%	21.2%	28.8%	17.3%	17.3%	11.5%	9.6%	23.1%	25.0%	5.8%	15.4%	17.3%	7.7%	3.8%	9.6%	7.7%
男性	10歳代	6	50.0%	50.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
男性	20歳代	34	44.1%	44.1%	26.5%	29.4%	11.8%	8.8%	2.9%	8.8%	0.0%	26.5%	11.8%	0.0%	11.8%	2.9%	2.9%	2.9%
男性	30歳代	41	39.0%	29.3%	41.5%	22.0%	12.2%	4.9%	0.0%	22.0%	7.3%	7.3%	12.2%	14.6%	7.3%	4.9%	4.9%	0.0%
男性	40歳代	64	37.5%	32.8%	29.7%	17.2%	12.5%	6.3%	3.1%	18.8%	10.9%	7.8%	14.1%	15.6%	10.9%	3.1%	12.5%	1.6%
男性	50歳代	75	58.7%	40.0%	34.7%	16.0%	8.0%	4.0%	4.0%	16.0%	13.3%	6.7%	12.0%	12.0%	5.3%	4.0%	5.3%	2.7%
男性	60歳代	106	33.0%	43.4%	45.3%	7.5%	5.7%	17.0%	3.8%	22.6%	17.0%	3.8%	18.9%	18.9%	5.7%	0.9%	6.6%	3.8%
男性	70歳代	124	38.7%	40.3%	41.1%	8.1%	8.1%	16.1%	2.4%	26.6%	16.9%	4.0%	19.4%	14.5%	3.2%	1.6%	5.6%	4.0%
男性	80歳以上	40	37.5%	37.5%	32.5%	15.0%	22.5%	12.5%	7.5%	12.5%	17.5%	2.5%	12.5%	20.0%	7.5%	5.0%	2.5%	7.5%
■ 本人の職業別																		
自営業主		125	46.4%	35.2%	34.4%	17.6%	8.0%	9.6%	4.8%	22.4%	12.8%	1.6%	20.0%	9.6%	8.8%	1.6%	6.4%	5.6%
家族従事者		49	53.1%	46.9%	18.4%	24.5%	12.2%	8.2%	8.2%	10.2%	16.3%	4.1%	24.5%	8.2%	6.1%	0.0%	4.1%	4.1%
正規雇用者		378	42.1%	37.0%	36.2%	26.2%	7.9%	7.7%	2.6%	18.5%	10.3%	5.6%	17.7%	15.9%	7.7%	4.0%	5.3%	0.8%
非正規雇用者		210	43.8%	34.8%	36.2%	20.5%	7.1%	17.1%	1.0%	13.3%	17.1%	3.3%	24.8%	13.3%	5.7%	3.3%	7.6%	1.9%
主婦・主夫		146	41.1%	47.3%	37.0%	19.9%	14.4%	13.0%	2.7%	16.4%	14.4%	4.1%	21.9%	18.5%	3.4%	2.1%	1.4%	3.4%
学生		21	47.6%	33.3%	61.9%	28.6%	9.5%	14.3%	0.0%	23.8%	19.0%	19.0%	9.5%	9.5%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
無職		254	39.8%	34.3%	38.2%	15.4%	11.8%	15.0%	5.1%	20.5%	16.5%	5.1%	17.3%	18.1%	4.7%	1.6%	5.1%	5.1%
その他		15	13.3%	33.3%	20.0%	13.3%	0.0%	20.0%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%	20.0%	6.7%	13.3%	0.0%	20.0%	20.0%

問１２　自治会・ＰＴＡの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因は何だと思いますか。（複数回答）

○企画や方針決定の場への女性の参画が少ない理由については、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が 59.9%と最も高く、次いで「家事が忙しく時間がないから」34.0%、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」29.1%となっています。

○性別でみると、男女ともに「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「家事が忙しく時間がないから」が10.3 ポイント高くなっています。



○性年代別でみると、30 歳代～40 歳代の女性では「家事が忙しく時間がないから」、それ以外は男女ともにどの年代も「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が最も高くなっています。また、20 歳代の男性では「地域において女性が代表となった前例が少ないため」が４割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。

【性年代別】

		標本数（人）	社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため	家事が忙しく時間がないから	家庭の支援、協力が得られないから	女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため	地域において女性が代表となった前例が少ないため	その他	わからない	無回答
全体		1,218	59.9%	34.0%	23.2%	29.1%	24.8%	2.8%	10.8%	1.9%
■ 性 年 代 別										
女性	10歳代	9	44.4%	55.6%	22.2%	44.4%	44.4%	0.0%	11.1%	0.0%
	20歳代	54	64.8%	38.9%	14.8%	20.4%	20.4%	3.7%	13.0%	0.0%
	30歳代	76	51.3%	52.6%	26.3%	28.9%	28.9%	2.6%	10.5%	1.3%
	40歳代	88	48.9%	53.4%	30.7%	26.1%	19.3%	2.3%	11.4%	2.3%
	50歳代	117	64.1%	34.2%	20.5%	27.4%	29.9%	0.9%	7.7%	0.0%
	60歳代	143	63.6%	35.7%	29.4%	28.0%	25.9%	1.4%	9.1%	1.4%
	70歳代	164	56.1%	29.3%	29.3%	28.7%	23.2%	1.8%	10.4%	2.4%
	80歳以上	52	55.8%	32.7%	32.7%	26.9%	26.9%	1.9%	9.6%	5.8%
男性	10歳代	6	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%
	20歳代	34	52.9%	23.5%	14.7%	14.7%	41.2%	2.9%	20.6%	2.9%
	30歳代	41	63.4%	24.4%	17.1%	34.1%	26.8%	4.9%	4.9%	2.4%
	40歳代	64	53.1%	31.3%	21.9%	29.7%	23.4%	7.8%	18.8%	0.0%
	50歳代	75	65.3%	33.3%	16.0%	32.0%	14.7%	4.0%	9.3%	0.0%
	60歳代	106	63.2%	33.0%	19.8%	36.8%	21.7%	3.8%	10.4%	0.9%
	70歳代	124	68.5%	20.2%	19.4%	35.5%	29.0%	2.4%	10.5%	1.6%
	80歳以上	40	62.5%	32.5%	17.5%	32.5%	20.0%	5.0%	12.5%	7.5%

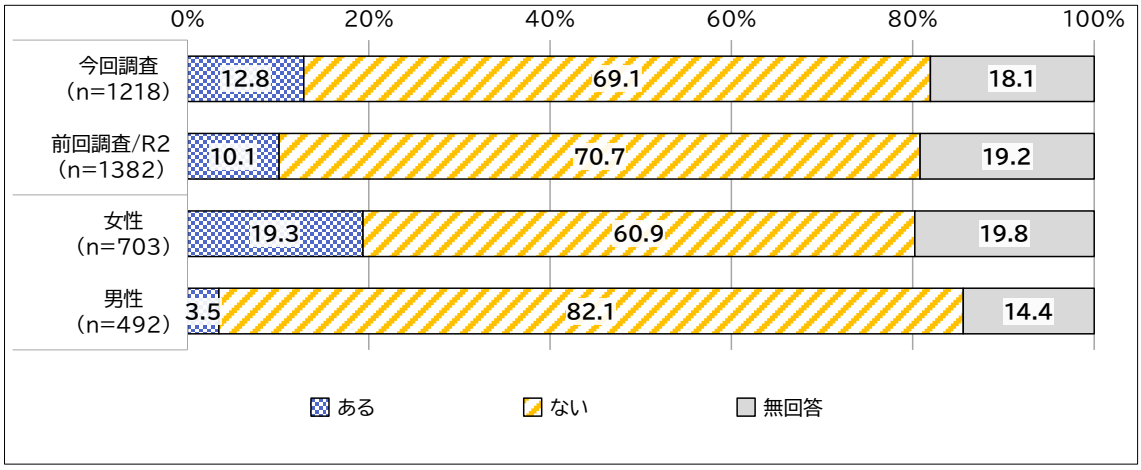
８．仕事、家庭、地域活動等の両立について

【問１３は、現在職業をもっている人、以前職業をもっていた方のみ】

問１３　あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。（単数回答）

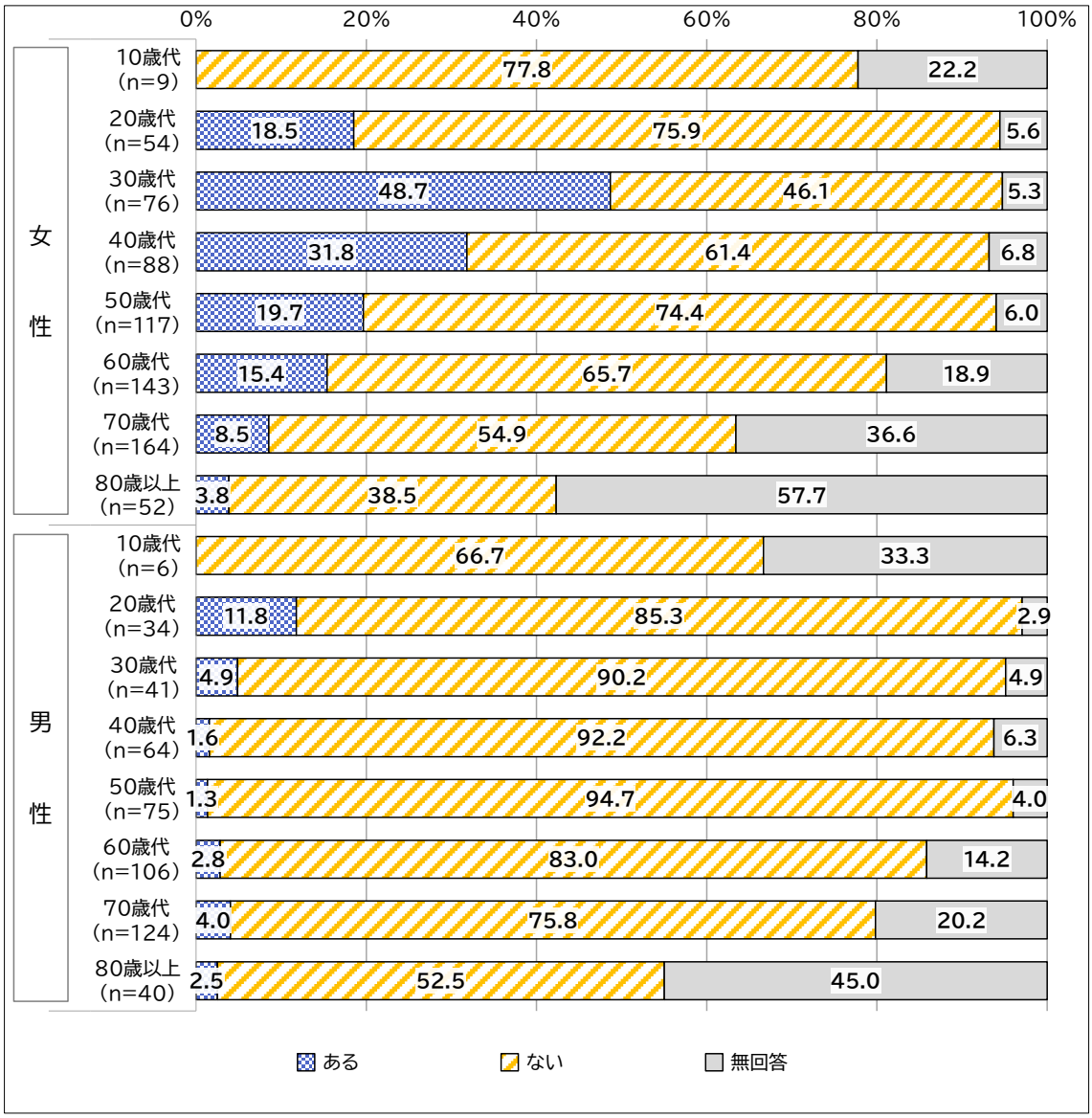
○育児休業や介護休業の取得状況については、「ある」が 12.8%、「ない」が 69.1%となっており、約７割は「ない」と回答しています。

○性別でみても、男女ともに「ない」が「ある」を上回っており、特に男性は８割が「ない」と回答しています。また、女性は約２割が「ある」と回答しており、男性と比べて 15.8 ポイント高くなっています。



○性年代別でみると、30 歳代の女性は「ある」が「ない」を上回っていますが、それ以外は男女ともにどの年代も「ない」が高くなっています。また、女性は男性と比べて「ある」の割合が高く、特に 30 歳代～40 歳代の女性は取得率が３割を超えています。

【性年代別】

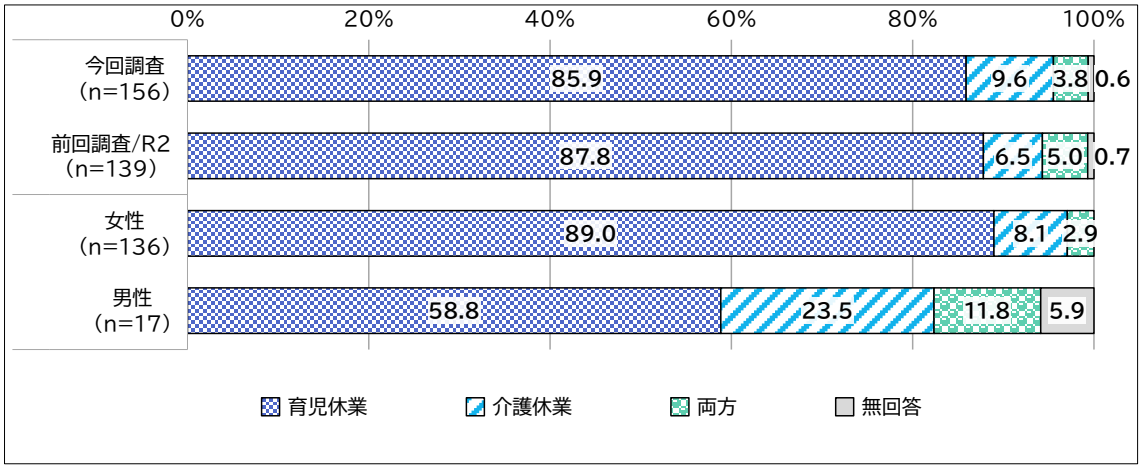


【問１３で「１．ある」と答えた方のみ】

問１３-１　どの制度を取られましたか。（単数回答）

〇取得した制度については、「育児休業」が 85.9%と最も高く、次いで「介護休業」9.6%、「両方」3.8%となっており、約９割が「育児休業」と回答しています。

〇性別でみると、男女ともに「育児休業」が最も高く、特に女性は約９割を占めています。また、男性は「介護休業」の取得率が２割を超えており、女性と比べて 15.4 ポイント高くなっています。

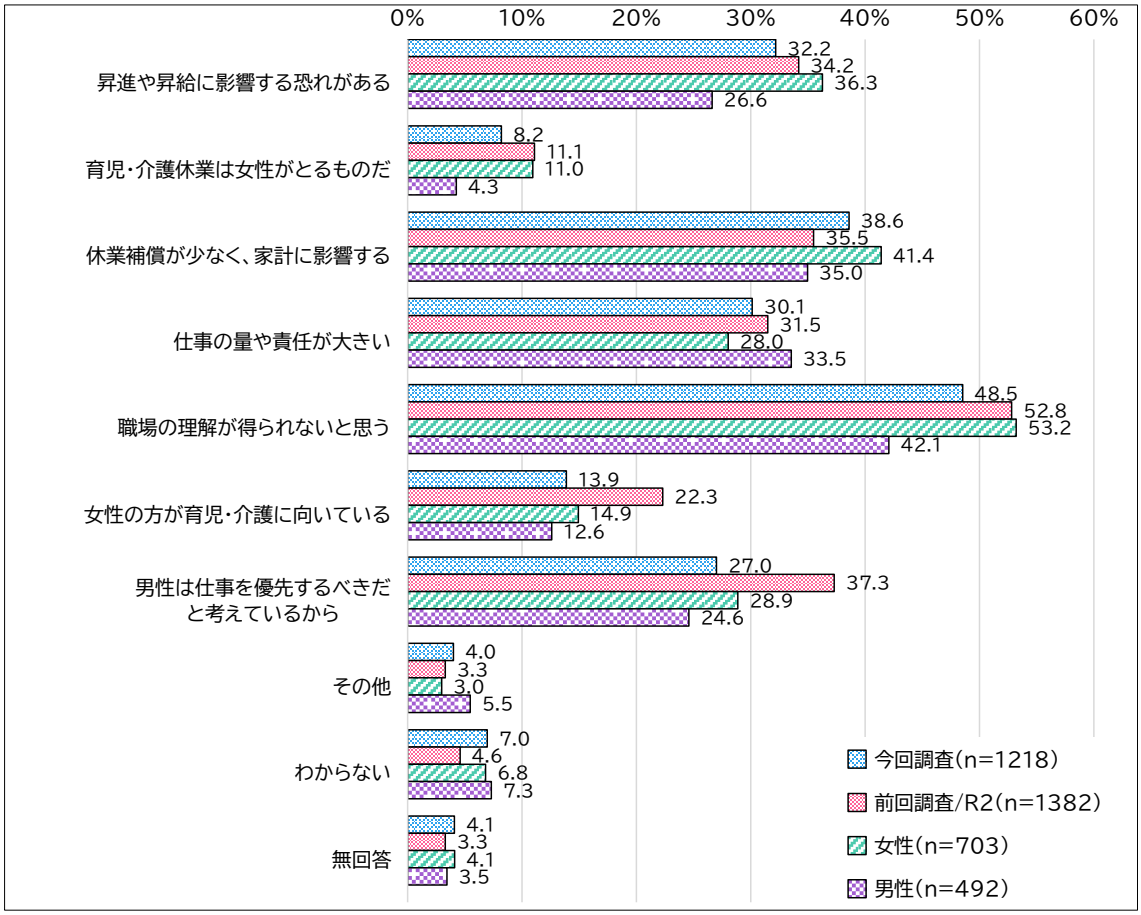


問１４　育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。（複数回答）

○育児休業や介護休業を取得する男性が少ない理由については、「職場の理解が得られないと思う」が 48.5%と最も高く、次いで「休業補償が少なく、家計に影響する」38.6%、「昇進や昇給に影響する恐れがある」32.2%となっており、「仕事の量や責任が大きい」も３割を超えています。

○前回調査との比較をみると、「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」が 10.3 ポイント低くなっています。

○性別でみても、男女ともに「職場の理解が得られないと思う」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「昇進や昇給に影響する恐れがある」「職場の理解が得られないと思う」が 10 ポイント前後高くなっています。



○性年代別でみると、70 歳代までの女性及び 60 歳代までの男性では、「職場の理解が得られないと思う」が最も高く、70 歳代の男性は「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」が最も高くなっており、加えて、60 歳代男性は「休業補償が少なく、家計に影響する」が同率で最も高くなっています。また、80 歳以上の女性は「休業補償が少なく、家計に影響する」が最も高く、一方 80 歳以上の男性は「女性の方が育児・介護に向いている」「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」が最も高くなっています。

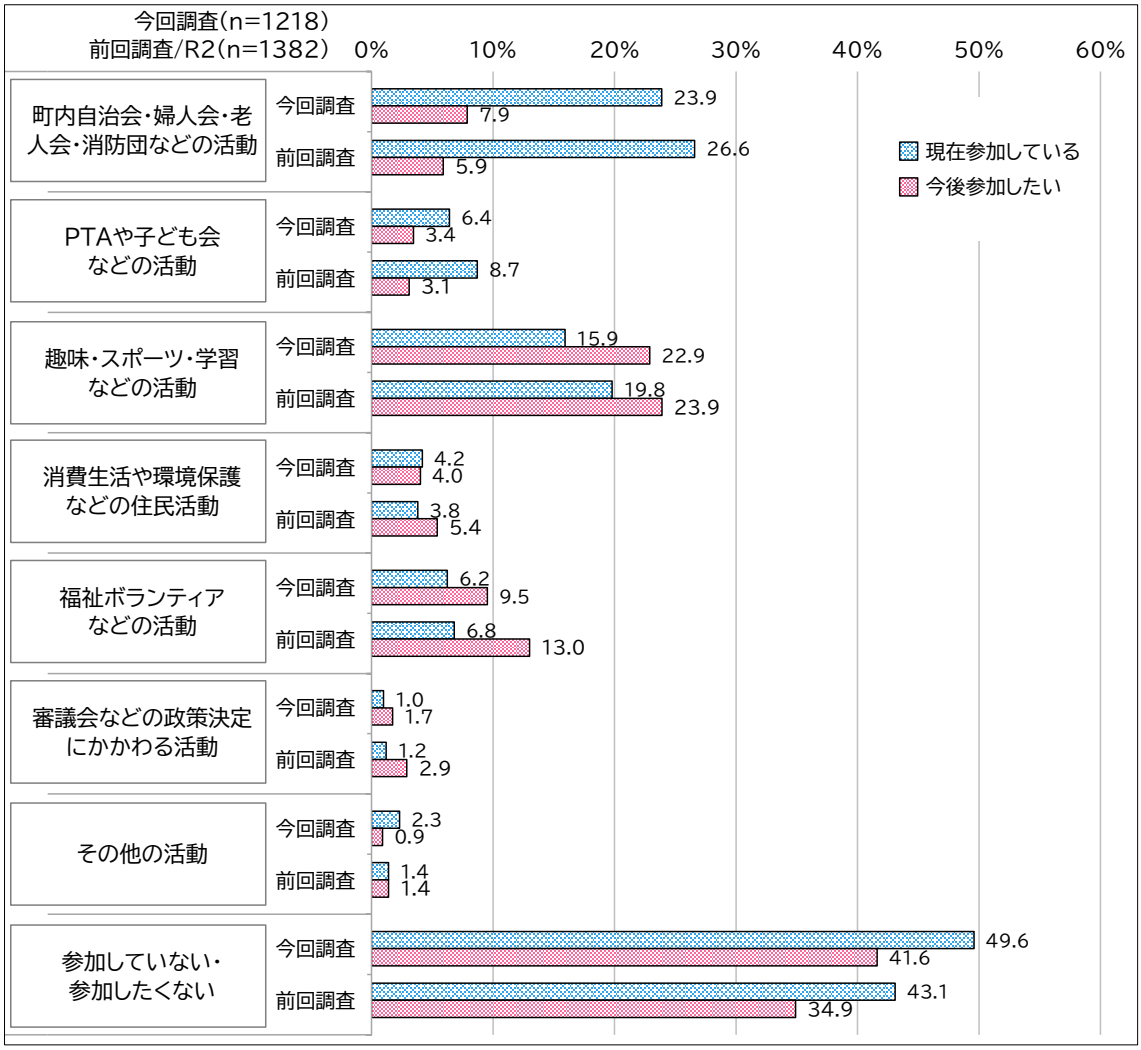
【性年代別】

		標本数（人）	昇進や昇給に影響する恐れがある	育児・介護休業は女性がとるものだ	休業補償が少なく、家計に影響する	仕事の量や責任が大きい	職場の理解が得られないと思う	女性の方が育児・介護に向いている	男性は仕事を優先するべきだと考えているから	その他	わからない	無回答
全体		1,218	32.2%	8.2%	38.6%	30.1%	48.5%	13.9%	27.0%	4.0%	7.0%	4.1%
■ 性年代別												
女性	10歳代	9	77.8%	0.0%	33.3%	55.6%	66.7%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	42.6%	9.3%	40.7%	29.6%	57.4%	9.3%	35.2%	3.7%	11.1%	0.0%
	30歳代	76	43.4%	14.5%	47.4%	35.5%	64.5%	9.2%	31.6%	6.6%	2.6%	2.6%
	40歳代	88	45.5%	13.6%	45.5%	25.0%	54.5%	14.8%	37.5%	2.3%	3.4%	1.1%
	50歳代	117	41.0%	5.1%	45.3%	24.8%	61.5%	11.1%	22.2%	4.3%	6.8%	0.0%
	60歳代	143	28.0%	12.6%	38.5%	29.4%	53.8%	13.3%	28.7%	4.2%	4.2%	5.6%
	70歳代	164	29.3%	12.8%	39.6%	26.8%	45.7%	22.0%	26.8%	0.6%	6.7%	7.3%
	80歳以上	52	30.8%	7.7%	32.7%	23.1%	30.8%	21.2%	26.9%	0.0%	23.1%	11.5%
男性	10歳代	6	66.7%	16.7%	50.0%	33.3%	83.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	35.3%	2.9%	38.2%	32.4%	50.0%	5.9%	26.5%	5.9%	5.9%	0.0%
	30歳代	41	24.4%	0.0%	31.7%	48.8%	51.2%	0.0%	12.2%	12.2%	4.9%	4.9%
	40歳代	64	28.1%	0.0%	34.4%	42.2%	48.4%	4.7%	10.9%	9.4%	9.4%	0.0%
	50歳代	75	30.7%	4.0%	36.0%	40.0%	44.0%	4.0%	24.0%	6.7%	4.0%	0.0%
	60歳代	106	25.5%	1.9%	44.3%	31.1%	44.3%	13.2%	19.8%	3.8%	7.5%	3.8%
	70歳代	124	21.8%	9.7%	26.6%	24.2%	33.1%	19.4%	33.9%	3.2%	10.5%	4.8%
	80歳以上	40	25.0%	5.0%	32.5%	27.5%	27.5%	40.0%	40.0%	2.5%	5.0%	10.0%

問１５　あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。（複数回答）

○地域活動等への現在の参加状況については、「参加していない・参加したくない」が49.6%と最も高く、次いで「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」23.9%、「趣味・スポーツ・学習などの活動」15.9%となっています。

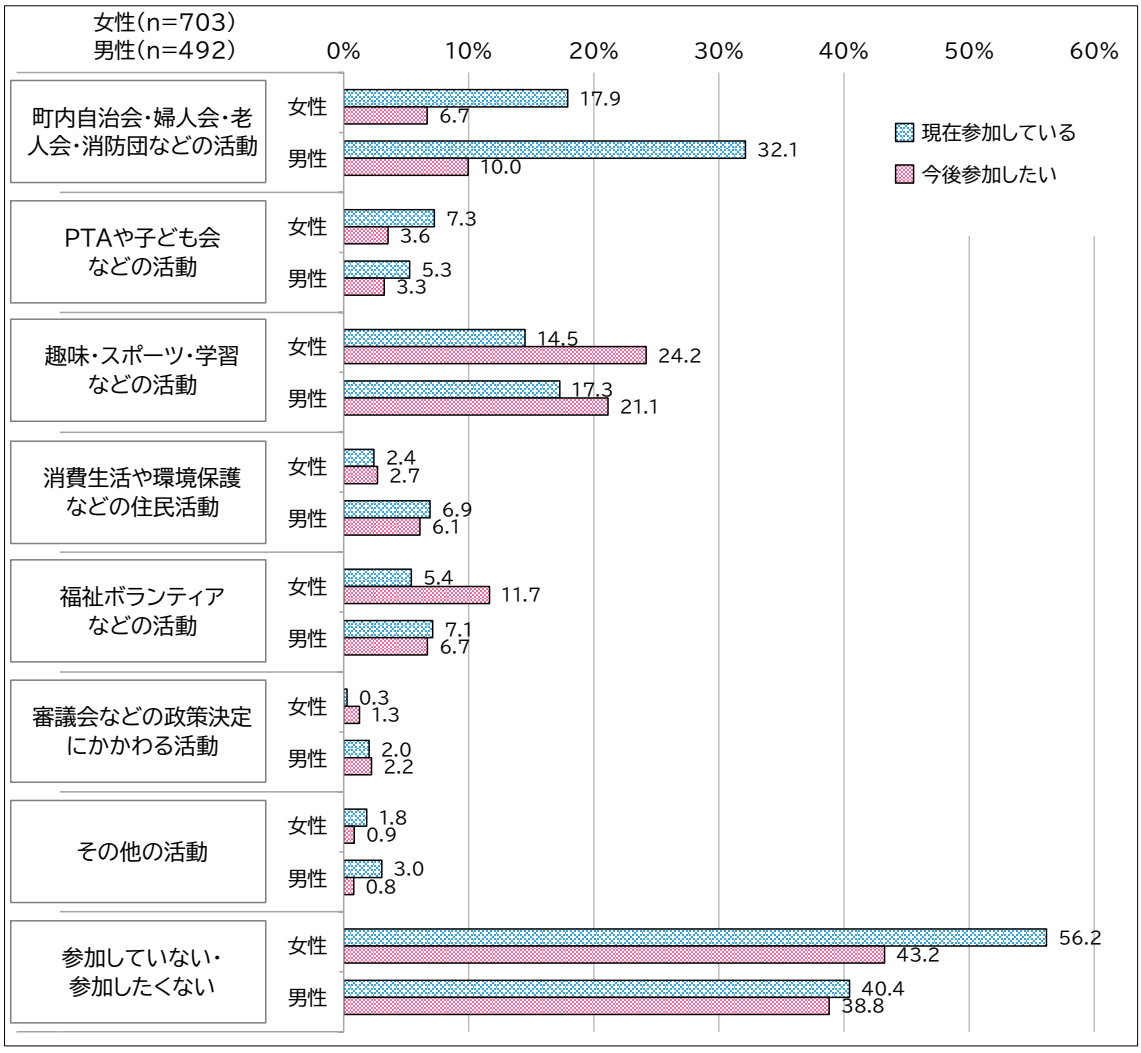
○今後の参加意向については、「参加していない・参加したくない」が 41.6%と最も高く、次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」22.9%、「福祉ボランティアなどの活動」9.5%となっています。



○地域活動等への現在の参加状況を性別でみると、男女ともに「参加していない・参加したくない」（女性：56.2%、男性：40.4%）が最も高く、次いで「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」（女性：17.9%、男性：32.1%）、「趣味・スポーツ・学習などの活動」（女性：14.5%、男性：17.3%）となっています。また、男性は女性と比べて「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」が高く、「参加していない・参加したくない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

○今後の参加意向を性別でみると、「参加していない・参加したくない」（女性：43.2%、男性：38.8%）が最も高く、次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」（女性：24.2%、男性：21.1%）、続いて女性は「福祉ボランティアなどの活動」11.7%、男性は「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」10.0%となっています。

【性別】



○地域活動等への現在の参加状況を性年代別でみると、60 歳代～70 歳代の男性では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」が最も高くなっていますが、それ以外の年代では男女ともに「参加していない・参加したくない」が最も高くなっています。また、男女ともに 30 歳代～40 歳代では「ＰＴＡや子ども会などの活動」が他の年代に比べて高くなっています。

【現在参加している：性年代別】

		標本数（人）	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	ＰＴＡや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加していない・参加したくない	無回答
全体		1,218	23.9%	6.4%	15.9%	4.2%	6.2%	1.0%	2.3%	49.6%	8.0%
■ 性年代別											
女性	10歳代	9	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	77.8%	0.0%
	20歳代	54	1.9%	1.9%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	92.6%	0.0%
	30歳代	76	15.8%	25.0%	3.9%	1.3%	3.9%	0.0%	1.3%	53.9%	5.3%
	40歳代	88	11.4%	27.3%	9.1%	1.1%	3.4%	1.1%	1.1%	54.5%	3.4%
	50歳代	117	17.9%	5.1%	14.5%	4.3%	2.6%	0.9%	1.7%	63.2%	1.7%
	60歳代	143	15.4%	0.7%	12.6%	2.8%	4.9%	0.0%	4.9%	55.9%	11.9%
	70歳代	164	25.0%	0.0%	25.0%	3.0%	11.0%	0.0%	1.2%	45.1%	13.4%
	80歳以上	52	36.5%	0.0%	21.2%	1.9%	7.7%	0.0%	0.0%	40.4%	13.5%
男性	10歳代	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%	16.7%
	20歳代	34	14.7%	5.9%	20.6%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	64.7%	2.9%
	30歳代	41	19.5%	14.6%	17.1%	4.9%	9.8%	0.0%	2.4%	48.8%	12.2%
	40歳代	64	31.3%	20.3%	18.8%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	46.9%	3.1%
	50歳代	75	36.0%	5.3%	17.3%	5.3%	5.3%	1.3%	2.7%	41.3%	6.7%
	60歳代	106	35.8%	0.9%	10.4%	7.5%	7.5%	3.8%	5.7%	34.9%	5.7%
	70歳代	124	41.1%	0.0%	21.0%	12.9%	10.5%	1.6%	2.4%	29.8%	8.1%
	80歳以上	40	22.5%	0.0%	22.5%	2.5%	7.5%	2.5%	2.5%	40.0%	20.0%

○今後の参加意向を性年代別でみると、男女ともにどの年代も「参加していない・参加したくない」が最も高くなっています。

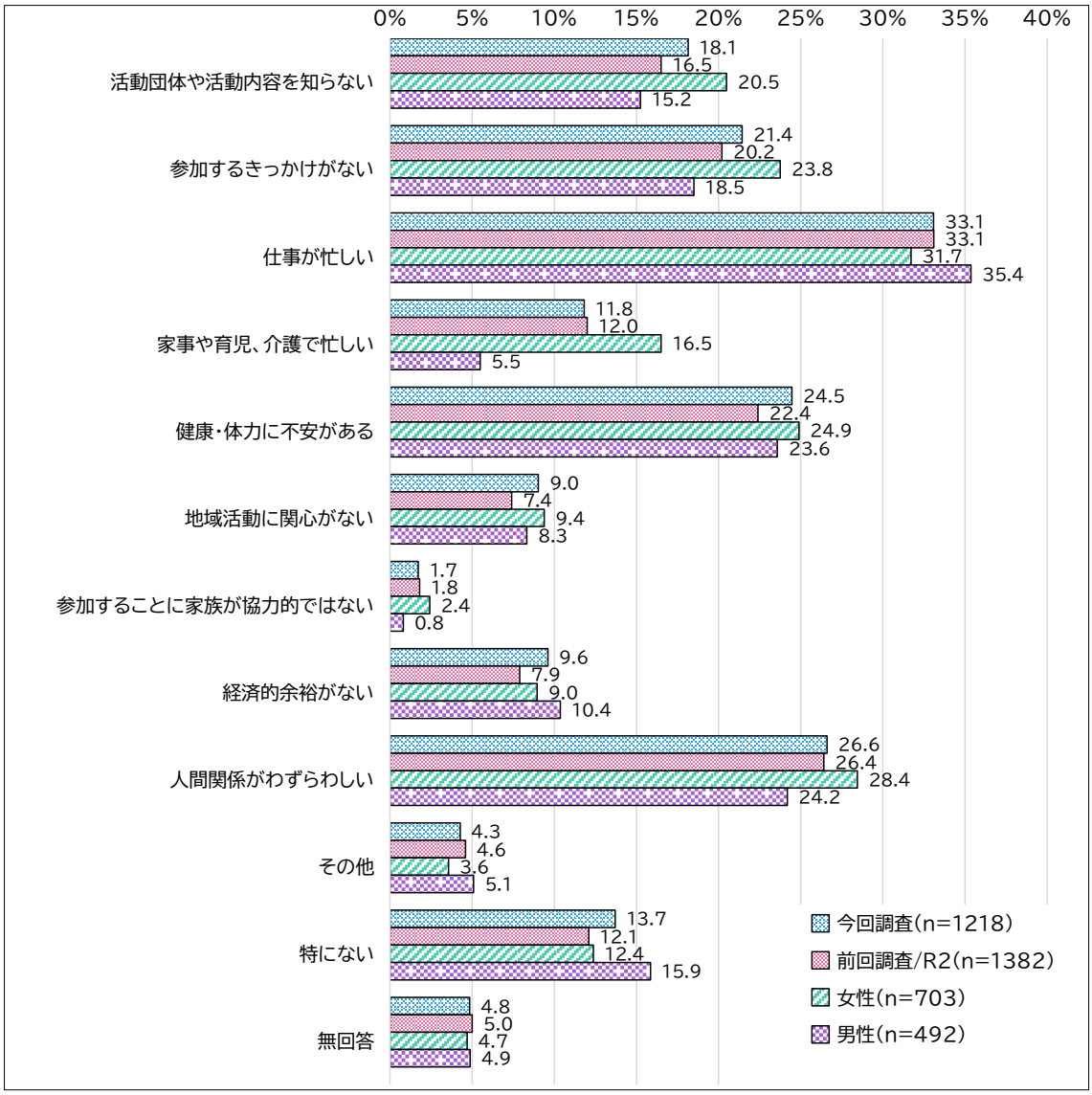
【今後参加したい：性年代別】

		標本数（人）	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加していない・参加したくない	無回答
全体		1,218	7.9%	3.4%	22.9%	4.0%	9.5%	1.7%	0.9%	41.6%	20.9%
■ 性年代別											
女性	10歳代	9	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%
	20歳代	54	9.3%	7.4%	29.6%	0.0%	9.3%	1.9%	0.0%	59.3%	0.0%
	30歳代	76	5.3%	10.5%	26.3%	1.3%	13.2%	2.6%	3.9%	50.0%	5.3%
	40歳代	88	6.8%	11.4%	25.0%	6.8%	6.8%	1.1%	1.1%	51.1%	6.8%
	50歳代	117	6.8%	0.9%	24.8%	3.4%	15.4%	0.9%	0.9%	52.1%	7.7%
	60歳代	143	4.2%	0.7%	27.3%	3.5%	15.4%	2.1%	0.0%	39.2%	21.0%
	70歳代	164	7.9%	0.6%	19.5%	1.8%	8.5%	0.6%	0.6%	30.5%	36.6%
	80歳以上	52	9.6%	0.0%	13.5%	0.0%	9.6%	0.0%	0.0%	38.5%	36.5%
男性	10歳代	6	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%
	20歳代	34	14.7%	8.8%	26.5%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	58.8%	5.9%
	30歳代	41	7.3%	7.3%	31.7%	2.4%	9.8%	0.0%	0.0%	43.9%	9.8%
	40歳代	64	15.6%	10.9%	28.1%	7.8%	1.6%	6.3%	1.6%	46.9%	9.4%
	50歳代	75	14.7%	2.7%	24.0%	8.0%	14.7%	4.0%	0.0%	37.3%	13.3%
	60歳代	106	6.6%	0.0%	20.8%	9.4%	7.5%	2.8%	1.9%	31.1%	31.1%
	70歳代	124	8.1%	0.8%	15.3%	4.8%	4.8%	0.0%	0.8%	33.9%	38.7%
	80歳以上	40	5.0%	0.0%	10.0%	2.5%	2.5%	2.5%	0.0%	40.0%	40.0%

問１６　あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。（複数回答）

○地域活動等に参加していない理由等については、「仕事が忙しい」が 33.1%と最も高く、次いで「人間関係がわずらわしい」26.6%、「健康・体力に不安がある」24.5%となっています。

○性別でみても、男女ともに「仕事が忙しい」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「家事や育児、介護で忙しい」が 11.0 ポイント高くなっています。



○性年代別でみると、20 歳代の女性は「参加するきっかけがない」、20 歳代の男性及び 30 歳代～60 歳代の男女は「仕事が忙しい」、70 歳代以上の男女は「健康・体力に不安がある」が最も高くなっています。また、女性は、20 歳代～30 歳代では「活動団体や活動内容を知らない」、30 歳代～40 歳代では「家事や育児、介護で忙しい」、30 歳代～50 歳代では「人間関係がわずらわしい」が他の年代に比べて高くなっています。

【性年代別】

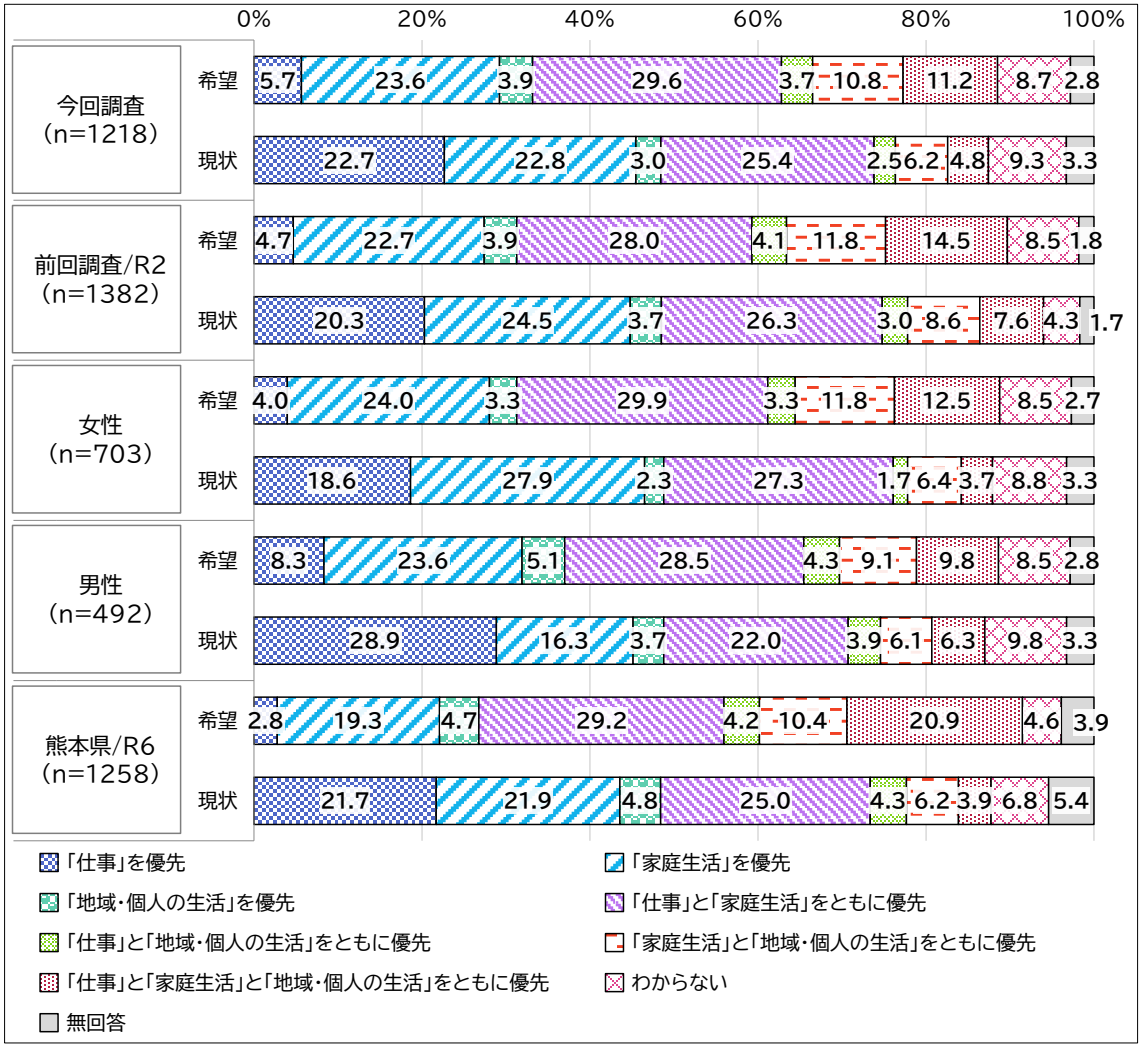
		標本数（人）	活動団体や活動内容を知らない	参加するきっかけがない	仕事が忙しい	家事や育児、介護で忙しい	健康・体力に不安がある	地域活動に関心がない	参加することに家族が協力的ではない	経済的余裕がない	人間関係がわずらわしい	その他	特にない	無回答
全体		1,218	18.1%	21.4%	33.1%	11.8%	24.5%	9.0%	1.7%	9.6%	26.6%	4.3%	13.7%	4.8%
■ 性年代別														
女性	10歳代	9	77.8%	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
	20歳代	54	40.7%	51.9%	48.1%	13.0%	11.1%	16.7%	1.9%	11.1%	24.1%	0.0%	11.1%	0.0%
	30歳代	76	32.9%	23.7%	50.0%	47.4%	3.9%	11.8%	2.6%	13.2%	39.5%	10.5%	6.6%	1.3%
	40歳代	88	17.0%	21.6%	50.0%	38.6%	11.4%	11.4%	4.5%	15.9%	38.6%	1.1%	9.1%	1.1%
	50歳代	117	22.2%	20.5%	42.7%	17.1%	17.9%	17.1%	0.9%	9.4%	36.8%	3.4%	12.8%	2.6%
	60歳代	143	16.8%	25.2%	28.0%	6.3%	27.3%	4.2%	2.1%	6.3%	25.9%	1.4%	9.1%	6.3%
	70歳代	164	13.4%	17.1%	11.0%	5.5%	42.7%	4.9%	3.0%	7.3%	20.1%	4.9%	20.7%	6.7%
	80歳以上	52	5.8%	17.3%	7.7%	0.0%	50.0%	7.7%	1.9%	1.9%	17.3%	3.8%	9.6%	15.4%
男性	10歳代	6	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%
	20歳代	34	23.5%	26.5%	55.9%	5.9%	0.0%	17.6%	0.0%	14.7%	26.5%	5.9%	14.7%	2.9%
	30歳代	41	17.1%	14.6%	63.4%	17.1%	9.8%	17.1%	0.0%	19.5%	26.8%	4.9%	7.3%	4.9%
	40歳代	64	21.9%	25.0%	50.0%	14.1%	9.4%	10.9%	4.7%	10.9%	34.4%	3.1%	15.6%	0.0%
	50歳代	75	21.3%	20.0%	52.0%	4.0%	10.7%	9.3%	0.0%	13.3%	28.0%	8.0%	8.0%	1.3%
	60歳代	106	13.2%	21.7%	31.1%	2.8%	24.5%	2.8%	0.0%	9.4%	21.7%	4.7%	18.9%	3.8%
	70歳代	124	11.3%	10.5%	17.7%	1.6%	38.7%	6.5%	0.8%	4.0%	18.5%	4.0%	21.0%	8.1%
	80歳以上	40	2.5%	15.0%	5.0%	2.5%	55.0%	2.5%	0.0%	10.0%	20.0%	5.0%	17.5%	12.5%

問１７　あなたが生活を送るうえで、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望に最も近いもの及び現実（現状）に最も近いものは次のうちどれですか。（単数回答）

○生活の中での優先度については、希望と現状ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（希望：29.6%、現状：25.4%）が最も高く、次いで『「家庭生活」を優先』（希望：23.6%、現状：22.8%）となっていますが、３番目に高いのは、希望では『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』11.2%、現状では『「仕事」を優先』22.7%となっています。

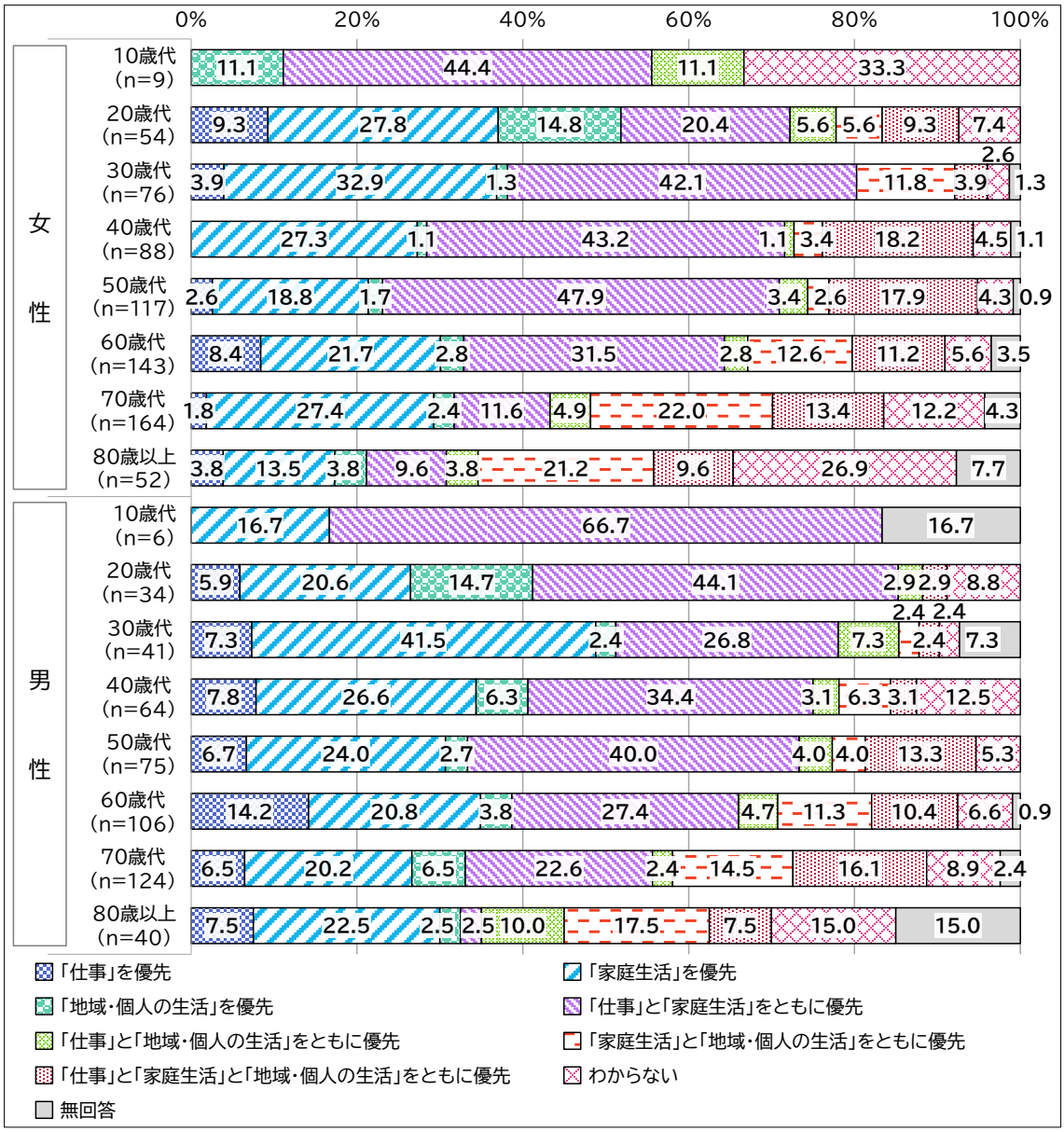
○性別でみると、男女ともに希望では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっていますが、現状では女性は『「家庭生活」を優先』、男性は『「仕事」を優先』が最も高くなっています。

○県との比較をみると、希望では『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』が 10 ポイント近く低くなっています。



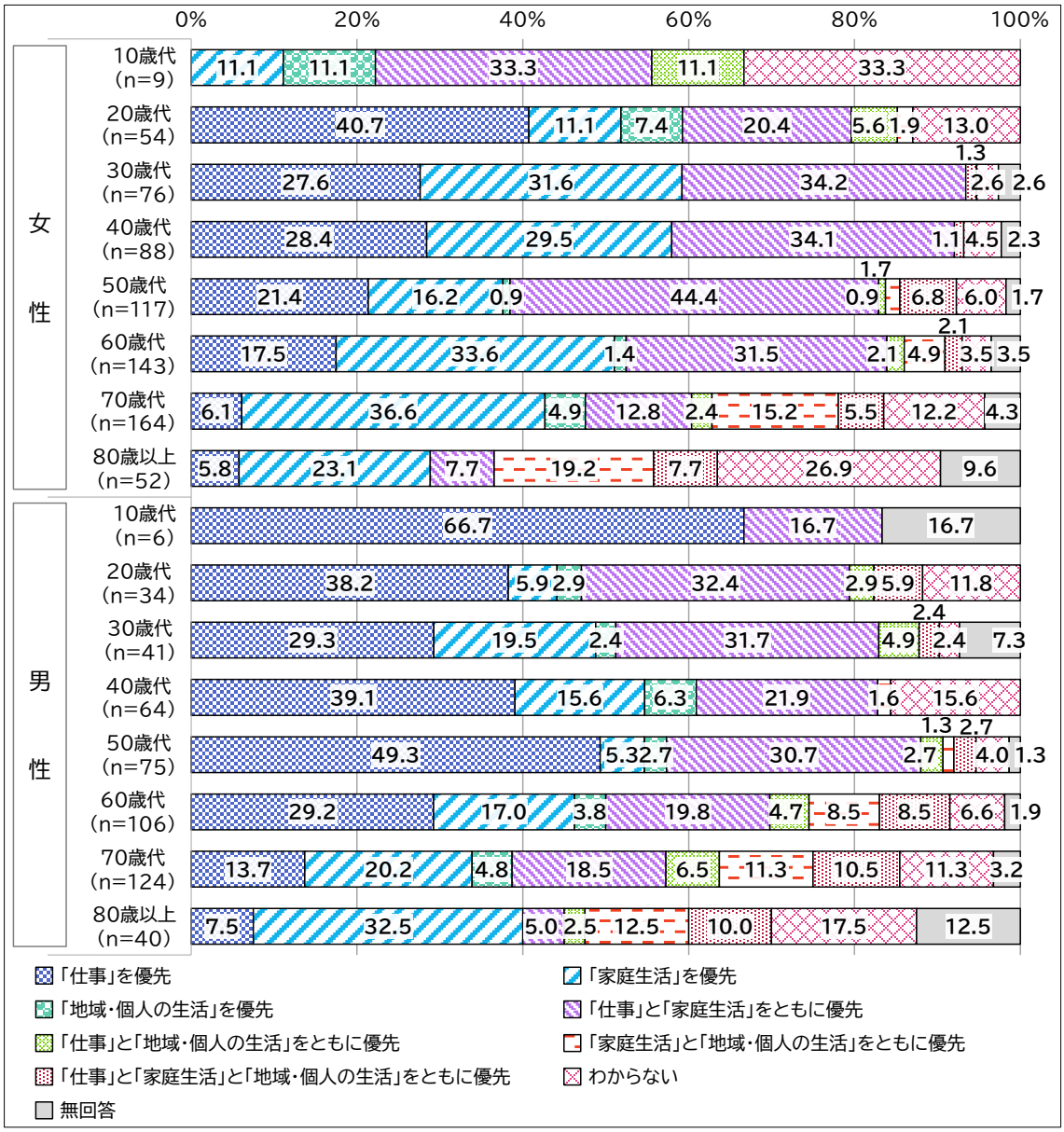
○生活の中での希望する優先度について、性年代別でみると、女性は、20 歳代及び 70 歳代では『「家庭生活」を優先』、30 歳代～60 歳代では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』、80 歳以上では「わからない」、が最も高くなっています。一方男性は、30 歳代及び 80 歳以上では『「家庭生活」を優先』、それ以外の年代では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっています。

【希望：性年代別】



○生活の中での現状の優先度について、性年代別でみると、女性は、20 歳代では『「仕事」を優先』、30 歳代～50 歳代では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』、60 歳代～70 歳代では『「家庭生活」を優先』、80 歳以上では「わからない」が最も高くなっています。一方男性は、30 歳代では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』、70 歳代以上では『「家庭生活」を優先』、それ以外の年代では『「仕事」を優先』が最も高くなっています。

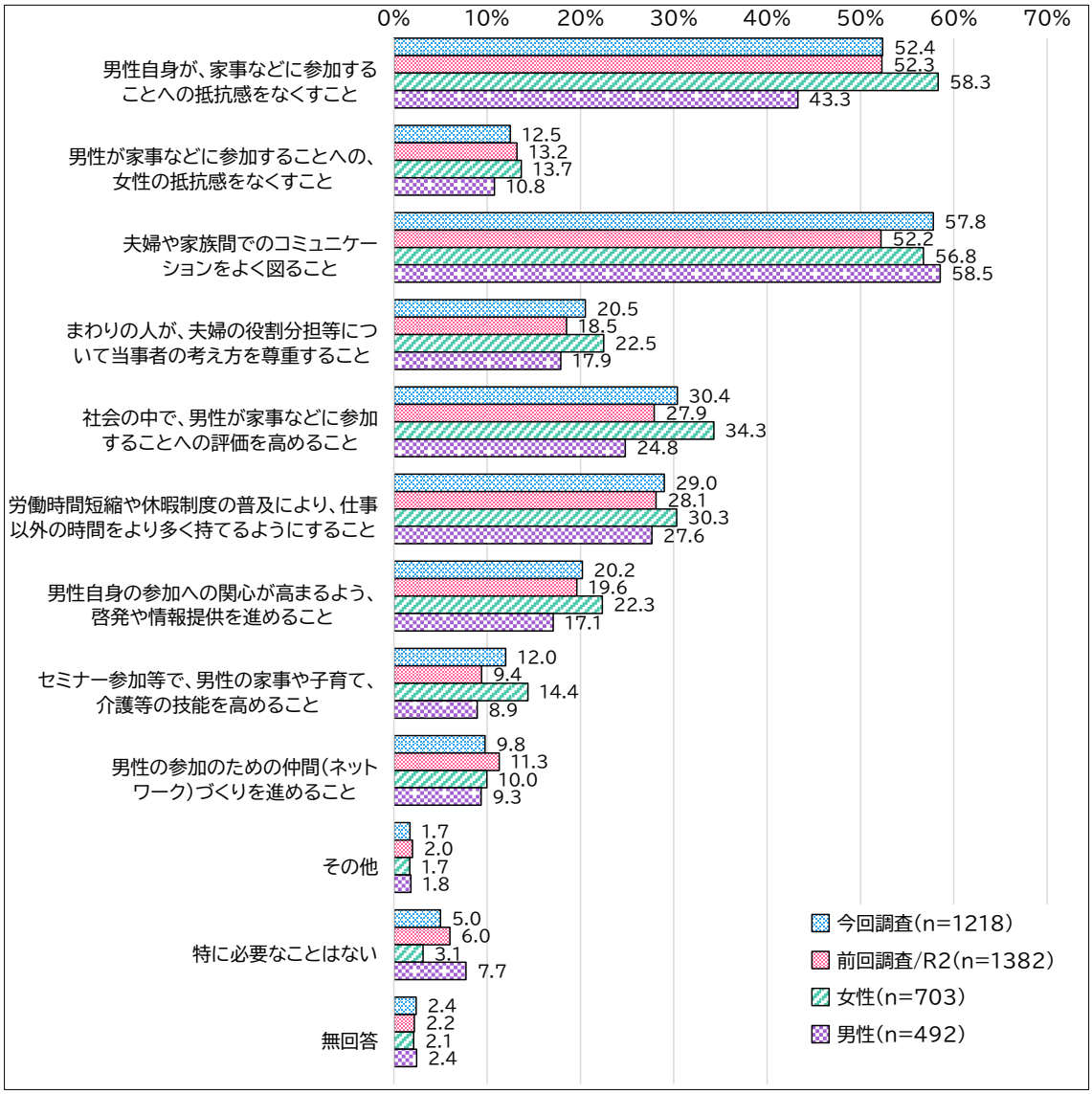
【現状：性年代別】



問１８　男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

○男女がともに家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 57.8%と最も高く、次いで「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」52.4%、「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」30.4%となっています。

○性別でみると、女性は「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」、男性は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」が 10 ポイント前後高くなっています。



○性年代別でみると、男女ともにどの年代も「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が５割前後、またはそれを上回っており、加えて、女性は「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」がどの年代も５割を超えています。また、30 歳代の男性は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が他の年代に比べて高くなっています。

【性年代別】

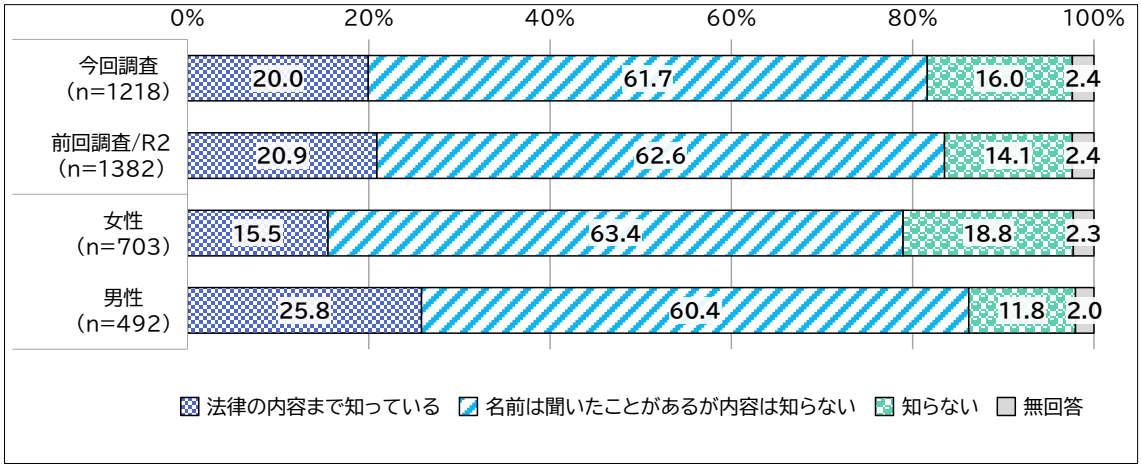
		標本数（人）	男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することへの、女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性自身の参加への関心が高まるよう、啓発や情報提供を進めること	セミナー参加等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性の参加のための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		1,218	52.4%	12.5%	57.8%	20.5%	30.4%	29.0%	20.2%	12.0%	9.8%	1.7%	5.0%	2.4%
■ 性年代別														
女性	10歳代	9	66.7%	44.4%	77.8%	55.6%	55.6%	66.7%	44.4%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	53.7%	13.0%	50.0%	14.8%	37.0%	35.2%	14.8%	11.1%	7.4%	0.0%	5.6%	0.0%
	30歳代	76	51.3%	14.5%	67.1%	31.6%	32.9%	53.9%	19.7%	14.5%	11.8%	3.9%	0.0%	1.3%
	40歳代	88	60.2%	15.9%	56.8%	25.0%	35.2%	34.1%	20.5%	11.4%	11.4%	1.1%	0.0%	1.1%
	50歳代	117	59.0%	12.8%	48.7%	25.6%	41.0%	33.3%	23.9%	9.4%	6.8%	1.7%	2.6%	0.9%
	60歳代	143	62.9%	14.7%	59.4%	20.3%	35.7%	23.1%	18.2%	16.1%	10.5%	2.1%	2.1%	2.8%
	70歳代	164	57.9%	9.8%	54.9%	16.5%	31.1%	20.7%	31.1%	18.3%	7.3%	0.6%	6.7%	2.4%
	80歳以上	52	55.8%	15.4%	61.5%	25.0%	19.2%	21.2%	13.5%	9.6%	15.4%	3.8%	3.8%	7.7%
男性	10歳代	6	33.3%	16.7%	66.7%	0.0%	33.3%	50.0%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	32.4%	5.9%	55.9%	23.5%	26.5%	38.2%	2.9%	8.8%	2.9%	5.9%	11.8%	2.9%
	30歳代	41	39.0%	17.1%	80.5%	34.1%	31.7%	36.6%	17.1%	9.8%	7.3%	0.0%	2.4%	2.4%
	40歳代	64	39.1%	10.9%	62.5%	26.6%	23.4%	32.8%	10.9%	4.7%	10.9%	3.1%	10.9%	1.6%
	50歳代	75	37.3%	14.7%	49.3%	21.3%	25.3%	36.0%	17.3%	8.0%	8.0%	4.0%	8.0%	1.3%
	60歳代	106	48.1%	13.2%	63.2%	17.0%	20.8%	25.5%	17.0%	14.2%	13.2%	1.9%	4.7%	1.9%
	70歳代	124	51.6%	6.5%	51.6%	8.9%	26.6%	16.1%	23.4%	7.3%	8.1%	0.0%	8.1%	1.6%
	80歳以上	40	37.5%	7.5%	60.0%	10.0%	22.5%	25.0%	17.5%	7.5%	7.5%	0.0%	10.0%	7.5%

９．配偶者などからの暴力について

問１９　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：ＤＶ防止法）を知っていますか。（単数回答）

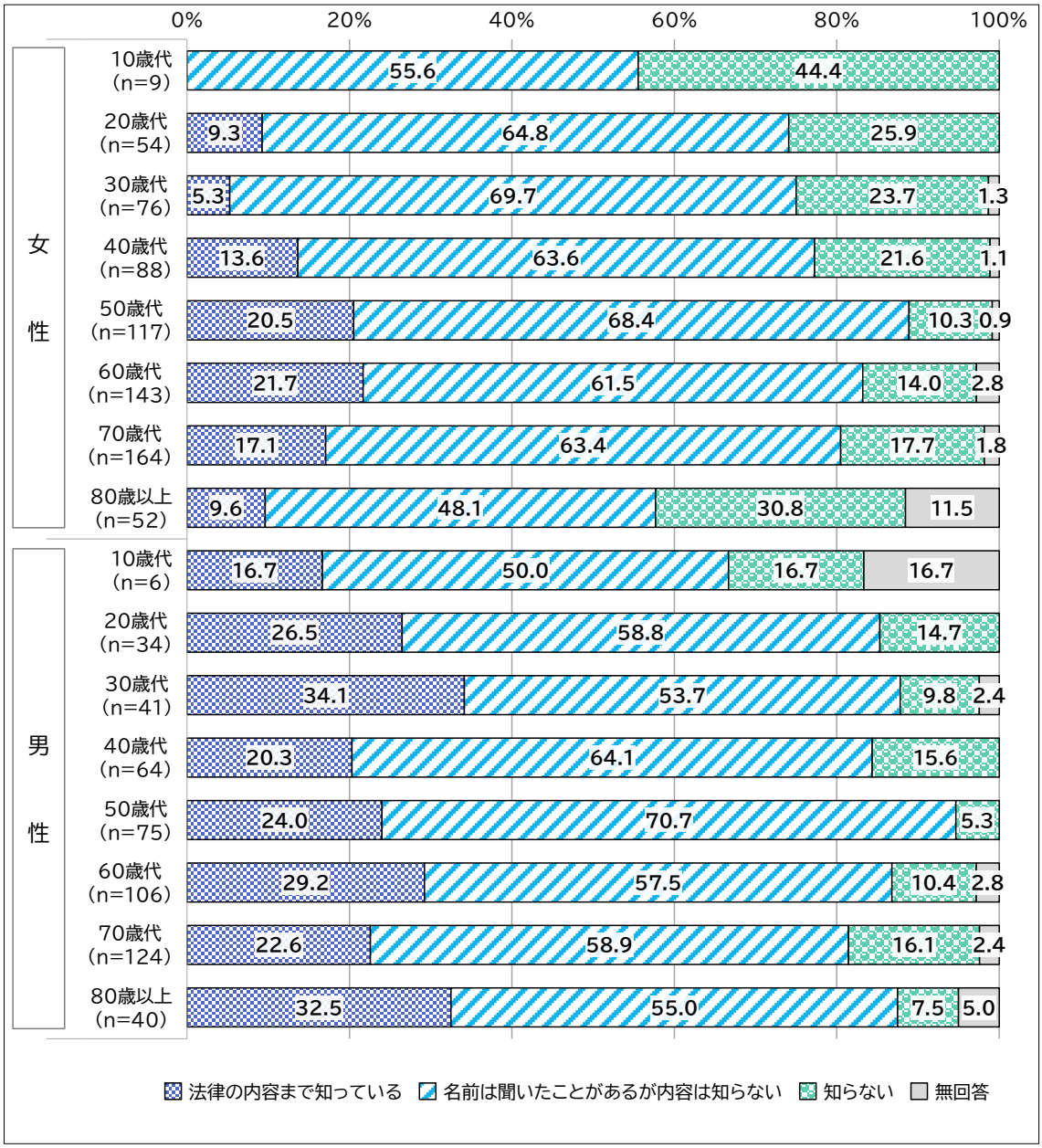
○「ＤＶ防止法」の認知度については、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が61.7%と最も高く、次いで「法律の内容まで知っている」20.0%、「知らない」16.0%となっています。

○性別でみると、男女ともに「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が最も高く、６割を超えています。また、男性は女性と比べて「法律の内容まで知っている」が 10.3 ポイント高くなっています。



○性年代別でみると、男女ともにどの年代も「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が最も高くなっています。また、女性に比べて男性はどの年代も「法律の内容まで知っている」の割合が高く、特に 30 歳代及び 80 歳以上では３割を超えています。一方、80 歳以上の女性は「知らない」の割合が３割を超えています。

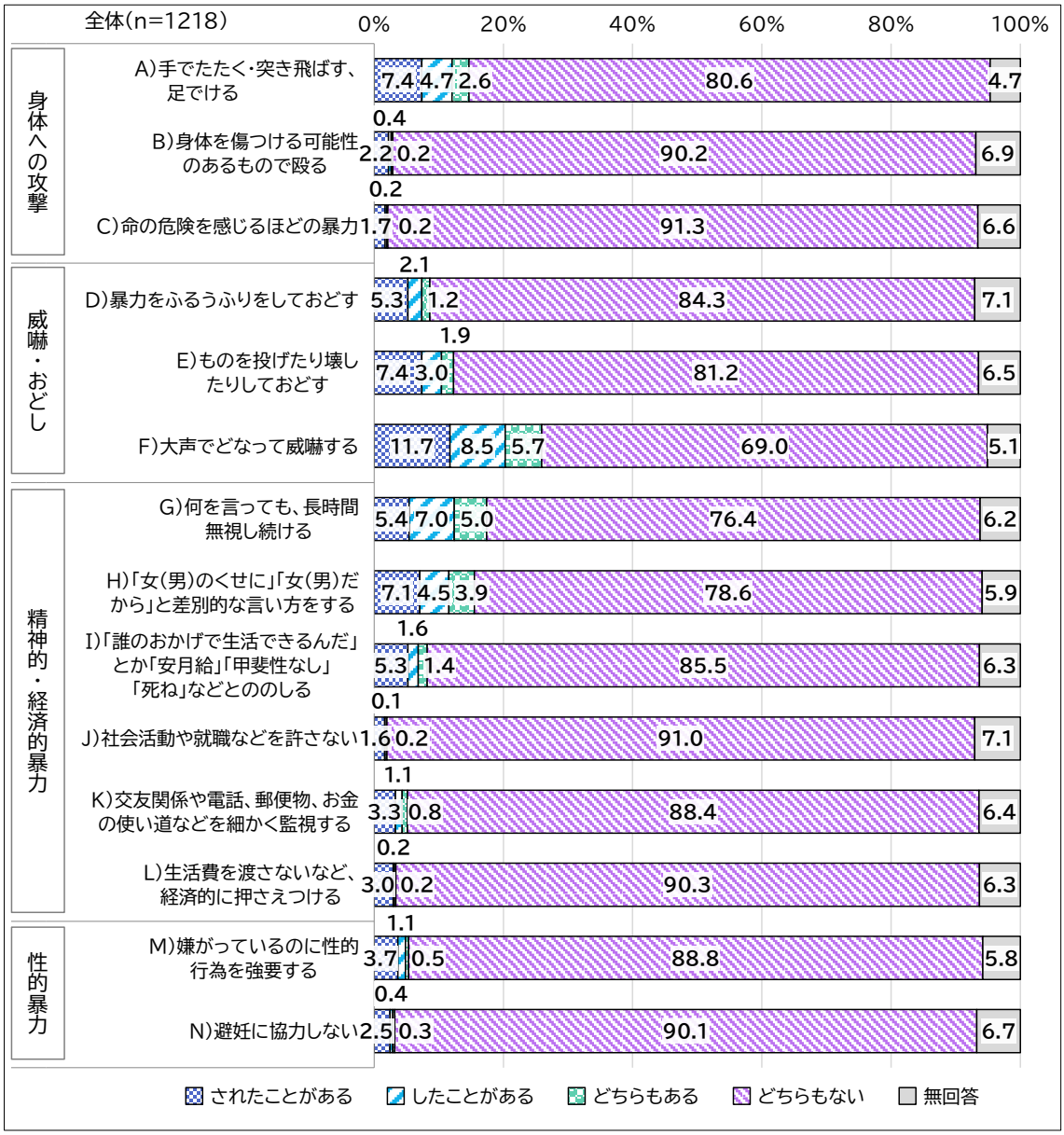
【性年代別】



問２０　あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）などの親しい間柄で、次のＡ～Ｎについて、あてはまるようなことをしたりされたりしたことがありますか。（単数回答）

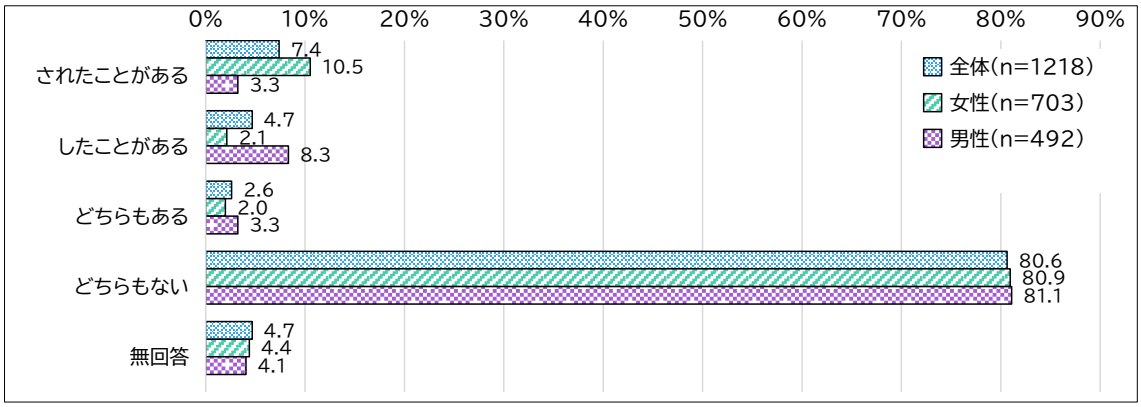
○配偶者やパートナーから心や体に苦痛を感じるような行為を受けた経験の有無については、いずれも「どちらもない」が最も高くなっていますが、「(F) 大声でどなって威嚇する」という行為については、「されたことがある」が 11.7%、「したことがある」8.5%、「どちらもある」5.7%となっており、他の行為に比べて高くなっています。

○性別でみると、すべての行為において女性は男性より「されたことがある」、男性は女性より「したことがある」が高くなっており、特に「(F) 大声でどなって威嚇する」では、女性の被害経験者及び男性の加害経験者の割合が１割を超えています。

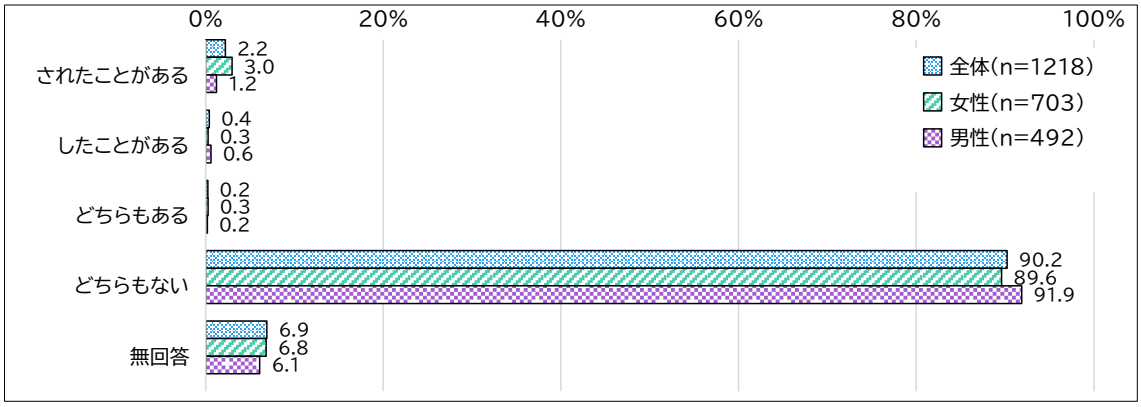


【身体への攻撃】

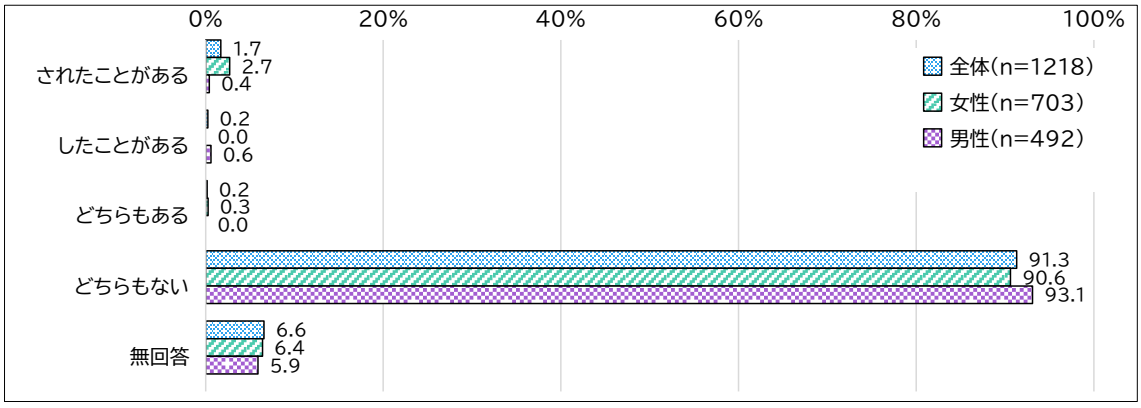
（A）手でたたく・突き飛ばす、足でける



（B）身体を傷つける可能性のあるもので殴る

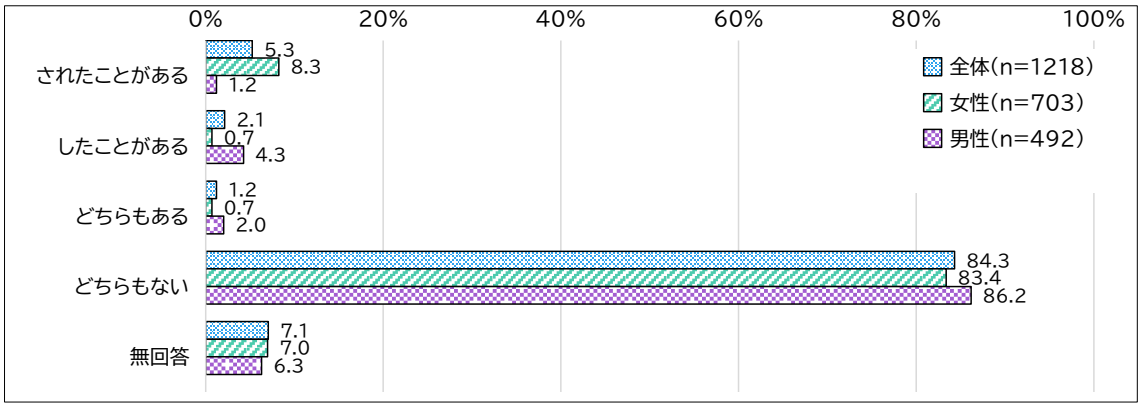


（C）命の危険を感じるほどの暴力

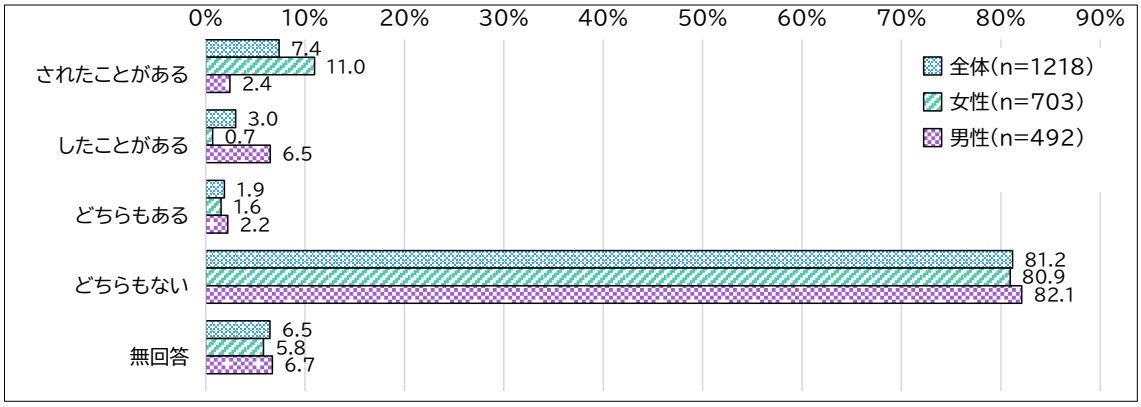


【威嚇・おどし】

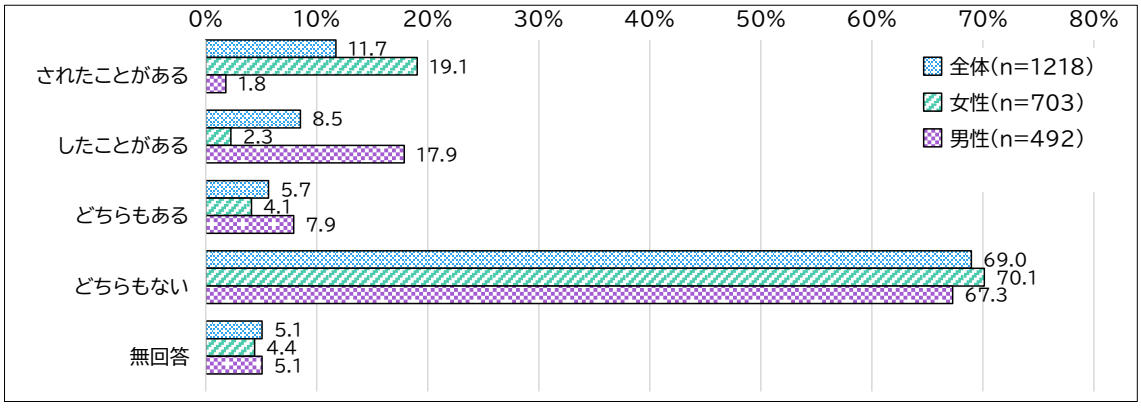
（D）暴力をふるうふりをしておどす



（E）ものを投げたり壊したりしておどす

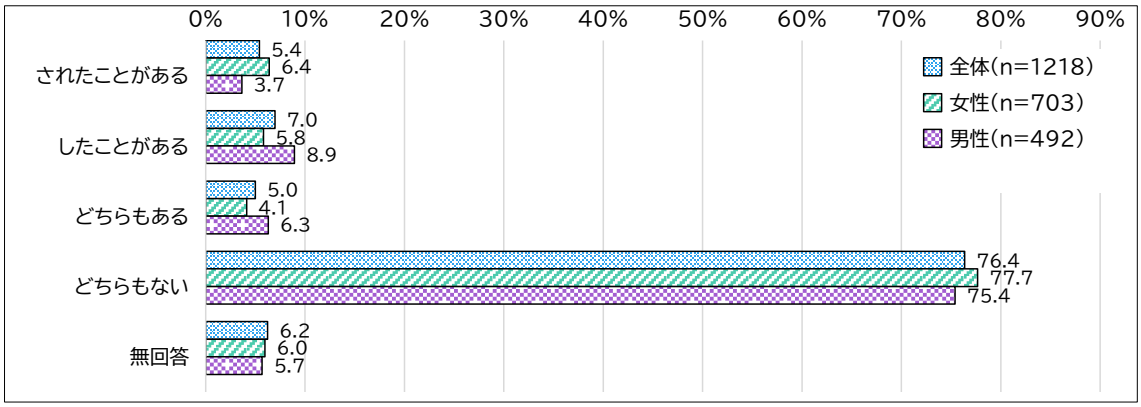


（F）大声でどなって威嚇する

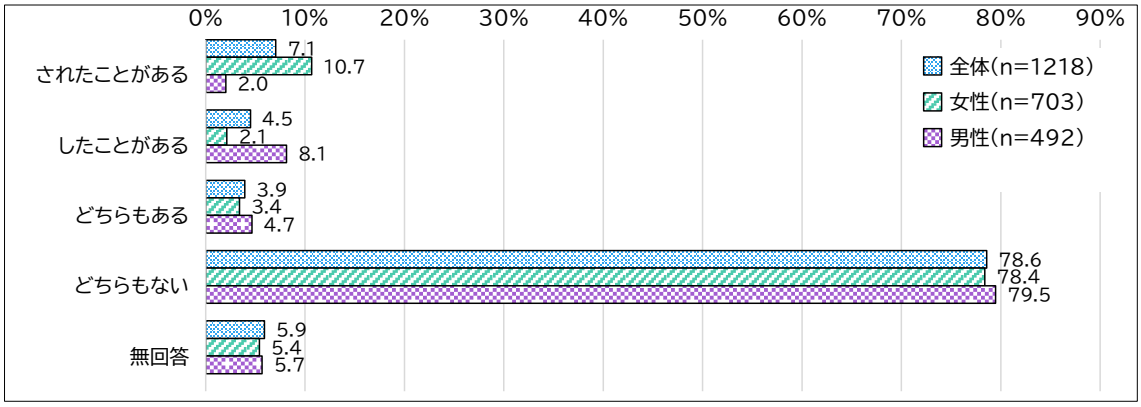


【精神的・経済的暴力】

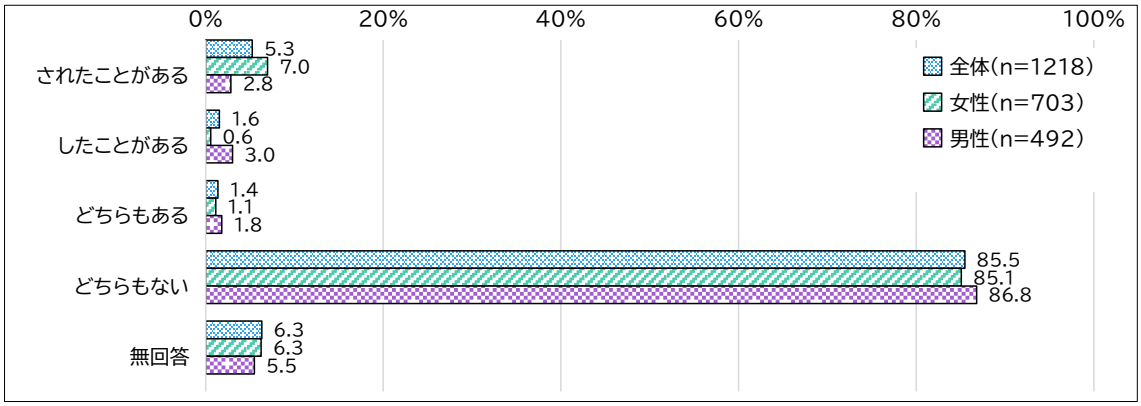
（G）何を言っても、長時間無視し続ける



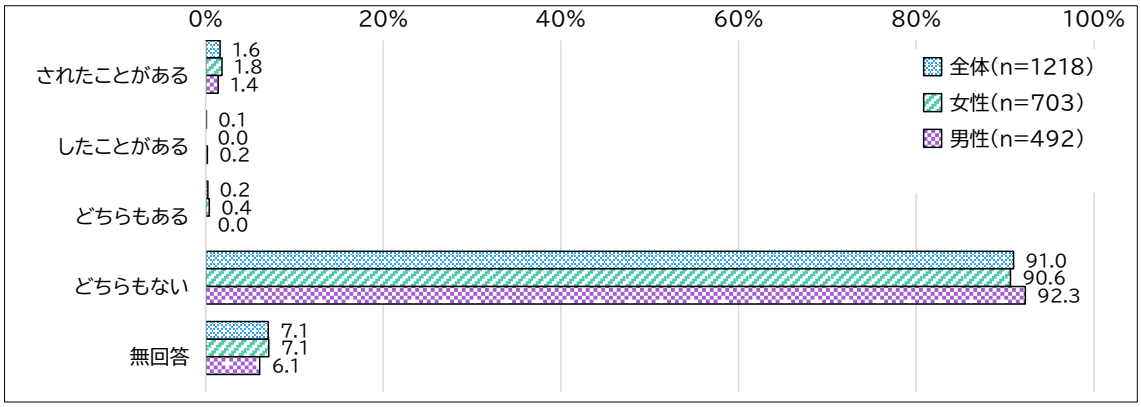
（H）「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする



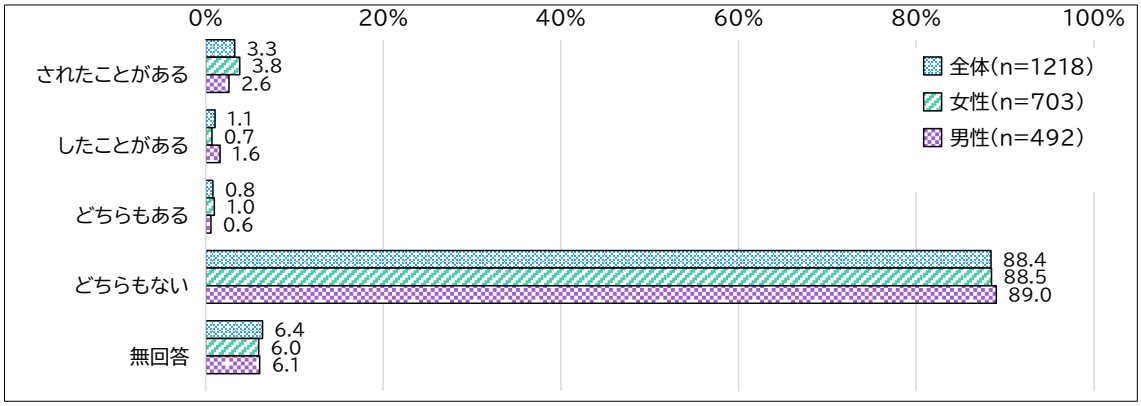
（Ｉ）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「安月給」「甲斐性なし」「死ね」などとののしる



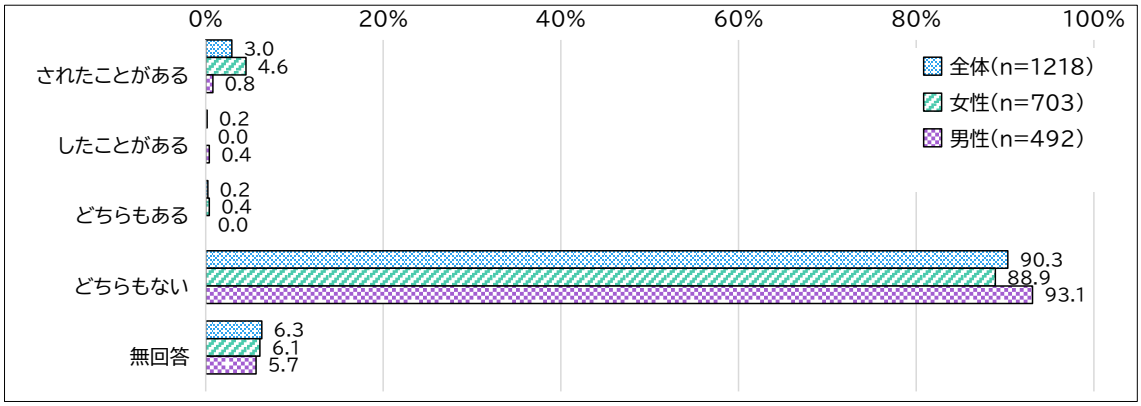
（Ｊ）社会活動や就職などを許さない



（Ｋ）交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する

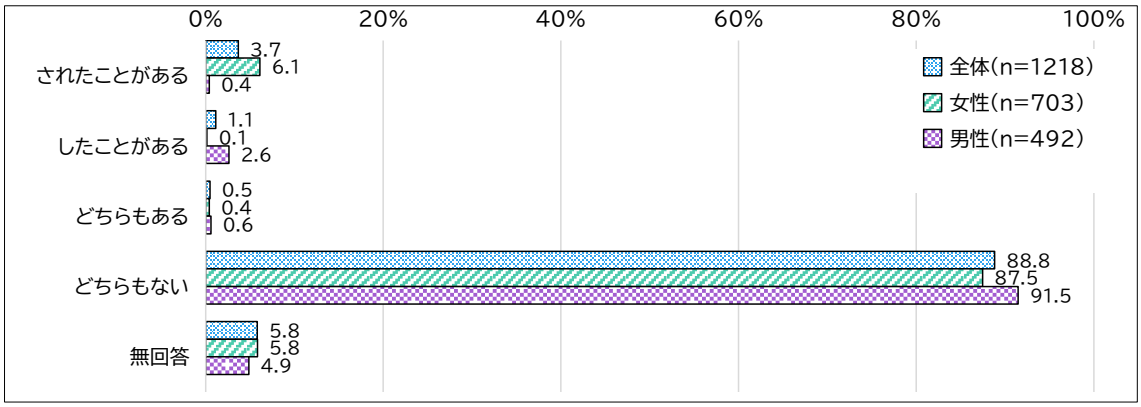


（Ｌ）生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける

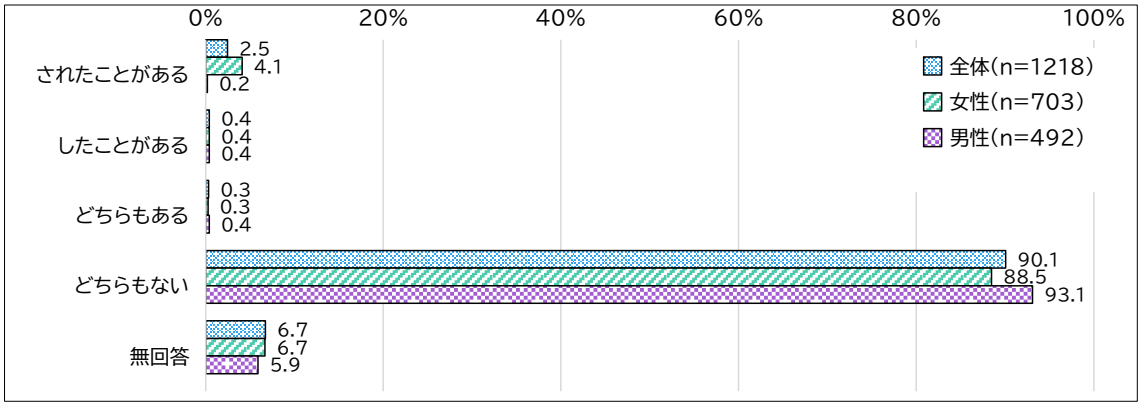


【性的暴力】

（M）嫌がっているのに性的行為を強要する



（N）避妊に協力しない

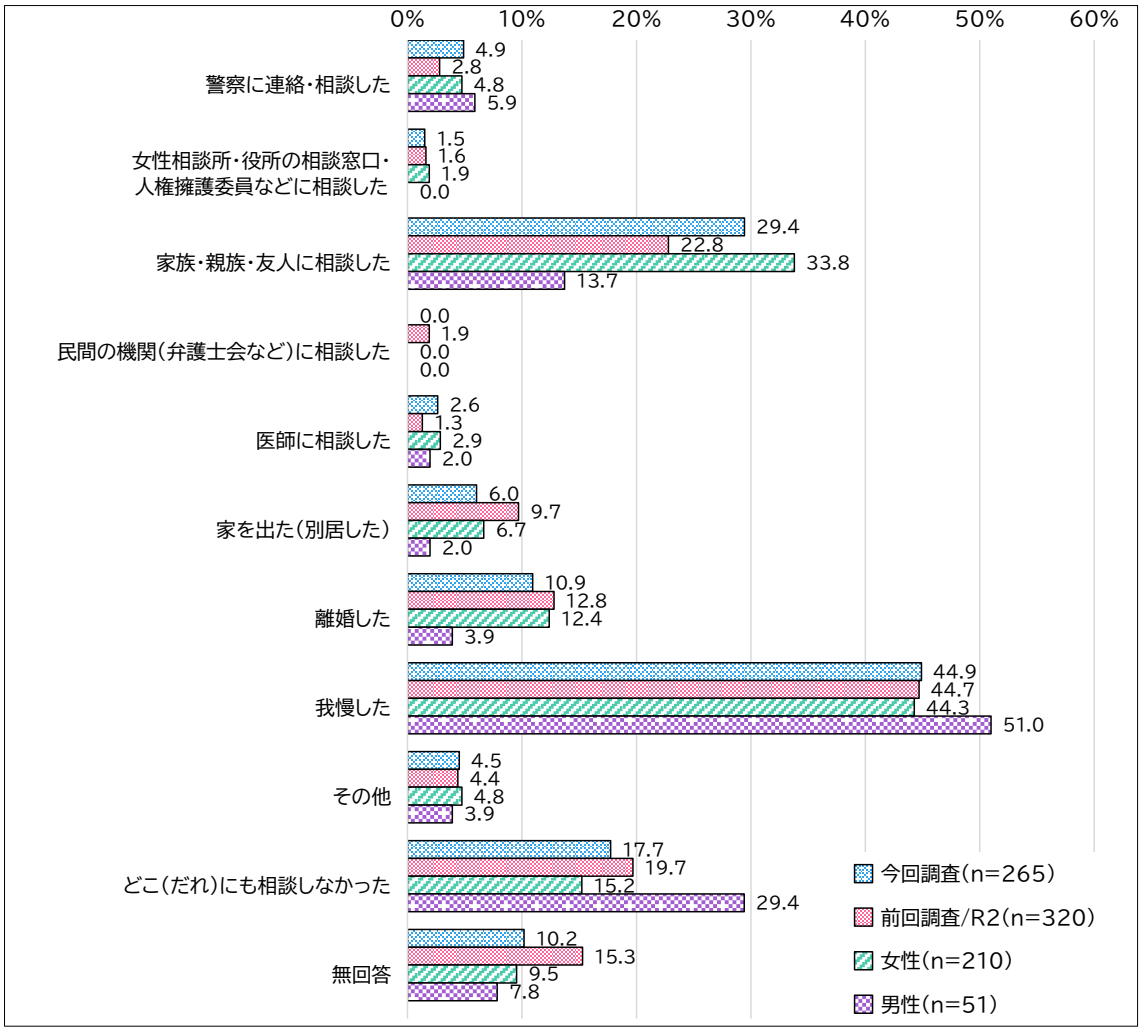


【問２０で１つでも「されたことがある」と答えた方のみ】

問２０－１　あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。（複数回答）

○心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際の対応については、「我慢した」が 44.9%と最も高く、次いで「家族・親族・友人に相談した」29.4%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」17.7%となっています。

○性別でみると、男女ともに「我慢した」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「家族・親族・友人に相談した」が高く、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。



○性年代別でみると、20 歳代女性は「家族・親族・友人に相談した」、30 歳代以上の女性は「我慢した」が最も高くなっています。（男性については、サンプル数が少ないため参考程度）

【性年代別】

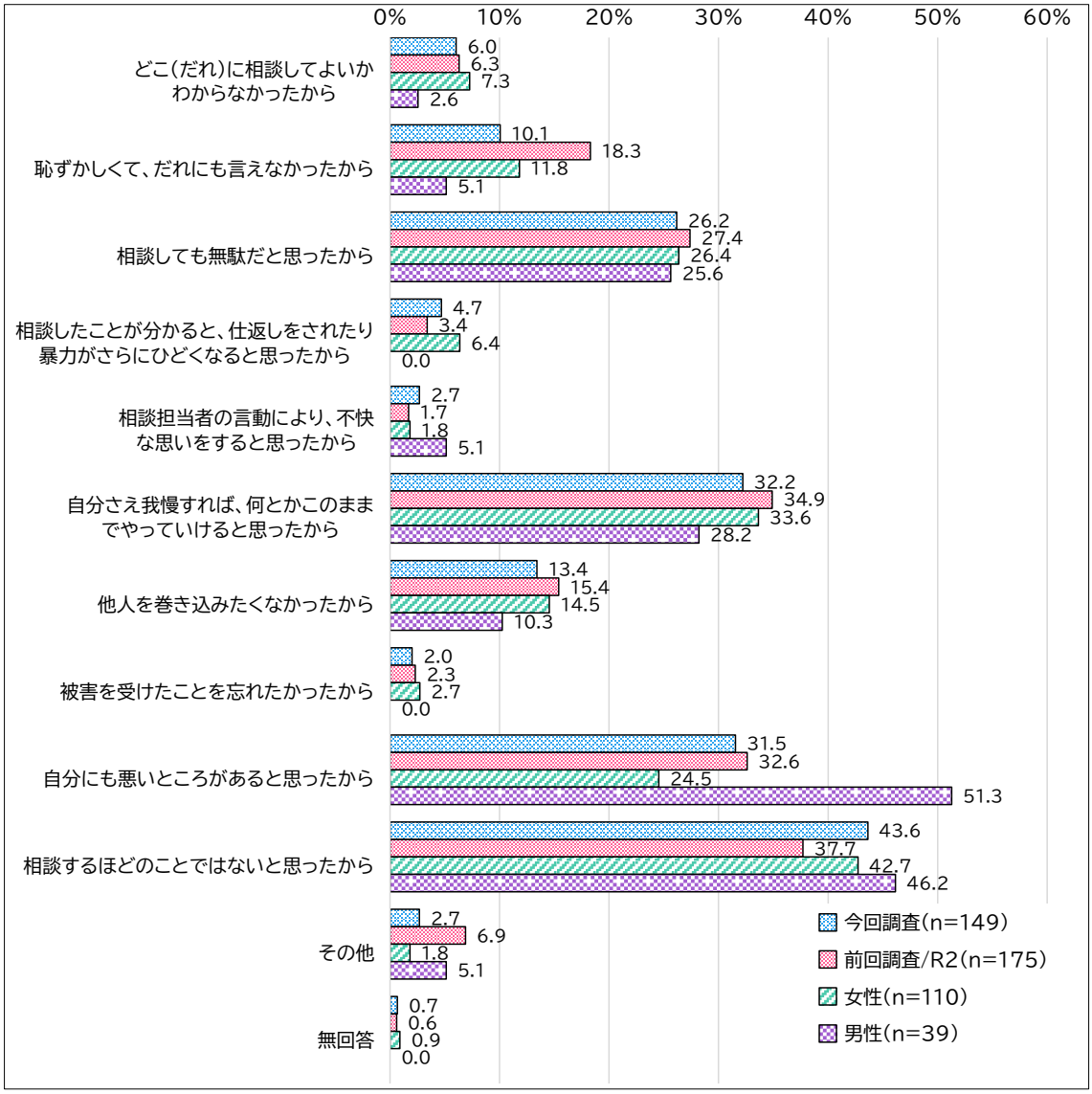
		標本数（人）	警察に連絡・相談した	女性相談所・役所の相談窓口・人権擁護委員などに相談した	家族・親族・友人に相談した	民間の機関（弁護士会など）に相談した	医師に相談した	家を出た（別居した）	離婚した	我慢した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
全体		265	4.9%	1.5%	29.4%	0.0%	2.6%	6.0%	10.9%	44.9%	4.5%	17.7%	10.2%
■ 性年代別													
女性	10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	10	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	30歳代	24	8.3%	0.0%	41.7%	0.0%	4.2%	0.0%	16.7%	58.3%	8.3%	8.3%	4.2%
	40歳代	34	8.8%	0.0%	41.2%	0.0%	5.9%	8.8%	17.6%	44.1%	2.9%	17.6%	5.9%
	50歳代	38	0.0%	2.6%	28.9%	0.0%	5.3%	10.5%	5.3%	42.1%	5.3%	23.7%	10.5%
	60歳代	44	2.3%	0.0%	38.6%	0.0%	0.0%	4.5%	18.2%	40.9%	4.5%	15.9%	6.8%
	70歳代	42	2.4%	2.4%	31.0%	0.0%	0.0%	7.1%	11.9%	54.8%	2.4%	11.9%	4.8%
	80歳以上	16	0.0%	6.3%	12.5%	0.0%	6.3%	6.3%	6.3%	25.0%	6.3%	6.3%	43.8%
男性	10歳代	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	20歳代	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	30歳代	8	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	12.5%
	40歳代	10	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	30.0%	10.0%
	50歳代	10	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	50.0%	10.0%	40.0%	0.0%
	60歳代	7	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%
	70歳代	8	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	62.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	80歳以上	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%

【問２０-１で「８．我慢した」や「10．どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方のみ】

問２０－２　それはなぜですか。（複数回答）

○心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際、相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 43.6%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」32.2%、「自分にも悪いところがあると思ったから」31.5%となっています。

○性別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「自分にも悪いところがあると思ったから」が 26.8 ポイント高くなっています。



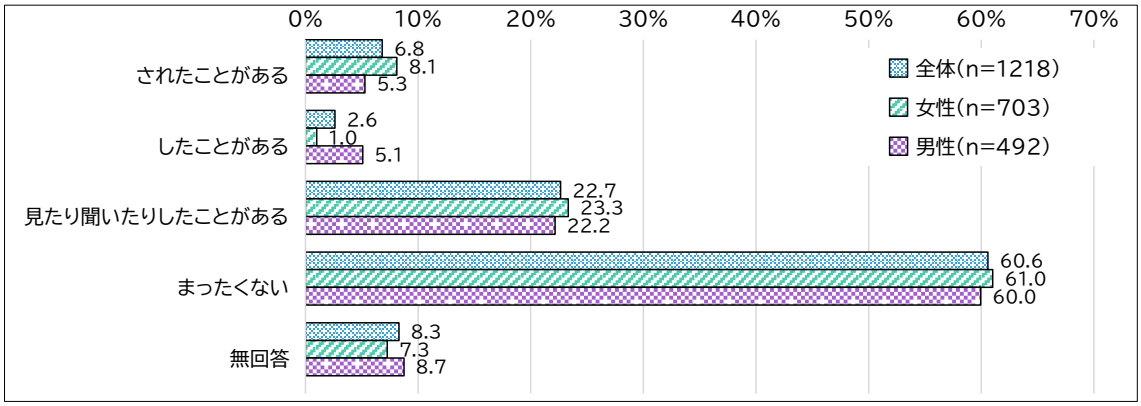
１０．男女間のセクハラについて

問２１　あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、セクハラ（性的嫌がらせ）をしたりされたりしたことがありますか。（複数回答）

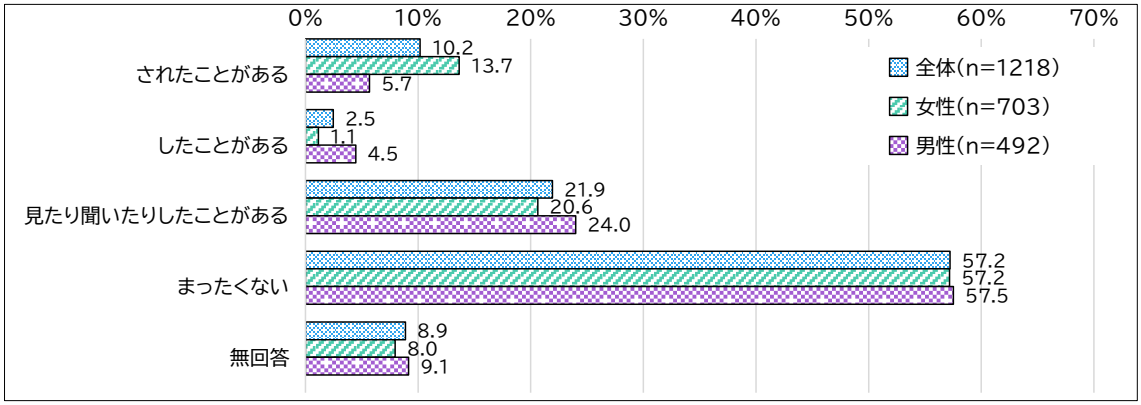
○セクハラ行為の経験の有無については、いずれの行為も「まったくない」が最も高くなっています。また「されたことがある」では『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」が１割を超えており、「したことがある」ではどの行為も１割以下となっています。また、「見たり聞いたりしたことがある」では、『「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う』『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」が２割を超えています。

○性別でみると、どの行為も女性は男性と比べて「されたことがある」が高く、「したことがある」が低くなっており、『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する」では被害経験が１割を超えています。また、「見たり聞いたりしたことがある」では、『「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う』『「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う』「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」が男女ともに２割を超えており、加えて男性では「異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」という行為も２割を超えています。

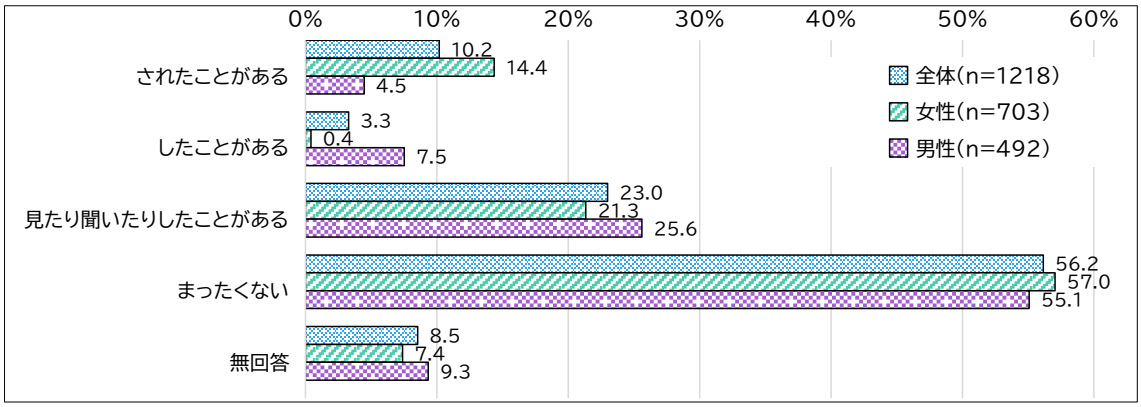
（１）「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う



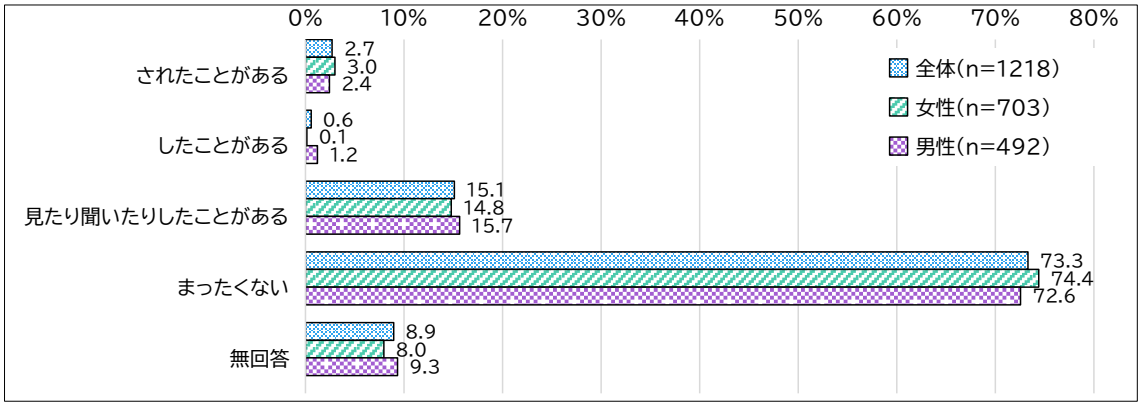
（２）「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う



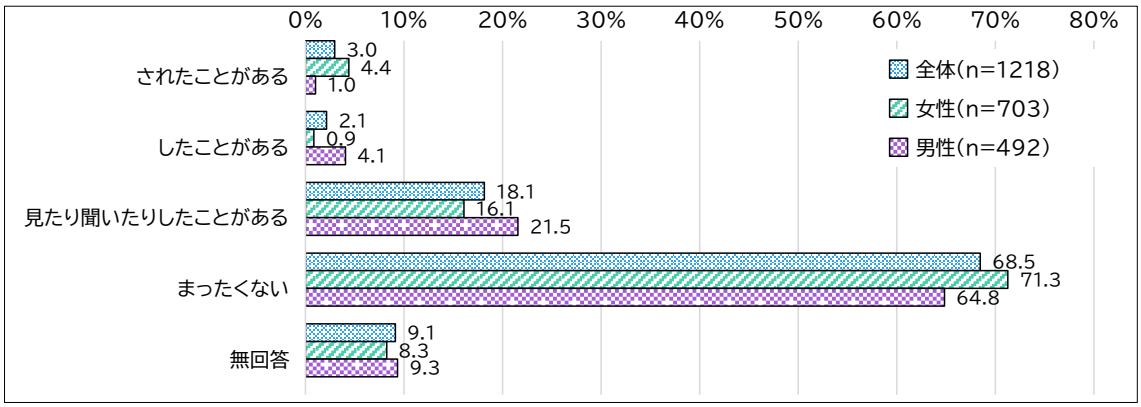
（３）性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う



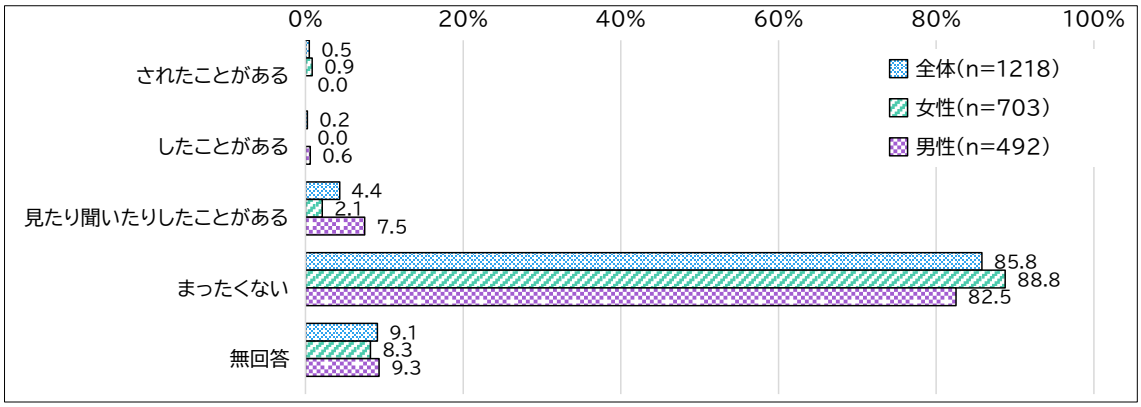
（４）異性関係が派手だなどと、性的な噂(うわさ)を流す



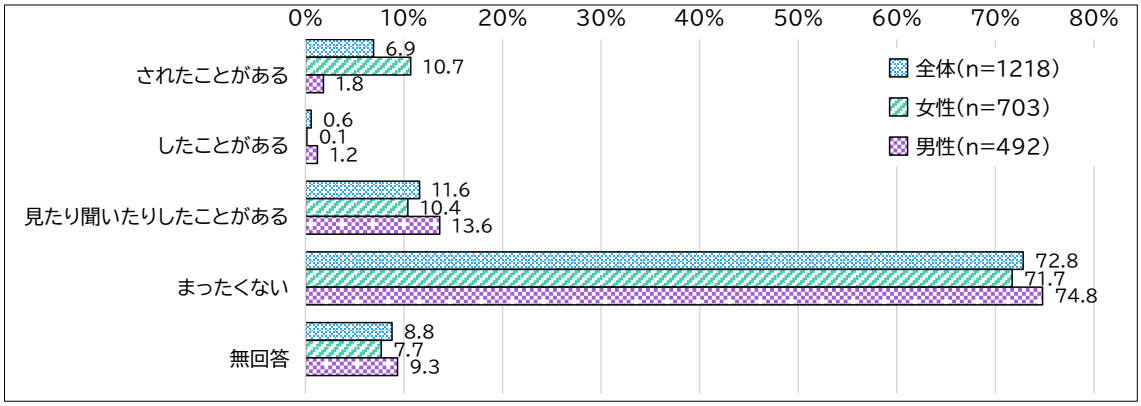
（５）異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする



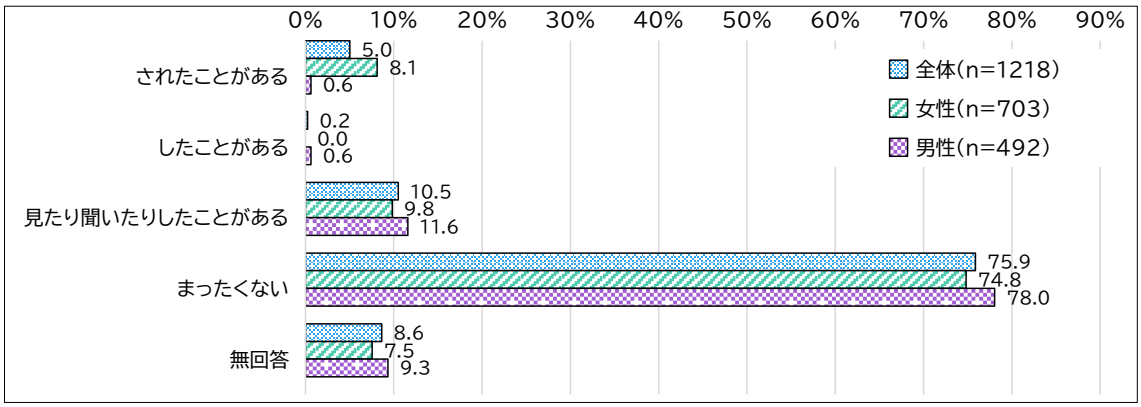
（６）ヌード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする



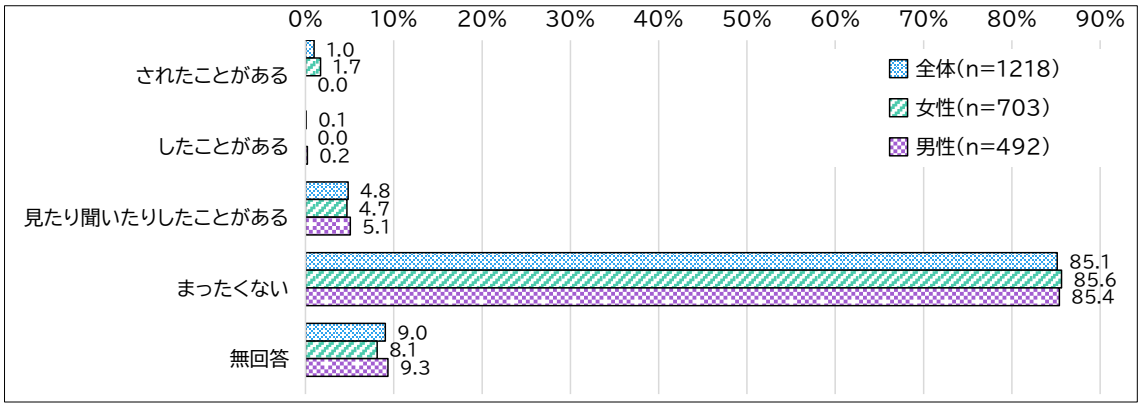
（７）接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する



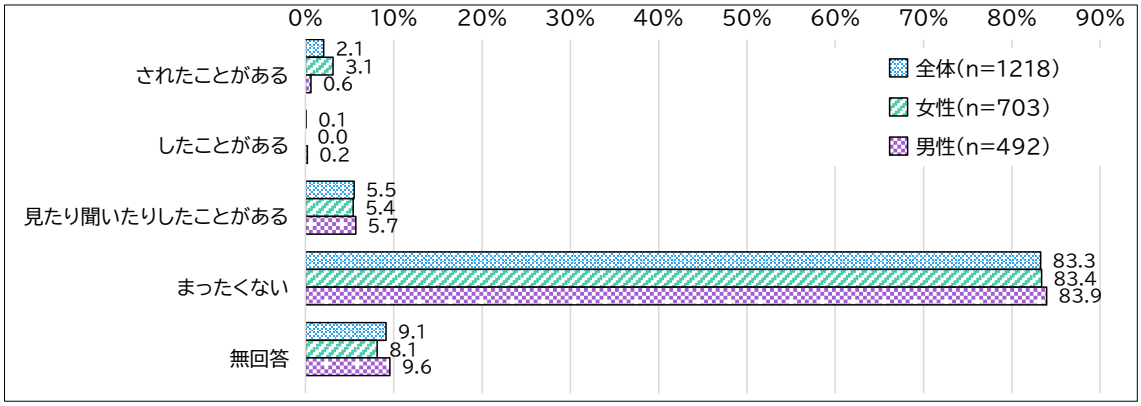
（８）触る、抱きつく、しつこく付きまとう



（９）地位や権限を利用して、性的関係を迫る



（１０）携帯電話やパソコンのメール、SNS 等でしつこく誘う

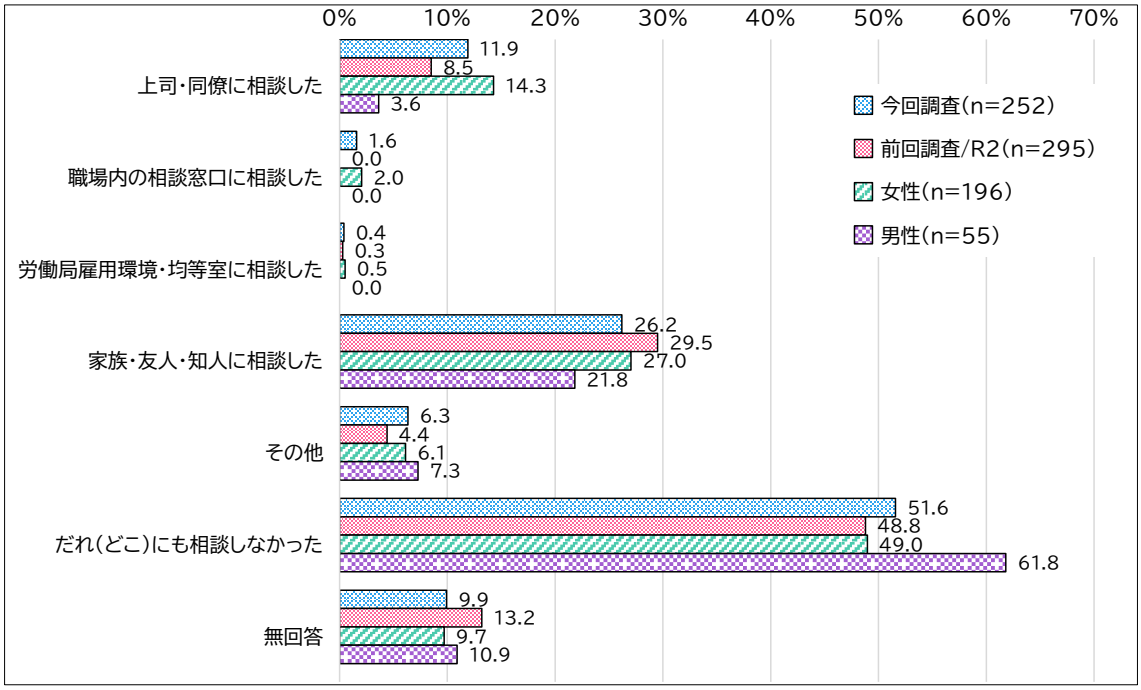


【問２１で１つでも「されたことがある」と答えた方のみ】

問２１－１　そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（複数回答）

○セクハラ行為を受けた際の相談先については、「だれ（どこ）にも相談しなかった」が51.6%と最も高く、次いで「家族・友人・知人に相談した」26.2%、「上司・同僚に相談した」11.9%となっています。

○性別でみると、男女ともに「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、男性は女性と比べて12.8ポイント高くなっています。また、女性は「上司・同僚に相談した」が男性より10.7ポイント高くなっています。



○性年代別でみると、20 歳代～70 歳代の女性では「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。（男性については、サンプル数が少ないため参考程度）

【性年代別】

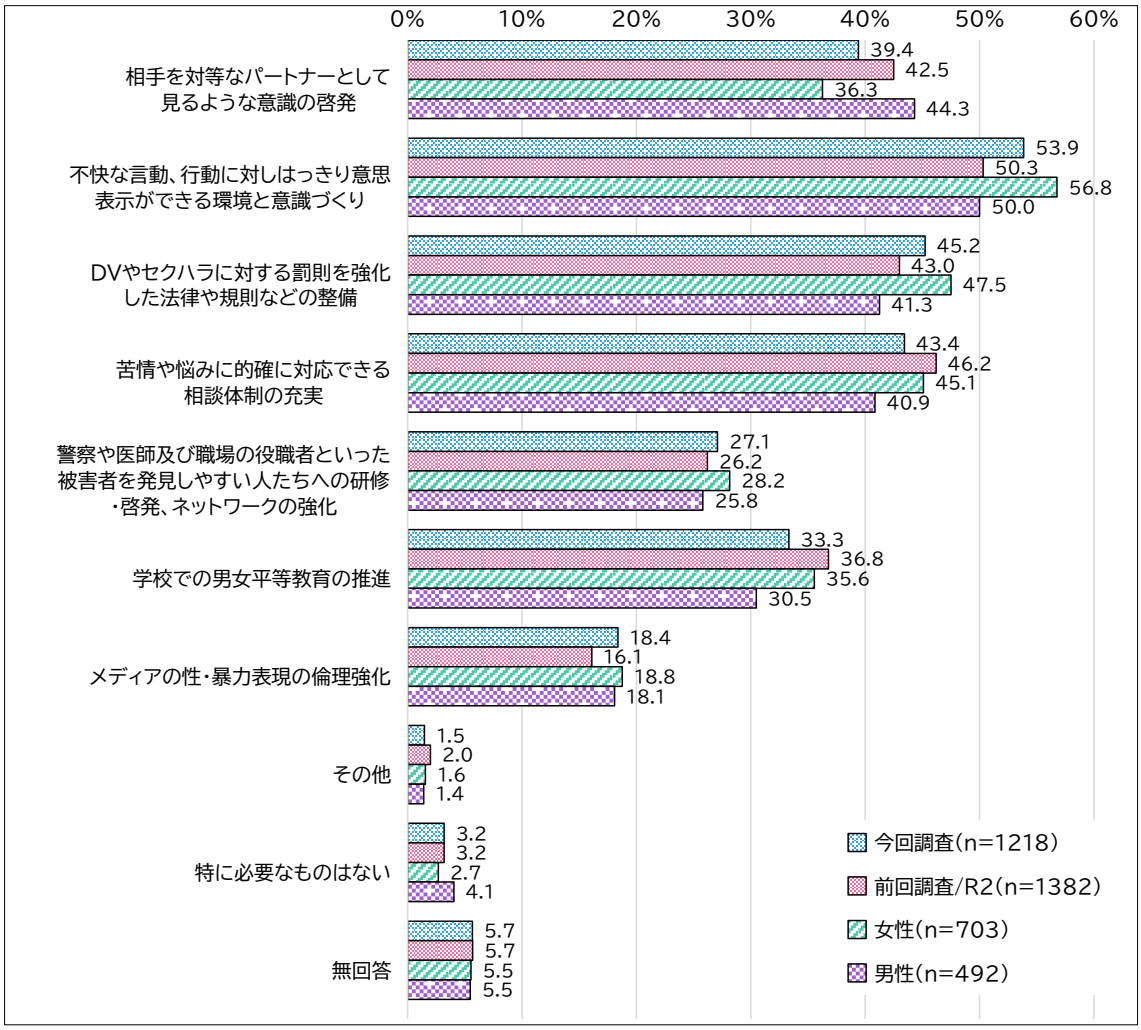
			標本数（人）	上司・同僚に相談した	職場内の相談窓口に相談した	労働局雇用環境・均等室に相談した	家族・友人・知人に相談した	その他	だれ（どこ）にも相談しなかった	無回答
全体			252	11.9%	1.6%	0.4%	26.2%	6.3%	51.6%	9.9%
■ 性年代別										
	女性	10歳代	0	－	－	－	－	－	－	－
		20歳代	13	15.4%	7.7%	0.0%	38.5%	0.0%	53.8%	7.7%
		30歳代	35	25.7%	0.0%	0.0%	22.9%	2.9%	45.7%	8.6%
		40歳代	37	5.4%	0.0%	2.7%	35.1%	5.4%	48.6%	8.1%
		50歳代	48	10.4%	4.2%	0.0%	29.2%	8.3%	47.9%	10.4%
		60歳代	34	17.6%	2.9%	0.0%	17.6%	8.8%	50.0%	8.8%
		70歳代	24	16.7%	0.0%	0.0%	20.8%	8.3%	54.2%	12.5%
		80歳以上	5	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%
	男性	10歳代	0	－	－	－	－	－	－	－
		20歳代	8	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		30歳代	9	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	77.8%	0.0%
		40歳代	16	6.3%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	50.0%	12.5%
		50歳代	11	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	18.2%	27.3%	36.4%
		60歳代	7	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	85.7%	0.0%
		70歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
		80歳以上	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

１１．人権の尊重について

問２２　ＤＶやセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

○ＤＶやセクハラ等をなくすために必要なことについては、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が 53.9%と最も高く、次いで「ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」45.2%、「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」43.4%となっています。

○性別でみても、男女ともに「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が最も高く、５割を超えています。



○性年代別でみると、30 歳代までの女性及び 20 歳代の男性は「ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」、40 歳代以上の女性及び 30 歳代～50 歳代、80 歳以上の男性は「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」、70 歳代男性は「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」が最も高くなっています。また、60 歳代男性は「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が同率で最も高くなっています。

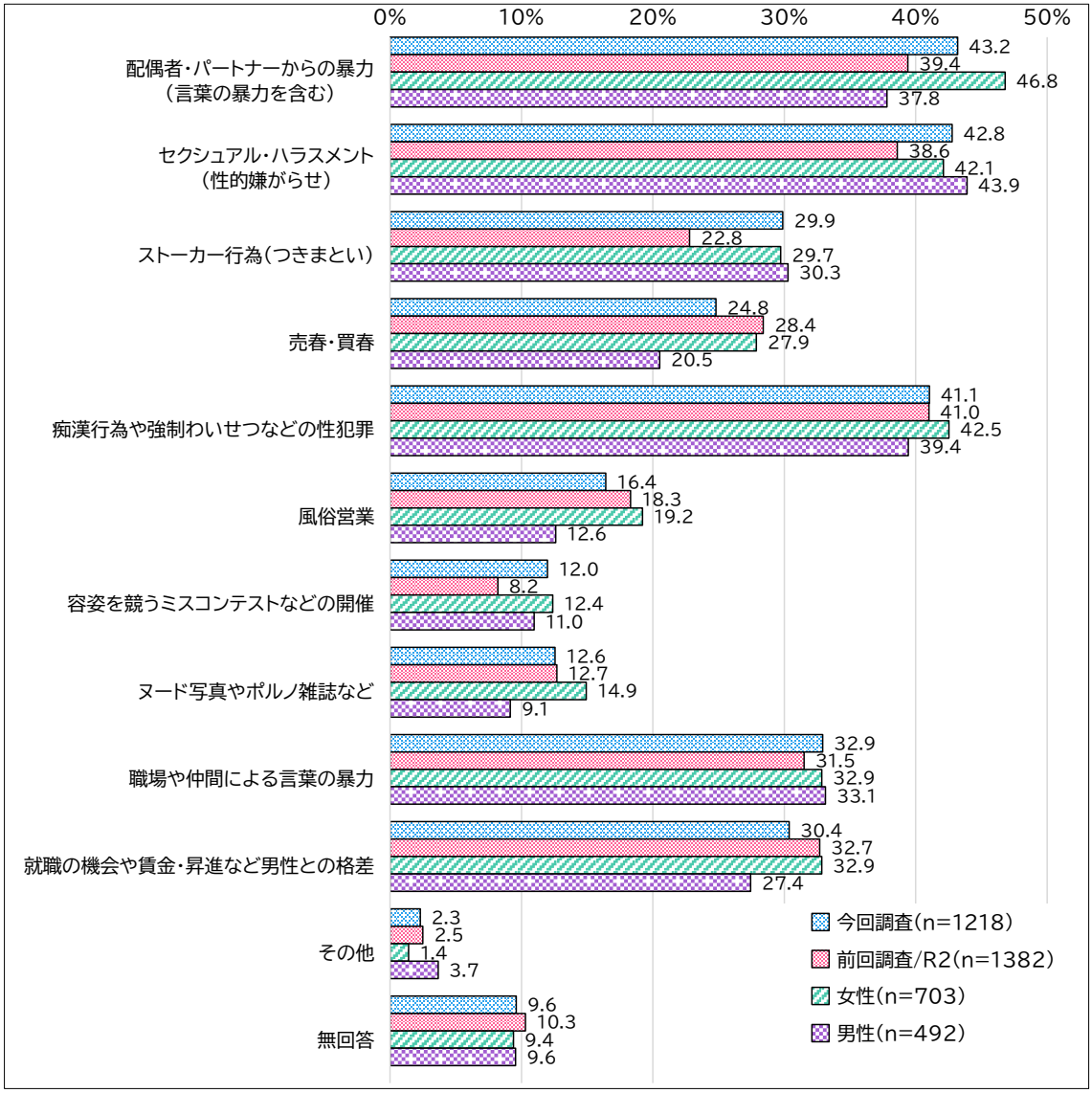
【性年代別】

		標本数（人）	相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発	不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備	苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実	警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化	学校での男女平等教育の推進	メディアの性・暴力表現の倫理強化	その他	特に必要なものはない	無回答
全体		1,218	39.4%	53.9%	45.2%	43.4%	27.1%	33.3%	18.4%	1.5%	3.2%	5.7%
■ 性年代別												
女性	10歳代	9	22.2%	55.6%	88.9%	66.7%	33.3%	77.8%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	35.2%	46.3%	61.1%	42.6%	37.0%	22.2%	14.8%	0.0%	5.6%	0.0%
	30歳代	76	32.9%	53.9%	57.9%	47.4%	25.0%	38.2%	21.1%	2.6%	3.9%	0.0%
	40歳代	88	36.4%	56.8%	46.6%	38.6%	36.4%	35.2%	18.2%	0.0%	0.0%	2.3%
	50歳代	117	36.8%	62.4%	54.7%	50.4%	33.3%	34.2%	20.5%	2.6%	1.7%	0.0%
	60歳代	143	42.7%	62.9%	46.2%	53.8%	28.7%	36.4%	21.7%	1.4%	2.1%	5.6%
	70歳代	164	34.8%	55.5%	37.8%	40.2%	19.5%	38.4%	13.4%	0.6%	3.7%	9.8%
	80歳以上	52	30.8%	46.2%	30.8%	30.8%	23.1%	30.8%	21.2%	5.8%	3.8%	25.0%
男性	10歳代	6	33.3%	50.0%	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	29.4%	50.0%	52.9%	32.4%	29.4%	17.6%	14.7%	2.9%	5.9%	2.9%
	30歳代	41	43.9%	58.5%	46.3%	29.3%	34.1%	24.4%	19.5%	2.4%	0.0%	2.4%
	40歳代	64	34.4%	45.3%	42.2%	40.6%	21.9%	23.4%	17.2%	3.1%	6.3%	1.6%
	50歳代	75	36.0%	53.3%	41.3%	49.3%	32.0%	30.7%	13.3%	1.3%	4.0%	0.0%
	60歳代	106	50.9%	50.9%	43.4%	50.0%	26.4%	40.6%	22.6%	0.9%	5.7%	0.9%
	70歳代	124	51.6%	47.6%	37.9%	36.3%	21.0%	31.5%	16.9%	0.8%	2.4%	10.5%
	80歳以上	40	47.5%	50.0%	30.0%	37.5%	25.0%	32.5%	25.0%	0.0%	5.0%	22.5%

問２３　あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。（複数回答）

○人権が尊重されていないと感じることについては、「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」が 43.2%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」42.8%、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」41.1%となっています。

○性別でみると、女性は「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）」、男性は「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が最も高くなっています。また、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」「ストーカー行為（つきまとい）」「職場や仲間による言葉の暴力」「その他」以外は、女性の割合が男性より高くなっています。



○性年代別でみると、女性は、30 歳代では「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ)」、40 歳代では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む)」「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ)」、60 歳代では「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、それ以外の年代では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む)」が最も高くなっています。一方、男性は、50 歳代では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む)」「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ)」「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、70 歳代以上では「配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む)」、それ以外の年代では「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ)」が最も高くなっています。

【性年代別】

		標本数（人）	配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	ストーカー行為（つきまとい）	売春・買春	痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪	風俗営業	容姿を競うミスコンテストなどの開催	ヌード写真やポルノ雑誌など	職場や仲間による言葉の暴力	就職の機会や賃金・昇進など男性との格差	その他	無回答
全体		1,218	43.2%	42.8%	29.9%	24.8%	41.1%	16.4%	12.0%	12.6%	32.9%	30.4%	2.3%	9.6%
■ 性年代別														
女性	10歳代	9	55.6%	88.9%	44.4%	33.3%	77.8%	11.1%	22.2%	11.1%	44.4%	66.7%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	64.8%	61.1%	46.3%	40.7%	50.0%	27.8%	18.5%	25.9%	42.6%	38.9%	1.9%	0.0%
	30歳代	76	36.8%	44.7%	32.9%	28.9%	42.1%	17.1%	11.8%	18.4%	27.6%	36.8%	1.3%	5.3%
	40歳代	88	48.9%	48.9%	25.0%	20.5%	47.7%	10.2%	11.4%	12.5%	34.1%	44.3%	2.3%	2.3%
	50歳代	117	52.1%	50.4%	30.8%	28.2%	48.7%	23.1%	17.1%	13.7%	32.5%	34.2%	0.0%	2.6%
	60歳代	143	43.4%	42.7%	30.1%	32.9%	50.3%	23.1%	13.3%	16.8%	35.7%	29.4%	2.1%	8.4%
	70歳代	164	46.3%	29.3%	22.6%	25.0%	29.9%	17.7%	7.3%	9.8%	28.7%	27.4%	0.6%	19.5%
	80歳以上	52	36.5%	19.2%	32.7%	19.2%	25.0%	15.4%	9.6%	17.3%	32.7%	19.2%	3.8%	25.0%
男性	10歳代	6	33.3%	66.7%	50.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	32.4%	52.9%	26.5%	17.6%	47.1%	5.9%	11.8%	5.9%	35.3%	32.4%	2.9%	11.8%
	30歳代	41	43.9%	46.3%	39.0%	17.1%	41.5%	7.3%	4.9%	2.4%	34.1%	24.4%	2.4%	7.3%
	40歳代	64	28.1%	43.8%	28.1%	25.0%	32.8%	14.1%	7.8%	7.8%	23.4%	28.1%	9.4%	4.7%
	50歳代	75	46.7%	46.7%	28.0%	18.7%	46.7%	10.7%	14.7%	6.7%	34.7%	32.0%	2.7%	2.7%
	60歳代	106	34.9%	53.8%	34.9%	20.8%	45.3%	11.3%	13.2%	8.5%	34.0%	34.0%	3.8%	4.7%
	70歳代	124	40.3%	34.7%	26.6%	19.4%	32.3%	14.5%	12.1%	12.9%	37.9%	22.6%	0.8%	16.1%
	80歳以上	40	35.0%	30.0%	27.5%	22.5%	30.0%	17.5%	7.5%	15.0%	32.5%	20.0%	5.0%	22.5%

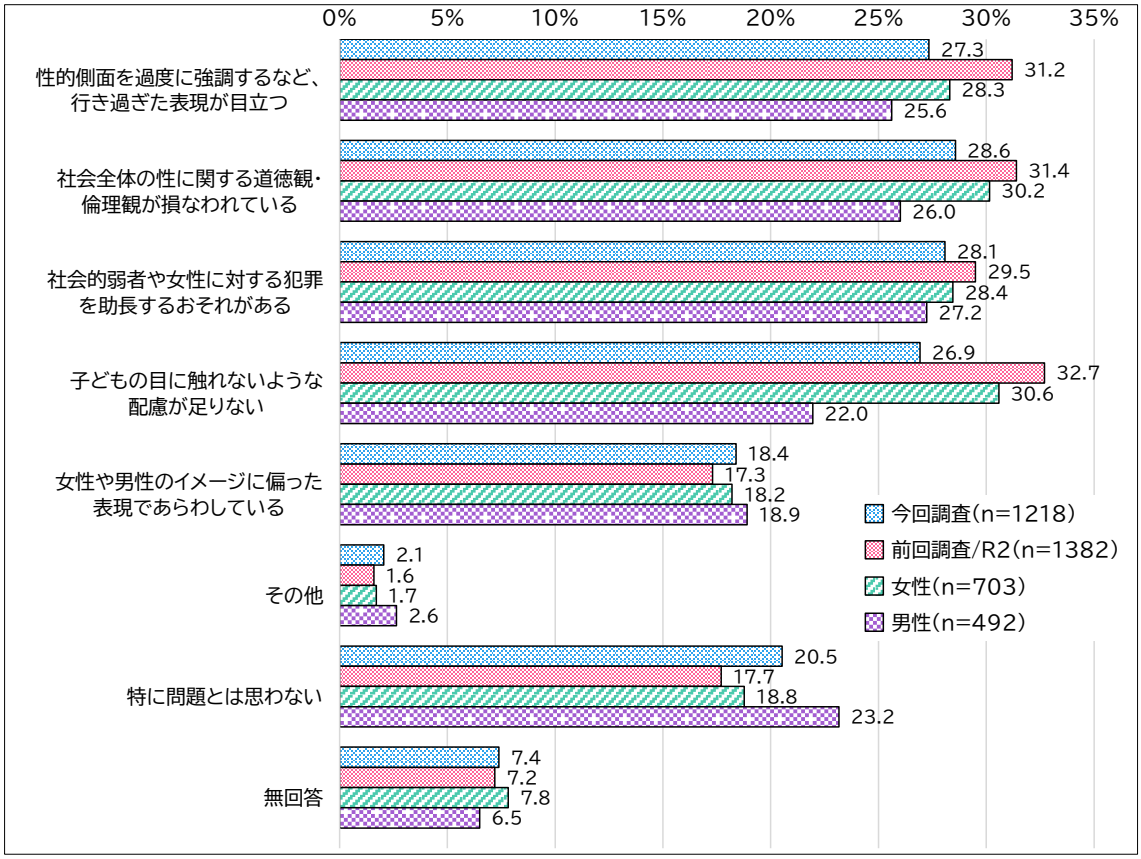
１２．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問２４　メディア（テレビや映画、出版物）における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。（複数回答）

○メディアにおける性・暴力表現については、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が 28.6%と最も高く、次いで「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」28.1%、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」27.3%となっています。

○前回調査との比較をみると、前回調査では「子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も高くなっていましたが、今回調査では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が最も高くなっています。

○性別でみると、女性は「子どもの目に触れないような配慮が足りない」、男性は「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」が最も高くなっています。



○性年代別でみると、女性は、20 歳代～30 歳代では「特に問題とは思わない」、40 歳代では「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」、50 歳代及び 70 歳代では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、60 歳代では「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」、80 歳以上では「子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も高くなっています。一方、男性は、20 歳代～40 歳代では「特に問題とは思わない」、50 歳代及び 70 歳代では「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」、60 歳代及び 80 歳以上では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が最も高くなっており、20 歳代男性では「子どもの目に触れないような配慮が足りない」「女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている」も同率で最も高くなっています。

【性年代別】

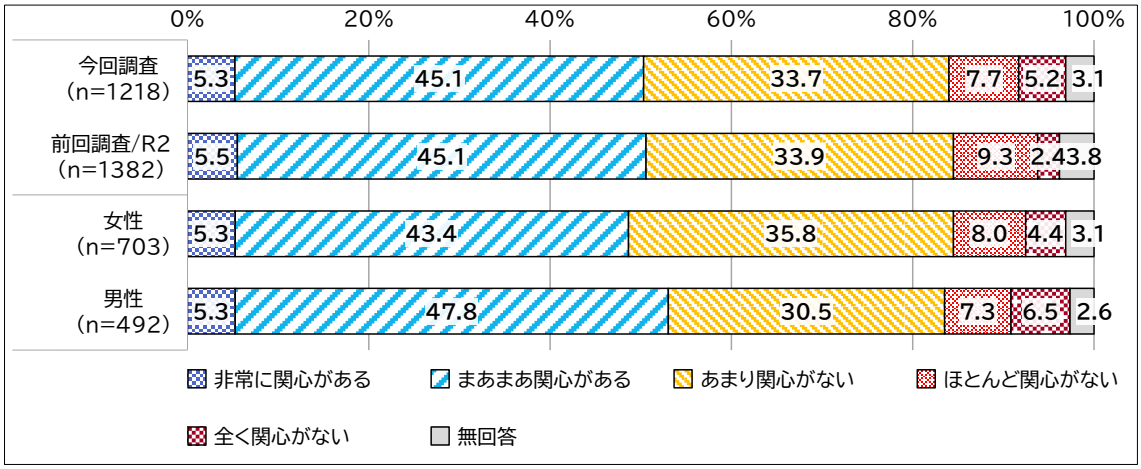
		標本数（人）	性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある	子どもの目に触れないような配慮が足りない	女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている	その他	特に問題とは思わない	無回答
全体		1,218	27.3%	28.6%	28.1%	26.9%	18.4%	2.1%	20.5%	7.4%
■ 性 年 代 別										
女性	10歳代	9	33.3%	0.0%	33.3%	22.2%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%
	20歳代	54	22.2%	20.4%	16.7%	25.9%	24.1%	0.0%	35.2%	0.0%
	30歳代	76	18.4%	15.8%	19.7%	28.9%	21.1%	0.0%	32.9%	1.3%
	40歳代	88	30.7%	8.0%	23.9%	28.4%	23.9%	2.3%	29.5%	1.1%
	50歳代	117	25.6%	32.5%	26.5%	31.6%	21.4%	3.4%	18.8%	2.6%
	60歳代	143	30.8%	39.2%	44.8%	35.0%	16.1%	1.4%	9.8%	10.5%
	70歳代	164	32.3%	45.1%	28.0%	29.3%	11.0%	1.2%	10.4%	13.4%
	80歳以上	52	30.8%	26.9%	21.2%	32.7%	17.3%	3.8%	11.5%	25.0%
男性	10歳代	6	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	66.7%	16.7%
	20歳代	34	14.7%	11.8%	17.6%	26.5%	26.5%	5.9%	26.5%	2.9%
	30歳代	41	19.5%	7.3%	19.5%	14.6%	29.3%	4.9%	48.8%	0.0%
	40歳代	64	20.3%	20.3%	10.9%	17.2%	18.8%	4.7%	35.9%	4.7%
	50歳代	75	29.3%	21.3%	34.7%	25.3%	14.7%	2.7%	21.3%	2.7%
	60歳代	106	25.5%	34.0%	29.2%	23.6%	21.7%	2.8%	16.0%	3.8%
	70歳代	124	30.6%	33.9%	35.5%	22.6%	14.5%	0.0%	15.3%	10.5%
	80歳以上	40	27.5%	32.5%	27.5%	22.5%	17.5%	2.5%	15.0%	20.0%

１３．男女共同参画に関するご意見やご要望

問２５　あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。（単数回答）

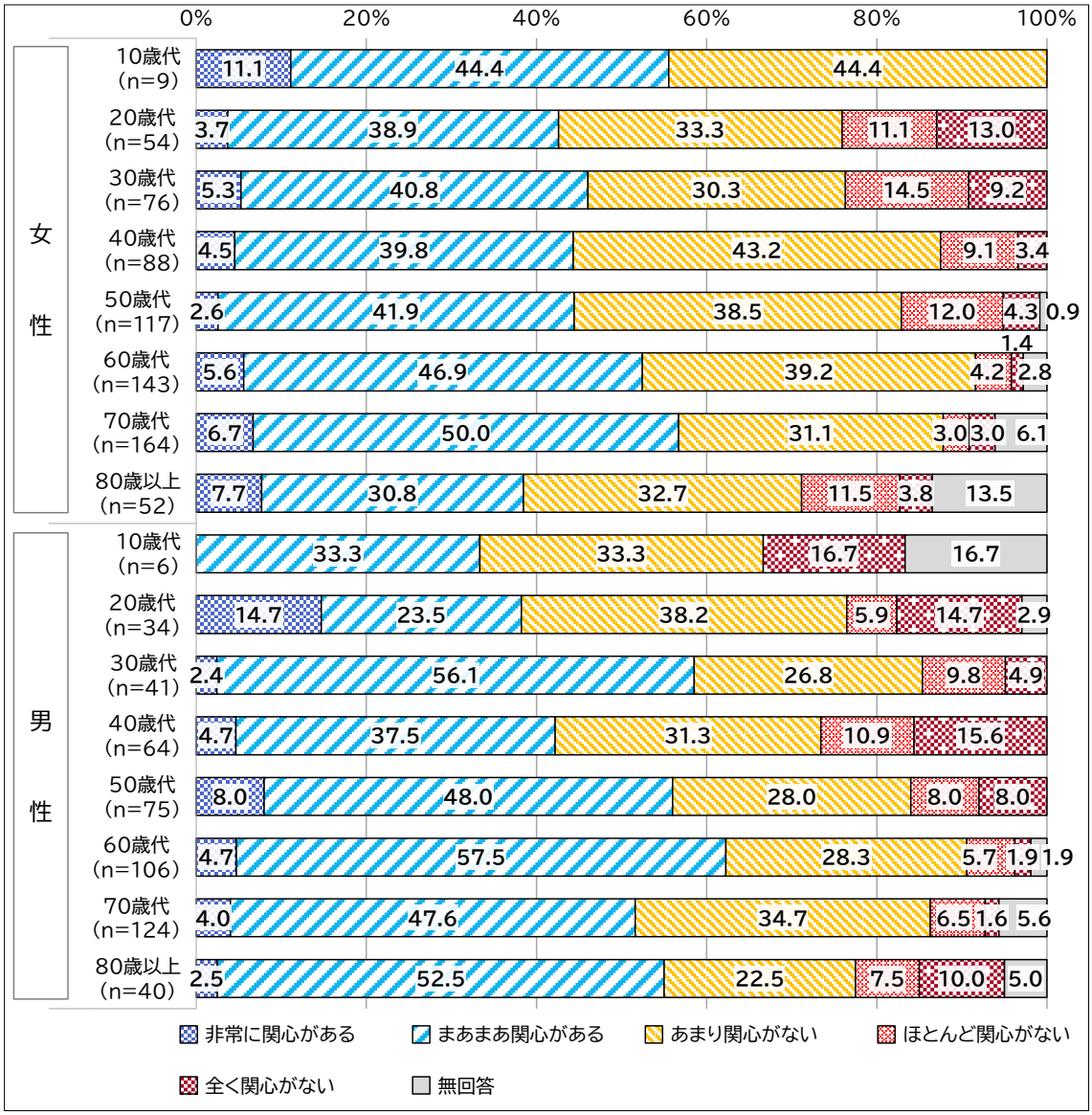
○男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心度については、「まあまあ関心がある」が 45.1%と最も高く、次いで「あまり関心がない」33.7%、「ほとんど関心がない」7.7%となっており、５割は『関心がある：非常に関心がある＋まあまあ関心がある』と回答しています。

○性別でみても、男女ともに５割前後が『関心がある』と回答しています。



○性年代別でみると、女性は、20 歳代～50 歳代では『関心がない：全く関心がない＋ほとんど関心がない＋あまり関心がない』が５割を超えており、『関心がある』を上回っています。一方男性は、30 歳代及び 50 歳代以上では『関心がある』の割合が高く、特に 60 歳代は６割を超えています。

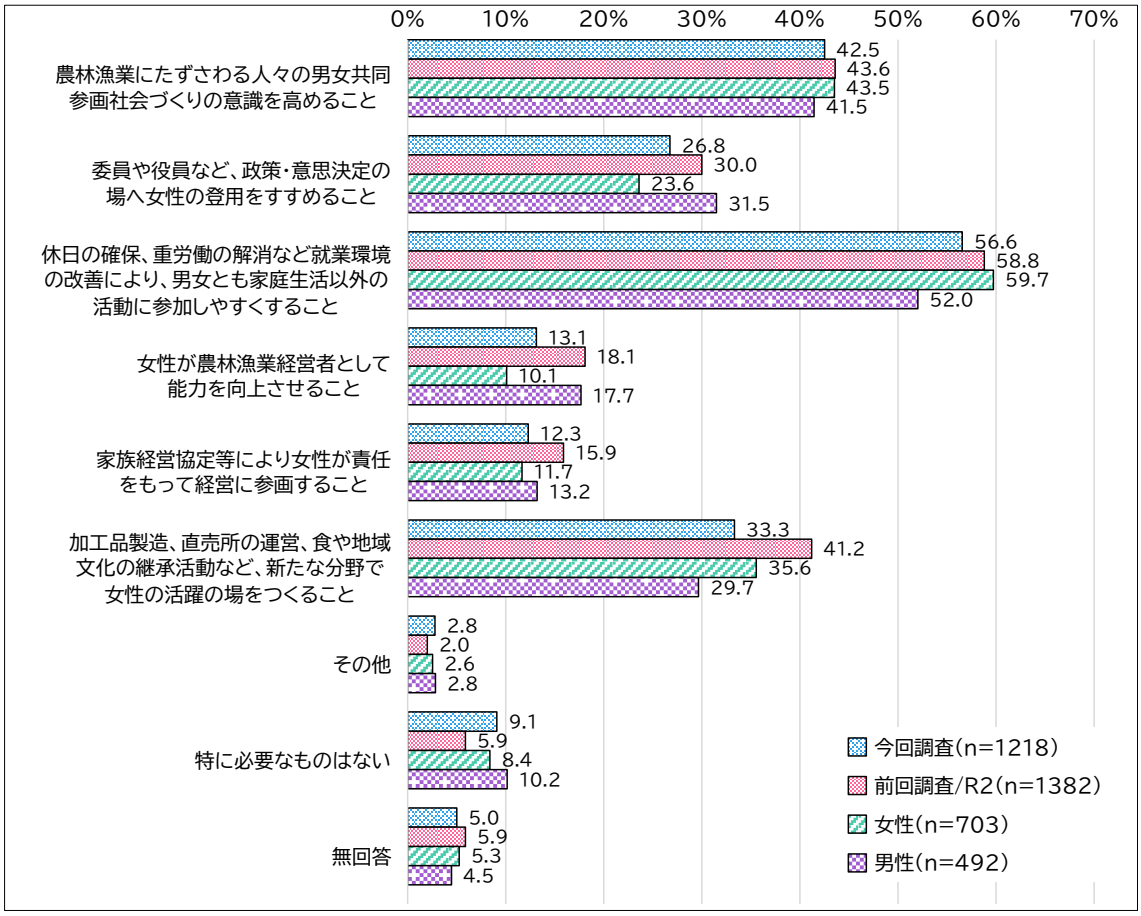
【性年代別】



問２６　農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思いますか。（複数回答）

○農林漁業の分野で男女共同参画を進めるために必要なこととして、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」が 56.6%と最も高く、次いで「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」42.5%、「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」33.3%となっています。

○性別でみると、男女ともに「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」が最も高く、５割を超えています。



○性年代別でみると、男女ともに「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」が最も高く、加えて 20 歳代の男性は「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」、80 歳以上の男性は「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」が同率で最も高くなっています。

【性年代・本人の職業別】

		標本数（人）	農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること	委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること	休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること	女性が農林漁業経営者として能力を向上させること	家族経営協定等により女性が責任をもって経営に参画すること	加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること	その他	特に必要なものはない	無回答
全体		1,218	42.5%	26.8%	56.6%	13.1%	12.3%	33.3%	2.8%	9.1%	5.0%
■ 性年代別											
女性	10歳代	9	44.4%	55.6%	33.3%	33.3%	22.2%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%
	20歳代	54	48.1%	20.4%	53.7%	1.9%	9.3%	20.4%	1.9%	25.9%	1.9%
	30歳代	76	34.2%	22.4%	61.8%	13.2%	5.3%	34.2%	1.3%	11.8%	1.3%
	40歳代	88	46.6%	21.6%	62.5%	12.5%	9.1%	26.1%	1.1%	9.1%	2.3%
	50歳代	117	49.6%	28.2%	56.4%	10.3%	5.1%	31.6%	5.1%	3.4%	2.6%
	60歳代	143	42.0%	23.1%	61.5%	10.5%	13.3%	37.1%	2.8%	5.6%	7.0%
	70歳代	164	42.7%	22.6%	64.0%	7.9%	17.7%	43.3%	0.6%	6.1%	9.8%
	80歳以上	52	40.4%	21.2%	51.9%	11.5%	17.3%	46.2%	5.8%	11.5%	7.7%
男性	10歳代	6	66.7%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%
	20歳代	34	41.2%	17.6%	41.2%	8.8%	0.0%	8.8%	8.8%	14.7%	2.9%
	30歳代	41	41.5%	26.8%	56.1%	22.0%	12.2%	22.0%	2.4%	7.3%	2.4%
	40歳代	64	42.2%	25.0%	45.3%	18.8%	17.2%	26.6%	4.7%	14.1%	3.1%
	50歳代	75	42.7%	32.0%	56.0%	16.0%	10.7%	29.3%	1.3%	13.3%	1.3%
	60歳代	106	37.7%	39.6%	62.3%	18.9%	13.2%	28.3%	2.8%	10.4%	1.9%
	70歳代	124	44.4%	30.6%	50.8%	17.7%	17.7%	37.1%	1.6%	5.6%	7.3%
	80歳以上	40	35.0%	42.5%	42.5%	15.0%	12.5%	42.5%	2.5%	7.5%	12.5%
■ 本人の職業別											
	自営業主	125	40.8%	32.8%	45.6%	19.2%	15.2%	25.6%	2.4%	10.4%	5.6%
	家族従事者	49	40.8%	16.3%	51.0%	14.3%	30.6%	30.6%	0.0%	8.2%	6.1%
	正規雇用者	378	43.9%	27.8%	56.3%	13.2%	9.8%	28.0%	3.2%	10.3%	2.1%
	非正規雇用者	210	38.1%	23.8%	62.4%	11.0%	6.2%	36.2%	3.8%	9.0%	3.3%
	主婦・主夫	146	51.4%	24.7%	66.4%	9.6%	15.1%	43.8%	3.4%	2.7%	4.1%
	学生	21	71.4%	38.1%	47.6%	23.8%	14.3%	33.3%	4.8%	4.8%	0.0%
	無職	254	39.0%	26.8%	52.8%	13.4%	13.0%	37.0%	1.2%	10.6%	11.0%
	その他	15	26.7%	26.7%	53.3%	13.3%	33.3%	20.0%	0.0%	20.0%	13.3%

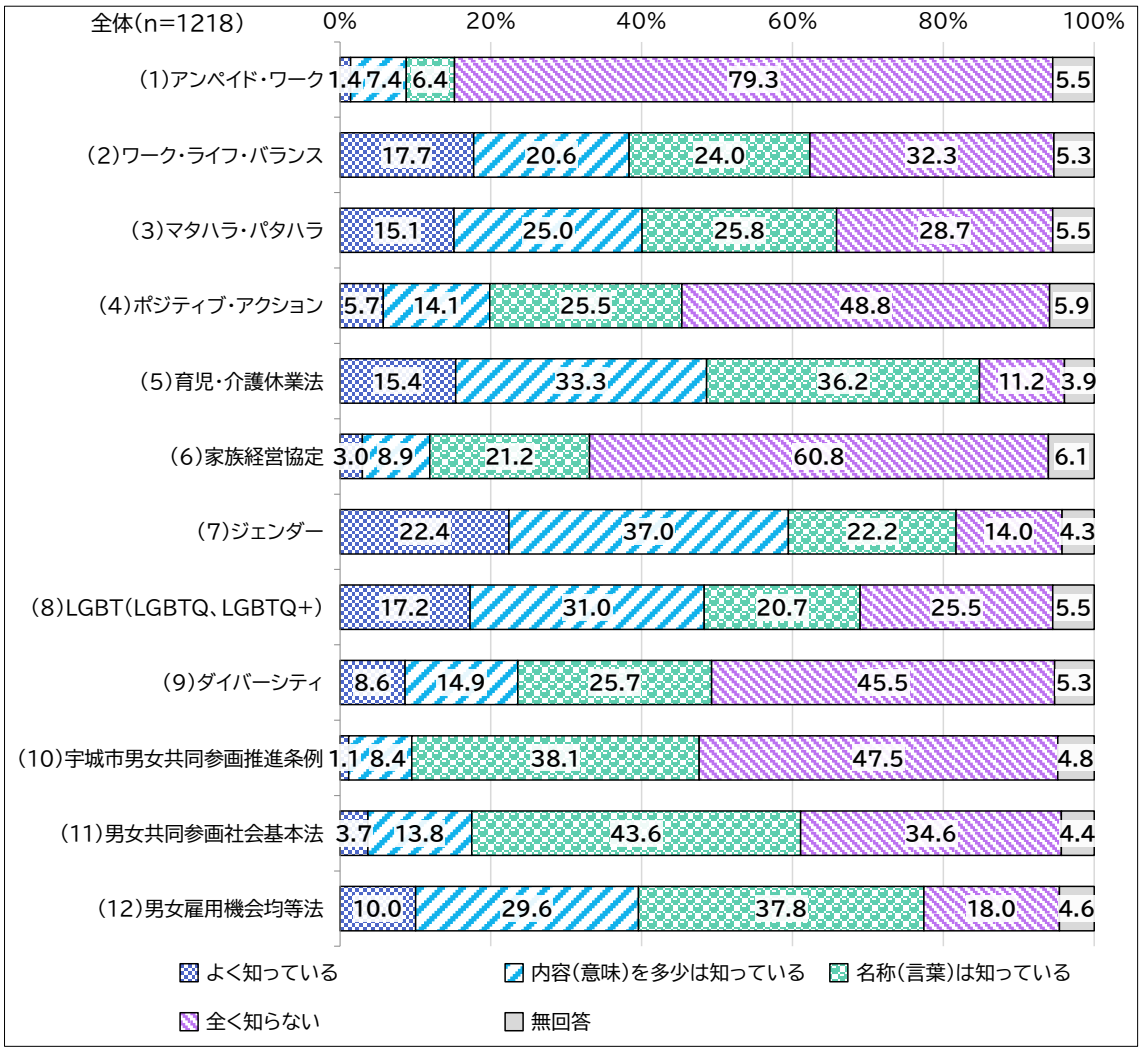
問２７　次の言葉のうち、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。（単数回答）

○男女共同参画に関連する用語の認知度について、『知っている：よく知っている＋内容（意味）を多少は知っている』が最も高いのは、「（７）ジェンダー」59.4%、次いで「（５）育児・介護休業法」48.7%、「（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ＋）」48.2%となっており、「（３）マタハラ・パタハラ」も４割を超えています。

○「名称（言葉）は知っている」が最も高いのは、「（11）男女共同参画社会基本法」43.6%、次いで「（10）宇城市男女共同参画推進条例」38.1%、「（12）男女雇用機会均等法」37.8%となっており、「（５）育児・介護休業法」も３割を超えています。

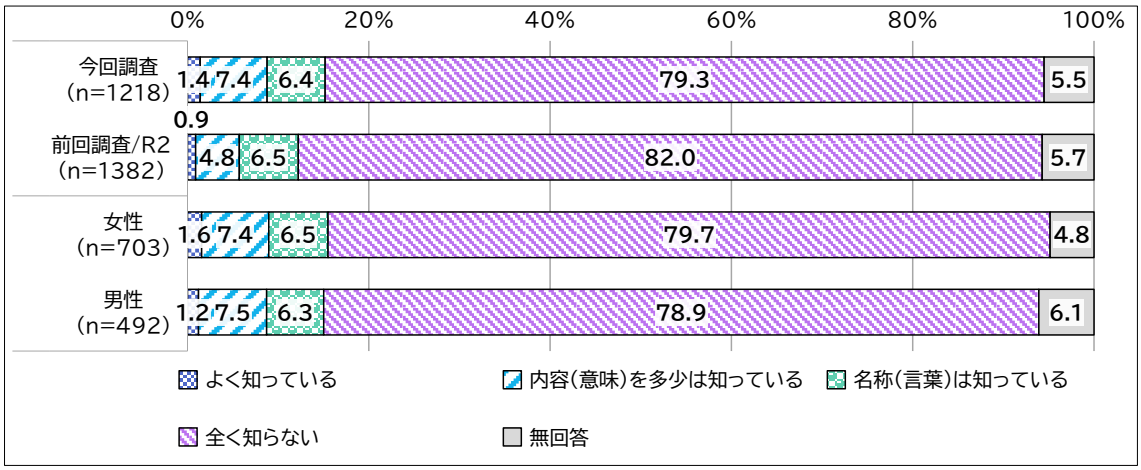
○「全く知らない」が最も高いのは、「（１）アンペイド・ワーク」79.3%、次いで「（６）家族経営協定」60.8%、「（４）ポジティブ・アクション」48.8%となっており、「（９）ダイバーシティ」「（10）宇城市男女共同参画推進条例」も４割を超えています。

○「（２）ワーク・ライフ・バランス」「（３）マタハラ・パタハラ」「（５）育児・介護休業法」「（７）ジェンダー」「（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ+）」「（12）男女雇用機会均等法」は『知っている』、「（11）男女共同参画社会基本法」は「名称（言葉）は知っている」、それ以外の用語は「全く知らない」が最も高くなっています。

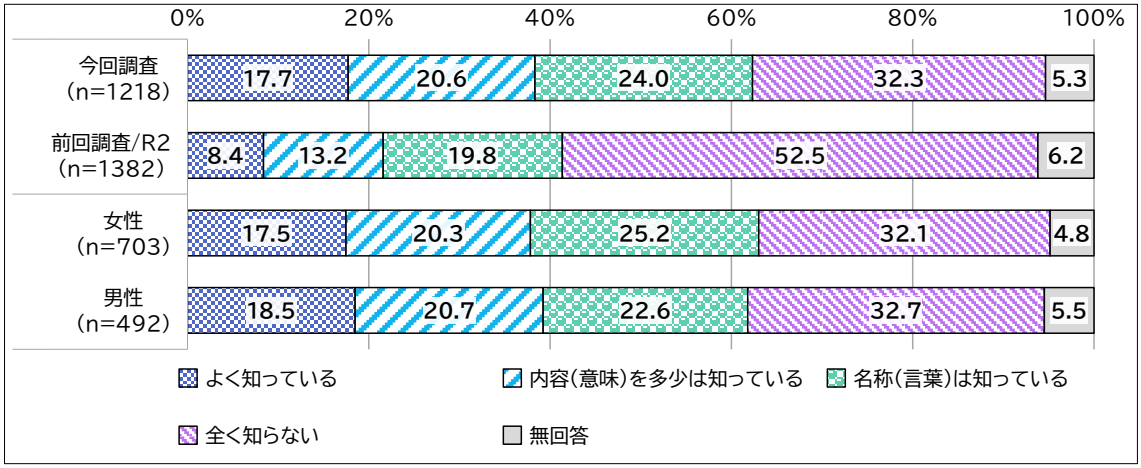


○前回調査との比較をみると、「（２）ワーク・ライフ・バランス」「（７）ジェンダー」「（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ＋）」「（９）ダイバーシティ」は『知っている』が高く、「全く知らない」が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。
○性別でみると、男女ともに『知っている』では「（５）育児・介護休業法」「（７）ジェンダー」「（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ＋）」が上位を占めています。反対に、「全く知らない」では、男女ともに「（１）アンペイド・ワーク」が最も高く、次いで「（６）家族経営協定」、続いて女性は「（４）ポジティブ・アクション」、男性は「(10) 宇城市男女共同参画推進条例」となっています。

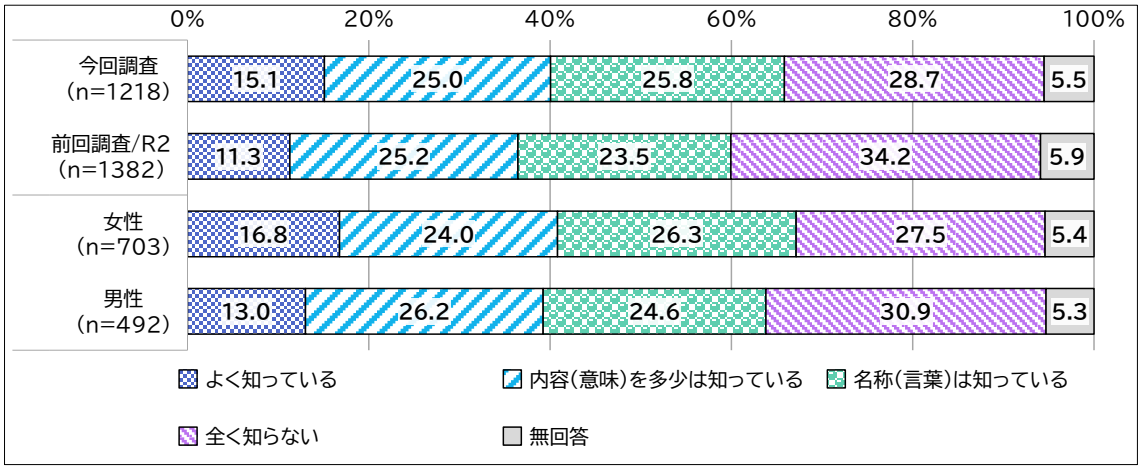
（１）アンペイド・ワーク



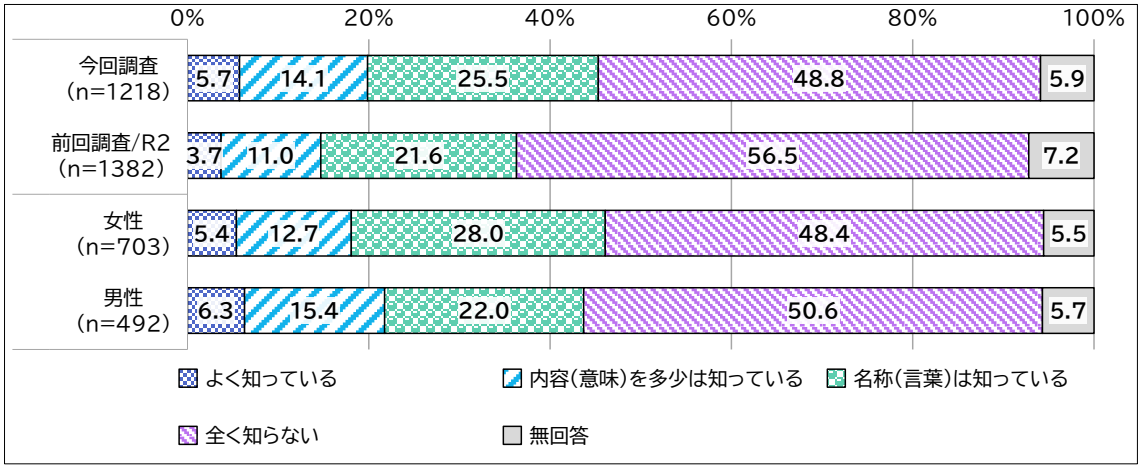
（２）ワーク・ライフ・バランス



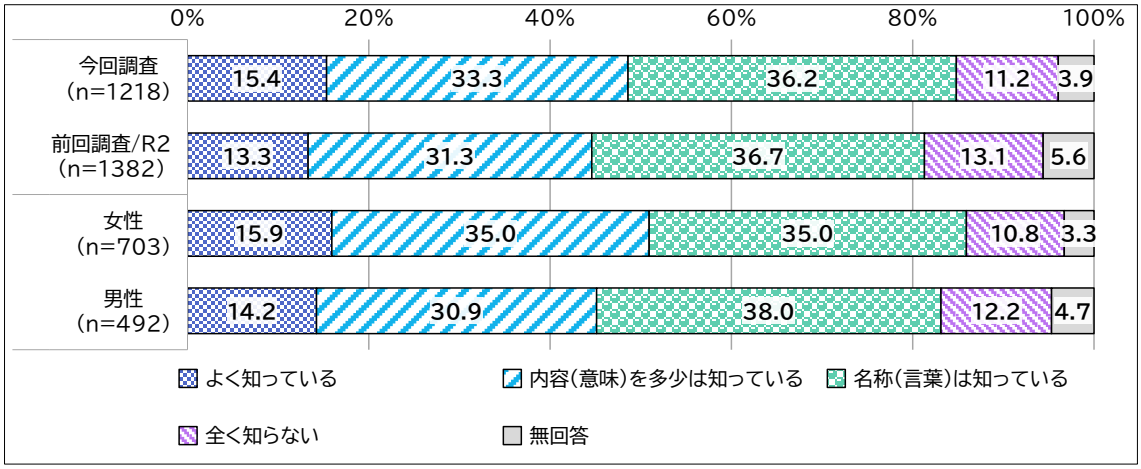
（3）マタハラ・パタハラ



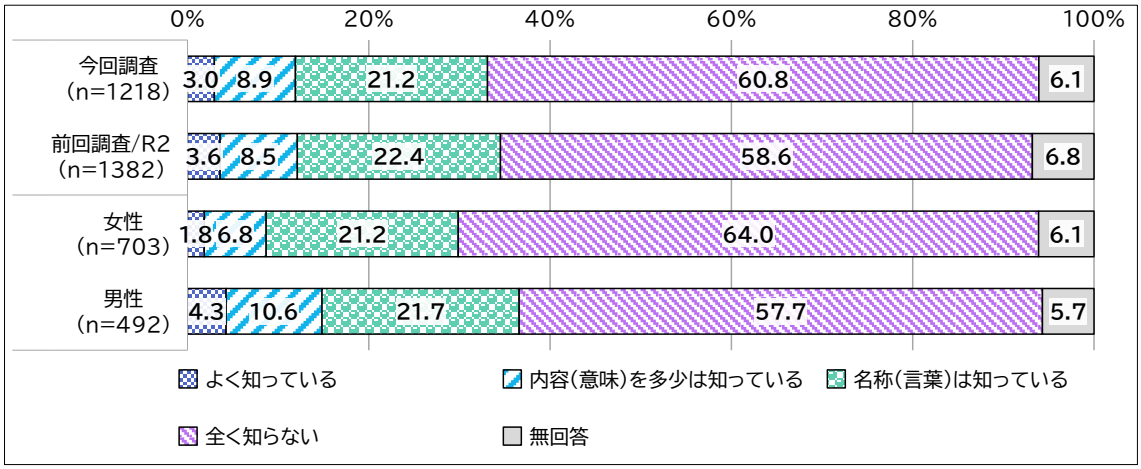
（4）ポジティブ・アクション



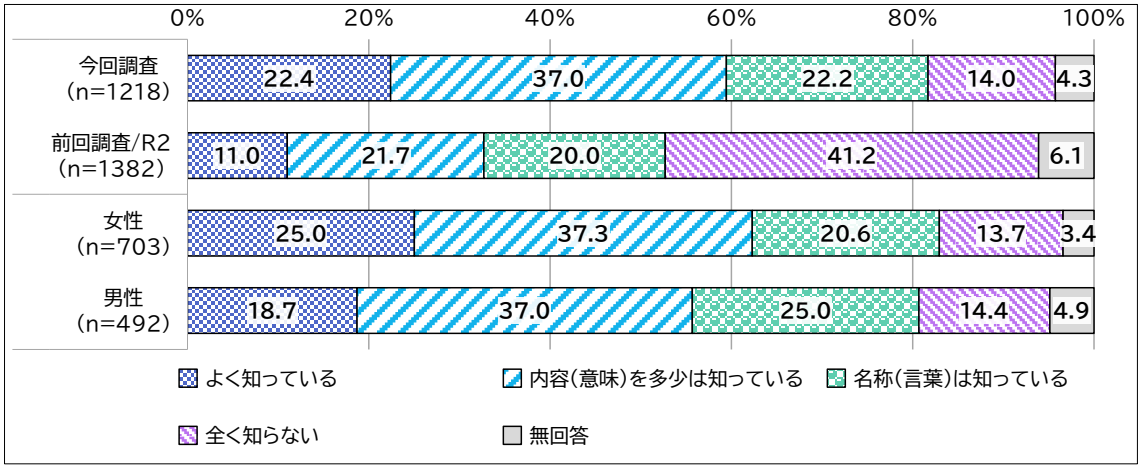
（5）育児・介護休業法



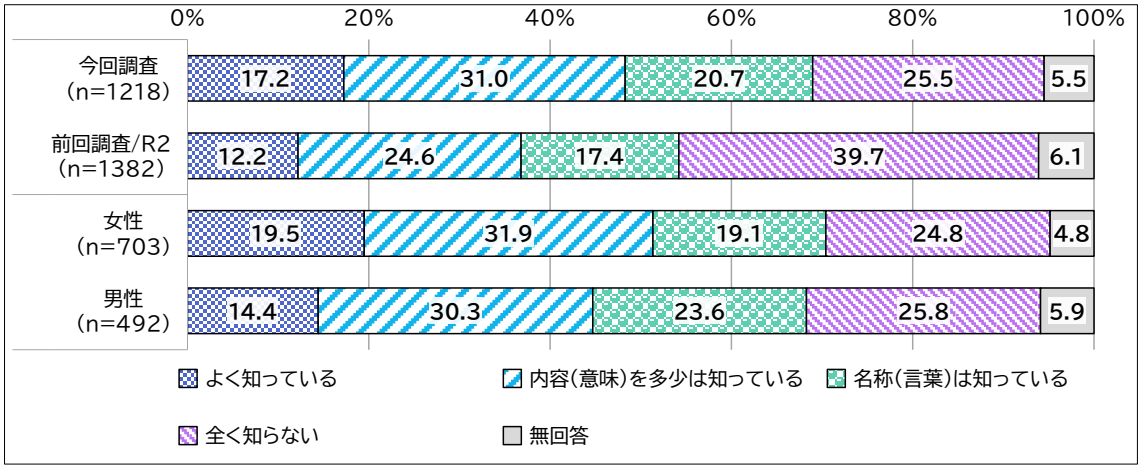
（６）家族経営協定



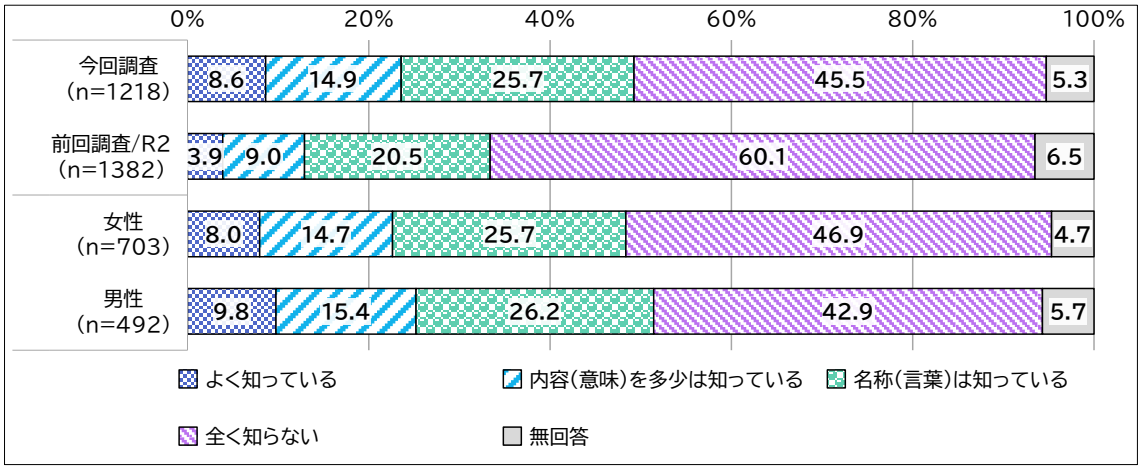
（７）ジェンダー



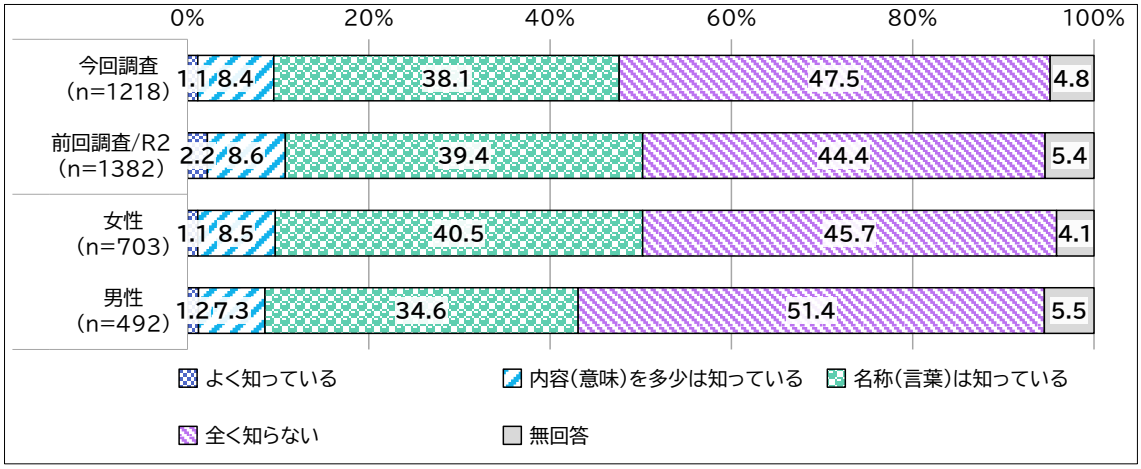
（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ+）



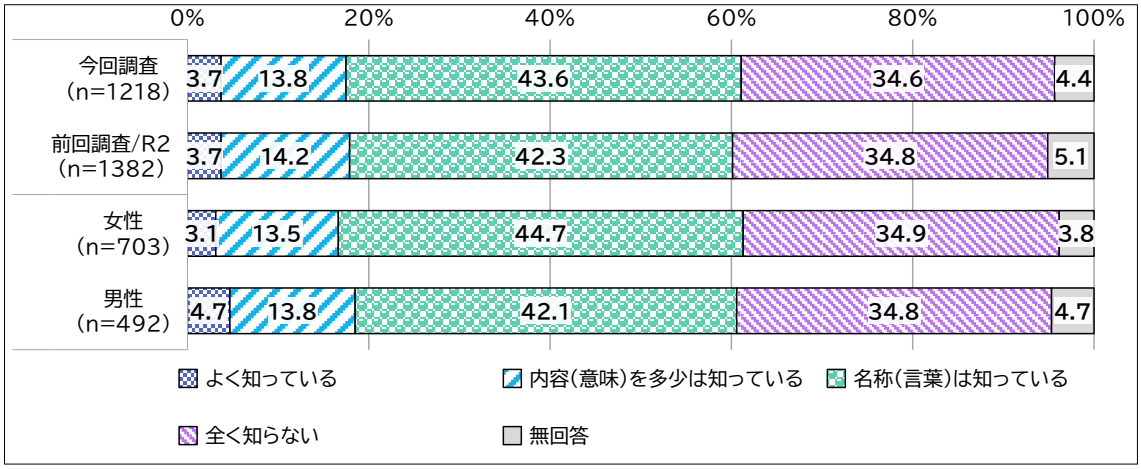
（９）ダイバーシティ



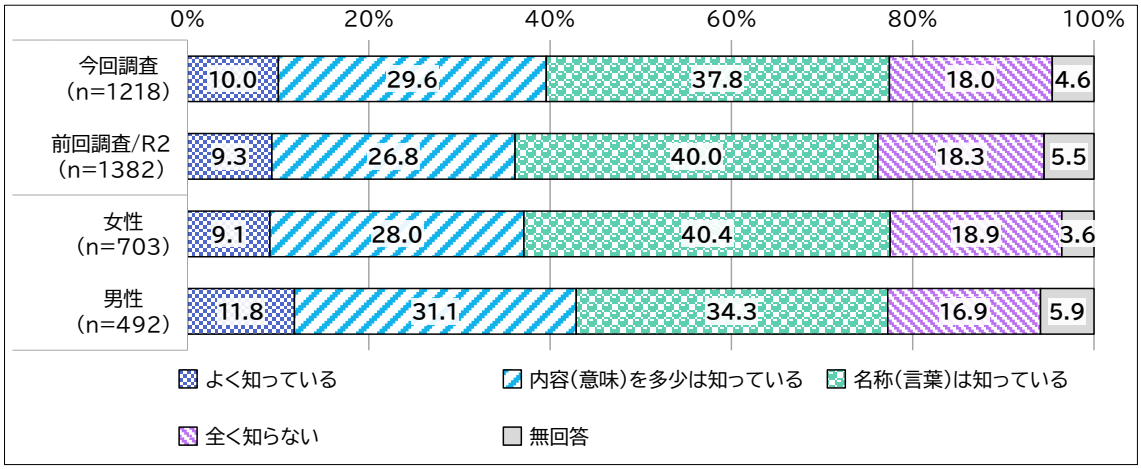
（１０）宇城市男女共同参画推進条例



（１１）男女共同参画社会基本法



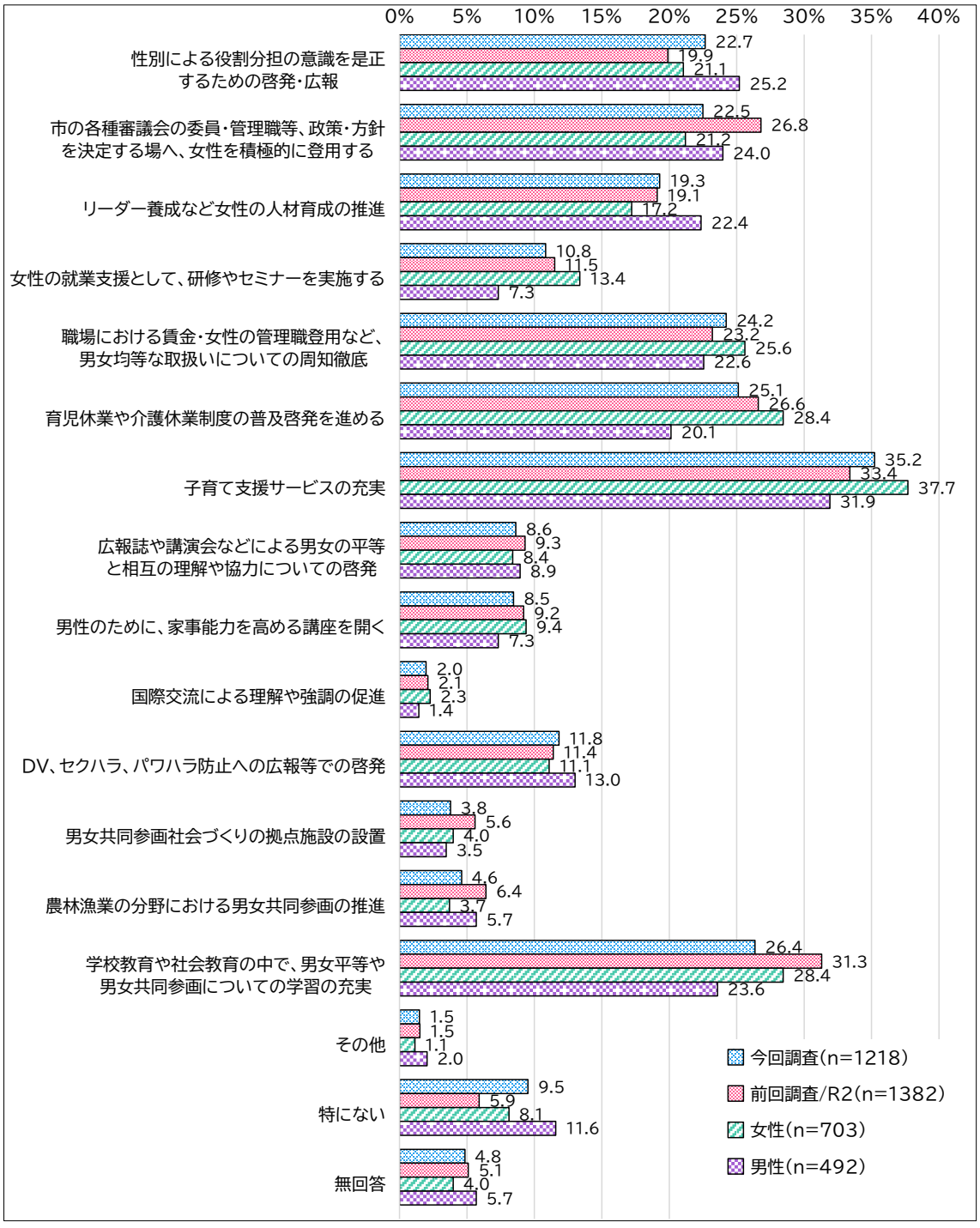
（１２）男女雇用機会均等法



問２８　「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。（複数回答）

○「男女共同参画社会」の実現のために宇城市に望む施策については、「子育て支援サービスの充実」が 35.2%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」26.4%、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」25.1%となっています。

○性別でみても、男女ともに「子育て支援サービスの充実」が最も高くなっています。



○性年代別でみると、女性は、50 歳代では「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底」、70 歳代では「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」、80 歳以上では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」が最も高く、それ以外の年代は「子育て支援サービスの充実」が最も高くなっています。一方男性は、20 歳代～40 歳代では「子育て支援サービスの充実」、50 歳代及び 80 歳以上では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」、60 歳代では「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」、70 歳代では「性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報」が最も高くなっています。

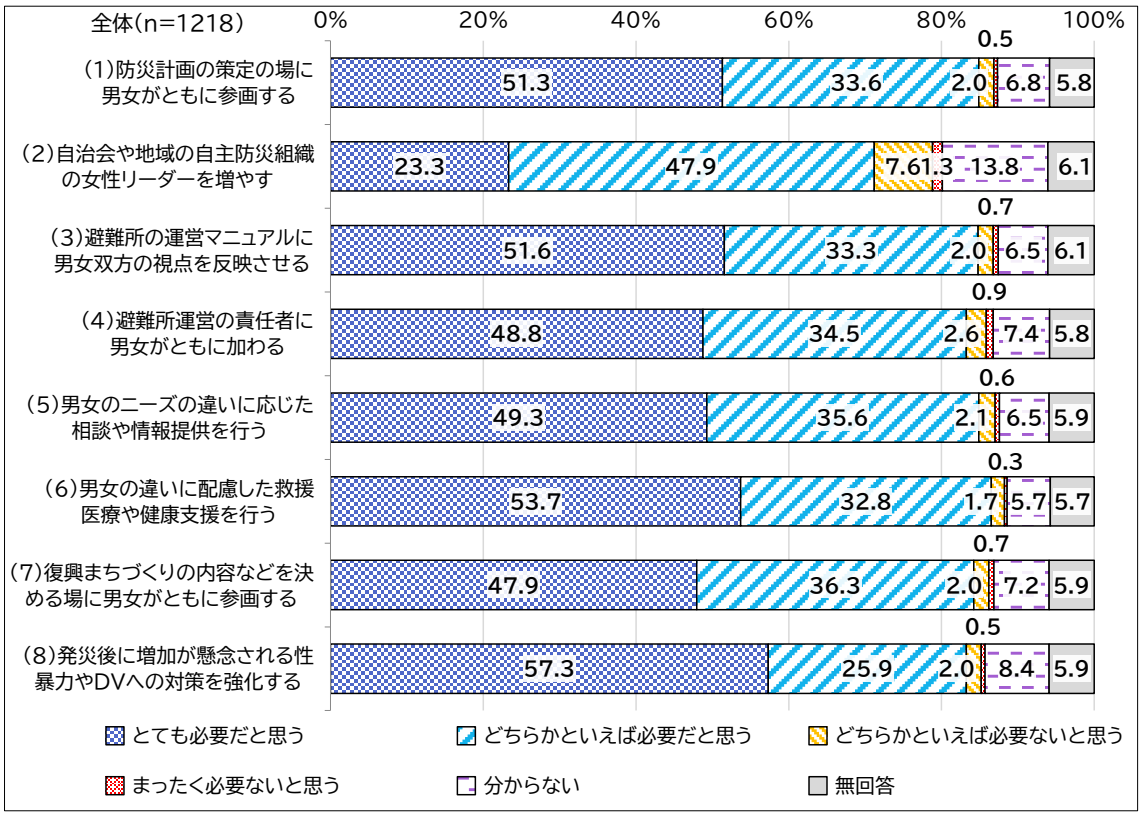
【性年代別】

		標本数（人）	性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報	市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する	リーダー養成など女性の人材育成の推進	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底	育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める	子育て支援サービスの充実	広報誌や講演会などによる男女の平等と相互の理解や協力についての啓発	男性のために、家事能力を高める講座を開く	国際交流による理解や強調の促進	DV、セクハラ、パワハラ防止への広報等での啓発	男女共同参画社会づくりの拠点施設の設置	農林漁業の分野における男女共同参画の推進	学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実	その他	特にない	無回答
全体		1,218	22.7%	22.5%	19.3%	10.8%	24.2%	25.1%	35.2%	8.6%	8.5%	2.0%	11.8%	3.8%	4.6%	26.4%	1.5%	9.5%	4.8%
■性年代別																			
女性	10歳代	9	33.3%	0.0%	22.2%	11.1%	11.1%	44.4%	55.6%	0.0%	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
	20歳代	54	29.6%	18.5%	14.8%	9.3%	16.7%	31.5%	48.1%	1.9%	11.1%	5.6%	14.8%	1.9%	1.9%	16.7%	0.0%	11.1%	0.0%
	30歳代	76	17.1%	11.8%	14.5%	14.5%	23.7%	34.2%	63.2%	0.0%	5.3%	3.9%	10.5%	0.0%	1.3%	25.0%	2.6%	13.2%	1.3%
	40歳代	88	14.8%	14.8%	13.6%	14.8%	42.0%	26.1%	51.1%	2.3%	10.2%	1.1%	8.0%	3.4%	5.7%	22.7%	1.1%	6.8%	1.1%
	50歳代	117	27.4%	23.1%	23.1%	11.1%	34.2%	21.4%	31.6%	6.0%	9.4%	4.3%	8.5%	2.6%	0.9%	29.9%	0.9%	7.7%	1.7%
	60歳代	143	23.1%	28.7%	15.4%	17.5%	23.1%	35.0%	35.7%	5.6%	11.2%	0.7%	11.2%	4.9%	4.9%	31.5%	0.7%	5.6%	3.5%
	70歳代	164	18.9%	23.2%	17.7%	12.8%	20.7%	22.6%	23.8%	20.7%	7.9%	1.2%	12.8%	6.1%	4.9%	35.4%	0.6%	7.9%	7.3%
	80歳以上	52	13.5%	21.2%	19.2%	9.6%	15.4%	34.6%	26.9%	13.5%	7.7%	0.0%	13.5%	5.8%	5.8%	25.0%	3.8%	7.7%	13.5%
男性	10歳代	6	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%
	20歳代	34	20.6%	11.8%	11.8%	8.8%	8.8%	23.5%	41.2%	2.9%	8.8%	0.0%	26.5%	0.0%	5.9%	2.9%	2.9%	20.6%	2.9%
	30歳代	41	19.5%	12.2%	19.5%	0.0%	24.4%	26.8%	58.5%	7.3%	12.2%	4.9%	9.8%	0.0%	4.9%	14.6%	2.4%	14.6%	0.0%
	40歳代	64	21.9%	18.8%	18.8%	7.8%	20.3%	26.6%	37.5%	0.0%	4.7%	0.0%	10.9%	0.0%	3.1%	17.2%	6.3%	14.1%	3.1%
	50歳代	75	25.3%	33.3%	21.3%	9.3%	28.0%	14.7%	26.7%	5.3%	6.7%	2.7%	13.3%	2.7%	6.7%	21.3%	2.7%	13.3%	2.7%
	60歳代	106	27.4%	31.1%	31.1%	10.4%	30.2%	17.9%	28.3%	10.4%	5.7%	0.9%	14.2%	2.8%	5.7%	34.9%	0.9%	7.5%	2.8%
	70歳代	124	28.2%	21.0%	21.8%	5.6%	21.0%	21.8%	26.6%	16.1%	8.1%	0.0%	10.5%	7.3%	6.5%	25.8%	0.8%	8.9%	9.7%
	80歳以上	40	25.0%	32.5%	22.5%	7.5%	15.0%	12.5%	20.0%	12.5%	7.5%	2.5%	10.0%	5.0%	5.0%	27.5%	0.0%	15.0%	17.5%

１４．災害・復興における男女共同参画について

問２９　大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。（単数回答）

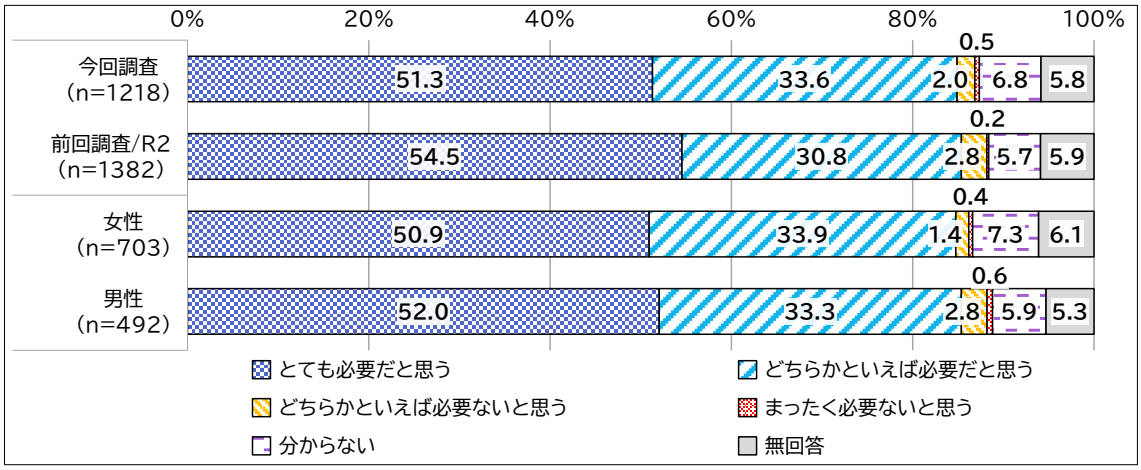
○大規模災害に備え、性別に配慮した取り組みが必要か尋ねたところ、「（２）自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」以外はどの取り組みも「とても必要だと思う」が最も高くなっており、どの取り組みも『必要だと思う：とても必要だと思う＋どちらかといえば必要だと思う』が７割を超えています。



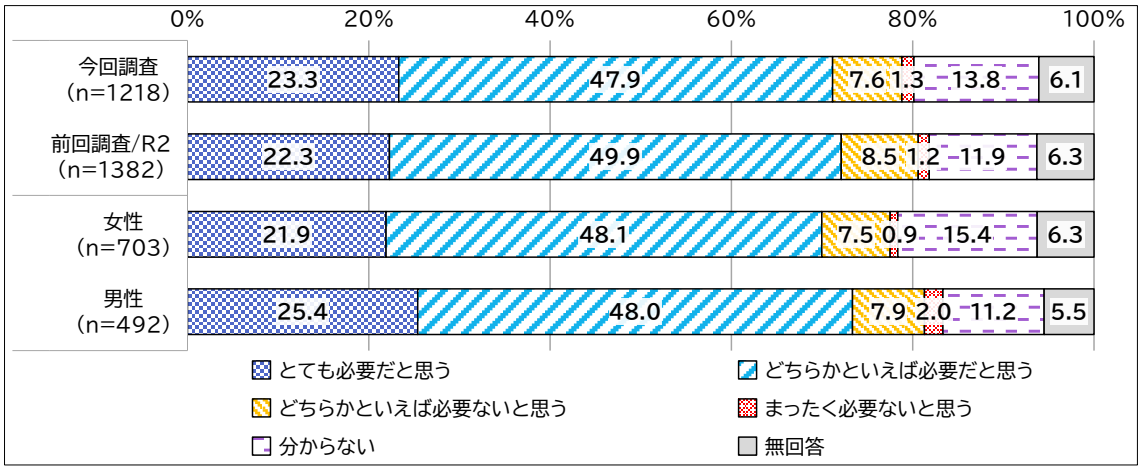
○前回調査との比較では、特に大きな差はみられませんでしたが、「（８）発災後に増加が懸念される性暴力やＤＶへの対策を強化する」以外はどの取り組みも『必要である』が低くなっています。

○性別でみると、男女ともにどの取り組みも『必要である』が７割を超えています。また、女性はどの取り組みも『必要ないと思う：まったく必要ないと思う＋どちらかといえば必要ないと思う』が男性より低くなっています。

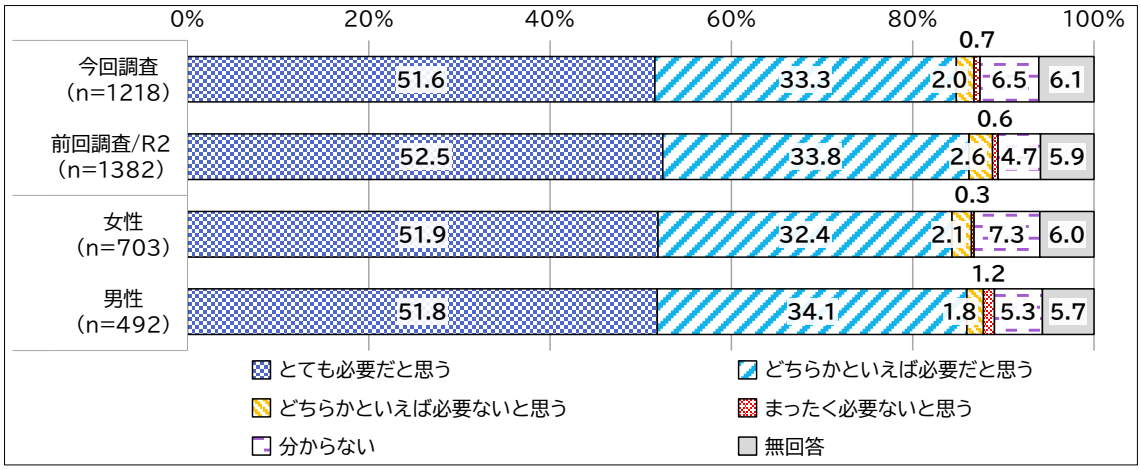
（１）防災計画の策定の場に男女がともに参画する



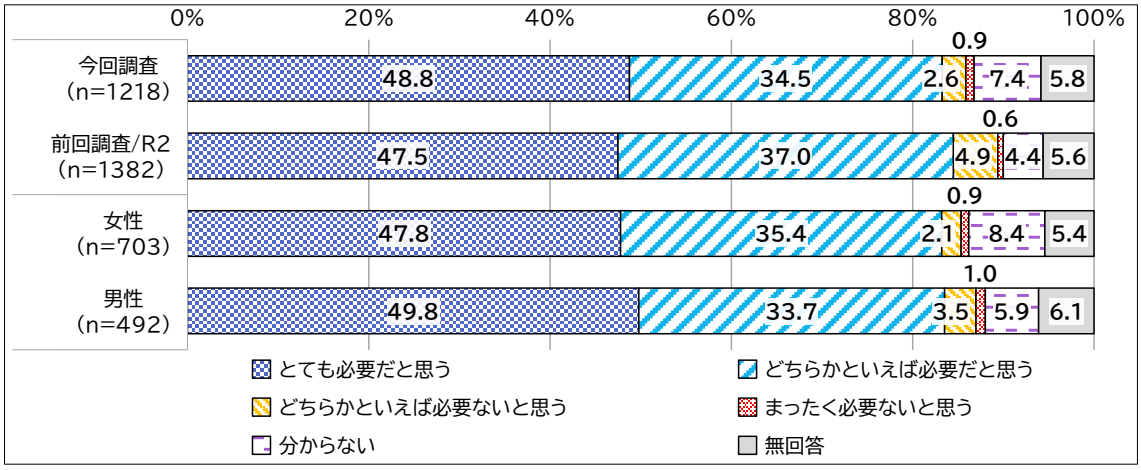
（２）自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす



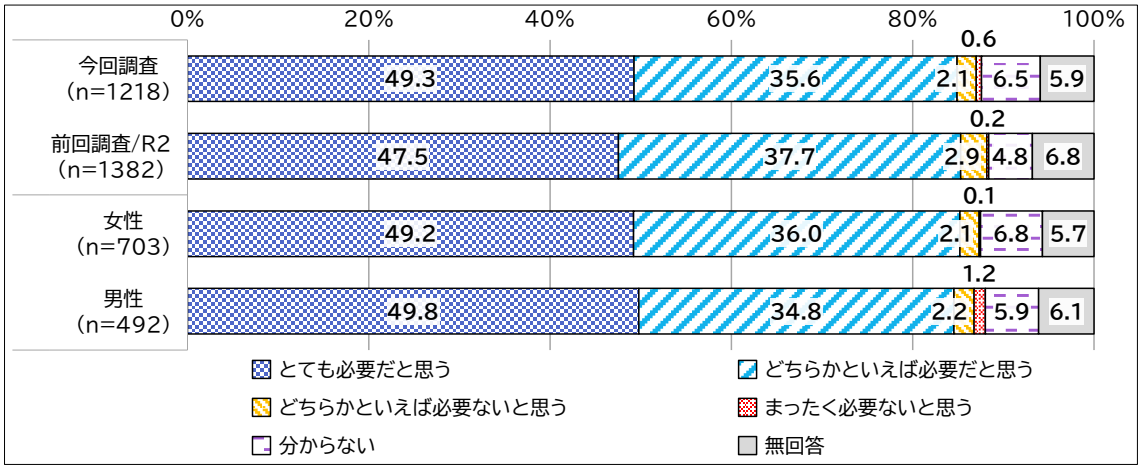
（３）避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる



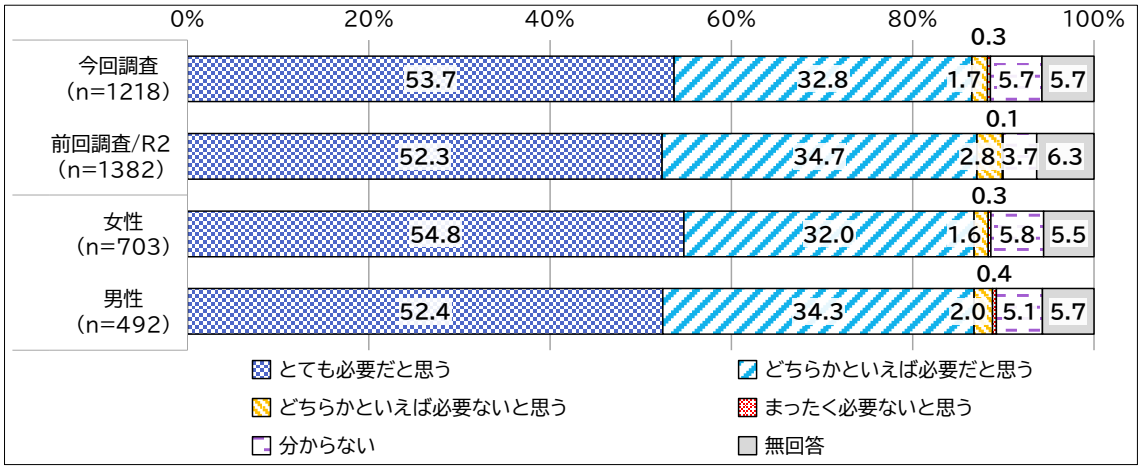
（４）避難所運営の責任者に男女がともに加わる



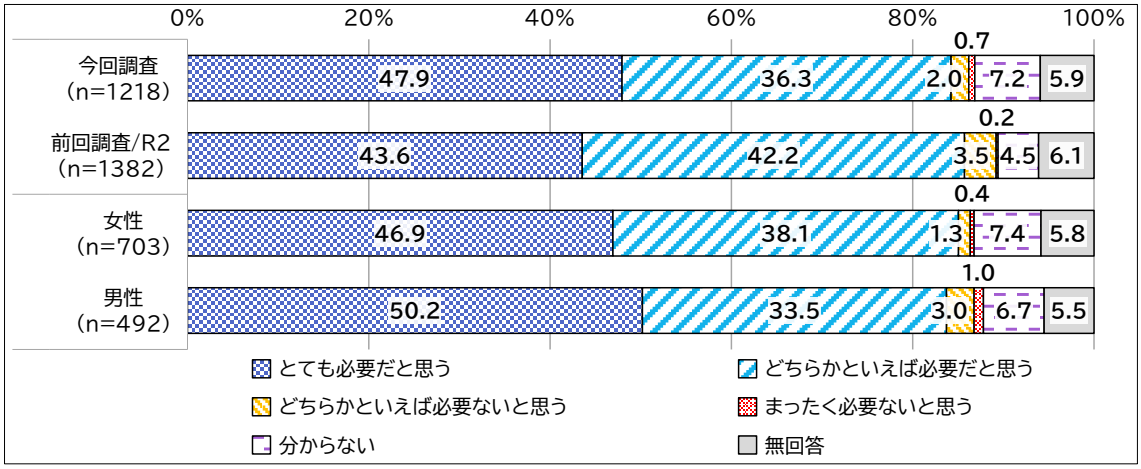
（５）男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う



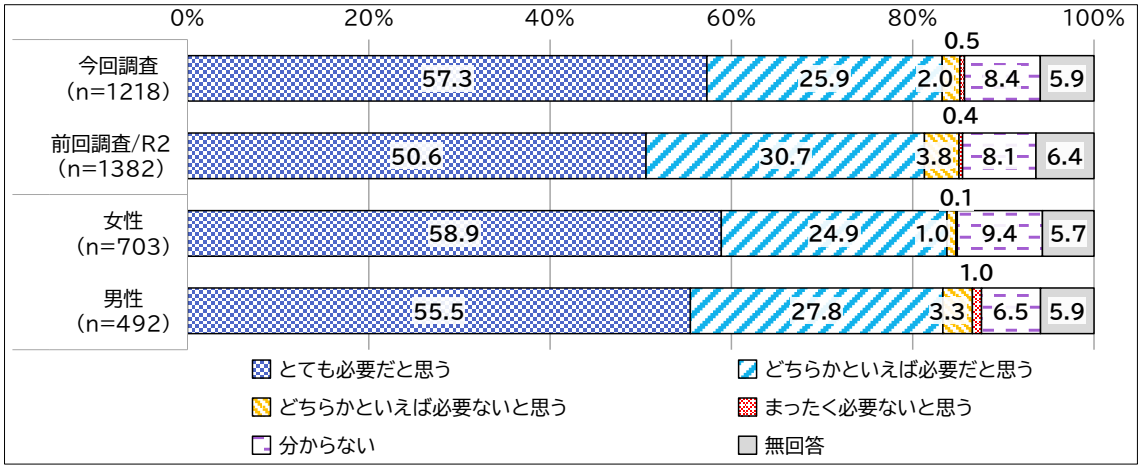
（６）男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う



（７）復興まちづくりの内容などを決める場に男女がともに参画する



（８）発災後に増加が懸念される性暴力やＤＶへの対策を強化する



◆　男女共同参画に関するご意見やご要望

内容に応じ、分類を行った結果は以下の通りです。
一人の対象者が複数の項目に関して記述している場合もありますが、ここでは主な意見の１つを分類しています。

分 類	件 数
男女共同参画への意見・要望	４１件
調査について	２２件
教育・啓発	１６件
職場の環境整備	１２件
行政への意見・要望	１０件
イベント/講座開催/地域活動	５件
災害発生時の対応及び防災対策	４件
その他	１件
合　計	１１１件

【男女共同参画への意見・要望：41 件】

年代	性別	男女共同参画への意見・要望
20 歳代	女性	男性も女性も個々が尊重され、それぞれに過ごしやすく考え、思いやりあっていければいいなと思います。
30 歳代	男性	現状、法的・社会的にも女性優先が多いと思います。例えば、痴漢冤罪の場合、痴漢と偽った女性も法的に裁くなど。
30 歳代	男性	女性の発言の場が増える方向に進むと良いと思います。
40 歳代	女性	男女共同と言っている割には、男性側の意見ばかりが反映されているし、女性が参加できていないように思う。男性は力仕事、女性は育児や家事という考えがまだまだ根強い。男女共同とうたっているなら、女性側も力仕事をするし、男性側も家事・育児に参加するべきだと思う。会議も男性側が多いので男性の考え方しか反映されておらず、会議等の場所でも男性・女性の比率を 5：5 にすべきだと思う。
40 歳代	女性	この意識調査自体が不快です。男尊女卑の意識がまだまだ根付いてるのだと実感させられて不愉快です。育児休暇や時短勤務なども、女の人が取るのが当たり前みたいな雰囲気もつくりも、本当に腹立たしいです。周りに気を遣って育児休暇や時短勤務して、家では家事も育児も大半は女性がして、男性がそんな苦労しているのを見たことがない。自分のしたいことも男性は普通にできるのに、家庭がある女性はご飯を用意していったり、家事を済ませないとできない、不公平。結婚したくない。子どもを産みたくないって思う人がいて当たり前。
40 歳代	女性	身体のつくりなど、生まれ持った能力に男女や個人で違いがあるため、男女平等は不可能であると考えます。それぞれの不得意を補い合う関係であってほしいです。「男だから女だから」を強要しないと同時に、平等の考えのもとにどちらも同じような負担を強要することもあってはならないと考えます。
40 歳代	男性	共同や平等といって数あわせで能力ややる気のない人を選ぶと全体に良くないと思うので、人選だけは気をつけてほしい。
40 歳代	男性	嫁ハラをやめてくれ
40 歳代	男性	男女差別等の問題が出てくると、女性の立場が弱いから守らないといけない等の話が出てきますが、男性だから立場が強いから頑張れやしっかりしろ等言われる事がありますが、個人差があるので男だから女だからと言って固定観念を持たないようにしてほしい。
40 歳代	男性	男性・女性と分けて考える事が色々な場面で根強いと思いますが、男性・女性ではなく、一個人として見るような社会を作っていけたらいいなと思います。
50 歳代	女性	職場や地域活動における男女平等は理想ですが、実際にはすべて平等ということは無理だと思います。男女問わず、それぞれがその人の得意分野で活躍できればいいです。
50 歳代	女性	人としての目線で、平等な生き方ができる社会を目指して欲しい
50 歳代	女性	本当に男女差はなくなるのでしょうか？
50 歳代	男性	何事もやりすぎにならない事が大事だと思います。日本人の伝統や文化を大切にすることも大事だと思う。

年代	性別	男女共同参画への意見・要望
50 歳代	男性	男女平等はむずかしいと思う。個人で表と裏みたいに違うし、自分への接し方により好き嫌いは必ず出ると思います。できるだけ仲良くしたいとは思うんですけどね。
50 歳代	男性	女性がどうありたいのかが不明なので、職場での力仕事などしたくない人も多いし、責任を持ちたくない人も多い。女性の意見も聞いてみたい。
50 歳代	男性	生きやすい世の中へ。今日もお疲れ様です。
60 歳代	女性	一昔前までは許されていた事が、今はセクハラ、パワハラ等のハラスメントになっています。今の時代はグレーゾーンハラスメントが多々あるかと思います。学生は教育の現場で学習できますが、大人は理解できてない人が多いでしょう。そこで年度末に配布される宇城市総合カレンダーの小・中学生の俳句を、大人が考えた俳句に変えたらどうでしょうか。
60 歳代	女性	男性、女性と色々と違いがありますが、今、社会的に女性の方が市長とか問題があるなか、私の考え方がおかしいのかと思いますが、自分の責任の取り方が潔くないと思うことがあり、男性の方は責任の取り方が潔く感じてしまいます。一人だけ潔くない方もおられましたが、また再選して続けられています。私自身、今は主人と仕事を続けさせて頂いて、いつもお互いを気づかい、楽しく毎日を過ごせている毎日にとてもとても心の底から感謝しています。ありがたいです。
60 歳代	女性	地域、社会、家庭においてお互いの思いやりが必要な為、環境の整備等が必要かなあと思います。
60 歳代	女性	男女問わず相手を尊重することが大切だと思います。
60 歳代	男性	「男女共同参画」の表現が男性中心の社会に女性も参加してもらうというイメージが有り、現代的では無いと考えます。「男女」と二元的な表現ではなく、「ジェンダー」とし、「共同」ではなく「協働」として（あるいは共創）「ジェンダー協働（共創）」を提案します。宇城市は「ジェンダー協働（共創）宣言都市」です！
60 歳代	男性	男女共同参画、部落問題、よろしくお願いします。
60 歳代	男性	どうせ皆の意識は根本かわらないでしょ？
60 歳代	男性	全ての面で、平等が一番良いと思います!
60 歳代	男性	男女における機会や待遇の差はなくすべきです。しかし、性的な能力や技能の差による格差は致し方ありません。男女に関わらず、頑張った人が報われる社会、正直者がバカを見ない社会が大切だと思う。
70 歳代	女性	私は高齢者で、世代的な問題もあると思いますが、男性が公私共尊重されてきた方が多い。ある意味ワガママな人種に辟易しています。相手を理解する能力不足のくせに傲慢。職場においても営業面を考えれば男性優遇社会、女性は冷や飯食い。生活の為もあり、仕事力も必要。良い所は男性陣へ、女性自身も向上が必要です。男性は女性を組織として認める力が弱い。
70 歳代	女性	男女の性別なく、人としてやさしく住みよい町づくりになる様、お互いを尊重し合いましょう。

年代	性別	男女共同参画への意見・要望
70 歳代	女性	男女間のセクハラについては、40～50 年前の自分自身の就労期間の経験であり、近年の状況は多少改善されているのでは？と期待していますが、SNS 等の進化により、新たな性犯罪等が増加していることを心配しています。
70 歳代	女性	現在 70 歳の私ですが、男女共同参画の言葉を知ったのは、30 年前でした。その時はあまり興味ありませんでした。しかし、現社会においてはとても大切な事だと思います。
70 歳代	女性	肉食女子とか戦後女性は強くなった。社会への進出、男女平等と言われていますが、男女差は肉体、精神、本能の異を認知してほしいです。性的被害者、いまだに女性や弱者にふりかかっています。命を守るために平等でない所を知り、行動してほしいです。
70 歳代	女性	今の若い人たちは共働きが多いので、男性も家庭に協力していると思います。うちの場合は、ゴミ出しは勿論、後片付けや洗い物はほとんど男性がやっています。家族で話し合って夫婦仲良くやっています。
70 歳代	女性	これって難しいですよね。人間社会は男と女しかいない。あまりに進めすぎると、ややもすると、社会的弱者（子ども、老人、障がい者）が取り残されてしまう。だから社会の在り様、バランスの教育をしっかり受けて大人になって、「じゃあどうしたらみんなが幸せに生きれるか。」と考えられる。そして、共同参画の真の意味にあっての社会作りをすることがとってもとっても大事だと私は思います。日本は戦後真の福祉国家を目指し進んできたと思います。若い皆さんがもう一度「真の福祉」とは考えてほしい。そう願います。
70 歳代	女性	昭和の時代は、仕事は一緒にして（75 歳、農家の主婦）帰ってからごはんの支度、後片付けと女性の仕事は寝るまで暇が無かった様に思います。今は同居（息子家族）していますが、息子も料理、洗濯、子育ても一緒にやっています。私達の若い頃より女性の家事労働も少なくなった気がします。問題は、主人が私が亡くなったらこの先どうして生活するか心配は有ります。少しずつ家の中の事を学習してもらいたいです。
70 歳代	女性	私のような意見が役に立つのかわかりませんが、こうした取り組みを進めておられることに感謝いたします。核家族化と共に男性の家事、子育てへの参加が見られ、私の時代からするとうらやましく思います。家庭によって条件は異なるかと思いますが、仕事と家庭を両立して生活していけたらいいですよね。働き方改革の制度もでき、以前より時間の余裕も少しできる時代だと思います。毎日の生活に少しゆとりを持ち、若い世代の方々には頑張ってほしいと思います。男性の育児休業には賛成です。どの職場でも安心して育児休業がとれるようにしてほしいと思います。「ひととひとで築く、やさしく住みよいまちづくり」実現へ向かって頑張りましょう。
70 歳代	男性	「任務遂行能力」と「やる気」の両方があれば、性別は問う必要がない。
80 歳以上	女性	市の政策をすすめる上で、充分女性側の意見を聞き、話し合い、排しないで取り入れてほしいと思う。

年代	性別	男女共同参画への意見・要望
80 歳以上	女性	私達高齢者は自分の健康に気をつけて元気で長生きできる事を願っています。男女共同になりましても体力の面では男にはかないません。家庭でも一歩下がって男の人の言う事を聞いて、自分の考えを言った方がうまくいくと思います。夫に先立たれてつくづく思います。結婚して 40 年位はいろんな思いもしましたが、金婚式を迎えた後は本当に穏やかで思いやりのある夫になりました。60 年添いましたけど、亡くなった後はありがたさが身にしみます。私も自分のやりたい様に行動してきましたので、思い残すことはありません。ありがとうございました。
80 歳以上	女性	私、昭和の人間としては、男女平等、男女共同参画の取り組みとしては羨ましく、もっと推進してほしいと願いますが、その中には男の役割、女の役割があっての男女平等だと思います。
80 歳以上	男性	いろんな生活の場で少しでも良い習慣に変えていく努力は誰にでも必要かもと思っております。
無回答		もともとの男性・女性の考え方の違い、根底にあるものは何かが明らかでないと、いくら女性の参画を進めてもパフォーマンスでしかない気がする。それぞれの視点、役割を尊重するにはどう効果的なのか？「共同参画」の意味・意図が明らかになるといいなと思います。

【調査について：22 件】

年代	性別	調査について
20 歳代	女性	あんまり意味がないアンケートだと感じました。
30 歳代	女性	1 つ 1 つの質問が分かりづらかったので、もう少し誰もが答えやすいものにした方が良いと思います。最初に結婚しているかどうか質問があったのだから、それに沿った質問にした方が良かったと思いました。
30 歳代	男性	そもそも、男女共同参画（現状）ではないのですか？このアンケートを実施する意図が理解できませんでした。仕事等で県外に出る者から見れば、このアンケートを実施している時点で政策が遅れていると感じました。財政面や保守的な考え方をされる人が多いと思いますが、今後を支えていく若い世代の事を第一に考え政策を行っていく事を願っています。
40 歳代	女性	アンケートが長すぎて大変でした。
50 歳代	女性	スマホの方がポストに出す手間が省けると思いましたが、長さの割に途中中断ができないのはいかがなものかと思います。対象年齢を考えると働いている世代。手軽なスマホを利用できる事自体はよかったかと思いますが、途中中断できないのは、まとまった時間がとれなくて「もういいや」となりそうで、改善した方がいいかと思います。それと質問に対して、その他の項目に更なる回答を求めるのなら、質問のすぐ下にがいいかと思います。質問に対しての回答が選択肢になっているのは楽ですが、途中どれにもあてはまらない回答もあり困りました。意見を求めるのなら、まずそこからしないと回答率や正確な回答にはならないかと思いました。

年代	性別	調査について
50 歳代	女性	このアンケートに関して感じたこととして、独身の立場として回答困難な質問が多くあった。もう少し配慮して欲しく思いました。
50 歳代	女性	選択肢にどちらでもよいがあるよい。白か黒かグレーだけでなく、純粋にニュートラルな答えもあるのに、選択肢がないのは意図しないバイアスがかかると思います。
50 歳代	男性	このようなアンケートも一部の団体の利権事業と化している。世界で一番古く長い男女平等、人種平等の歴史を持つ我が国において、声高に叫ぶべき事案では無い。
60 歳代	女性	全体的に答えにくい内容が多すぎます。（プライバシーに関すること）
60 歳代	男性	このアンケートが作成した人の自己満足に陥ることがなく、実際の改善に繋がる行動が起きることを期待します。
60 歳代	男性	集計が大変だろうと思うので、web にしたらどうでしょうか。
70 歳代	女性	アンケートの内容について私的に書いております。時代の流れで（昭和生まれ）内容が分かりづらいところもあります。自分の意思で記入しています。男女共同参画に期待します。
70 歳代	女性	・後半の言葉の一言一句が難しくて頭に入ってこない感じでした。 ・特に農林漁業に関する項目があるのはどうしてですか。 ・意識を高めるとか、勉強会をするとかも大事ですが、共同参画という事柄がリーダーになられた方々だけの世界で、私たち一般の者には遠いところの架空の話しに思えます。
70 歳代	女性	後期高齢者にはとても出題が多く、内容も高度で途中でまだか？となりました。人選の年齢を考えて欲しいです。前回もアンケートを記入したのですが、今回は大変でした。
70 歳代	女性	私現在 75 歳を過ぎておりますので、意識調査との事でしょうけど、あまり良い回答ではございませんでしたが、よろしくお願いいたします。これから先も男女共同参画は大切だと思っておりますのでね。皆様の頑張りを願っております。
70 歳代	男性	問 20 は「されたりしたことがありますか」と書いてありますが、今まで若い時も含むのか？今現在の考え方がわかりにくい！今の考えを書いておきました。
70 歳代	男性	封筒が小さい。
70 歳代	男性	今回のアンケートで反省すべき点が多々あり、今後の生活に活かしていきたいと思いました。益々の男女格差是正に向け前進していかれることを希望しています。
80 歳以上	女性	調査票少し難しいですね。八十才を過ぎると随分と考えさせられました。
80 歳以上	女性	質問の数が多くて読み取るのが大変でした。男女共同参画は前進が大変でしょうが、徐々にでも前に進む事を望みます。
80 歳以上	女性	年齢的に答えるのが難しい為、答えが出ない。すみません他の方へ協力してもらって下さい。
80 歳以上	男性	18 歳未満は選ばれないようにしているが、各階層別に知るためには、小学生、中学生の考えも知るため、アンケート年齢を下げてもよいのではないかと思った。

【教育・啓発：16 件】

年代	性別	教育・啓発
30 歳代	女性	地方であること、年齢層が高いとどうしても男尊女卑的な発言をよく聞きます。慣習を変えるのは難しいと思いますが、少しずつ受け入れしやすいところからでも男女平等をうたえたらと思いました。
30 歳代	女性	育児や介護で特に上の年代など、まだ女性がするものという意識を持つ方がいらっしゃるが、できればその認識を個人的には持ったままでもいいが、両方する時代になってきているという意識は受け入れてほしい。また職場のかなり上の方で、まだ男性優位のような考えの方が一部いるが、それも個人の認識では別に持っていてもいいが、それだけではないという受容もしてほしい。
40 歳代	女性	平等で当たり前という考え方が浸透するのが重要だと思います。
40 歳代	男性	子どもがともに参加できる仕組みつくりが大切。
50 歳代	女性	女性が社会で活躍しづらい原因の１つに、女性同士からの圧力もあると感じています。男性側の意識もですが、女性側の意識も変わらないと、平等に活躍することは難しいと考えます。
50 歳代	女性	啓発がまだまだ行き渡らない。配偶者は自身の子どもでさえ、男女で扱いが違う。残念です。
50 歳代	女性	世代によって男性優位の考え方が強いので、学校教育などで、子どもたちに対して男女平等となるような指導を強化していってほしい。
50 歳代	男性	個々人の育った家庭環境により、意識は大きく異なると思います。できれば、子どもの頃、学校だけでなく、家庭の中であるべき姿の教育、環境整備が重要だと考えます。大人になっても、子どもの頃の意識はなかなか変わらないと実感してます。ご苦労様です！
50 歳代	男性	他県に比べて、熊本県全体、特に公務員や大企業に勤めている家庭以外の世代の常識やモラルが今時に追いついていない割合が多い。底上げが必要。教育だったり、県外へ行ったり、外国に行ったり、知見も必要。私の周りには、未だに自分の息子には自由に県外に出して、娘には県内に居てほしいという考えの方が多い。
50 歳代	男性	完全平等にはならないと思いますので、男性・女性の良い部分、特性を考慮しつつ、共生出来る様な社会が望ましいと思います。極論的な考え方をしない様な教育、多様性を受容出来る様な教育が出来る様な環境づくりが大事だと思います。年を取るとそう簡単には変わらないので。
60 歳代	女性	育児も介護も男性が半分担うべき事のはず。家事だって、共働きが普通の今は半分のはず。若い人より、親や祖父母世代が理解しないと改善しないと思います
60 歳代	女性	まずは男性（男性社会）の女性に対する意識の改革だと思う。女性を１人の人間としてではなく、性的対象に見る、判断する、その低い意識を変えていく必要があると思う。
70 歳代	男性	男女共同参画という言葉の意味すら知らない人や、宇城市でも活動しているということを全く知らない人が多いです。もっと啓発が必要だと思います。

年代	性別	教育・啓発
70 歳代	男性	・広報誌へもっと情報を掲載していく必要があると思います。良い出来事も、良くない出来事も。 ・是は是、非は非で挑んでいく。 ・小学校からの教育、啓発の推進。いじめ、暴力などを公表し、市全体として取りまとめ、食い止めていく。
80 歳以上	男性	PTA 活動は女性が多いが、防災・復興活動は男性が多い。学校教育や職場での意識の改革が必要である。
無回答		男性への教育が必要。

【職場の環境整備：12 件】

年代	性別	職場の環境整備
10 歳代	女性	子育ての支援金や、女性が活躍できる社会づくりをもっとしてほしいです。だから、男性の育児休暇も大切だと思います。みんながくらしやすい宇城市にして下さい！よろしくお願いします。
10 歳代	女性	男女共同参画は、単に男女の平等を目指すだけでなく、職場全体の働きやすさを高める取り組みでもあると思います。実際に、女性管理職の割合が高い企業では、柔軟な働き方が進み、結果として勤続年数が長くなる傾向もあると聞きました。私は大学で地域社会を学んでいます。まだ学生ですが、こういう分野を学んでいる立場からも、こうした環境づくりが地域全体の活性化につながると感じています。
20 歳代	女性	ジェンダーギャップ指数 1 位のアイスランドのように、男女平等に賃金格差をなくしてほしいです。
20 歳代	女性	女性の管理職の方は陰でいろいろ言われていて苦労されていた。管理職になった後も男女別で支援が必要。男性は力も体格も元々女性より上なのだから、その点にも配慮した制度が整えばいいと思う。
20 歳代	女性	男女平等に接していくことはとても大切だと思うが、ジェンダーのみで女性を登用するのは違うと思う。男性であっても女性であっても、能力を発揮できる人物が指揮を取るべきであり、多くの意見を吸い上げることができる人材が管理職を勤めるべきだと思う。若い女性が活躍している職場は働きやすさの観点で魅力的だが、女性がいないからと言って、一概に差別的な企業だとは思わない。
30 歳代	女性	介護職の人手不足を減らすために給与を上げ、男性が働きやすいようにするべきだ。
30 歳代	女性	男女が平等だという考え方はわかりますが、性差が必要な場面もあるのではないでしょうか。やっぱり子どもは父親よりは母親を頼りにする気もします。うまく役割分担できることを私は望みます。女性が仕事を続けていけるように、権利を主張するのはいいことですが、時短で働いている分、組合から補填があっているところもあります。本人は時間が短くなって、その分の手当てがもらえて満足でしょうが、時間が短くなった分の仕事は同僚がしています。同僚はなんの手当てもなく、プラスでその人の分の仕事をしています。時短などの権利を主張する人がいる職場に手当てをつけるなどしてもらわないと、納得いきません。

年代	性別	職場の環境整備
30 歳代	女性	外見（背丈）で判断されて、バイトを採用してもらえなかったことが 10 代後半の頃にあります。見た目で判断する会社（企業）がないようにして頂きたいです。
50 歳代	女性	働いている職場では男性職員が育休をとるようになりました。男性も育児や家事への協力は必要だと思います。男性ならではの視点、女性ならではの視点を活かせるような社会ができ、女性ばかりが優遇されるのではなく、男女ともに参加できる活動（仕事、趣味活動も含めて）が宇城市でも増えていくならばと思います。
60 歳代	女性	色々な職場で、パワハラやセクハラなどの人権侵害がいまだに多いです。相談窓口へは、第三者を配置していただかないと、相談しにくいと思います。
70 歳代	女性	女性が多く働いている職場への男性の就職者が少ないと思う（例看護師、保育士等)。男性が安心して働ける職場の給与や勤務体制が整備されているのかどうか。反面、男性による子どもや患者に対する性的な問題が発生する事も考えらえるので、採用を控える事も理解できる。今後、女性が多い職場、男性が多い職場で男女共に安心して働けるように、又子どもや患者などが安心して利用出来るような環境作りも必要かと思います。
70 歳代	男性	職場は女性の多いところでした。やはり同じ仕事をして、給料の面で不公平を感じていました。退職後は男女というより態度のあり方でいやな思いをしました。市役所の受付で接し方に嫌な思いを何度かしました。一部の方と思いますが。ベタベタした接し方を望んでいるわけではありません。普通の接し方を望みます。

【行政への意見・要望：10 件】

年代	性別	行政への意見・要望
20 歳代	男性	その前に税金を減税しろ。市役所の職員の補助金の申請忘れなど、市民の前でのダラダラしたラジオ体操などをどうにかしろ。窓口に行っても、しらーっとしている職員が多すぎる。区役所をなくせ。
30 歳代	女性	なぜ今、男女共同参画に対してアンケートをしてるか意図がよくわからない。他に生活や暮らしに関してのアンケートをしているならわかるが、男女共同や多様性を尊重するのも大事だと思うが、減税や暮らしに直結するようなことに税を使ってほしい。宇城市に住んで女性だから暮らしづらいと感じたことは特にないです。
30 歳代	女性	パートナーシップ制度の導入をよろしくお願いします。
30 歳代	女性	宇城市の子育て支援をより充実して欲しい。→保育料無料や、出産の人数によっての祝い金増額など。
50 歳代	女性	以前よりも法的に整備されてきているが、まだまだ宇城市は昔からの根強い潜在意識があり、頭では理解できるが、現実は男性優位の職場や家庭が多いように感じます。若い方達が都会へと目が向き、転出される方が増えたのは、その無意識の役割意識を押しつけている所もあるのではないか、柔軟性にかけた中での生活に息苦しさを感じていると思います。夫婦で同じ職場であれば、両方は管理職にはなれない風潮があり、圧倒的に男性が管理職になっていると感じます。頑張りだけでは、突破できない見えない壁がまだまだあります。

年代	性別	行政への意見・要望
60 歳代	女性	毎日生きる為に仕事で忙しく、生活が苦しく、考える暇もない。まずは生きやすい環境作りが必要。心にゆとりがないと男女平等にはなりません。このアンケートも忙しいのに送らないで下さい。国民に目を向けて下さい。
60 歳代	女性	まだ道半ばである男女平等を成すには、行政の果たす役割が大きいと期待しています。女の人も男の人も小さい人も病気の人も、みんなが自分にできることをしながら幸せを感じられる社会になってほしいものです。自分にできることは何か考えています。
60 歳代	男性	末松直洋新市長様の市政運営に対し大いに期待しております。市役所の皆様もより良い未来のために頑張って下さい。
60 歳代	男性	今後も意識を高める取り組みが必要だと思います。
70 歳代	女性	より一層のやさしく住みよいまちづくりに期待しています。

【イベント/講座開催/地域活動：５件】

年代	性別	イベント/講座開催/地域活動
20 歳代	女性	女性でも家事が苦手な人もいるから、料理教室や能力向上のための講座を開催してほしいです。
40 歳代	男性	学校、職場でも時間を割いて勉強会が必要。関係ない話ですが、宇城市はスポーツイベント等がない。氷川は梨マラソン、益城ジョギングフェア等、似たようなイベントが有れば、他の地域からの参加者も多いはず。どちらも県外からの参加者も多数。準備は大変かと思いますが、是非検討よろしくお願いします。
50 歳代	男性	①職場②家庭③地域、過疎化が進む地区（止める？）住みやすい環境と暮らしやすい環境を作り、過疎化地区の活性。現代社会のコミュニケーションでなく、100 年前？昭和初期？の活動をボランティアで復活？→職場を家庭を楽しい職場に、会話のある家庭に！
60 歳代	女性	私は 60 代で夫は 70 代、この 10 歳の違いは考えに大きな開きがあります。現在の若い夫婦は仕事も家庭も子育ても完全２人で行うものだと実行しています。もし違うのなら、育った環境の差だと思います。区的な機関がやらねばならぬセミナーなど開いても、人員確保に苦労して、ふたを開ければ知り合いや年齢層の高い人ばかりではないでしょうか？「フェス」「野外フェス」で子どもたちを集めると親はついてくる。ゲーム形式でポイントを競う。15 分までの講演や対談→内容理解の〇×クイズで移動させる。ダンスや音楽で一緒に楽しむ・参加させる。最後に、感想を書いたファミリーに市内で使えるチケットなどプレゼント！どうですか？「きおう」さんで11/15 に 11:45～15:00 フェスをされますよ！来ませんか。モデルの松村かなさん、「生きる」の本を書いた高橋しょう子さんなど来ますよ。
70 歳代	女性	ウイングでの講演などを増やして欲しいです。

【災害発生時の対応及び防災対策：４件】

年代	性別	災害発生時の対応及び防災対策
60 歳代	男性	自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やすではなく、増えていくようにするでは？数だけ増やしても問題は解決しないので、人材育成が先だと思います（前の方の質問にもありましたが)。そして人材を育成するにはとなっていくと思います。
70 歳代	女性	災害があった場合女性が出て行くのも良いと思うが、田舎の方ではやっぱり残った子どもや年寄りの事を考えると女性が細かやな所に手が届くし、やっぱり女性は家庭の事を第一に考えるので（私だけでしょうか？)、残った子どもや年寄りの面倒を見た方がいいと思う！男性の方に頑張ってほしい！
70 歳代	女性	災害が長期間（数か月以上）にわたり避難所、待機所等で仮生活する際に困るのが、下記の通りです。 ①睡眠時…脱衣所を点灯する（全灯しない） ②便所…２施設→３施設（女、男、他）にする ③風呂…偶数（女性大風呂)、奇数（男性大風呂）及び家族又は他で小風呂で風呂場を用意出来ればすごく良い。 日常的に女性特有な物、動物の缶詰を用意して災害に備える。 様々な暴力がニュースに出ているが、目安箱的な物を設置する。 道路が複数あり、その場所へ行ける様にする（あの人が目安箱に行く事がわからない様) 事前に目安箱的な物を利用する際、啓発する。
70 歳代	女性	防災意識の高揚を図る為、男女共同参画の企画を推進する。

【その他：１件】

年代	性別	その他
70 歳代	女性	男性、女性権利をなくし、皆平等と色々雑誌を見ていますが、わかったようでむずかしい事です。地位の弱い年寄り等いじめて腹がたちます。主人が亡くなり、毎日のいじめ、金、通帳、貴金属、早く引っ越したい。この年になり、情けない。※まず、根本的に普通の生活大事かと思います。男性女性共同参画の議論した夫婦、どろぼう、夜中の徘徊

調査票

宇城市
男女共同参画に関する市民意識調査

アンケートご協力のお願い

宇城市では、「ひととひとで築く、やさしく住みよいまちづくり」を基本理念として、男女共同参画社会の実現に向けての取り組みを進めています。

その一環として、5年毎に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しており、今回は、住民基本台帳から満18歳以上の市民3,000人を無作為に選ばせていただきました。

この調査は、皆様の日常生活の実態や考えをお伺いすることで、男女共同参画に関する意識や現状を把握し、今後の男女共同参画の計画や施策に反映させるための、大切な調査です。

調査結果は機械的に処理されますので、個人情報や個人の考え等が明らかになることは一切ありません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いします。

令和７年10月　宇城市長　末松　直洋

【ご記入にあたってのお願い】

- この調査票は、あて名のご本人様がご記入ください。※代筆は可能です。
- この調査の対象者は、令和７年９月30日現在で住民基本台帳に記載がある、満18歳以上の市民の方です。
- 回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、その番号を○で囲んでください。○をつける数は、質問中の指示に従ってください。
- 「鉛筆」または「黒色のボールペン」ではっきりとご記入ください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 回答いただいた調査票は、回答期限までに同封の封筒にいれて郵便ポストに投函してください。（切手を貼ったり、差出人の名前を書く必要はありません。）
- この調査はWebページからのご回答も可能です。その場合はパソコンやスマートフォンから右のQRコードを読み取っていただくか、URL(https://questant.jp/q/danjo-uki2025)を入力してWebページにアクセスし、ご回答をお願いします。

  QRコードまたはURLからご回答の場合は、右の識別番号を回答欄の入力フォームに入力をお願いします。その場合、この用紙での回答は不要です。

  識別番号は、Web回答と郵送回答の重複回答を確認するもので、個人を特定できないようにしています。

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標

識別番号：○○○○

回答期限：令和７年 11月14日（金）

【お問い合わせ先】

宇城市役所　総務部　人権啓発課

ＴＥＬ：0964(32)1708（直通）

ＦＡＸ：0964(32)0110

1　ご自身のことについて

問１　次の（１）～（５）の項目について、それぞれ１つを選んでください。
※戸籍上の性別にかかわらず、ご自身が自認される性別でご記入ください。

（1）	性　別	１．女性　　２．男性　　３．１・２のいずれにもあてはまらない
（2）	年　齢	１．１０歳代　２．２０歳代　３．３０歳代　４．４０歳代 ５．５０歳代　６．６０歳代　７．７０歳代　８．８０歳以上
（3）	婚姻の有無	１．結婚している（事実婚を含む） ２．結婚したが死別又は離別した ３．結婚していない
（4）-1	あなたの職業	１．自営業主 ２．家族従事者 ⇨ １．２はア～ウのいずれかにも○ ア　農林漁業 イ　商工サービス業 ウ　自由業（特別な技能・技術・知識に基づく専門的職業のこと。医師、弁護士、作家等） ３．正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者 ４．非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等 ５．主婦・主夫 ６．学生 ７．無職 ８．その他（具体的に：　　）
（4）-2	配偶者の職業	**※（３）で「１」と回答した方は、こちらもお答えください。** １．自営業主 ２．家族従事者 ⇨ １．２はア～ウのいずれかにも○ ア　農林漁業 イ　商工サービス業 ウ　自由業（特別な技能・技術・知識に基づく専門的職業のこと。医師、弁護士、作家等） ３．正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者 ４．非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等 ５．主婦・主夫 ６．学生 ７．無職 ８．その他（具体的に：　　）
（5）-1	世帯構成	１．単身世帯（ひとり暮らし） ２．一世代世帯（夫婦だけ） ３．二世代世帯（親と子） ４．三世代世帯（親と子と孫） ⇨ （５）-２へ ５．その他（具体的に：　　）
（5）-2	世帯で最年少の方	**※（５）-1で「３」「４」と回答した方は、こちらもお答えください。** １．乳幼児（0歳～小学校入学前）２．小学生　３．中学生　４．その他

2　男女平等について

問２　あなたは、男性と女性は平等であると思いますか。（１）～（９）について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない
（１）家庭生活では	1	2	3	4	5	6
（２）就職・採用では	1	2	3	4	5	6
（３）職場では	1	2	3	4	5	6
（４）学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
（５）地域活動・社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
（６）政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6
（７）法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
（８）社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
（９）社会全体では	1	2	3	4	5	6

3　結婚に関する意識について

問３　次に掲げる（１）～（４）について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（１）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
（２）精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい	1	2	3	4	5
（３）夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい	1	2	3	4	5
（４）結婚したら、離婚すべきでない	1	2	3	4	5

4　固定的性別役割分担意識について

問４　あなたは、（１）～（１１）の考え方について、どのように思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
（１）男性は仕事をして家計を支えるべきだ	1	2	3	4
（２）デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	1	2	3	4
（３）男性は結婚して家庭をもって一人前だ	1	2	3	4
（４）共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	1	2	3	4
（５）組織のリーダーは男性の方が向いている	1	2	3	4
（６）大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	1	2	3	4
（７）親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	1	2	3	4
（８）実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	1	2	3	4
（９）家を継ぐのは男性であるべきだ	1	2	3	4
(10）共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	1	2	3	4
(11）学級委員長や生徒会長は男の子が、副委員長や副会長は女の子の方が向いている	1	2	3	4

5　家庭生活について

問５　あなたのご家庭では、次に掲げることは、主にどなたの役割ですか。（１）～（１１）について、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※その他（具体的に：例：父、母、祖父、祖母など）

	主に自分	主に配偶者	自分と配偶者が同じくらい	その他※	家族全員で分担している	特に決まっていない	該当無し
（１）家計を支えるための収入を得る	1	2	3	(4)	5	6	
（２）家計の管理	1	2	3	(4)	5	6	
（３）掃除	1	2	3	(4)	5	6	
（４）洗濯	1	2	3	(4)	5	6	
（５）食事の準備	1	2	3	(4)	5	6	
（６）食事のあとかたづけ	1	2	3	(4)	5	6	
（７）育児、子どものしつけ	1	2	3	(4)	5	6	7
（８）子どもの教育方針の決定	1	2	3	(4)	5	6	7
（９）親の世話(介護)	1	2	3	(4)	5	6	7
（10）家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	(4)	5	6	
（11）地区の行事などの地域活動	1	2	3	(4)	5	6	

問６　あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は１つだけ）

１．賛成である	２．どちらかといえば賛成である	
３．どちらかといえば反対である	４．反対である	５．わからない

問７　あなたが家事（育児・介護を含む）に費やす時間は１日どれくらいですか。次のＡ・Ｂについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	全くしていない	30 分未満	30 分以上 1 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	2 時間以上 3 時間未満	3 時間以上
A 平　日	1	2	3	4	5	6
B 休　日	1	2	3	4	5	6

6．子育て・教育について

問８　近年、生まれてくる子どもの人数が減少傾向にありますが、その理由は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を３つ選び、○で囲んでください。（○は３つまで）

1．子育てにお金がかかるから
2．結婚年齢が上がっているから
3．出産・育児に対する男性(夫)の理解や協力が少ないから
4．出産・育児には女性の肉体的・精神的な負担が大きいから
5．働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
6．出産すると仕事を辞めなくてはならないから
7．生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから
8．子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから
9．子育てに望ましい環境が整備されていないから（仕事以外）
10．雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから
11．結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから
12．その他（具体的に：　　）
13．わからない

問９　あなたは、子どもの育て方や教育について、どのように思いますか。（１）～（５）について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（１）女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ	1	2	3	4	5
（２）女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ	1	2	3	4	5
（３）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
（４）学校での出席簿など、男女混合にした方がよい	1	2	3	4	5
（５）男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい	1	2	3	4	5

7．女性の社会参画について

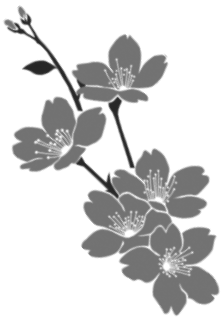
問１０　あなたは、女性が職業をもつことについて、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は１つだけ）

1．経済的自立のために、職業をもっている方がよい
2．結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3．子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4．子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい
5．女性は職業をもたない方がよい
6．その他（具体的に：　　）
7．わからない

問１１　女性が職業をもち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに近い番号を３つ選び、○で囲んでください。（○は３つまで）

1．育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある
2．育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない
3．男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある
4．労働時間が長い
5．転勤がある
6．短期契約（１年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態がある
7．教育・訓練を受ける機会が少ない
8．女性の能力が正当に評価されない
9．女性が永く勤め続けにくい雰囲気がある
10．セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）がある
11．仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である
12．男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている
13．女性自身に職業をもち続けようという意識がない
14．その他（具体的に：　　）
15．特に問題はない

ご存じですか？
宇城市の市木
「　　」



問１２　自治会・ＰＴＡの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1．社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため
2．家事が忙しく時間がないから
3．家庭の支援、協力が得られないから
4．女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため
5．地域において女性が代表となった前例が少ないため
6．その他（具体的に：　　）
7．わからない

8．仕事、家庭、地域活動等の両立について

※問 13 は、現在職業をもっている人、以前職業をもっていた人におたずねします。それ以外の方は、問 14 にお進みください。

問１３　男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない ⇒ 問 14 へ

【問１３で「1．ある」と答えた方のみ、お答えください。】

問１３-１　どの制度を取られましたか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は１つだけ）

1．育児休業　　2．介護休業　　3．両方

問１４　育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1．昇進や昇給に影響する恐れがある　　2．育児・介護休業は女性がとるものだ
3．休業補償が少なく、家計に影響する　　4．仕事の量や責任が大きい
5．職場の理解が得られないと思う　　6．女性の方が育児・介護に向いている
7．男性は仕事を優先するべきだと考えているから
8．その他（具体的に：　　）
9．わからない

正解は…
宇城市の市木「さくら」

問１５　あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	ＰＴＡや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	※その他の活動（　　）	参加していない・参加したくない
（1）現在参加している	1	2	3	4	5	6	7	8
（2）今後参加したい	1	2	3	4	5	6	7	8

問１６　あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1．活動団体や活動内容を知らない	2．参加するきっかけがない
3．仕事が忙しい	4．家事や育児、介護で忙しい
5．健康・体力に不安がある	6．地域活動に関心がない
7．参加することに家族が協力的ではない	8．経済的余裕がない
9．人間関係がわずらわしい	10．その他（具体的に：　　）
11．特にない	

問１７　あなたが生活を送るうえで、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望に最も近いもの及び現実（現状）に最も近いものは次のうちどれですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

【 希望に最も近いもの 】

1．「仕事」を優先
2．「家庭生活※1」を優先
3．「地域・個人の生活※2」を優先
4．「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5．「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6．「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8．わからない

【 現実（現状）に最も近いもの 】

1．「仕事」を優先
2．「家庭生活※1」を優先
3．「地域・個人の生活※2」を優先
4．「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5．「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6．「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8．わからない

※以下の用語の解説をご参照ください
※1「家庭生活」：家族と過ごすこと、家事、育児、介護など
※2「地域・個人の生活」：地域活動（ボランティア活動、社会参加活動など）、趣味・娯楽など

問１８　男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1．男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと
2．男性が家事などに参加することへの、女性の抵抗感をなくすこと
3．夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4．まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること
5．社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること
6．労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7．男性自身の参加への関心が高まるよう、啓発や情報提供を進めること
8．セミナー参加等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9．男性の参加のための仲間（ネットワーク）づくりを進めること
10．その他（具体的に：　　）
11．特に必要なことはない

三角西港

明治の産業形成期、石炭輸送の発展を示す物証であり、三池炭鉱の良質な石炭を上海(中国)へ輸出するための輸送インフラとして、近代的な石炭産業の発展を示す実例です。平成２７年（2015 年）７月８日に「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産として登録されて、今年で１０周年を迎えました。

第２部　９．配偶者などからの暴力について

問１９　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：ＤＶ※防止法）が平成１３（２００１）年１０月に施行されましたが、あなたはこの法律を知っていますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は１つだけ）

１．法律の内容まで知っている
２．名前は聞いたことがあるが内容は知らない
３．知らない

※以下の用語の解説をご参照ください
※ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）
親しい間柄にある男女（夫婦や元夫婦、パートナー）間におきる暴力のこと。身体的、精神的、経済的、性的、子どもを利用した暴力がある。

問２０　あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）などの親しい間柄で、次のＡ～Ｎについて、あてはまるようなことをしたりされたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

		されたことがある	したことがある	どちらもある	どちらもない
身体への攻撃	A　手でたたく・突き飛ばす、足でける	1	2	3	4
	B　身体を傷つける可能性のあるもので殴る	1	2	3	4
	C　命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4
威嚇・おどし	D　暴力をふるうふりをしておどす	1	2	3	4
	E　ものを投げたり壊したりしておどす	1	2	3	4
	F　大声でどなって威嚇する	1	2	3	4
精神的・経済的暴力	G　何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3	4
	H　「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする	1	2	3	4
	I　「誰のおかげで生活できるんだ」とか「安月給」「甲斐性なし」「死ね」などとののしる	1	2	3	4
	J　社会活動や就職などを許さない	1	2	3	4
	K　交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する	1	2	3	4
	L　生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける	1	2	3	4
性的暴力	M　嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
	N　避妊に協力しない	1	2	3	4

問２０-１へ　問２１へ

【問２０で１つでも「されたことがある」と答えた方のみ、お答えください。】

（該当しない方は次ページの問２１へお進みください）

問２０-１　あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。次の中で、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．警察に連絡・相談した	
２．女性相談所・役所の相談窓口・人権擁護委員などに相談した	
３．家族・親族・友人に相談した	４．民間の機関（弁護士会など）に相談した
５．医師に相談した	６．家を出た（別居した）
７．離婚した	８．我慢した
９．その他（具体的に：　　）	10．どこ（だれ）にも相談しなかった

【問２０-１で「８．我慢した」や「10．どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方のみ、お答えください。】（該当しない方は次ページの問２１へお進みください。）

問２０-２　それはなぜですか。次の中からあてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから

２．恥ずかしくて、だれにも言えなかったから

３．相談しても無駄だと思ったから

４．相談したことが分かると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから

５．相談担当者の言動により、不快な思いをすると思ったから

６．自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから

７．他人を巻き込みたくなかったから

８．被害を受けたことを忘れたかったから

９．自分にも悪いところがあると思ったから

10．相談するほどのことではないと思ったから

11．その他（具体的に：　　）

１０．男女間のセクハラについて

問２１　次のような行為はセクハラ（性的嫌がらせ）ですが、あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、したりされたりしたことがありますか。次の(1)～(10)について、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

	されたことがある	したことがある	見たり聞いたりしたことがある	まったくない
（1）「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う	1	2	3	4
（2）「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う	1	2	3	4
（3）性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う	1	2	3	4
（4）異性関係が派手だなどと、性的な噂(うわさ)を流す	1	2	3	4
（5）異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする	1	2	3	4
（6）ヌード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする	1	2	3	4
（7）接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する	1	2	3	4
（8）触る、抱きつく、しつこく付きまとう	1	2	3	4
（9）地位や権限を利用して、性的関係を迫る	1	2	3	4
(10) 携帯電話やパソコンのメール、SNS 等でしつこく誘う	1	2	3	4

問21-1へ　問22へ

【問２１で１つでも「されたことがある」と答えた方のみ、お答えください。】

（該当しない方は次ページの問２２へお進みください）

問２１-１　そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．上司・同僚に相談した	２．職場内の相談窓口に相談した
３．労働局雇用環境・均等室に相談した	４．家族・友人・知人に相談した
５．その他（具体的に：　　）	６．だれ（どこ）にも相談しなかった

１１　人権の尊重について

問２２　ＤＶやセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発
２．不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり
３．ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備
４．苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実
５．警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化
６．学校での男女平等教育の推進
７．メディアの性・暴力表現の倫理強化
８．その他（具体的に：　　）
９．特に必要なものはない

問２３　あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）
２．セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
３．ストーカー行為（つきまとい）
４．売春・買春
５．痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪
６．風俗営業
７．容姿を競うミスコンテストなどの開催
８．ヌード写真やポルノ雑誌など
９．職場や仲間による言葉の暴力
10．就職の機会や賃金・昇進など男性との格差
11．その他（具体的に：　　）

宇城市の市花は
「コスモス」
市鳥は
「うぐいす」
です。ご存じでしたか？

１２．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問２４　メディア（テレビや映画、出版物）における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
２．社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
３．社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある
４．子どもの目に触れないような配慮が足りない
５．女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている
６．その他（具体的に：　　）
７．特に問題とは思わない

１３．男女共同参画に関するご意見やご要望

問２５　あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は１つだけ）

１．非常に関心がある　　２．まあまあ関心がある　　３．あまり関心がない
４．ほとんど関心がない　　５．全く関心がない

問２６　農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を３つ選び、○で囲んでください。（○は３つまで）

１．農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること
２．委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること
３．休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること
４．女性が農林漁業経営者として能力を向上させること
５．家族経営協定等により女性が責任をもって経営に参画すること
６．加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること
７．その他（具体的に：　　）
８．特に必要なものはない

問２７　次の言葉のうち、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	よく知っている	内容(意味)を多少は知っている	名称(言葉)は知っている	全く知らない
（１）アンペイド・ワーク（※1）	1	2	3	4
（２）ワーク・ライフ・バランス（※2）	1	2	3	4
（３）マタハラ・パタハラ	1	2	3	4
（４）ポジティブ・アクション	1	2	3	4
（５）育児・介護休業法	1	2	3	4
（６）家族経営協定	1	2	3	4
（７）ジェンダー（※3）	1	2	3	4
（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴQ、ＬＧＢＴQ+）（※4）	1	2	3	4
（９）ダイバーシティ（※5）	1	2	3	4
（10）宇城市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
（11）男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
（12）男女雇用機会均等法	1	2	3	4

※以下の用語の解説をご参照ください。

※１ アンペイド・ワーク
無償労働と訳され、賃金、報酬が支払われない労働、活動を意味します。無償労働の範囲は、サービスを提供する主体とそのサービスを享受する主体が分離可能で、かつ市場でそのサービスが提供されうる行動とされ、具体的には、家事、介護・看護、育児、買物、社会的行動を無償労働の範囲とされています。

※２ ワーク・ライフ・バランス
仕事と生活の調和。仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされています。

※３ ジェンダー
人間には生まれついての生物学的性別がある一方で、社会通念や慣習の中で社会によってつくりあげられた「男性像」「女性像」があります。このような男性、女性の性差を「ジェンダー（社会的性別)」といいます。

※４ ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴQ、ＬＧＢＴQ+）
「ＬＧＢＴ」とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせたものです。「ＬＧＢＴQ」は、「ＬＧＢＴ」に自分の性的指向や性自認が分からない、もしくは意図的に決めないことを表す「Q」を加えたもので、「ＬＧＢＴQ+」の「+」には前記以外の様々な性のあり方を包括する意味があります。これらの言葉は、性的マイノリティ（性的少数者）の総称や、多様な性のあり方を包括する際に使われています。

※5 ダイバーシティ
多様性のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます。

問２８　「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。あなたの考えに近い番号を３つ選び、○で囲んでください。（○は３つまで）

１．性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報
２．市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する
３．リーダー養成など女性の人材育成の推進
４．女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する
５．職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底
６．育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める
７．子育て支援サービスの充実
８．広報誌や講演会などによる男女の平等と相互の理解や協力についての啓発
９．男性のために、家事能力を高める講座を開く
10．国際交流による理解や強調の促進
11．ＤＶ、セクハラ、パワハラ防止への広報等での啓発
12．男女共同参画社会づくりの拠点施設の設置
13．農林漁業の分野における男女共同参画の推進
14．学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実
15．その他（具体的に：　　）
16．特にない

宇城市は「男女共同参画宣言都市」です

※平成１９年１１月２１日に宣言

１４．災害・復興における男女共同参画について

問２９　近年、地震や豪雨等による大規模災害が全国各地で発生しています。そのような大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。（１）～（８）についてあなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	とても必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	まったく必要ないと思う	分からない
（１）防災計画の策定の場に男女がともに参画する	1	2	3	4	5
（２）自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	1	2	3	4	5
（３）避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	1	2	3	4	5
（４）避難所運営の責任者に男女がともに加わる	1	2	3	4	5
（５）男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	1	2	3	4	5
（６）男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	1	2	3	4	5
（７）復興まちづくりの内容などを決める場に男女がともに参画する	1	2	3	4	5
（８）発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する	1	2	3	4	5

◆ **男女共同参画に関するご意見やご要望をご自由にお書きください。**

ご協力ありがとうございました。調査はこれで終了です。

この調査票を**同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らず**に

１１月１４日（金）までに

ポストに投函してください。

宇城市男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

令和8年3月

発　　行　宇城市総務部人権啓発課
電　　話　0964-32-1708
ＦＡＸ　0964-32-0110
Ｅメール　jinkenkeihatsuka@city.uki.lg.jp